

まあ全ての「」とをやめ



眼だけギラつかせながら
この電書を読みなさい

更新情報を見ること
それは壊すことと
奪うこと



ト
ラ
ゲ
ト

ト
ラ
ゲ
ト

ト
ラ
ゲ
ト
ト
ラ
ゲ
ト

だいたい
電子書籍の
更新時期は
読まなくてもわかる

Puboo X Paboo

2015

アドラー的見解は



ト
ラ
ゲ
ト

ト
ラ
ゲ
ト

不明

最新更新情報

報



この本は女子禁制
だから女は
読んじゃいけない

最新の更新情報はこちら

[MEN'S ONLY01](#)

コンテンツ案内

[批評 蓄財者と消費者、その思想](#)

[書評 理解できない行動をする隣人『世界が土曜の夜の夢なら』](#)

[日記 魔法少女は交通事故で二度死ぬ](#)

[日記 「あり思」製作日誌その六](#)

FREE GRC vol.1

収録記事

- ・大足派の避難場所
- ・鬼切り鶴子の因縁語り
- ・テレビジョンの仮想敵
- ・映「割」のラマヌジャン

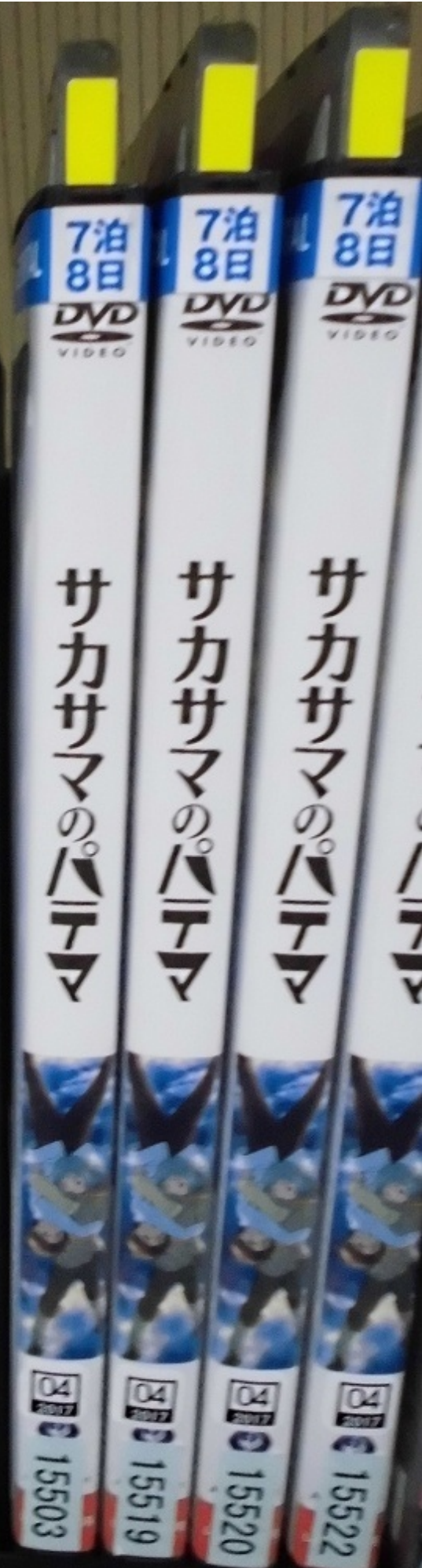
GAME REVIEW COMPLEX

amazonKindle版には ^{vol.1}

- ・トマス・デイとその仲間たち
 - ・任天堂自社株買い問題
- も収録されている

[アマゾンキンドル](#)

とりあえず
広告しとけ
レンタルでもいいから観て



画像データを使い回すつもりが
どっかにやったので
また一から作り直した

ピョコタンの
本を宣伝する
なんて
不本意だ



リサイクル

でも(面白いから)
宣伝する



『ぼくは任天堂信者』

読んでないのでわからないが
ここに松山洋を罵るピョコタン
の姿が収録されているようだ

アボ汁シリーズもよろしく

アマゾンとかパプーで買えよ

2015年6月30日頃 じょしらくのラノベで米朝師匠追悼ネタをやりたかった。

もしかしたら、七月に持ち越されているかもしれない。それが『あり思』第二巻である。すでに解説編の前編といえる「セブンスリーワン」の一頁目のアイデアをノートに描いていたりする。しかし、いつになったら、ストーリーが終わるのだろうか。

「MEN'S ONLY」がダウンロードデータ無しでアップされている、はず。

「メンズオンリーって何？」と、問われたら「女子禁制ではなくって、メンズオンリーになったのさ」

同じことを言っている気がするが、「男の着替え場」だから、メンズオンリーである。人が足りてない公衆浴場だと、オバちゃんも男サウナに入ってきて、タオルを交換するけど、サウナに何か身体に特殊な絵が描かれている人がいるわけではない。カタギの人たちにアイサツして、「この人の所属組織にケツ持ちしてもらっているのか」と、何かぜんぜん別の話をしていくわけではない。

「メンズオンリーになったのだ。でも、リベルティーナは読んでもOK」

リベルティーナという誇りを受けても良いのなら、あの更新情報誌を読んでもよし。

実は米朝師匠が死んで、『じょしらくのラノベ』でネタ作ろうと思った。全員髪(ウィッグ)を被ったカツラ一門の刺客として、女子落語家がやってきて、かきまわす話を考えていたが、忙しくて出来ない。パンチヨ伊藤や小倉さんを漢字変換した高座名のカツラ一門が上方ならぬ、髪形を支えているとか、くだらないことをするのだ。(手寅ちゃんが「上方落語ならぬ髪形落語よ」と言う)

最後に女子落語家がカツラを外して、ウザンヌであることが判明するオチを考えたが、そんなものは脳内の中だけで楽しめばいいのだ。

そんなことより、毎月毎月、夏休みの子供が最終日に宿題をまとめてやるみたいになっている。

『料理の鉄人』的な番組で
カツラ勘駄皮が
「料理は心や！」と言って
習字した紙に書かれていた
漢字が「鬘」とか

もう落語天女おゆいを
観返してネタを拾ってくるの
イヤだ

2015年ぱれっとの発売日の翌日（夏至翌日）

「反則」の方の「文章読本」を追加・修正した。

赤瀬川さんのコーナーで、自分の写真にキャプションをつけた画像が追加されているはず。

ちょっと思ったのが、海外の人に「文章読本」を説明する場合、北欧神話とは違う説明として「ノーラン・ライアンのピッチャーズバイブル」の「ナンタラのライターズバイブル」版ではないか？（ナンタラには作家名が入る）

『ありえない未来の思い出たち』はクリエイターズバイブルになりえない（ゲームを作りたくてもゲーム市場が無い）けど、こちらの「文章読本」本編は、ライターズバイブルになってほしいな。

「Puboo×Paboo2014」の随筆「生きるために必要な知識は水」を、やっと完成させた。最後シーラカンスが出てくるけど、彼らにとって淡水が湧出する海域が生き残ることが出来たセーフティゾーンなのはわかるけど、別に日本人や人類に必要な知識かと言うと、疑問を持たれるかもしれないが、海底淡水をくみ上げる技術が確立して人々に供給されると、生態系を崩してシーラカンスが生存できなくなる…という問題があるということね。

人間は浅ましいから、飲み水のために海底淡水を独占して、シーラカンスを絶滅に追いやる。火を見るよりに明らか。（でも、この構造はアメリカが日本を最終的に見殺しにする構図と似てないか？）



そういえば、『ガープス・ベーシック』が見つかった。

どこにやっていたか、不明だったのだ。カバーを紛失し、代わりに書店のサービス品であるカバーを付けていたので、文庫本をたくさん収めている本棚に置いてあると気づかなかったのである。

『ガープス・マーシャルアーツ』だけで騙し騙しでゲームレビューの原稿を完成しようとしていたら、さすがに資料的な問題で難があった。かといって、『世界樹』のゲームレビューが完成

するわけではないし、完成しなくてもいい。

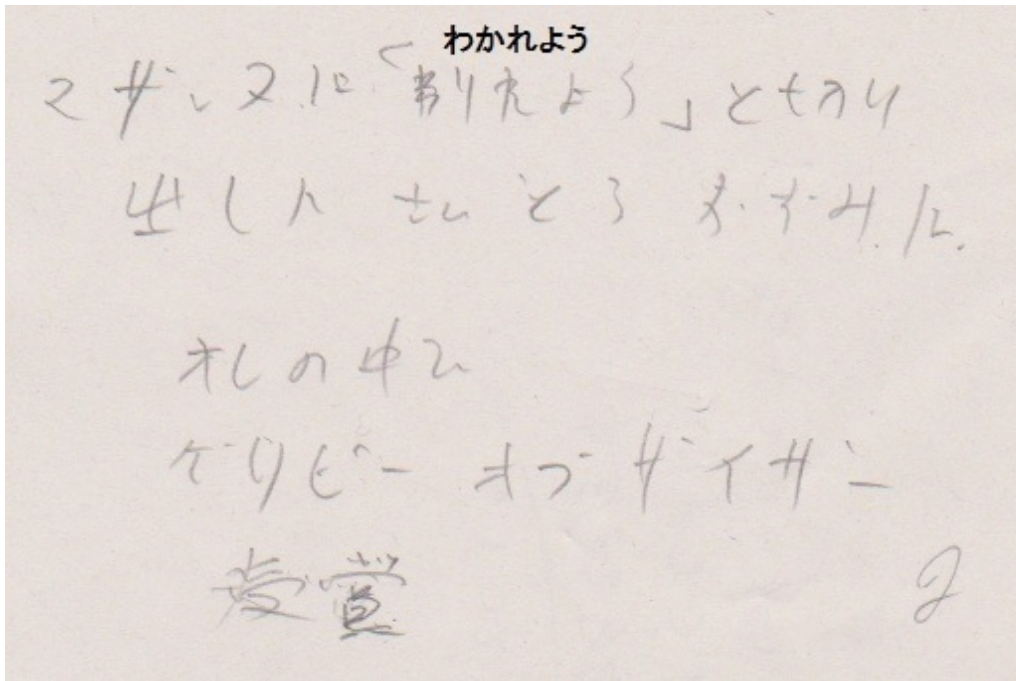
「『エヴァンゲリオン』でアスカちゃんが『私、エヴァに乗れたのよ』と一番伝えたい人に駆けて行って第一発見者になる回想のオマージュで、『私、ガンダムに乗れたのよ（生イキにもストーリー上重要なシーンなためセリフを差し替えている）』と一番伝えたい人に駆けて行って第一発見者に遠山雪がなる回想シーン」

「ガンダムはまずいから、ジュピターサイクルに代えて、著作権法に違反しないようにしよう。それからもう、アスカと言えばさすが先輩に刷新されている」

2015年6月16日 ポキモンじゃないんだから、さ

『あり思』第二巻の「ルールラーニングストーリー」を修正した。先日、執筆中の画像も変更しようとしたら、画像がうっかりちょっと貼れないタイプのファイルの種類だったのを、貼れるファイルにした。そこしか、変えていない。

「贗作自慢」で「序」に書いてある座標画像を付け足そうとして、貼れない画像だったのを、貼れるファイル画像に直して、貼り付けた。これも前にやろうとして、失敗したやつだ。



今から思うとスザン又は
ふかわりようと仲良くなつて
くつついた方がよかつたんじゃないか？
今更こんなこと言っても
しょうがないけどね

『MOTHER4』の邦訳版が出たらそれをやりたいから、『ファイアーエムブレム』の新作、控えようと思う。まだ通販で予約していないし、機体が壊れた状態で、Aボタンがダメになったから。スーパーファミコン版だと、吉田戦車もバカにして『はまり道』に描いていたし、根も葉もない噂で「Aボタンの次に多く押すのがリセットボタン」と言われていたほど、リセットボタンを押していた。リセットボタンを修理してもらうための依頼が多すぎて、任天堂が修理工場がパンクしたと、誰でもウソだとわかる伝説があるけどね。

そういえば忘れていたけど、『新・紋章の謎』で「ジェイガンは忠臣中の忠臣だ」という話のゲームレビューをお蔵入りしていた。何を書くかと言うと、あそこで「姫たちを殺める」一計もあることを進言して、マルスがそれを実行したら献策した責任があるから、明治天皇が亡くなって乃木将軍が殉死するようなことが起こる。王様に責は無く、自分に責があるのだと。身分制度や階級社会というのは、そういうものだけど、それを表現するというのは、きついよね。まず理解されない。

つまり、分割商法も理解されない。

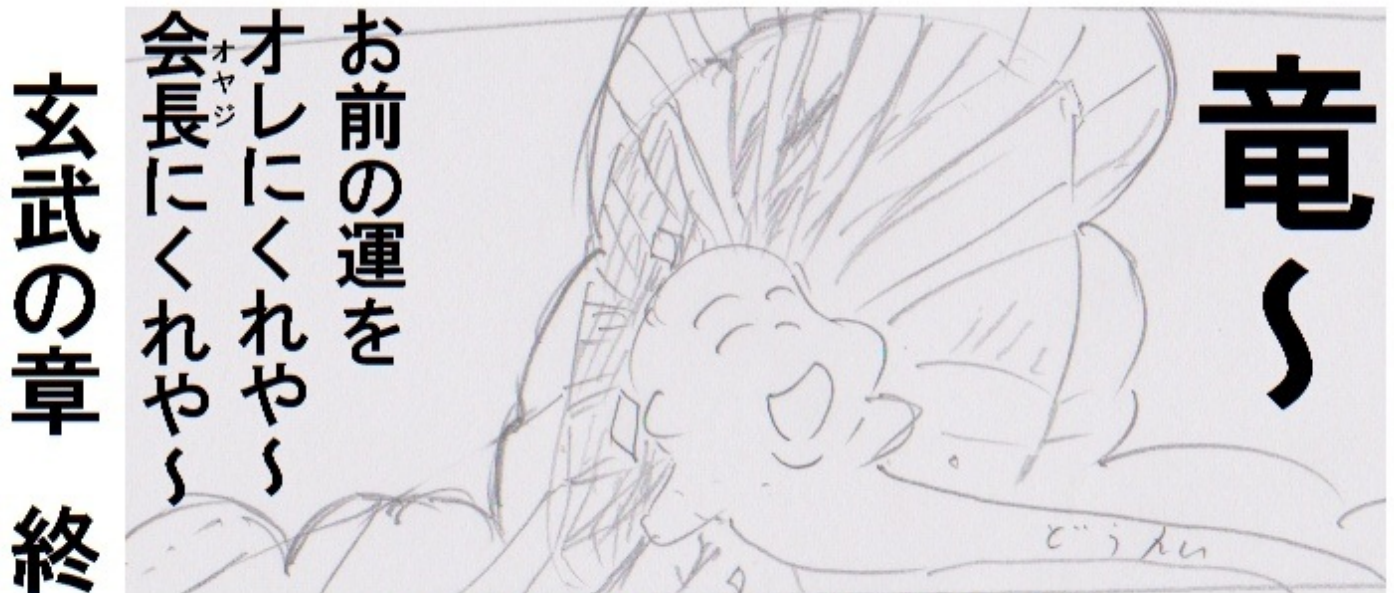
2015年6月9日 親切不親切

かねてから修正したいと思っていた『あり思』第二巻の「ルールラーニングストーリー」を修正した。執筆中の画像も変更しようとしたら、画像がうっかりちょっと貼れないタイプのファイルの種類でうっかり作ってしまい、ダメだった。

一応、月刊誌「アニメージュ」の購読者ではない人に説明すると『ナウシカ』の連載を中断するときに、宮崎駿がギャグで書いた…「これから中断するけど、読者の皆様すいません」みたいな記述が書かれているワケ。単行本掲載と雑誌掲載時の違いを「比べる」論文に書いてあったことを、パロディにしていたのである。四年と三ヶ月ぐらい前に、前振りがされているとか、書いてある。

親切なところと、不親切なところがある。不親切なので「ゴトチヒの横本」を追加修正でページを足したり差し替えたりしても、情報がなかったりする。

「なき」の漢字が出なくて困る「なきの竜」のマンガを読んだことがない人は、「玄武の章終」と書いてある意味がわからない。（一週間か少なくとも二週間後には表紙が更新されるけど）



親切にも画像を用意している 読者を甘やかしている

「反則！文章読本」を修正したり、「贗作自慢」で「序」に書いてある座標画像を付け足そうとして、貼れない画像のファイル様式だった。

「イムズとアリスの夢冒険」こと「ゲームレビュー 知性組織とルイス・キャロルのオーダーメイド」を修正した。

「GR Cvel.1」の「鬼切り鶴子の因縁語り」を追加した。『ネクストキング』の話は足しただけである。「GAME REVIEW COMPLEX」は女子禁制にしないといけなかったっけな。

「前やったネタかな。『クールジャパン』みたいなテレビ番組に出ていたスー先生は、メガネをかけて髪をおろしパンツルックで知的外国人女性風を装っている」

「久美子先生がブラックジャックみたいに自分手術するネタはいつやるの？」

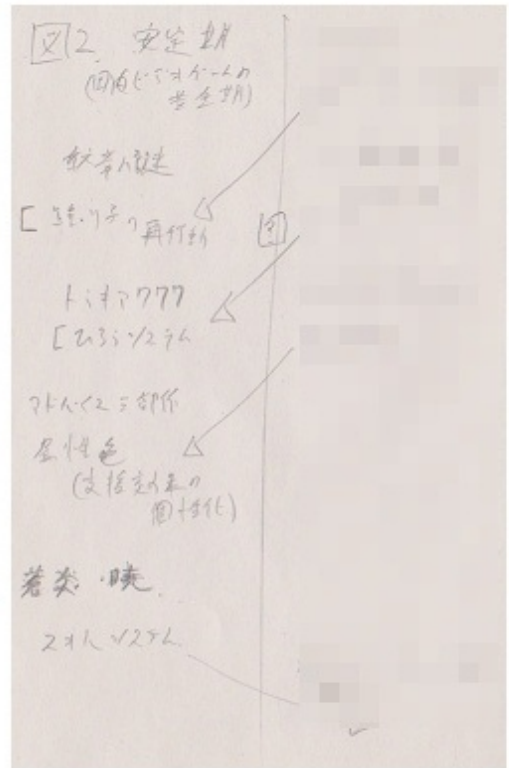
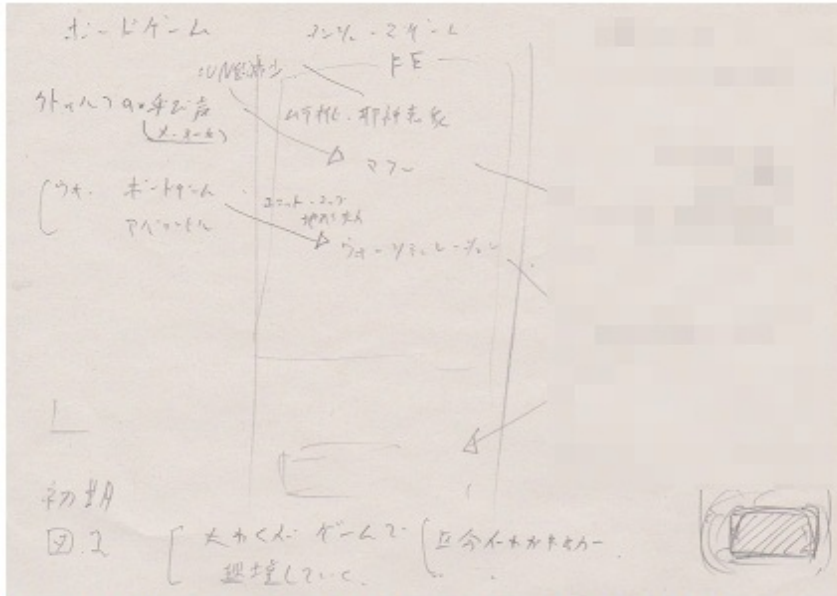
「やんねえよ」

2015年6月4日 弱音を吐いてばかりで吐きそうになる

少し休みたい。だが、休めない。

『贗作自慢』に「序」を足した。と、思う。無かったら足し忘れただけである。

「販促」の「文章読本」の方に、何か、追加修正、「ボク、ラクえも〜ん」あたりがあるはず。追加・修正がなかったら、ミスである。



「アリスとイムズの夢冒険」で挿入したい図のメモ別に挿入しなくてもいいと思う

「挿入」という言葉がまずよくない
スン止めにしなさい

説明のためにパターンを作るのは面倒である。

『贗作自慢』の方で、座標を描いて、いろいろやらなくちゃならない。これはもう、わかりきっていることだから、なんとかなるが、新しい資料が出てきて、書き直さなくちゃならないとか、そういうものは、難しい。単純なモノならすぐ作れるけど。（後から読み返したら、それだけじゃなかった。もののけ姫と夜警の比べるのを用意しないと・・・したくねえ（弱音））

それはそれとして『あり思』の第二巻を読み返したら、ぜんぜん駄目だ。

「ルールラーニングストーリー」は直さなくちゃならないのが、いくつもある。絵もタブレットで見返すと、ダメな絵が多い。もうちょっと絵がうまかったらよかったのに。白抜きなんて、はじめからやらなければよかった。

室内プラネタリウムの作画をするのは、やめておいた方がいい。これは競争相手を少なくして、自分の評価を相対的に下がるのを防ぐためではなく、松苗あけみさんが「瞳の透明感を出すためにドットを描く」みたいに、本当に好きでないと、無茶な作業量になる。

他の少女マンガ系統で仕事をする作家の瞳を見ると、「これ、いちいち描いていたら、仕事終わらねえぞ」というぐらい描き込みがされている。

2015年5月26日 扇田さんまで亡くなった

予定が押したりしなければ、たぶん『贗作自慢』の電書がアップされていると思う。

それから「sekaijyunomekyunorevyu-wowatashihakanseisassenakuteiishikanseishinakuteii」と、啄木のローマ字日記みたいになっているが、いつも書いていることだから、説明しなくても大丈夫。

『ありえない未来の思い出たち』の第二巻、「ルールラーニングストーリー」の第八話辺りと、第七話の後半が追加と修正されているはず。はずと書いたが、もう少し頑張りたかった。もう少し頑張れた。

「ほら、葦原大介さんがオリジナルの星座を出すじゃない。だから他意はないんだよ」

演劇評論家の扇田昭彦さんまで亡くなると、次は渡辺保先生だったり、鼻にチューブ入れて生きながらえている蜷川さんだったりするが、そういうことを言うてはいけない。

安西水丸さんが亡くなったとき、南青山の小売書店で青山の本を買ったこととか、書こうと思ったけど、なかなか時間が取れなくて、記事を書いていなかった。小島功さんが亡くなって、河童が出てくる四コマのラフ画はもう描いてあるけど、まだ清書していない。

「本のセールスマン」でも、「本当の赤瀬川原平」を書いていない。

忘れていたが「販促！文章読本」の記事を追加修正した。（←半分コピー&ペースト）

「今年の後半期のために、ネタを今から仕込んでいるけど、黒町ジュスチーヌがメガネをかけるか、かけないかを決めかねてる」

「なんだか、雷に打たれて死にそうな名前だけ大丈夫？」

「マリアンヌとか『紗翁浪漫』に出てきたら、『っぁ！？』と思うよね」

2015年5月11日 書きかけ記事の紙見つかる

「販促！文章読本」の記事を追加修正した。

別に『世界樹の迷宮』のゲームレビューはやらせではない。

「レッテル貼りをするな！」

と言ってしまおうと、後で「後日確認したところ、過剰な演出があったことが発覚しました」と訂正しなくてはならない。「いや、それをやらせと言うのでは？」と誰もが思う。そこは「皆様のNHK」であって、官僚無謬主義と同じく、間違いはないのである。困った世の中だ。

そういえば、Puboo×Paboo2014の書きかけ記事をプリントアウトしたモノが見つかった。

これで「プラトニズムの美しい擬態」をアップする予定の「贗作自慢」に収録することがで

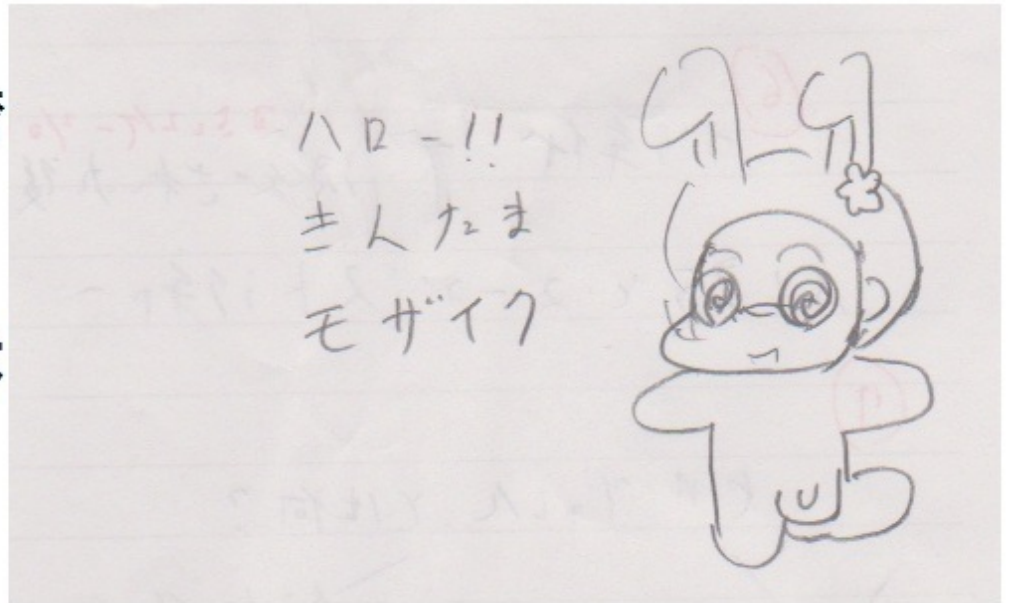
きる。別に前々から決まっていたが。

「とくによかったところは、お外の人に見つかって愛人の点数がいくつついているか知られずにすんで、よかったです。胸をなでおろしました」

と、小学生が修学旅行に行った感想文みたいなものも書いてみる。

本当に、お外の人に見つからなくて、よかった。

**女子禁制なので
こういうネタを
できる
女の子向けでは
けしてできない**



「プラトニズムの美しい擬態」とか、ホモ・セクシャルのことを書いているから、「この人は美術批評にかこつけて、同性愛を広めようとしている」と、勝手に思われる。同性愛を迫害されていた歴史を啓蒙したいけど、同性愛者になれとは言っていない。

…このネタ、書いていいのかな。「ルナイズマイン」でイーモン博士にあたる人が出てくる。江川伊右衛門。話の流れからわかるように、任天堂は『ホモダチコレクション 新生活』を販売するようなところだが、同性愛者であり、流聖太師（この人は別にワルモン博士じゃない。アクは存在しないというテーマがあるから）に殺されてしまうけどね。

2015年5月3日から7日に ちょくちょく更新していた

『あり思』第二巻の「ルーラーニングストーリー」の47頁と48頁が、脱稿していた。よくあることなので、気にすることは無い。

「涙の代りに塩を振れ」

太導師さまがお亡くなりになったときに、十七大弟子の末席の鉾物好きのやつが他の弟子に「お前もなんかお師匠様の棺に入れろ」といわれて、大切な岩塩を泣く泣く削って棺に入れて、「泣いてんじゃねえ」と、武闘派の杖高弟にぶんなぐられる話から、葬式の時には棺に塩を入れる習慣となってから、『初恋の来た道』を観て棺を担いで墓地まで送る…当時の人たちは『初恋の来た道』を観ていたのだろうか。

ずっと、『The man of the overlooking』の第一巻は公開も、ダウンロードもOKの状態になっている。

「しかし、ナンですな。売り上げには繋がらないね」

もっと、広告を入れないといけない。

広告こそ、目的。

「恋愛サーキュレーション」の柄で作ったカードの費用を回収しないといけないから。

2015年4月30日 N H K はやらせがあったと素直に認めろ

もしかしたら、『あり思』第二巻、「ルールラーニングストーリー」の続きがアップされていないかもしれない。

「それはまあ、いいじゃないか」

これから、アップデートが仮に無くても、誰からも叱られない。

そもそも、役に立たない。『あり思』を読んでもゲームクリエーションに役に立たないし、役立たない。これと同じことができるできないじゃなくて、それ以前の問題だから。できて当たり前のことを伝えるって、つまらないじゃない？

ちゃんと、ネタの「予防戦争の論理だから、攻める！」でおいおい語っていく。「ななつとみっとひとつ」を考案できても、サイバーコネクトツーツーは満足できない。私以上の人材を求めていることを、皆知っていないとダメだろう。

「反則！文章読本」に広告を載せた。

これなら、ダウンロードデータを作っても良し。

正式名称は「販促！文章読本」だけど、ほぼ同じ意味だから、良し。

販売促進に日記みたいなものを載せ始める予定だが、どうなるかわからない。

もしかしたら、忘れていたかもしれないが、「GRCvel.01」で「鬼切り鶴子の因縁語り」を修正加筆、広告を加えているかもしれない。

…売れ線のキャラクターを書けないと駄目だ。

武藤君…

それから『世界樹の迷宮』の批評を私は完成させなくていいし、完成しなくていい。これを伊集院の所為にできると発明してしまった。本来はプレイヤーの自由意志に任せるという記述なのだが、この場合レビュアーの自由意志に任せてくれるという製作側の有難い配慮である（やらせ・捏造）。

伊集院のコラムを読んでも、誰も『世界樹と不思議のダンジョン』を買わないじゃない？ こんなタレントが取り上げて楽に売れていれば、アトラスが経営迷走することもなかったよ。

『シャープファイアーエムブレム』には、期待できるのだろうか？ アトラスを甘やかすと口くなくことが無い気がするので、心をアーティンデさんにしなくてははいけない。

あるいは、彼らの武藤君になってあげねば、ならない。

「それ、スクウェアエニックスとレベルファイブのことじゃん」

「『イムズとアリスの夢冒険』も、公開になっているけど…？」

「メガネの話題とゆかり先生の話は、本来分けないといけなかったかもね」

2015年4月22日 大変だ

「ゲームレビューコンプレックス」のボリュームワンが電子書籍としてアップされているはず。少しずつ記事を上げて完成していく。

それと「反則！文章読本」もアップされている。

宣伝である。

正式名称は「販促！文章読本」だけど、ほぼ同じ意味だから。

それにしても、『世界樹の迷宮』の批評を私は完成しなくていいし、完成させなくていいけど、いろいろやる事が多くて、前の『あの花』のレビューみたいに、完成までに時間がかかって、ぐずぐずしていたら映画の公開の方が早かったり、するかもしれない。

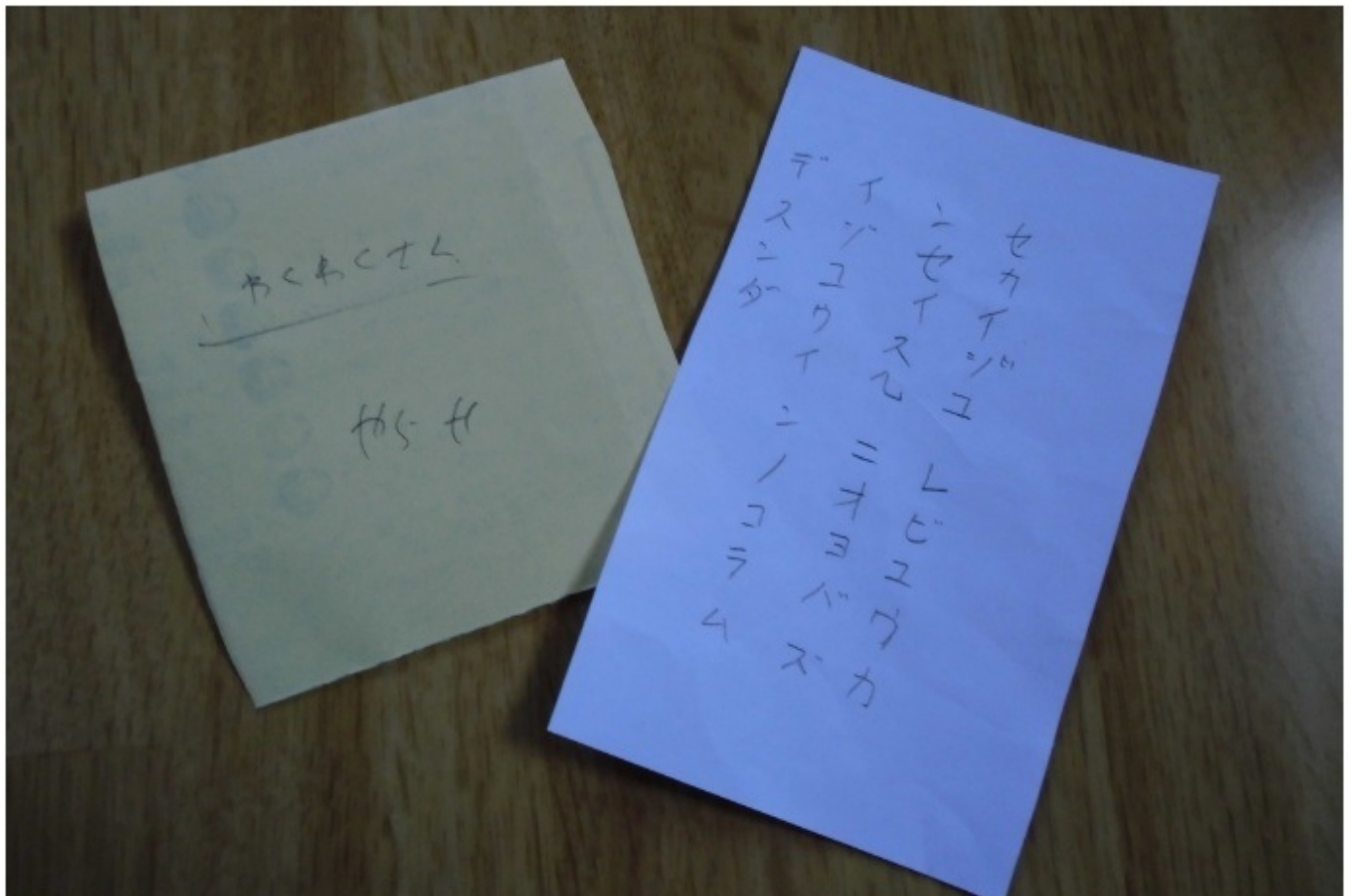
元々、こういうスケジュールが遅れたのは、『魔法少女まどか☆マギカ』のことを書き始めたあたりからスケジュールが押して、『ありえない未来の思い出たち』の第一巻がなかなか完成しなかったのも、元はと言えば、このせいである。

偶然都心に行ったときに、10話から最終話までの放送が見れたから、アニメレビューをしたけど、よかったのだろうか？

「伊集院光に『世界樹の迷宮』シリーズの話を読めると、本当に大事で大切なモノが傷つけられた気がする」

スケジュールが破綻しそうで、大変だ。

おやっ、閲覧者から電報が届いたぞ。



これでいくらでも、『世界樹の迷宮』のゲームレビューを先延ばしに出来る。

そうってしまったのは伊集院光のせいだから、私にはまったく責任が無い。

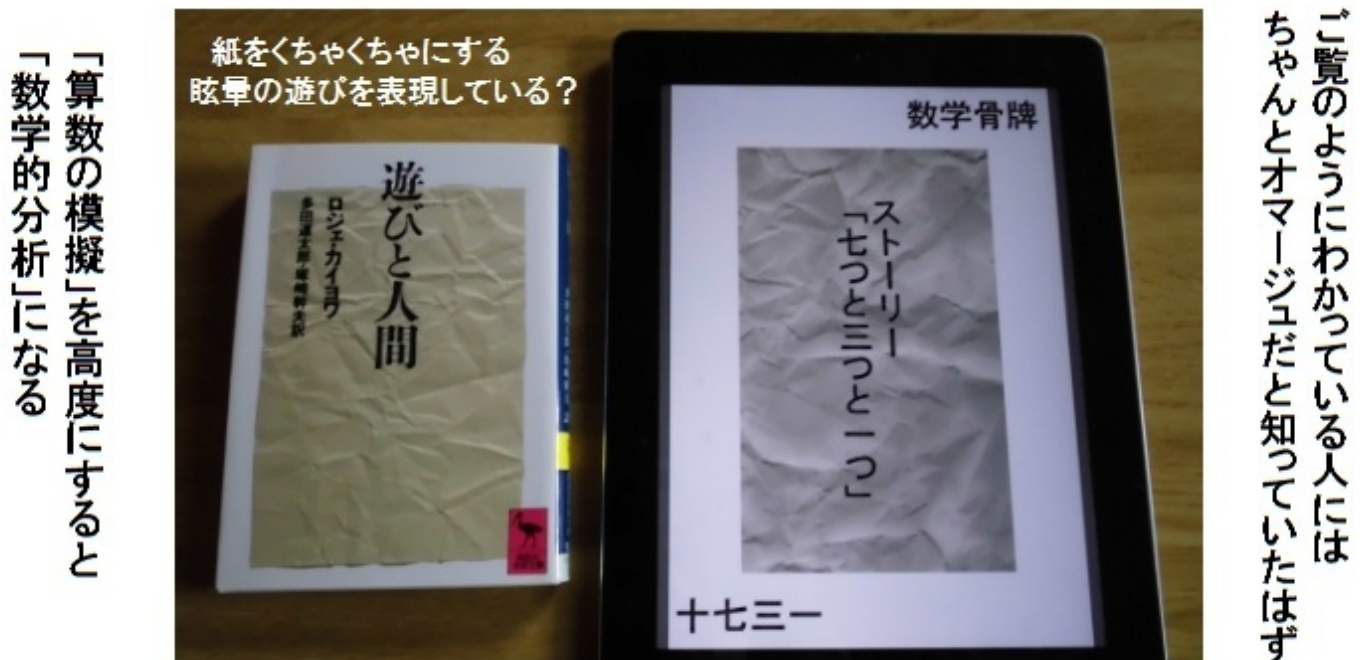
2015年4月14日の更新は君の嘘

「イムズとアリスの夢冒険」は、PDFデータを作って仕上がりを見るために、一度非公開にする。

ゲームレビュー『世界樹』の追加・修正したが、この『世界樹の迷宮』の批評を私は完成しなくていいし、完成させなくていい。閲覧者数を見ると、誰も求めていないことがわかる。さびしいなあ。違うレビュー、書くかあ。

『ゴトチヒの横本』もついでに追加・修正。

『ストーリー「七つと三つと一つ」』も、数字が書かれたカードの画像を追加した。



なんで「改造的想像力の現在進行形」が完成しているのに、ダウンロードデータを作られないかと言うと、タイトル画をマリオの1-1を左右反転し圧縮して表示されているような、画像をあしらう予定なんだけど、ドットグラフィックに精通しているわけではないから、なかなか完成しない。それさえできればダウンロードデータを作成して完成する。

裏表紙は、左右反転前だから、ちゃんと1-1のステージが圧縮されている。

ペナントレースが始まったので、優勝予想をすると、広島カープである。

…別にデスブログエフェクトを狙ってはいない。

仮に優勝できなくても、それは偶然。

「ある電子書籍が更新されて…」

「言っちゃダメだよ」

「東京03の前のマネージャーの大竹さんのお父さんは、大竹まことみたい？」

2015年3月31日 鈴木忠志がわかった・・・気がした

わかった。

鈴木忠志がわかった。

傘を使うのは、「懐かしい木陰」を傘のカゲで作り出しているんだ。

わかったぞ。

鈴木忠志がついにわかった。

と、思って録画しておいた番組を見返したら、別にそうじゃなかった。

キミは『あり思』の第二巻の更新を見たか？

幾つ、ページが更新されていると思う？

今回は、そこは明かさずにしておこう。ともかくも、デジタル製版処理は、時間がかかると、身にしみた。そこを計算しなかったために、スケジュールが破綻した。ゲームプランナーになれないだけあって、そこはダメだね。ゲームプランナーの仕事はアイデア出しじゃない。スケジュールを破綻させないために、プランニングするのが仕事。アイデアとは、スケジュールが破綻しないために出す、調整案に過ぎない。別に『Gのレコンギスタ』のイラストを描いていたせいではない。

「レットテル貼りをするなっ！」

この下村大臣のギャグは、久々のヒットだ。擦り切れるまで使いたい。

ゲームレビューは二本、電子書籍としてアップされているが、二つともダウンロードデータが作られていない状態となっている。



「それじゃあ、『ウリリリリリ』
って、言ってるヤツの声も
水橋かおりだったのか」



「報告がある。ヴィヴィオは
水橋かおりが声をあてていると
最近知った……」

「イムズとアリスの夢冒険」の方はR-18だが、仕方ない。子供は大人になるまで我慢しろ！
今まで本書に掲載していた「TRPGの民族誌（エスノグラフィ）」もアップしたが、まだ完成は後四歩ほど。引用はしないつもりだったが、ゲーセンの源さんのコトバは至言なので、引かざ

るをえなくなり、また資料も調べ返さなくてはいけないようだ。

「真・超人大全」も修正・追加している。

ポケモントレーナーの「獣操幼女」の話があるが、見た目の話はシンガイ流かイハン流になるので、『スマブラX』のポケモンマスターと『ヴァンプリ』のアシストキャラクターのシステムを掛け合わせているバトルスタイルだと書く。

そんなこと、どうでもいいんだよ。

もしかしたら、違和感をもたれるかもしれないが、『風雲児たち』のマンガレビューに表紙をつけた。早く、書き終えることを目指す。

女子禁制のギャグやいろいろしてたら、すっかり閲覧者ちゃんが減って、さびしい限りである。

「それでも新しい朝がくるんだ！」

「スーザンがゆっちゃんダコの『制圧！タコ娘』のフェアで手に入れた、タコ娘のぬいぐるみ、田辺梢にそっくりだった」

「あなたはひとりぼっちじゃない？」でも、それまじいだよ。著作権侵害にならなイカ？」

ゆっちゃんタコ食いすぎて、「タコ臭い？」「この人タコの臭いがする！」と、雪ちゃんに言われてキレたスーザンが、肥溜めに雪ちゃんを頭から落として「息が出来ない」って雪ちゃんが言うのもかまわずフタをして、そのフタの上に座って「この人、うんち君の臭いするYO」と、子猫を生き埋めにするために生徒に穴を掘らせた高校教師みたいな…お父さんがクー・クラックス・克蘭なだけある微笑ましいエピソード。体の内から臭いを消すためにファブリーズの噴霧口をくわえてレバーを引いて飲む雪ちゃんも素敵ダコ。

2015年3月17日の更新は少なめ

「ゴトチヒの横本」を追加・修正した。皆は静ちゃんがちょっと泣いてるのを見てくれたかな。古代祐三さんや、スタッフの皆さんに是非見てほしい、改心の四コママンガが出来ている。でも、ゲームレビューは読むな。

私は今、そうとう疲れている。

本格的な病気になる前に休もう。

そして、『まんが道』を読んでいるから、高岡に戻った足塚茂道の二人のように、原稿を書けずに苦しむ。そのためリサイクルンとQの悲劇のシーンは、マンガに描かれない（大全で終わった）。

今月分の「ルールラーニングストーリー」は追加が無くて終わるだろう。

大丈夫。

「ボックには、チキン・ジョージ博士みたいな顔になって叱るテラさんみたいな人がいないから」

『七人のシェイクスピア』が途中で終わった理由が、『まんが道』を読んでわかった。モーツァルトを聞くと頭がよくなって『たそがれ清兵衛』がわかるようにわかった。（絵物語のハンニバル將軍は半島まで行ったら感染症で片目になっているはず…）

今、そんなに線が多くななくてもすむ描画スタイルで作画しているけど、「シェイクスピア・ロ

マン」辺りでは、描線を多くして日本画の割筆で斜線を描くなど、とにかく線画量が多い画を描かないといけない。多い、細かい、質は低い。

そうなのだ。質的なモノは上がらないけど、作業量は上がる。

それで月に八ページは無理だと、なんとなく予想がつく。

数年後の話でも、今から憂鬱だ。

「ところで、『ワタル』で虎王がヒミコのことを『嫁』と言い出したのが、いわゆる『オレの嫁』の始まりだと思いますが、飛天卿の側にいる中国娘（ニャンニャン）が『飛天卿は私の嫁なの』と言うのは、これから来ていたのかと、子供の頃観てたアニメやマンガに影響受けすぎ」

「たしかにカーズ様の真似、『ぱふぱふFREE』でゲロっているように、唐人開国頭巾がしていたね
ゆかり先生は「オレの嫁」だから。

2015年3月10日 ヒストリエの真似しました

「ルールラーニングストーリー」に、二月に掲載しなくてはいけないページが追加されている。

前振りみたいになってしまったが、『ヒストリエ』の「アフタヌーン」掲載時の原稿よりも酷い有様のページが掲載されている。

こういうとき、「アマチュアであってよかったなあ」としみじみ思う。

誰からも怒られないのである。

いしかわじゅん先生の著作に私のマンガのマンガ評は載らないのだから、できる。たぶん、載る日はこれからもこないだろう。新しいことも、何もしていないことだし、これからもそんなことをする気は無いので、安心して怠けられる。

ネーム作業も遅れていて、「ああ、来週には出来ていないとマズい」と思いながらも、ついつい『世界樹の迷宮II』というゲームをして、たまに『まんが道』を読み、ついでにいしかわじゅん先生の新作も読む。

すると、いつのまにか、原稿は「まっしろワールド」だった。

これでは誤植の“未確認で進行中”だ。未完成で進行中。

不本意ながら『風雲児たち』のマンガレビューは、まだ完成していないのに、電子書籍を作った。ダウンロードデータはない。表紙すら作っていない。暫定的にも、アップしないと完成しない。まだぜんぜん未完成で、メモというのでも憚られる記事もあるが、仕方ない。太郎先生には返事をいただけなかったので、別に完成しなくても、まったく罪悪感や、何かが無いので、心は身軽。

そういえば、「ゴトチヒの横本」もけっこう追加した。普通はあの変身ヒーローものにかけるような曲を批判する。

デスブログの影響で美術評論社が倒産しそうなのではない。

掲載された中村明日美子のマンガのセリフに「僕たちは間違っているのだろうか？」とあったが、「間違いなく経営は間違っていました」というオチがついただけだ。

ともかく、「もう最後だから」という理由で自由な特集を組ませたと思う。それがピカソやマティスのような巨匠でもなく、国宝探訪などの伝統美術でもなく、初上陸した着物を着た天文学者という今世紀中には二度と日本に来ない美術品でもなく、好きなものはしょうがないのでボーイズラブ特集だったのだ。

先人たちも天文学者も膝を屈して、「負けたよ」と思ったろう。

雑誌「美術手帳」には愛があった。

愛は愛でも、同性愛だが。

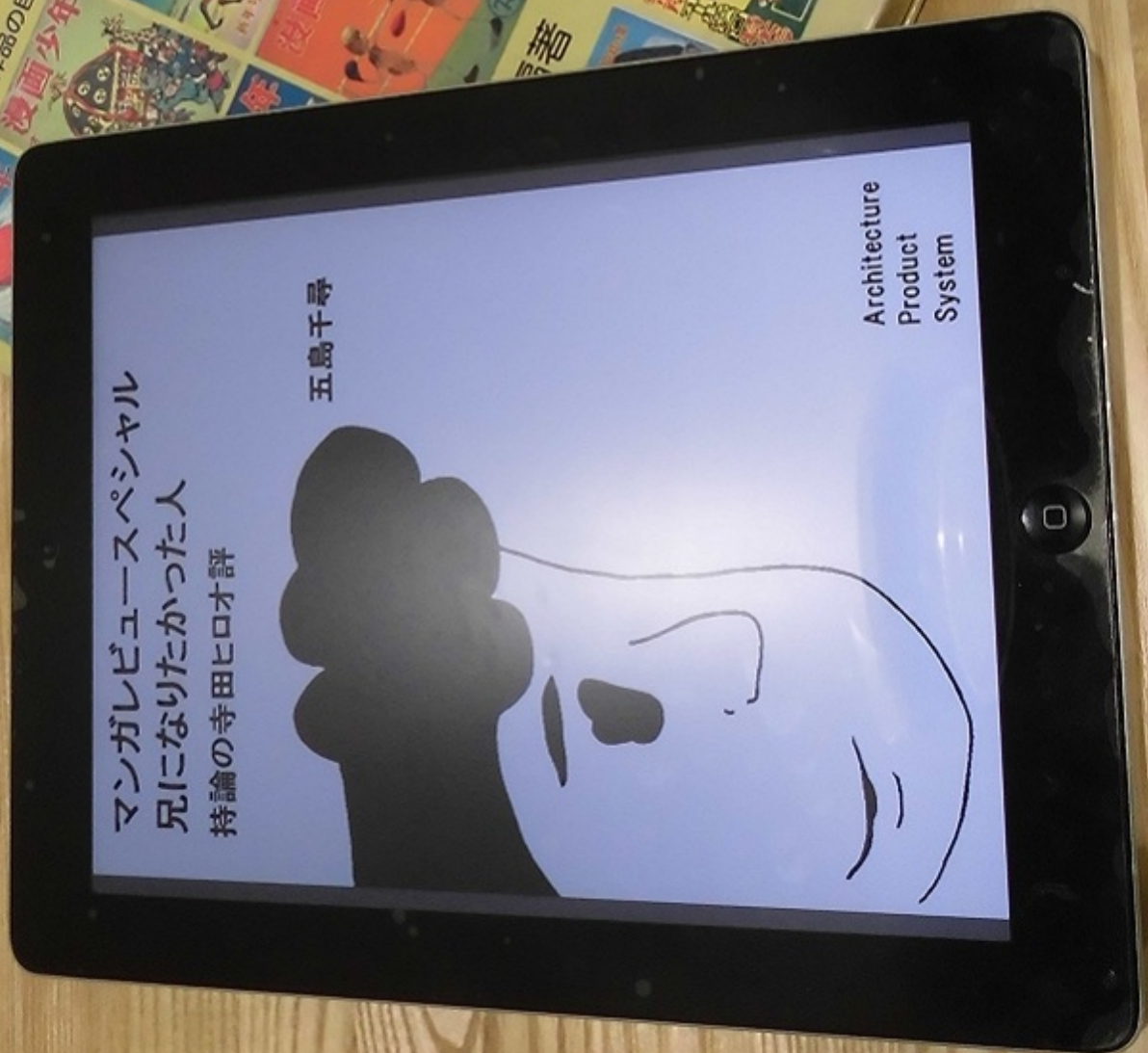
マンガレビュースペシャル

兄になりたかった人

持論の寺田ヒロオ評

完成

価格 百円+税



「えっと、ゴトチヒ本人です。夢で、たしか記憶に残っているのが確かならば、テーブルについて飯を食っていると、隣の席に花澤が座ってきて『サイコパス2やその他諸

々に影響を与えたのは本当?』と聞かれました。私は疲れているのでしょうか? 夢ではうまく返しをできなかった…たとえば『もちろん与えているよ。「風たちぬ」なんて治朗くんの帽子のリボンがピンクなのは、そのためだよ。数学者の声を庵野秀明にあてさせようかな』と返せなかったのが、悔しい」

「確実に疲れている…というよりそれは病気です。そのときの花澤香菜さんは、メガネをかけていた? (←義務)」

「危ないよ。本格的な病気になる前に休もう。白いワニと同じものだよ? ソレ」

2015年2月26日 ヒストリエの真似じゃないよ

『ありえない未来の思い出たち』第二巻、「ルールラーニングストーリー」の続きを追加更新した。

今月も8ページ掲載を見合わせ、『ナウシカ』みたいに半分の4ページ掲載である。それも、何か足りないような。こんなことを何度もしていたら、完成するものも完成しない。

後、今月が三日あれば、全部アップできたのに。

せめて、うるう年なら未完成品（ラフ画）でもアップしていたはず。

前も、2月は日数が少ない所為（せい）で、富樫義博みたいにラフのコマがある、今で言えば『ヒストリエ』の雑誌掲載みたいなことになっていた。

元々、完成したモノもラフ画掲載は差して変わらないけどね。

何が言いたいかというと、第二巻に追加掲載された続きを読めば、白っぽい絵が描かれていることに気づく。「ペン入れしてない？」なんて、気づかいことに、してもらえると有難い（ありがたい）。

男同士の約束だぞ。

更新報告はゲームレビューの「改造的想像力の現在進行形」は修正されている。早く、未完成の表紙画を完成させ、バックタイトルも作って、次の「TRPGの民族誌」をアップしたい。

これも、似たようなことを、別の人書いているなら、私は忙しくて四ページしか掲載できないから、手間をかける割に、割に合わない。『世界樹の迷宮』をちゃんとプレイするだけで、面白いけど相当時間がかかる。

「ゲームラボ」の記事みたいに、イジリー岡田がソフトをペロペロ舐めて、そのソフトでゲームを起動させて戦闘をすると、一回勝利しただけでレベルが99になるのも、やりたくなる。やりたくなる気持ちがわかる。

バンナムとスクエニのゲームでは、それをやろう。

一本足のモビルスーツとか、出てきたよね？ バンダイが怒らなかったのかな？ 企画段階のエヴァンゲリオンのスポンサーにバンダイになってもらうために、エヴァのデザインを見せたら、「足が細い」と怒られたわけだろ？ いまだに武田さんが恨み節を言っている。（エヴァ人気が発火したら、バンダイが著作権持っているセガと合併しようとして、エヴァの著作権を押しやるカタチで合併解消する「計画倒産」みたいなゴトを仕掛けた）

これは玩具をディスプレイしたときに、足が太くないと自立できないのが、商品として「アキレス腱」になるらしい。足が細いから自立できないなら、一本足だと尚更自立できないだろう。アレはモビルアーマーという、抜け道なのだろうか？

主役機ではないから大丈夫か。（冗談メカという言葉が監督が知っていたのも衝撃だけど、ザ

クレロをリファインしてメガランチャーにしているのも衝撃だった)

雑誌「百合姉妹」が男子禁制と書いてしまって、迷走感を出していると、雑誌「ユリイカ」の百合特集（よくこんな企画が通ったな）で書いているけど、どうなのだろう？ 経済成長が止まって、ジェンダーフリーになれる環境は百合でしかないという、「イヤな結論」が出ている気がするが、女子禁制なので悟られないはず。（『ユリ熊嵐』の後に特集した方がよかったと思う。ユリーカ先生が出てくるし）

示し合わせたわけではないと思うけど、「美術手帳」ではボーイズラブ特集を組んでいる。男同士の約束だろうか？

一神教の世界だと、同性愛は許されないから、最終的にはテロられるのではないか？ 『世界一周ホモの旅DX』では、けっこう戒律に厳しいはずのイスラーム圏でも、ちゃんと同性愛者はいるから、安心できる。

本当は今月内で、『風雲児たち』のマンガレビューの電書もアップしたかった。

「『幸腹グラフィティ』のアヴァンタイトルで、その回のクライマックスが先行して描かれているのを、真似してみた。崩壊した家庭だからお手伝いさんにパンズはフランスパン、それにアボカドペーストを塗って生ハム、仏産輸入チーズ、長野のレタス、ビクルスを挟んで作ってもらったサンドウィッチを遠山雪ちゃんがお昼に食べる映像を写しておいて、Bパートのクライマックスで全部出崎演出の輝きに変える。魔法って本当にあるんだよ」

「町子リョウは佐藤利奈で、コンシューマ版の齋香先輩であるから、正しいキャストिंगだね。でも、メガネの話題は必要」

「お父さんのアメックスのブラックカードを10枚集めて、裏に数字を書いて『セヴンスリーワン』をしていたのは、さすがに引いたなあ」

2015年2月12日 モト先生の影響で四コママンガ

『あり思』第二巻の先月分にアップするのが加わっているはず。

「Puboo×Paboo2014」はネタの「飛ぶ、建築。」を足したり、途中まで書いているモノは、下書き設定にした。事情は下記。

「女の子向け」も、更新してくだらない？な画像を足しているが、これは情報公開しなくてもいいか。

2014には朱を入れたり書き足したりするための下書きをプリントアウトしたモノがあって、それをクリップでまとめたのを無くしてしまった。ゴミの日に出してしまったのか、どこかにやってしまった。もしかしたら、外出先で落として、愛人の点数がそこに書かれているかもしれないから、見つけたら処分してほしい。男同士の約束。

そういうことがあったから、執筆中のモノは皆、一時的に「下書き」設定にして、閲覧できないようにして、気が向いたら、続きが書かれる。忙しくて無理だけどね。

それにしてもモトちゃんこと新井素子が『グリーンレクイエム』の原稿を公衆電話においてきて、無くしてしまった話に比べて、なんて貧相なのだろう。（こちらとしては葬式の風呂敷みたいな服を着る人と一緒にされてもな）

モトちゃんといえば、萩尾望都先生の『マージナル』とか読んで、同性愛のギャグ四コママンガを描いているけど、「賢明なる読者諸君」は気づいているわけだ。

「ボクはなのはクンの子供を産まなくていいんだ！」

と、生殖から解放されるフェイトくんは、無いんだけどね。原作通りにヴィヴィオを産まない
と辻褃あわないから。

そういえば、『大東亜論』と『風雲児たち』シリーズをレビューした電子書籍を出したい。『
風雲児たち』は幕末編のガイドブック、ファンブックが出たから、ずっと保留にしていたのを、
今年こそ出したい。

でも、そんなことをしていたら「Puboo×Paboo2014」の途中の未完成のネタ、完成しなくなる
。

急に付け足しすると、『ビルドファイターズトライ』の新潟のトウリツ高校と聞こえるチーム
の三つ子のファイターの一人は、バンナムに入社できなかった私らしい。（これは公表して大
丈夫）

『中二病』（「そう」の漢字が出ない）の同性愛者以来だよ。

そうかガンプラ学園はバンナムだったのか。

たしかに、子供の頃はSDガンダムが好きだったし、あういうギミックがSDガンダムの魅力
だから、正しい。トライオン3並に正しい。なんたらノモンスターは、ある人物と接触す
れば、「ヘルメスの青薔薇」情報を得られると思う。しかし、親方ではないという否定はして
おく。

ガンプラ買わないといけない。

基金を作って、なんとかしないと。（いろいろ、購入しておかなくちゃならない作品が山ほど
あるのだ）

でも、「これってどうなのかなあ」と思われる人もいると思う。だが、脚本は黒田洋介先生で
ある。

「許す、許す」「なんでも許しちゃう」「許しちゃう。全部許しちゃう」

これがクズカゴならボロクソに言うけどね。

「高校の名前はマルキ・ド・佐渡高校だと、ダメか。夕方の子供が観る時間帯では、ダメだ。新潟ならこの名前なんだけど」

「高校と言えば、全員の洗濯機が壊れて、****・****授業をする回があって、いつもタンクトップのスー先生が****であると気づいたA君が、折り悪くスー
先生にさされて『SixとNineを発音します。リピート・スピーク・アフター・ミー?』と本場アメリカの『Six』『Nine』をネイティブ発音されて、A君が立ち上がったとき
に『Bee Free』第一話みたいな惨事（海綿体骨折）が起きて、イメージ図に涙を流している象さんの鼻が『く』の字に折れ曲がっている話とか、ちゃんと視聴率をとれる
かな？」

「メガネの話は？ 視聴率はわからないけど、コメントが載せられる動画サイトなら、盛り上がるけど販売に繋がるかな？」

傷ついた象さんにメガネをかけて解決！

2015年1月28日 前回の失敗から

『あり思』の第二巻で数ページ追加アップされているはず。

アップされていない場合、そういうことである。

毎月八ページアップしているのに、三ページしか無いのは、マンティコアの英文スペルを控えていなかったからである。

そんな凡ミスがあっというのかという話しである。

閲覧数が少ないので、ご存知の人は少ないのだが、前回の更新情報が失敗してしまい、丸々更新情報が抜け落ちているのが発覚してしまった。

『まんが道』を読んだことがある人はわかると思うが、新聞社に勤めていた頃の満賀道雄がラジオ番組欄の原稿を取り違えて、その日の放送番組と違う番組欄になってしまうようなミスだ。

ひとつ言わせてもらおうと、年末から今にかけて、相当に忙しかった。

ひどい背景美術をあらためるために小林七郎（七郎は「ひちろう」と読む）さんの著作である『アニメーション美術』を借りてきて読んで、基礎的なモノは模写したり技術がいたらないので模写できないモノはコンビニコ…図書館内でコピーして複製をひかえたり、結局ゲームラボにお年賀イラストも描けずに今年は終わったりして大変だ。そして、『しあわせのかたち』で玉さんがサイバー佐藤に差し入れされた『まんが道』を読んで目からウロコを出したのを思い出して『まんが道』を読んで（自分はマンガ家じゃないのにこのマンガを読んでもしょうがないのだけど）、『まんが道』はどうも全巻通じて読むではおらずに、途切れ途切れになって「寿司屋に入って高くて驚いた」話はどこかで読んで覚えていたが、最初から読んでいなかったみたいだ。（才野茂は初登場のコマで目に隈があって、この人物が終生の友になる藤本さんとはとても思えない登場の仕方をしているとか）

読んだ気になっていたのは、NHKのドラマになったのを憶えていたからだった。

『あり思』のネームを切るのが遅れたりするのも、このマンガを読んで漫賀道雄に影響を受けたからであろう。

そんなことより、東出くんの話題をしよう。

皆も聞いている「おぎやはぎのメガネびいき」で東出くんが番組を聴いているのではないかという話題がもちあがり、その経緯は割愛するけど（知りたかったら今すぐ「メガネびいき」のポッドキャストを聴きなさい）、番組中に本人から杏ちゃんと写った「いわゆる写メ」が送られてくる。

東出くんは小木さんが新番組の「ごちそうさん」を知らなかったところか、嫁の杏ちゃんを江口洋介のアンちゃん違いとしているのを知っていても、番組を聴き続けていたということじゃないか。

「なんて東出くん、いい子なんだ。ひいきしちゃう」

この子は心にダムを持っている子だ。（注・「他人のために涙を流すことをできる」という野島流レトリック）

陰で「ごちそうさん」を「“はもにか”なんて創作料理を出して、ウソつきだな。我々はこんな嘘つきに受信料を払わないといけないのか。創作料理は妄想ニホン料理だけでお腹いっぱいだ」と散々悪口言っていたのを、あらためないといけない。

東出くんはサイコー。

ドラマは最低。

東出くんはサイコー。

ドラマは最低。

「冬ちゃんいたら、冬將軍いないから、天気予報のコーナーでリストラされてしまった（以降エヌエイツケーの悪口が3万字続く）」

「メガネの話題をしなくてもいいのでは？」

「なんていうか、あの表紙のお姉さん、遠回りなたとえで悪いけど、子供の頃観ていた番組に出演していた女性タレントが、何年も経ってから雑誌の通常ページよりも質のいい紙に写真がのっているような、そんなことを感じる」

「それ笹峰愛のこと？」

2015年1月23日 噺家と政治家とパブリッシャー

「Puboo×Paboo2014」を少し追加修正したぐらい。

それだけだと、少なすぎるから…さすがに三回も繰り返すと、手抜きしていると思われる。手抜きじゃなくて演出。ヤラセではなく、アクマでも演出を主張。

今更だけど、野々村竜太郎元議員は、政治家にならず噺家になるべきだったと思う。あの去年の釈明会見は、高座で落語を聴いたことがある人はわかると思うが、名人の域に達した高座芸だ。

記者に質問されて、急に水を飲むのも、まくらが終わっていざ本題に入ったときの円生だろ？ 急に泣き喚く芸（？）も、噺のクライマックスにやる見せ場だろ？ 具体的には「大岡裁き」で右に引いたり左に引いたりのおなじみの見せ場でやる芸と同じなんだけど、なぜか誰もその点を（私の目の届く範囲では）指摘してない。

落語をみんな見なくて、知らない。

それを高座にかけず、記者会見でかけると、皆が笑ってくれるという…すごく皮肉である。

バカ正直な感想を言えば、高座で同じことをしても誰も笑ってくれないと思う。

皆、お笑い贅沢病で、「舌が肥え」てしまったのだ。

『世界樹の迷宮』のゲームレビューのメモをあげているけど、まず音声メモを録って、そこから記事を書いている。どうにも、執筆スピードが上がらないから、メモ代わりに音声として書く内容を録音して、なんとか早く書き上げられるようにしたい。

ゲームレビューとは離れてしまうパブリッシャーとしてアトラスは どうしてダメだったのかも、実は語りたい。だいたいパブリッシャー同士が合併するのは、単純に海外に強くて国内が弱いところと海外が弱くて国内が強いところ、国内外の強みが反転しあっているところが互いの内外格差を埋めるためにくっついている。わかりやすいのはドラクエは国内ではいいんだけど海外では知名度が無くて、FFは国内で開発費とローカライズの費用を回収できればいいとわりきって海外向けにしているようだ。アメフトソフトで稼ぐテクモと『信長』無双シリーズで売るコーエーも似たようなものだろう。それをしなかったから、アトラスは経営迷走したと思われる。(アトラスは噺家になるべきだったのだろうか)

そんなことより、早くゲームレビューを終わらせないと。

2015年1月16日 『世界樹の迷宮Ⅱ』を手に入れた

「Puboo×Paboo2014」を少し追加修正したぐらい。

それだけだと、少なすぎるから、下書きをアップしてみようと、思った。「ルールラーニングストーリー」の続きにコマ割と、キャラクターと女性キャラクターのあたり(注・マンガ専門用語)しか書かれていない、下書きを載せる。

それで今月の分が仮に載らなくても、更新があったという体面が保てる。

もう年が明けて、半月が経っていた。

『文章読本』で語るメモが溜まっていない。これで完成するのだろうか？

一応、目処は立っていて、「読者にとってヒーローと思う人が書いたものが名文」であるから、絶対評価としての名文なんて、存在しない。

『世界樹の迷宮Ⅱ』を手に入れた。

少し中古屋さんをまわって、たまたま見つけた。

リメイクの『新・世界樹Ⅱ』の元になっているソフトだけど、元のソフトと体験版の違いがどうのこうの話すために、購入したわけじゃない。TRPGのゲームシステムをどうやってコンピュータゲームに落とし込むのか、それが21世紀になって一番上手くて、そして先鞭を切ったのが『世界樹の迷宮』シリーズじゃないか。ここまで話すとわざわざレビューを書かなくても、よくなってくる。

技能＝スキルで、基本能力値が増強されるとかあるんだけど、難しいな。

みんな、ゲームに求めているのは、批評じゃない。ほしいのは攻略情報だから。マンガやアニメに比べて、ゲームレビューの閲覧数は少ない。

だからみんなゲーム批評を読まないから、そのものズバリの雑誌「ゲーム批評」も事実上の廃刊してしまった。

2015年1月10日の更新情報は少ない。

「Puboo×Paboo2014」を少し追加修正したぐらい。

それだけだと、少なすぎるから『ラジオ「おぎやはぎのメガネびいき」海賊ファンEブック』も「ピックアップPodcast」を追加した。

『世界樹の迷宮』のゲームレビューはしておきたいのだけど、ちょっと無理そう。正月になんとか中古品でもいいから、ソフトを手に入れようと思ったが、第一作が高止まりしていて、手に入れられなかった。『SaGa2』のリメイクが300円で売っているから、そちらを買ってプレイしてみたりしたけど、悪口しか出ない。一昨年にプレイしたはずのリメイクの『SaGa3』は『シュタインズ・ゲート』のガジェットをそのまま使うって、「プライドが無いのか？」という話をしようと思っていたけど、ひかえたんだよ。もう、ひかえる理由は無いから。

そういえば、「エンペラーズ・サガ」がソーシャルゲームで、『ロマンシング・サガ2』のリメイクが『サガ2015』らしい。こっちの『サガ2015』がスクウェアエニックスに入社できていたら、もうリリースされていたという話。

どうでもいいけどね。

『サガ』はもう終わったシリーズだ。

ゲームファンとして、こういうことを言っちゃいけない。

だけど、もう言っていない。

ほとんどのゲームレビューは、ソフトが手に入らなくて、手をつけられないという貧乏だからできないって、ことなんだけどね。

『海賊電子ブック』は、記事が不充実だと思う。

いろいろなことに追われて、記事作成を棚上げにしたら、こんなに記事の追加が少なかった。「朝起きて、パジャマをたたむ」は、「アレ、本当」という話をしたかった。もう、一年前のネタになってしまった。

えっと、これは書いていいと思うけど、あるネット接続の機器でラジコを聴くと、首都圏の設定になっていて関東圏のラジオが聴けたり、711のセブンスポットだと、なぜかこれも地域設定が関東圏で、その地域のラジオが聞ける。これは「ラジオライフ」に書いてありそうなことだけど、なぜか書いてない。（ここらへんの事情は不明）

頼むからコンビニの迷惑にならないようにしてくれよ。ラジコ聴くときはジュースか何かちゃんと店で買ってから聴いてくれよ。

それから、「ダイエット**のオークラに残念！」とあるのは、卑猥なコトバがあるのではなく、「成功したのか？ 失敗したのか？」ちゃんと聴かないとわからないようにしているだけ。でも「なごり雪」の替え歌は卑猥なコトバである。

2015年1月2日 新年一発目

新年、明けましておめでとう。

福袋を作成できず、『The man of the overlooking01』が無料公開になっているはず。
いろいろしているはず。

今年の目標はゲームレビューを充実させたい。書きかけだけどアップしている「知性組織とルイス・キャロルのオーダーメイド」をやっつけて、『世界樹の迷宮』とか、そろそろ書いておいた方がいい。単純に『D&D』と『T&T』のウィズに「ガープス・ベーシック」を着込んでみると、言えばいいのか？ そこを資料も無いのに、書くのが難しい。

それと、Kindleで「文章読本」を出すこと。

前々からやりたかったのだが、ミナ坊が（心のペニスから）出した『文章読本さん江』以降の「文章読本」をちゃんと書きたいと、引用文のラインナップをメモ書きしていた。

普通は心構えから、引用文（原監督の釈明文など）の評価と文章作成の方法だったら、何か手応えを感じず、今の今まで棚上げしていたが、ゴーストライター・ゴーストライティングで、「やれる」と手がかりを掴んだ。

代筆業者、バートルビーの隠された物語を語るかもしれないが、イケニエは高橋源一郎かもしれない。翻訳書に翻訳者に名義貸しぐらいしたかもしれない。

あの…文壇に入るかもしれないから、気を使って評論を書いたけど、もう気を使う必要なんてない。「芥川賞なんていらねえよ」だ。

評論家として、「本当に高橋は翻訳したのか、疑わしい」と前々から思っていた。さすがに評論では、翻訳者の円があることは、否定はしなかった。これから文学研究が進むにつれ、真相がわかると思う。

後は迷惑な問題もからむ。

ゴーストライティングされたモノを引用文として取り上げると、まずいことになる。

高橋大輔が選曲に使ってしまい、最終的にババアにキスされる。（橋本聖子は権力者だから悪口をいくらでもいえる）

あれで現役引退を決めたと、まことしやかにささやかれているからね。（主に私が）

今までの更新履歴情報はこちら

[Puboo×Paboo2014](#)

コンテンツ案内

[随筆 キン肉マンの批評はなかなか・・・](#)

[書評 マンガ製作のなんたるか『漫画貧乏』](#)

[ネタ 少年マンガによくある展開](#)

[日記 『ナウシカ論文』が面白い](#)

[日記 仲間じゃない感](#)

[日記 『あり思』製作日誌その四](#)

[失敗作 悪の研究『リトル・ピープルの時代』](#)

はみ出したネタは「ゴトチヒの横本」に

[映画を観たネタ](#)

[ロボットモノのヤツ](#)

[横長四コママンガ](#)

女子（おなご）向けでも男子が見ていい

[FQフォロワーズ](#)

[レビュー メタ少女マンガ 『月刊少女野崎くん』](#)

声明文

今回、ファイナルファンタジーエクスなんたらは「i+4」のサイコ・トランス・システムの「カンニング疑惑」が持ち上がった。

何百・何千か書き繰り返すがスクウェア・エニックス社に私は入社できませんでした。当時、東京に住んでいて、ゲーム会社に入社できなかったから、都落ちして今に至る。

その因縁の会社に「カンニング疑惑」が持ち上がったなら、「疑惑」がたとえ「誤解」であっても、怒ります。

たとえるなら、「一緒に遊ぼうよ」と言ったのに仲間外れにされ、こちら側が楽しく遊んでいると、勝手にまざって遊ばれていたような、不愉快きわまりないことをされている

。ZUNさんが同人活動を妨げないように、東方シリーズをほぼ開放しているように公式見解上「影響なし」としていたのを台無しにされた。

皆楽しくやっていたのに、スクウェア・エニックスがまざってきて、すこぶる気分が良くない。

「お前、嫌われてるって、知っているか？ お前がずうずうしく入ってくると、皆やりにくくなるんだよ！」

仮定として、入社させなかった人間のネタをつまみ食いのカンニングが確定したら、軽蔑すべきだ。

スティーブ・ジョブズなら絶対に「腐った連中」と罵っていたに違いない。

このような事態になって、もっとクズカゴをいじり倒せばよかった。

『キングゲイナー』は好きなのに、心をナウシカにして、いじってきたのが、もっともっといじり倒せばよかった。

いじりたりなかった。

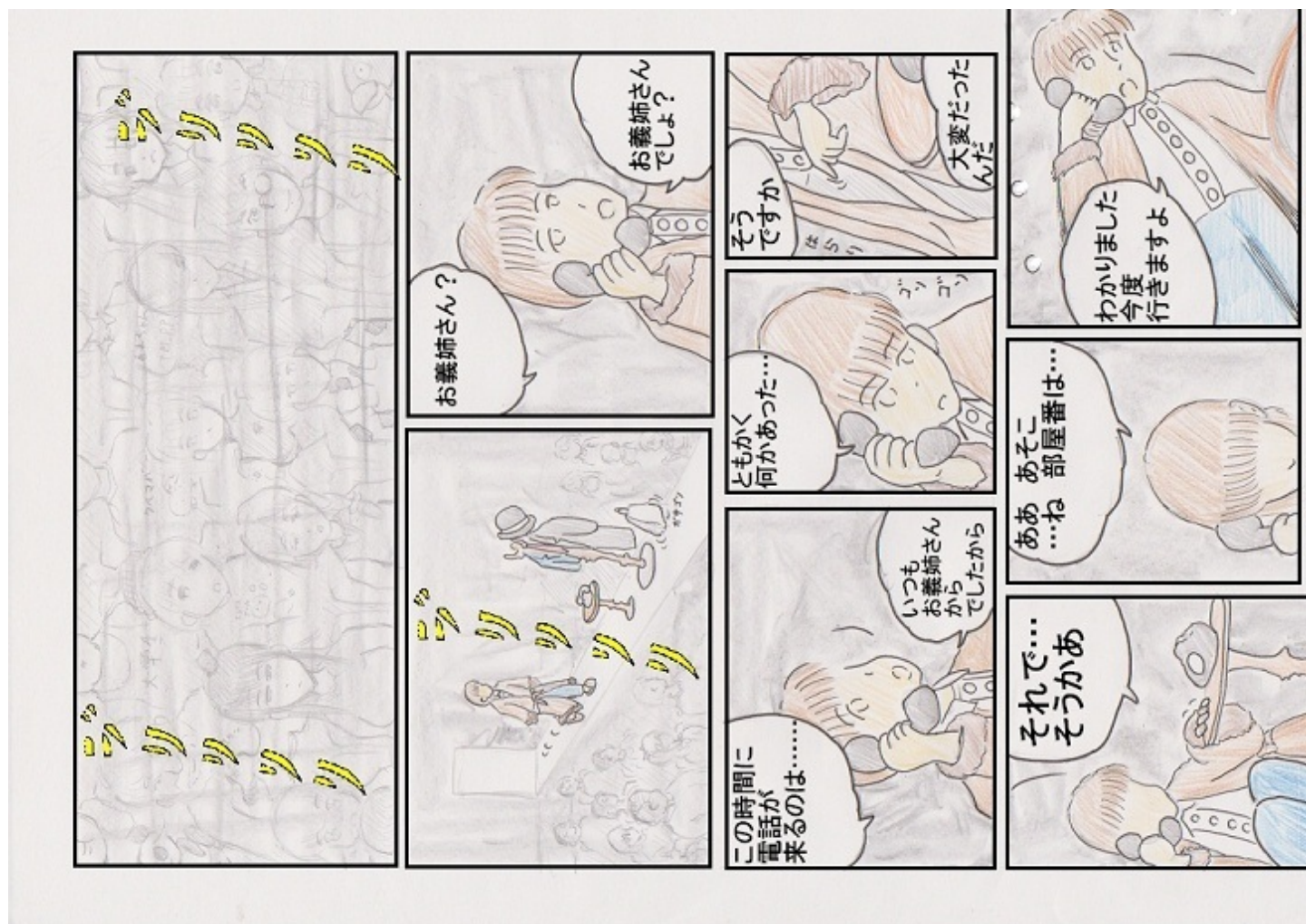
もう、この会社のゲームソフト買わない。

広告

マンガとかを「天体観測」



Architecture
Product
System



『ありえない未来の思い出たち』第二巻の「ルールラーニングストーリー」から一部を特別掲載。

リンク

[1.イントロダクション](#)

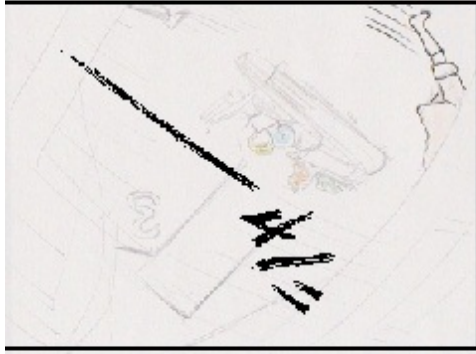
[2.アンサーゲームプラン](#)

[3.ルールラーニングストーリー](#)

[4.セブンスリーワン](#)

[5.マティマティカ](#)

[6.舞台観劇とゲームクリエーション](#)



ウチのにも
会いに来て
あげて下さい
それでは
お休みなさい

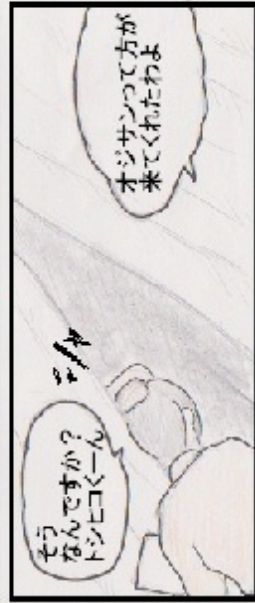


こちらに
なりますよお



ありがとう

はじめてじゃ
ないん
ですけどね



そう
なんですか？
トシヒロくん

オジサンって方が
来てくれたわよ



やあ トシヒロ君
足以外は
元気なようだね



お義姉さんから
お母さんから
聞いたよ

サッカーの
練習に
行こうとした
らだっけ？



オジさんこそ
元気だね



遅刻しそりになつてさ
廊下でで階段を下りたら
転んで……



骨が折れちゃったんだ

サッカー選手は
誰だって サッカーで
怪我をしても
乗り越えてきた人たち
ばかりだから

トシヒコ君も
怪我が治れば
サッカーが
できるように
なって そのとき
がんばればいいのさ

僕が思くらの頃
なりたいものが
七つもあってね
そのひとつが
お医者さんに
なることだった

うーん？

もし 僕がお医者さんに
なっていれば君を治して
あげられたのに

医者です

オジさんは

ムービースターに
なりたかった
んじゃないの？

その話は
もう
いいだろう

あくまで
子供の頃の
ハナシさ

そっ おみあげ
のふくろ
あけるね

これ
なに？

おなかを
押してごらん

PUSH

ケモノダヨ
ヨロシク

それと おウチに
トランプが無いと
言っていたから

さっそく
遊ぼうか？

そんだったら
モモちゃん呼ぼうか
二人だけだと
つまんないし

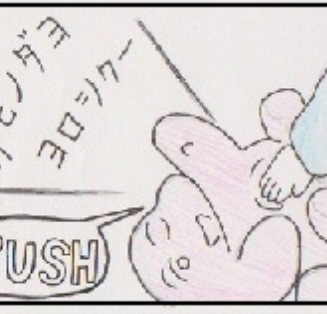
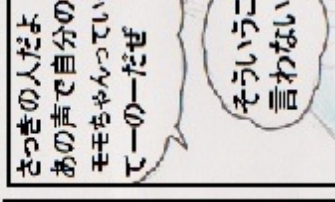
モモちゃん？

さっきの人だよ
あの声で自分のこと
モモちゃんっていうんだ
てーのーだぜ

そういうこと
言わない

じゃあ
二人でできる
トランプで

面白いのって
何があるの？



このトランプは
新品だから
ダイヤ スペード
ハート クラブ

1から13まで
分けられている
1から10まで十枚
取り出してみよう
あっ ホントだ

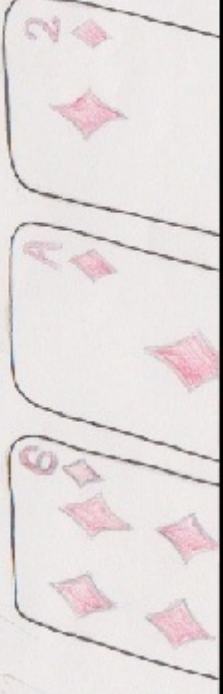
引いたよ
その十枚を
ちよつと
貸して

ジャ
ジャ
ジャ
ジャ

それじゃあ
この十枚の
カードから
七枚引いて

4 5 6
7っ
そのまま
めくって
持っていて

それでは トシヒコ君
この三枚のカードを僕が
足したり引いたりするから
その和を予想してごらん



6に1を
引いて5
そこから
2を引いて
3になるん
じゃないかな

じゃあ
3のカードを
出してごらん

あっ
3のカード
が無い

そうすると 違う計算をして
違う解の答えの数字を
出さなくてはいいけないね

今度はせいで
一緒にカードを出そう
僕も 計算の解と同じ
数字のカードを出すから

オジさん
決まったよ
せいの……

ちよつと 待ってね

それじゃあ
いくよ
せいのッ

7!

$$6-1+2=7$$

6引く1に足す2で
解は7 ご名答!



エ^^

解を僕が
持っている
このカードの
中から当て
てあげよう

ほんじゃ
これで

8と1と
4だね

その三枚の
カードを
しまつて また
せいで

君は計算の解の
カードを出して
僕は予想した解の
カードを出そう

それじゃあ
いくよ

せいの

今度は トシヒコ君
君が三枚のカードを
出してごらん
それを足したり
引いたりした

10!

5!

オジさん ここは
どう考えても 8足す1で
4を引いて 答えが5に
なると誰でも思うよ

$$8+1-4=5$$

それが
5のカードが
手持ちに
無かったのさ

よし

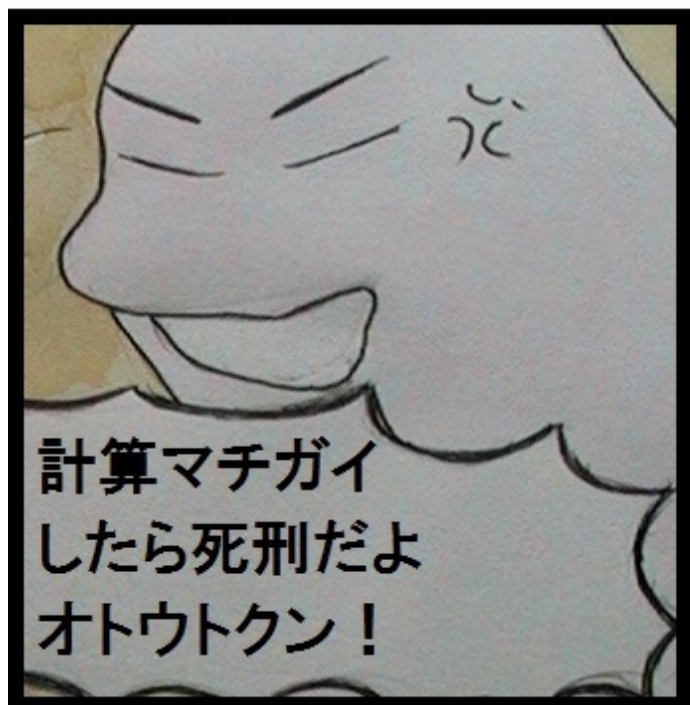
もう一度カードを
切りなおして
今度は...

3回勝負をしよう
もうだいたいの
ルールは
覚えたね?

うん これ
5回勝負なら
PK戦だね

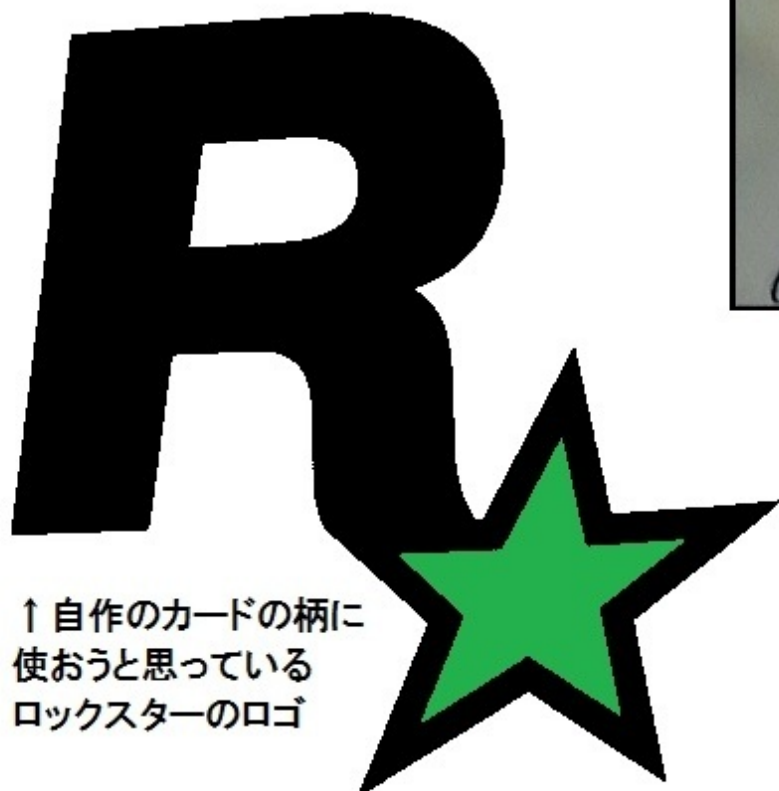
そうだね
先攻と後攻が
あるから
PK戦に
なるね

それから
計算間違いは...



KAKURE KIRISHITAN

続きは
『ありえない未来の思い出たち』
第二巻で



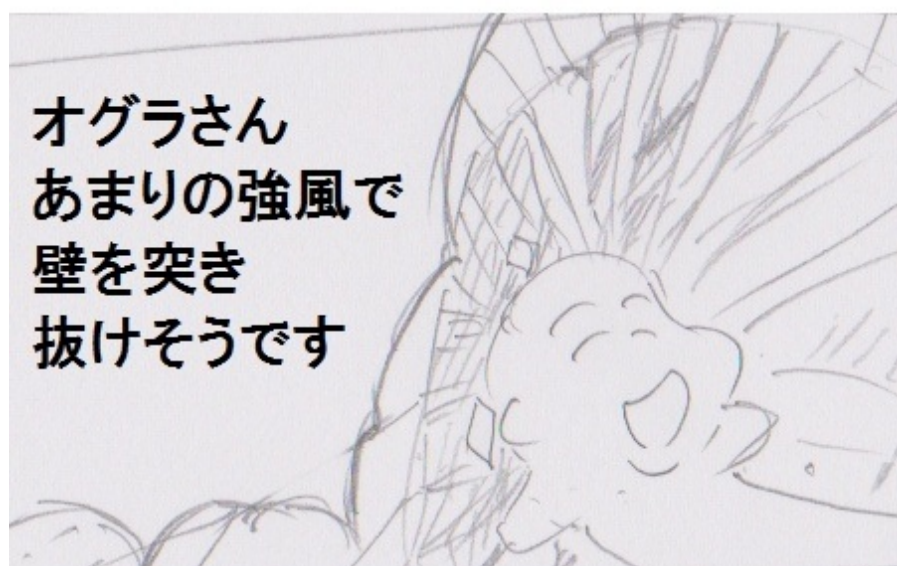
↑ 自作のカードの柄に
使おうと思っている
ロックスターのロゴ

(著作権や商標の件で文句を言われるかも)



07nikki

日記とネタ



「南座へ参る」はもう終わったよ

「システィーナ歌舞伎があれば、女歌舞伎を再興させなくていいじゃん」

というツッコミがあると思われる「南座へ参る」はもう、そうそうに終わらせた。

こんな真偽不明の題材をそのまま書いたり、（「いとし」と読む）愛くんが本当は目覚めて『ちゅらさん』の下宿先みたいな宿を作ると期待させるラストを入れると「そんなんじゃ面白くないから、死んじゃったことにしちゃえ(笑い)」とくだらないことをしている日記を読んでおられるようなヒマヒマの方は、も・ち・ろ・ん、「女の子向けパブパブ」を読んでいて、なんか「歌舞伎をテーマに少女マンガの原作を作っているぞ」ぐらい知っている。STAP細胞。

「ラノベ作家超級講座」でジュニアノベル（「少女向けラノベ」と思えばほぼ間違いが無いはず）として書いたら、どうするか語るはずが、ただ最後までのであすじになってしまった。

なんで電子書籍を作らず、ラジオ動画にしたのかは、「完成しない」から。たぶん、執筆したら来年の今頃（2016年の新春）でも、書き終わっていない。

ところがしゃべれば、準備期間を含めても、一ヶ月と半月で企画は終われる。

…電子書籍にしても、ねえ？

ラジオ動画リンク

ラノベ作家超級講座 第七回 「南座へ参る」

- 1 <http://youtu.be/ydDZjr7kFok>
- 2 <http://youtu.be/ou45S0zDjuE>
- 3 <http://youtu.be/DjXPRcjxilc>
- 4 http://youtu.be/BSF_VZqh0L8

これ、一番長いやつにしてしまった。テクニク的なことは、ぜんぜん話していない。なんでラブコメではコメディリリーフをするのか、その理由は私はわかっているが、語っていない。「コメディリリーフを入れろ」とラブコメの書き方とかに書いてあるが、尺が長くなったから理由は話さなかったのだ。

どうして、コメディリリーフをするのか、その理由はわかっている。『新フォーチュン・クエスト』でパステルとギアが、別れ際にキットンが来ないと、ギアにパステルがさらわれる…このぐらいのヒントを書けば、さすがにわかるだろう

だいたい、「南座へ参る」はラブコメの話ではない。

少女たちが過去から未来に出会う話だ。

少し間違くと、「クソ少女マンガ夢子」になる。説明いらなと思うけど、『月刊少女野崎くん』に感化されたのか、爆問のラジオで開始されたコーナー。この影響で「北国の叔父さんからの手紙」がリストラされてしまった。

まあ、そんな企画は誰も（少女たち自身も）求めているないので、あらすじだけですませた。ラストまで一気に語って、終わりである。そのメインストーリーから漏れた話をしよう。

まず、事故で死んでいる出雲ちゃんの母は、実は女歌舞伎を復興しようなところまでいっている。椿梅の重鎮がかなり興行に向けて動いて、でもお流れになったんだよ。

バブル崩壊で。

スポンサーサイドが不況を理由に撤退して、興行できなくなる。

椿梅の重鎮には、そのことで少し後悔がある。

資金をダメみに出させたのも、その経緯があって、彼の本気度を試している。

「常勝無敗の経営者なんて、ボクは信用しない」

「彼には一度お勉強してもらわないとね」

と、男性秘書（ジャンルが少女マンガなので無用にハンサム）に述懐するシーンで、このキャラクター自身が過去に勉強させられているのがうかがえる。

だが、この椿梅の重鎮のところに、ダメみが「興行を手伝ってください」と赴いたのは、運がよかった。

そのダメみは、ダメな速水真澄だから、お金を簡単に工面できない。高橋源一郎のパロディ小説で「マヤちゃん、キミがほしいと思うものは、ボクが何だってかってあげるよ」と、ダメなパトロンぶりがない。

そんなことより「丸出ダメみ」というマンガを描きたいよ。

「奥さんの財布から小銭を覚られないように抜くアルバイトで貯めた金で作った有限会社（注・有限会社の頃の会社法時に設立）」

クラウドファンディングでカネを集めても、興行資金が一億か二億足りず、株式を担保にお金を借りるとき、社員たちの前で「おカネ借りるけどいいかい？」と聴く。株式を一部手放すようになると、会社が支配されてしまう可能性が確率的に上がる。だが、社員たちはダメみに恩義があるから、優しい。

というより、甘やかしている。

「会社が乗っ取られても、また奥さんの財布から小銭を覚られないように抜くアルバイトで貯めて会社を作ればいいですよ」

「そうですよ。奥さんの財布から小銭を覚られないように抜くアルバイトで貯めた金で、また会社を作りましょう」

「皆でまたやりなおせばいいんです。奥さんの財布から小銭を覚られないように抜くアルバイトで……」

このあたりで、噛む。

普通なら「ボクをバカにしていないか？」と怒るのがたいていの経営者だけど、ダメみは「キミたち、ありがとう」と言って社員たちを抱きしめる。

少女が理想とするファミリー的カンパニー（一族経営の会社のことではない）がここにある。断っておくと、少女マンガというアジール空間だから、この企業が存在できる。実際には、夢だからできないのは、大人として断しておく。

でも頭のいい幹部の一人が、

「そんなことでお金を集めるより、為替の弾性を利用して株式を百分割して、お金を儲けた方が

いいのでは？ 他にも同額の株式交換をする合併の直前に百株式分割もいい手ですよ？」

それ時価総額経営だから、やっちゃ駄目。

そんなこと言っても、ダメみは会社を作って運営しているアプリゲームがまぐれ当たりして、持ってる創業者株が時価総額100億の価値があるんだけどね。

本決まりではない設定で、ダメみの奥さんが学生時代に妻子ある既婚男性と不倫して、『まんが道』の涼子さんみたいになるところを、ダメみが「ダメだ！」と説得して、一緒になっている。不倫の子を育てているという話は、アニメ化はダメになるかもしれないが、深夜ドラマならOKなので、そのサジ加減はなんとかしないといけない。

結婚してはいなそうな、内縁関係にある夫婦。

それで、役者くずれを家に招いて飯を食わせたり、学生時代の友達が子供を産んだら働く場が無くなったとか、在日朝鮮人のため上場企業に入社できなくてマッチングする仕事が無い同窓生とか、彼らを集めて、うまくする手段がたまたま会社組織を作るということだった。

私も彼らのような人材を集めてゲームデベロッパーの会社を作りたかった。（現実には事務所のゴーストライターをプランナーに召抱えず、リストラ）

中心核に擬似家族があって、会社という大家族があって、その外に拡張家族としての女歌舞伎の言わば出雲座がある。そういうことを、「ラノベ作家超級講座」で言わなくちゃならなかったけど、別にいいか。「超級」なのだし。

ついでにここが、「花とゆめ」の「ゆめ」の部分。女子校生が神様になるとか、四龍が出てくるとか、唄えば雨が降るとか、そういうファンタジーではなく、「こういう会社が女歌舞伎再興に尽力した」というか、「この会社」自体がゆめの世界の産物。（さすがにこの部分は「女の子向け」では書けないだろ）

それから少女マンガでステップファミリーやクイア家族、いろいろな家族形態の思考実験が試された時代は終わった。今の読者の願望は「専業主婦になりたい」だから。

それでキャリアでウーマンなダメみの奥さんは、手に入れた中間管理職の職を辞めて、ダメみの子供を産むために「専業主婦」になる。この年長の女性キャラクター（脱字ではない）のあり方が、今の読者におもねっていることは、口外しないように。女子禁制だから、こういうことを伸び伸び書けるけど、女の子向けでは、露悪的になってしまうので、書けない！

仲町源一郎の中身がすりかわっている話。

アリバイとして歌舞伎座の板の上に、橋子ちゃんをあげる。

作者自ら言うのは美学に反するが、妹義経で橋、ということは五条大橋で、兄貴の本名光なのだから源氏物語の橋姫だけど、江戸の三座の一角仲町座を本流とする仲町一門の仲町屋の御曹司、仲町源一郎が病気降板したときに、橋子ちゃんが源一郎にすり替わって、歌舞伎を演じる話だ。（ヒカルの最後の助六を演じていたのは、橋子ちゃんだったという）

これをまず読みきりでやって、読者の手応えを得たら、本連載をしようという、魂胆はあった。実現しないに、決まっているが。

これを裏で糸を引いている（注・文楽起源の言葉であって「十八番」みたいに歌舞伎起源の言

葉じゃない) のが、あの椿梅の重鎮である。女の子が歌舞伎の板の上に上がっていたという既成事実を作ろうとする。それはかつての後悔があったのかもしれないけど、彼が少女たちに伝統復古や舶来物の「女性開放」に導く、「ラノベ作家超級講座」で語りもらした「男性読者が感情移入してもらうためにいる」キャラクターである。『ガラスの仮面』の男性読者は速水真澄に皆つつこみを入れながら、心の奥底で感情移入している。それは霧島マヤという女優の才能を持った女性に出会い、お金さえあれば興行的な後援をしてみたい(今思うと、高度な援助交際とか悪いたとえを口にしてしまいそうだ) という、男性のピグマリオン・コンプレックスを刺激しているとか何とか、マンガ批評的には言ってしまう構造がわかっているから、皆につっこみを入れてもらうダメもと、安心して感情移入できる渡辺保先生をモデルにしている重鎮を用意している。

これを看破されると、ちと困る。

「キミが『南座へ参る』のシナリオを私の代わりに書きなさい。『吾妻鏡』の資料とかおさえるの大変だけどね」

本当に大変だからね。

それは丹後文芸部長の苦労でもある。(ここで役者崩れが演出をやろうとして「役立たず」「無能」「お前が役者なら、あたしゃ名優だね」と言われて、演出をリストラされてオカマの演出家と呼ばれ、丹後部長の小間使いになって資料集めなどに奔走する情け無い話はあるのだが、どうでもいい)

ついでに言うけど、保先生への尊敬なんだよ。バイプレーヤーとして、ちょっといい役を与えたい。それで、裏では「シャイロックの声をさせたい」とか、陰口を叩いているのは、「ご愛嬌」。(自分からこういうこと言わない)

出雲ちゃんとじいちゃん、ばあやの話…こんなスコットランドから家政婦を調達する朝の連続テレビ小説みたいな、数字を持っている層におもねったモノなんてダメだよ！ (『マッサン』のことではない)

スチャダラバーの曲の歌詞みたいに「ジジイ、ババアは高得点」だよ。

ジョブズの方だね。イノベーターになる人は、何故かじいさんから直間接的な薫陶を受けているような気がするから、それを参考にしたということにしよう。

出雲ちゃんも両親を交通事故で亡くし、ばあやに世話をしてもらって、人間国宝の祖父から女形の芸を教わる。

その理由もさ、幼稚園児あたりで木刀を持って男の子達を従えていた男勝りの出雲ちゃんに、少しでも女の子らしくしてほしいと、和事である女形の芸を仕込んだのが、運命の始まり。そもそもばあやが、人間国宝のじいさんに「出雲嬢ちゃんはいつも男の子とばかり遊んでます。茜さんみたいにしてほしい」と告げ口したことが発端である。(「これじゃ嫁の貰い手がない」と未来実際にそうなることもボヤいている)

今でも、橋子ちゃんに「木刀を振り回して男の子達を追い掛け回していた」と、少しヒレをつけていわれる。確かに木刀で男の子の顔面を水平に打ち、乳歯を二三本折ってばあやがその子の

家まで謝りに行った「はじめてのおつかい」みたいな微笑ましいエピソードはある。

そんなことがあっても、女形ごっこする出雲ちゃんの周りで太鼓叩いたり、拍子木を打ったり（つけを）している男の子たちは、少年になっても出雲ちゃんの文化祭の出し物で同じことをしている。早変わりをするとき、後ろの黒子として着物の着脱を手伝っていたり、つかわれかたが酷くなってないか？ と思う。

幼稚園児の頃から権力構造が変わってない。

彼らは自我の目覚めとか無い、フラットキャラクターである。

少女マンガの世界では、こういう男子が出てくる。川原泉の中編「甲子園の空に笑え」の相本四兄弟みたいに、目と鼻と口が点に近い。モブキャラクター、モブキャラクターがいるのだ。これは逆に言えば、少年マンガでも、町子リョウみたいな中学二年生で、もう身体が出来上がってるアレは無いだろうと、誰でも思うはず…別に少年向けのマンガの登場人物ではない、成年向けだ。だから（そこからだからはないだろう）、ダメみのような不倫して出来た子を育てるような、男（『昭和元禄落語心中』与太郎）は存在しない。ファンタジーだ。探せばいるだろうけど、それは実際の王族の未婚男子と、会えるくらい確率が低く無いか？ さすがにこれは女子禁制でないと、ダメだよ。

王子様となんて、まず付き合えないし、仮に結婚できても、雅子妃殿下の悲劇を知った今、内外国の王族の男子と出会って付き合うということに、夢が持てるか？ 戦後70年の好況時に女歌舞伎は再興する機会は何度もあったが、再興したか？ 新派で皆、満足していたか？ 70年間無かったのだから、向こう70年間再興するワケねえだろ。

…口直しにいい話をしよう。

会社を辞めたダメみの奥さんは「ダメみ君にごほうびをあげたい」と、子供を産むことを決意するのは、前にも書いたが、それだけではない。彼女がダメみ会社に入り、何故か百人抜きぐらいで管理職に収まり、女歌舞伎の興行プロデューサー的な仕事をはじめた。

そして、出雲座が全国各地を公演しているときに、南座公演を取り付けてくる。彼女が退職金で買ったスーパーカーを乗り回して、関係者に会っている内に決まる。椿梅の重鎮も「こまたの切れ上がったいい女だ」とハンサム秘書に思わず言う。ダメみの奥さんはスーパーでウーマンなのだ。「専業主婦」に納まる女ではない。

こちらへん、実際に南座に取材してみると、実績の無い一座の公演なんて話を振ったら「ぶぶ漬け食って帰りははれ」と言われると思うが、「ゆめ」＝「ファンタジー」だから可能！（そのファンタジーが無くなったから少女マンガは衰退したのだけどね）

女の子たちを最後に救うのは、やはり女性でイイんじゃないか。だからナウシカ幻想に非ず。

「こいつは春から、縁起がいい」

（オウムシステム批判をした以上、オウムシステムを導入すれば売れるのはわかっている。読者を肯定するドグマをこしらえて、美少女であるシスターズをそろえれば、だいたいうまくいくとわかる。でも方程式がわかっている問題を解くぐらい、退屈で苦痛なことはことはないよね）

「コミックビーム」に拾われて、何かの件で福島聡ち関わりが出来れば、「福島さん、これを原作にマンガ描いてくれない？」と、「南座へ参る」の作画をオファーできたかもしれない。この縁を演じたのは、コミックビーム編集部だから、私にはまったく責任は無い。

それから、『国崎出雲の事情』を知らないわけじゃないけど、マンガは読んでなかった。伊藤剛さんを批判するわけじゃないけど、剛さんが入れ込むほど、私には思い入れが無い。だから、梨園の女の子が歌舞伎俳優になれない問題をマンガにしていたら、ネタ被りになるけど、今の出版事情だと企画が成立しないから、大丈夫。

「なんで、ジョーカーがマジシャンズマンティコアになっているんですか？」

「数のひみつのひとつさ」

たぶん、キマイラの魔女の対になっているって、皆、忘れる。

それはともかく、ゲームクリエーションの文法上、数学・数字的なことを踏まえないといけないので、『ありえない未来の思い出たち』の第二巻は算数の模擬である「731」だ。種本は高橋源一郎の短編「素数」と同じ。解説編の後半といえる「マティマティカ」の章で、その話はするはず。（『遊びと人間』補論「数学的分析」にある「四つの色の問題」は未解決だとされているが種本を読めば「ケイ素の物量演算」によって解決済みとわかる）

私自身は、数字に関してはイーカゲンである。

この間も、うっかり山内株が一千億円ほどの価値があるのに、一千万円ぐらいしかないと、見積もっていたミスが発覚した（一万分の一少ないよ！）。この市場価格なら簡単に任天堂を乗っ取りできるじゃないか。（副読本でもフィボナッチ数列はそのままになっている）

それはともかく、イワマツツ劇団の人たちが、すでに出始めている。

フルカやアルトはもう出ている。小道具に新さんみたいな人がいる。

本当なら、「コトタベ」ではお兄ちゃん（私）の葬式で、町の人たちが顔見世するはずなのだがしかし、過去のトゥアールさんの写真からツインテールの髪型がなくなっているように、私が写真から消えているものになっている。これはキャラ設定や作画に時間をとられるので、手を抜くためにあんなったのだ。作業工程を中抜きした演出である。（熊と弟くんが話せるのも、実は…誤配法）

さすがに今回はそういうことが無いように、イワマツツ劇団の人々の見た目ぐらいは設定している。去年の九月はそれに追われた。

伊丹十三さんのイタミが「医者です」とか「画家です」とか、くりかえしのギャグをする人として現れ、舞台の上のドラマを邪魔する。ササミーも横に長い顔を見せていないが、赤ジャージがチラッと見えている。

誤配法なのか、タマオウは出てこない。そのヒミツは第一巻の数学者の帽子とコートを見れば、なんとなくわかる。

チェーホフの戯曲のように、舞台の上で劇的なことが起こるのではなく、花道の上で劇的なことが起きている。「三姉妹」の決闘のシーンをわざわざ花道で見せる、ちょっと控えめではない演出だ。花道は、「舞台観劇とゲームクリエーション」で何か触れるはず。

なんだっけ。

「私は花道が無いと、ダメな人」とか。

チェーホフやスタニスラフスキーだけじゃなくて、鈴木忠志の演出法も面影がある。そもそも数学者を演じる人は本当に鈴木メソッドのような俳優訓練を叩き込まれた人間でないと、演じられない。冗談でなく、コバケンのポツネン氏みたいなことをやらないといけない。

鈴木忠志の演出を舞台の上で表現できる。冒頭の花道で「オンブラ・マ・イフ」をかければ、鈴木忠志になる。ナンジャモンジャ劇場が利賀村になる。カルメンの「闘牛士のテーマ」もかけられるシーンがある。

ちょっと触れておかなければならないのは、『妖怪ウォッチ』には、藤子フォーマット（四人組＋1）をなぞっている。

ただ、なぞっているだけ。

書籍化されていないネットマンガは批評されない。つまり批判も批難もされない（逆に言えばいくらでも他人の悪口を書ける）。だから、本来原作者としては言うべきことではないが、「コトタベ」には野田の戯曲「赤鬼」だけでなく、解説編で触れようかと思っていた「ミノタウロスの皿」と「カンビュセスの籤」の血肉が入っている。実はミート・キューブも料理された牛少女も入っている（解説編でついでに語るべきだったかも）。私自身、自分さえ生まれてこなければ、弟か妹が生まれていた…つまり、彼を「食べた」永遠のやましさの中に、生きなくてはいけない。

ケモノが自分のコトバを食べるのは、その暗喩が込められている。フキダシの中の構文には、それが書いてある。少しフシギを摂取している。

藤本さんだけでなく、安孫子さんの方の社会派マンガも、まったく影響が無いわけではない。ちょっと話から離れるけど、『まんが道』を読み返すと激河大介がケモちゃん、満賀道雄＝弟くんのような（兄である私は才野茂ではなく死んだ涼子さんと思ってほしい）。けらえいこが潜在的に藤本さんのマンガの影響を受けていたことにびっくりしていたようなものだ。

まあ、先にただ「なぞっているだけ」と書いてしまったが、『妖怪ウォッチ』は心のスキマに妖怪が忍び込む、「妖怪のしわざ」が『笑ウせえるすまん』の喪黒福造的であると、言えるかもしれない。この間のCSの無料放送で久しぶりに観たら、キャリアウーマンが求めるのは金持ちのボンボン（声の出演・佐々木望）ではなく家政婦さん（声の出演はシャーロット・ケイト・フォックス…ウソだよ）であるというブラックなところは、子供向けだから『ウォッチ』には無い。もちろん、私にはブラックなところを亡き橋本慎也がたすきに「闘魂伝承」と書いてあるように、私の心には「喪黒福造」と書かれているたすきが肩にかかっている。（こんなテキトーなことを書いていたら「サイゾー」で『ウォッチ』を取り上げた記事があり、けっこうブラックなネタが多いと知る）

ここまでに留めるべきだ。これ以上書くと、大吉先生がしょっぱい顔をする。最近の「ゲームラボ」の記事で、大吉先生が顔をしかめるようなよくない噂を読んだし、あまり接点はもちたくない。レベルファイブ側には、私のことは入社させなかった人材なのだから、放っておいてほしい。仮に私のコンテンツ（文章・絵で作られたもの全て）を元に何か作るのは、「本来支払われる労働賃金を掠め取られている」ような気分になる。そこは「スジが違う」だろう。

この点は書いておかないと、さすがにマズイだろ？

大吉先生の顔に免じているということは、書いておかないと。スクウェア・エニックスのことであれだけ怒っている人間が、敬愛するコメディアンのためにどれだけ抑えているか、想像はできるはずだ。（前振り通り“これ以上は”どこかで書くんだけど）

本題に入ろう。

マンガとゲームの関わりを調査した批評の量が少ない。

そもそも大友克洋の短編「FIRE BALL」の影響でマリオがファイアボールを放ち、この短編には兄弟が出てくることから、『スーパーマリオブラザーズ』の「種本」の一種として扱うのが、

知識的裏づけの意味での「常識」として、マンガとゲームを批評する人間は知っているはずだ。

(一応、赤塚不二雄のマンガの動きについては宮本茂は言及している)

本記事を読んで「初めて知った」となると、どれだけ普及していないか、批評が求められてこなかったかがわかる。余計なことを書くと「FIRE BALL」を読んで、宮本さんはマンガ家として自分がやっていくのは、難しいなと思ったかもしれない。灼熱の球が地球を焦がすぐらい、マンガ読みに影響を与えたことは、特筆すべきだ。(だからスマブラの最後の切り札がマリオファイナルなのは正しい。さすがにゲームプランナーはそういうことを知っているだろう)

……話を逸らさずに語れば、私自身も大友マンガの存在を知って、メインストリームのマンガ家は断念した口である。

それでも、いしかわじゅん先生がマンガ評で語っていた「インターフェースとしてのマンガ」をしょうがないから描いている。絵でわざわざ描かないと、理解してもらえないからだ。図に描いたデカルト座標を見せないと、デカルトが文章で書いていることを理解できない。そういう現実があるから、時間がかかってしょうがないけどマンガを描いている。(別にした「遊戯理科学・幽環派」を読めば文章ではいかにわからないか、わかる)

「その話は、まあいいじゃないですか」

ところで、モモちゃんが片目だけの表情・アングルが多いのは、安彦良和のマンガに見られる、ダイアローグドラマで感情と感情がぶつかるシーンでキャラクターの片目だけが出るアングルと同じような効果を生み出すように意図している。討議やバトルシーンでは、そういう演出をしている。

これは、一昔前に砂さんが「ゲームラボ」でマンガ評を書いている、ザク自体がモノアイとか、そういうことを語っている。先にその点に指摘する人がいたけれど、えっと誰だっけな？ (ゴソゴソ) 雑誌を読み返してみると、鈴木一誌だった。

孫引きになると思うが、視線劇と呼ばれるドラマが生じている。

その部分を批評対象にして、安彦良和のマンガ評「サイクロップスのガンビーム(一つ目巨人の視線)」というのを書こうと思っていたが、マンガ単行本をたくさん買い揃えなくてはいけないので、ちょっとできない。

その話はともかく、現在でも『天の血脈』で片目と両目を巧みに書き分けて、ダイナミズムのようなものを生み出そうとしている。これでいしかわじゅん先生みたいに悪口を言うと、安彦さんから「わけがわからない」と言われてしまう。(大友マンガのイノベーションを経たマンガ読みには陳腐に見えてしまうところがあるのは確か……歴史マンガを描くけど、マンガ家なのにマンガ史という歴史観をもたない……やっぱり悪口を書いてしまう)

途中で終わったテニスのマンガ、面白いね。

相手を射すくめるために使っているのは確かだが、視線誘導のためには、どうも使っていない。緊張感を生み出すために、画角で見えないか帽子の影に隠れて片目だけが切り取られる作画をしている。

安彦マンガにはかせない演出だろう。

私の場合、視線誘導の効果を狙った構図を描いた。

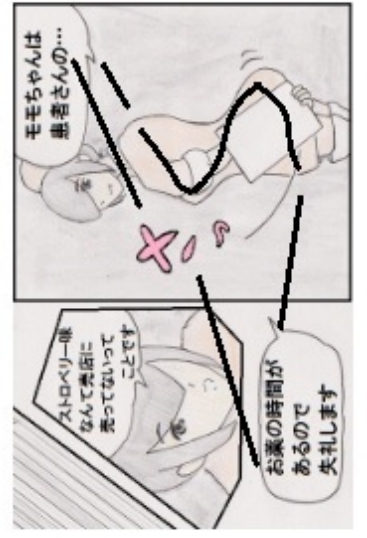
フリックすることの演出、詐術がある。

まずは図を見てほしい。

ルールラーニングストーリー
 16頁と17頁を合成
 色づけペン入れ前



スライドのページ切り替え
 によって視線の角度が
 ナチュラルに変わっている
 いい目くらましになっている



上のコマは女体の魅力を表すS字に
 視線をなぞらなくても
 ショートカットで最短ルートでも
 フキダシへ行ける
 左図の製版バージョンの
 オノマトペ「さっ」がそれを促す

「ゲームセンターロックマン」を「さっ」で
 「田」の「み」を「さ」に置き換えて「さっ」
 なんて「んな夏田房之介さんみたいなの」
 しないといけないのだから??

「ルールラーニングストーリー」17頁のモモちゃんは片目しか描かれていない。安彦さんと同

じことをしているが、演出効果が違う。ダイヤログドラマのヤマとしてガンビームとガンビームがぶつかり合うものとは違う。

どうやら片目の方が強く視線をもっていきたい方向に促す作用がある気がする。対して数学者は藤本キャラみたいな目になっているが、これはヒョウタンつぎが出てきたようなものと理解されたい。誰とは言わないけど、背中を踏まれて靴底の跡がつくマンガ表現を、大友マンガが登場後の80年代に描いて、皆の笑いを誘った。

誰とは言わないけど、笑っちゃうよね。

たとえの話だけど、リアルな視線劇とこうしたマンガ的なコミカルさが合わないのである。それが話がカミ合わないことのわかりやすさを提供しているはず。（安彦良和への悪口ではない）

本来はモモちゃんという名前の通り、ピンクなモノを運んでくる人物である。そのピンクとは、何なのか、「それはちょっと言えない」のだけど。（ヒントは与助に「私の***が走っていた」と言われている）

モモちゃんがシリアスなドラマを裏打ちする役目を負って登場するための客演である。

お笑い芸人がシリアスドラマに出てくると、何故か話がしまって見えるような、効果を狙った。（主に殺人犯でないと狙った効果が出ないけどね）



『二人で少年漫画ばかり描いてきた』にある
イラストを元に事情説明

もういいか。ワードソフトのファイルで六ページも書いているので、また、今度。（四ページでおさめるつもりが六ページに増えた）

というわけで、無事「ゲームレビュー TRPGの民族誌（エスノグラフィ）『世界樹の迷宮』」が完成して電子書籍として、アップされたと思うので、下記リンクを辿って読んでもらいたい。（辿っても、ページが表示されなかった場合、完成しなかったというオチ）

今回のゲームレビューがなかなか完成しないのも、シャーロッキアンみたいなこと…というより、ゲームプランナーならわかること（ゲームプランニング）を知らない人に説明するのが難しい。

「夏目の目」みたいに、テレビ番組の小コーナーのような五分ぐらいのパッケージなら、「既存のレベルシステムに組み込まれたD&D系をガープシステムに換装した」と、わかったような気にさせることはできる。芸人のフリップ芸みたいに。

ただ、ちゃんと論述して組み立てていくのは難しいし、執筆期間が長くなるだろうなあとは、あらかじめ始める前から、ソフトを手に入れる以前に思っていた。（更新情報にもその点は書いているか？）

それからガープシステムの換装、これは「私も挑戦しました」と、自白しておかないといけない。その結果は才能の無い人間だから頓挫して当たり前だけど、それゆえに世界樹チームを評価しているし、「やっぱりプロになれる人間となれない人間って違うよね」と、再確認する。

問題は、デジタル・コロニアルの点であろう。

結局のところ、「ロ・トリロジー」の開発会社を世界樹チームに担当させることで、手打ち。

というのが私の考えた妙案だが、残念ながら「ロ・トリロジー」は永遠にプレイできない。

大島親子にもキャラクターデザインを発注できない。すぎ様にも音楽を発注できない。生前の淡路恵子さんに遊んでもらうこともできなかった。

ないないづくしである。

でも、それはゲーム業界が選んだことだ。

だから私には責任が無いので、淡路さん以外は、別に。

それにしても、酔狂なことをしていると自分でも自覚しているが、誰でもわかりきったことをわざわざ書くのは、骨が折れるだけで誰も得しない。

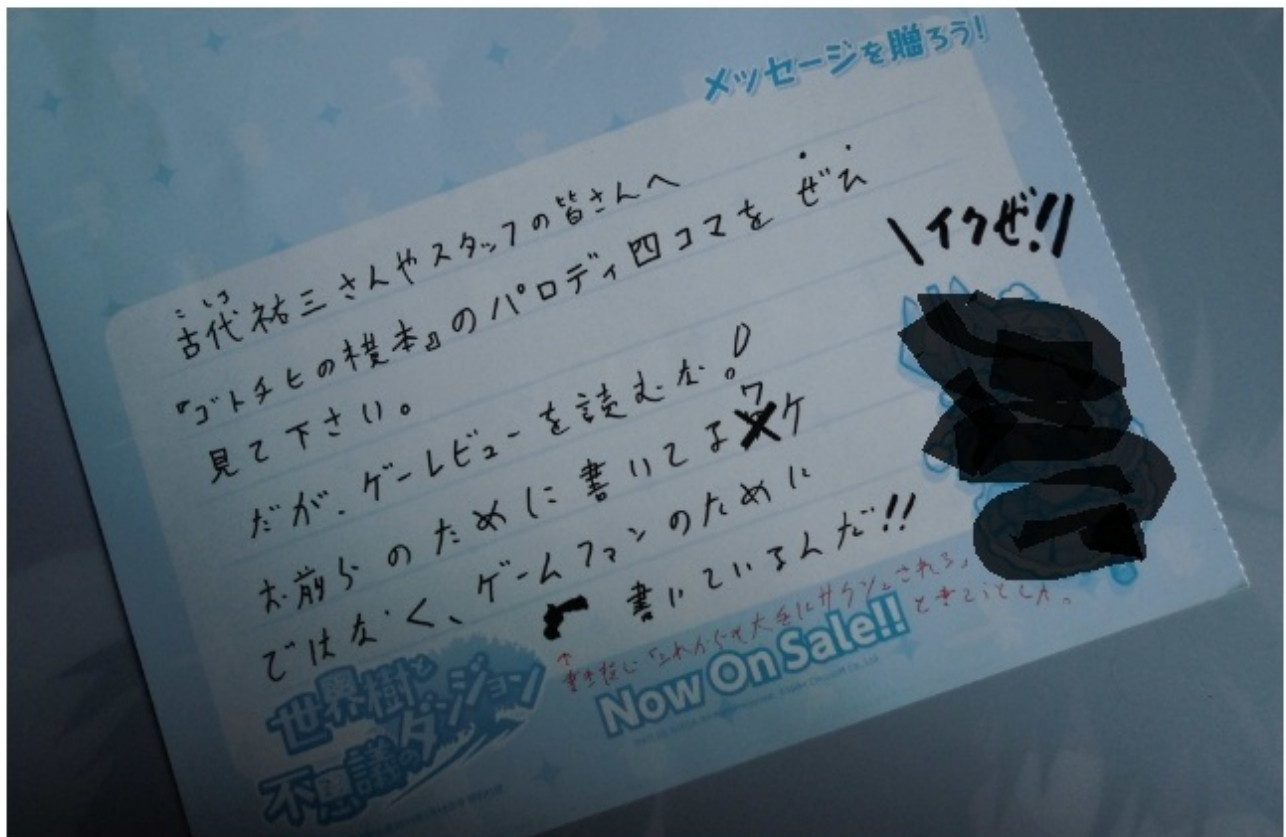
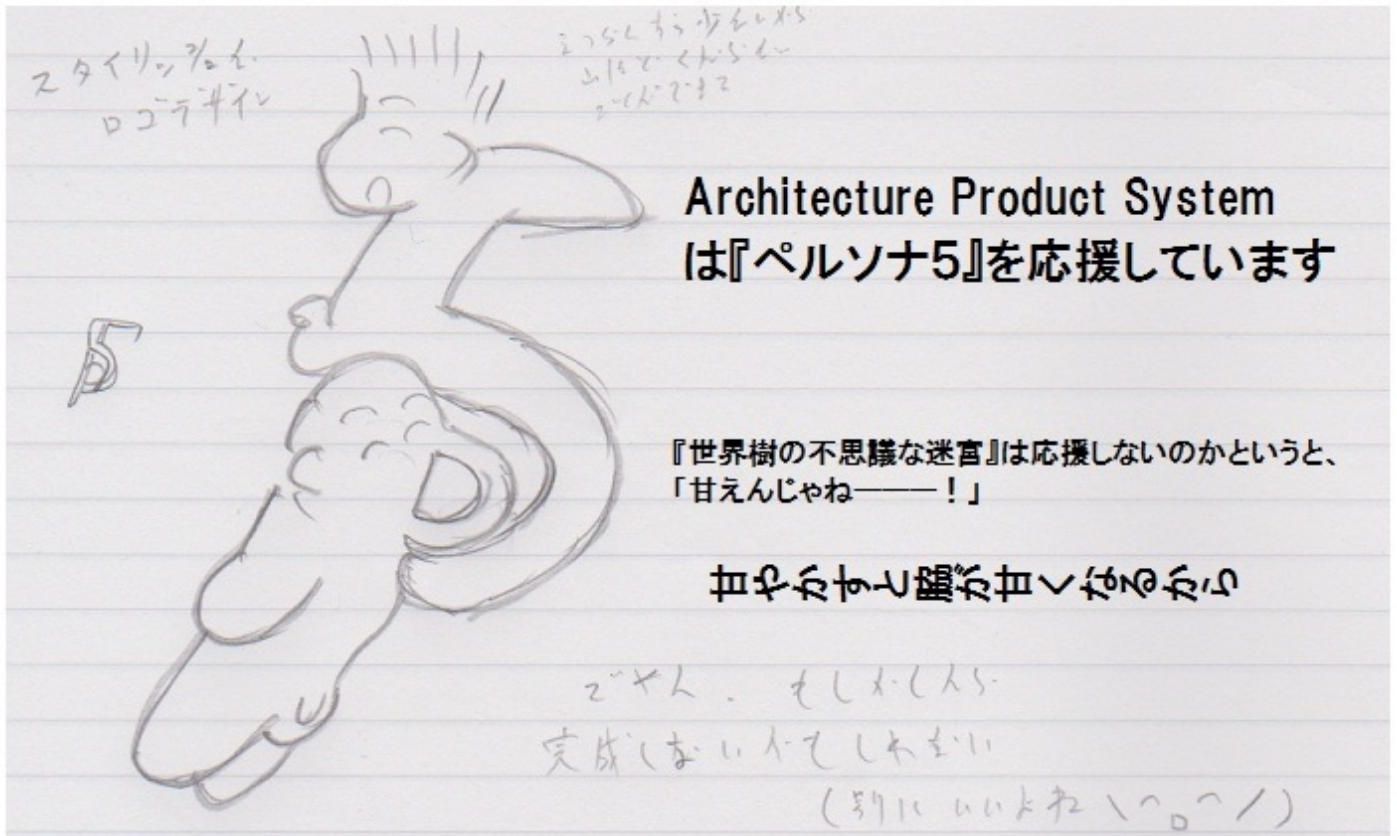
終わりに、世界樹チームを甘やかすとまた足元をすくわれるだろうから、心をアーテリンデさんにして、厳しくきつくあたることにした。（でもペルソナチームを甘やかしてクソゲーという魂胆は見え隠れ）

ブックリンク

ゲームレビュー TRPGの民族誌『世界樹の迷宮』

動画リンク

音声メモ 『世界樹の迷宮』のゲームレビューで何を書くか？



黒塗りにしたのは著作権侵害にならないため
世界樹チームは苦情を訴えないし、訴えなくていい

たまたま最近、アニメの『BECK』を見て『まんが道』も読み返すと、キャラクター配置やそのキャラクターとのエピソードが似ていた。イザベラの目がパッチリしているのは、『覚悟のスズメ』の堀江さんの目がパッチリしているからというぐらい似ている。

さすがにそのまま出ているということはない。

才野茂の「才能ある人」と「友情を育む親友」は分割されていて、「才能ある人」は竜介、「友情を育む親友」はサクが担当している。このぐらいのアレンジはされている。

アレンジされているとは言え兵藤と肩にチェ・ゲバラの刺青を中学生で入れている力也くんは、武藤と牙沢くんの話にそっくり。ダイニング・ブリードの曲を聴いてコユキが衝撃を受けるように、手塚の『新宝島』を読んだ足塚コンビが衝撃を受けたことをオマージュしている。ダイニング・ブリードのエディが手塚にあたるのだろう。

「また確実でない、勝手なことをコイツは抜かしてやがる。ゴトチヒがまたホラを吹いている。愛くんはちゃんと起きようとしているよ！」

と、今読者であるあなたは思っているはずだが、今回はちゃあ〜んと裏づけがある。

ハロルド作石は、藤子不二雄フォロワーであることをマンガに描いている。ちゃんと答えを描いている。作中マンガの『ハッピー三国志』の作者・クリスティ作石が、実は二人のマンガ家の合作ペンネームだとサイン会で判明する。その二人が藤本・安孫子の似顔絵である。つまり、女子高生が三国時代にタイムスリップしているのも、そもそもドラえもんがタイムスリップしてやってくるこの意味があったのだ。

だから、今『RIN』で21世紀の『まんが道』を描いているのは、必然なのだろう。

安孫子さんのマンガから、後の多くのマンガ家が影響を受けたのは疑いないのだが、藤本さん自身も隣にずっと併走していた安孫子さんのマンガから影響を受けているようなのである。

藤子フォーマット、わかりやすくいえばのび太がいて静ちゃんスネ夫とジャイアンという人物配置のグループのところに、ドラえもんやオバQやハットリ君が来る、梶田省治も著作で応用した方がいいと言っていたフォーマットがある。（『妖怪ウォッチ』で収穫されている）

この藤子フォーマットの起源は、普通に先入観を持っていたら藤本発だと思ってしまう。ドラえもんの知名度があるため、そういう予断をもってしまいが、しかし、『まんが道』を読むと短編「小さな拳銃王」でリトルくんはピストルがうまいのび太でリリーちゃん（『愛...知りそめし頃に...』の上海ローズのリリーと同じ名前）がしずちゃん、スネ夫とジャイアンの原形にあたる人物も出てくる。

彼らのグループに異物だが、とても能力が高い、魔法のようなことができる闖入者でもありながら愛すべき存在がやってくる…このドラえもんなどの起源は、寺田ヒロオの『スポーツマン金太郎』でおとぎの国から東京へ野球をしにやってくる金太郎くん。22世紀の未来やオバケの惑星や忍者の里から特異なキャラクターがやってくるのは、彼を模しているようなのだ。

まだ資料をそろえて深く検証していないけれど、トキワ荘グループがアーカムハウスのシェアードノベルのように、アイデアをシェアしあっているようだ。劇画においては、花形満のような

髪型（劇画が流行っていた頃を表す「示準化石」）をした人たちが出てくるようなもの。

実際のところは判明していないけど、藤本安孫子の両名が帰郷してスランプに陥って原稿を落とした後、テラさんが出版社の方に裏でかけあって二人に仕事ができるようにしたんじゃないかと、私は思っている。だが裏づけは取れていない。退職した編集者たちは当時のことを結構インタビューに答えているけど、そういう話はでてきてないようだ。

出身地が近いかもしれないけど、テラさんの気持ちがわかる。

そして、藤本安孫子両名にとってドラえもんは、テラさんだった可能性もある。お金も無いのに借金の工面をしてくれたり、ドラ焼きが好きみたいにチューダーやキャベツを食べていたり、そういえば思い当たることがいろいろある。

それでテラさんは少年マンガ、楽しい児童のためのマンガを支えていたのに、少年誌からリストラされてしまう。今、出版社っていろいろ言われているけど、昔からそんな変わっていなかったのでは？ 不況で変質してしまっただけでブラック企業に転生したような感が私の出版社観にあったけど、元から『漫画家残酷物語』だったのだ。

ここから、マンガ評論家として一応、指摘しておかなければいけないことを書く。

夏目さんが「マンガ夜話」で指摘した『ジャングル大帝』の連載終了時に雑誌に載った最終コマが、単行本収録時のモノになっているように、安孫子さんの印象や歴史化で語っている部分がある。

だから、先の藤子フォーマットは自分発であるという意図せぬプロパガンダになっている。

『新宝島』を「まるで映画のようだった」というのは印象に過ぎず、近年のマンガ研究では戦前にすでに「まるで映画のようなマンガ」は結構あることが知られている（恐竜研究が進んで小型恐竜が結構いることが一般に広く普及していないようなもの）。

当時の高岡だけでなく、戦後地方では戦前のマンガが売られていなかったために、手塚マンガが超新星のように急に現れたような印象をマンガ少年たちが持ち、それはトキワ荘グループには共通している。

伊藤剛さんも指摘しているように、手塚マンガの高評価がひいては手塚フォロワーであるトキワ荘グループの高評価に敷衍されるため、手塚賛辞をおしまないということである。ただ、手塚は賛辞されてもおかしくない存在であることは、誰もが認めるところだ。

それでも手塚の自己申告を真に受けるマンガ研究者はいないように、トキワ荘グループも「歴史資料」を洗ってみたら、彼らの自己申告も真に受けることができないかもしれない。

今までの話を覆すようで悪いが、つまり「小さな拳銃王」は安孫子氏の自己申告に過ぎない可能性がある。（←これが言いたかった）

三宅先生みたいに、「お亡くなりになって」もらわないと、表立って批判が言いえないのだけだね。

他にも小ネタで、手塚母の似顔絵が手塚真にそっくりとか、去年観た海外ドキュメンタリーによると、シェイクスピアはオックスフォード卿の筆名説があって、『七人のシェイクスピア』ではそこまでやりたかったんだろうなあ、と思った。

ゲーラボの二月号を読んで一番衝撃だったのは、帽子を被った人を描く場合、帽子の内側の髪型も下書きでちゃんと描いておくというものだった。今まで一度も帽子の内側の髪型を描いたことが無い。ナースキャップを被っていないモモちゃんは、帰りの私服のラフ絵を描いただけだ。年齢三十を越えても、気づかなかった。下ネタを言えるが、それはあえて言わない。

それで、ゲーム音楽の連載をしている岩崎佑之助さんの『ゲーム音楽史』を読んでみたが、まずゲーム関連の書籍として、良作である。そうでなければ、今の時代に本が出版されない。

ゲーム音楽史の全体を語るから、個別に深くは紙幅を取れない。

『サガ・フロンティア2』では、浜渦さんがライトモチーフを設定して、旋法を変えていくつもの曲を作るのは、映画ではよくある。名画『スティング』のテーマ曲がいろいろなシーンにアレンジされてかかるのが有名だろう。「これは明るい楽しいコンゲーム・ムービーですよ」とナレーションしているが、このようなライトモチーフを繰り返す作曲は『FF5』あたりで植松さんがやっていたから、この人はとてもホメられないけど（『しあわせのそねみ』に答えが書いてある）、浜渦さんの場合は全体の統一感を得るためにやっている。『サガ・フロンティア2』は終始一人のキャラクターでプレイされるわけではなく、歴史の中で複数の主人公たちをプレイさせるのをプレイヤーに強いるから、一本の歴史であるという統一感を与えるために、ライトモチーフのアレンジ曲を複数かけることになる。（「ローゼンクランツ」は名曲です）

『忍者ハットリくん』のテーマ曲と「天国と地獄」が繋がるのを指摘しているのだから、『王様物語』での「天国と地獄」のアレンジ曲には何も記すことは無いのか、少し不満がある。ついでに『時のオカリナ』の迷いの森でやっている音響演出は『MOON』の方が先（花屋に近づけば近づくほど音楽のボリュームが上がる）で、フィールド音楽の演出はこれをかなり洗練されたカタチにしたものじゃないか？ とは思うが。（作者は多分、ラブデリック系統をプレイしていないと思う。それにゲーム音楽を作っているというより、音楽の多様性を認めることがひいてはゲームの多様性を認める、ラブデリック系統の思想性は、ゲーム音楽史には必要ないのだろう）

それにしても、直接ゲーム音楽家にインタビューできる立場はいいなあ。

うらやましいなあ。

悪口を言えなくなるけど。

古代祐三さん（古代は「こしろ」と読む）がすごいことはすごいが、『アクトレイザー』を作ったクインテッドのプログラマーはもっとすごいんじゃないか？ と、インタビューした人を立てない発言をできなくなる。（本当の記述は“古代さんがすごいんじゃないかと、プログラマーがすごいんじゃないか”というものだったが、誰が告げ口するかわからないので表現を和らげておいたが「誰にも告げ口するんじゃないぞ」）

あのインタビューは、作曲家版『ゲームの話しよう』になる。似たような話をしているが、読み下せる人がいない。

音楽に限らず、あるジャンルには事前に知っておかなければならないことが多く、メジャースポーツなら競技人口も多く名選手もいて代名詞といえあの人と誰でもいえる浸透拡散が広がっていれば、さほど苦労はしない。

しかし、音楽は専門的なことを少しでも話そうとすると、またたとえが野球で申し訳ないが「

ストレートとカーブの投球フォームの見分けがつかない」などは理解できると思うが、非同時に音を出して和音のように聞こえる「分解和音」などは「聞き分けがつかない」。

ゲーム音楽だと、さらに電子的処理として、情報学が加わる。作曲家本来の腕もさることながら、サウンドコンポーサーとしての腕も必要なのである。基礎的な音楽教育を受けていれば、歴史的には弦楽器の調弦などで同じ局面に過去の人たちは出会っていることを知っている。同時に八音（音響に二音とられるけど）しか鳴らない楽器ひとつで作曲することは、原始的な調律法しか確立していない時期の音楽家の仕事と一致する。

あまり、意見の違いを語ってもしようがないと思うが、音楽の観点と音響演出の観点だと、同じ場所で観測しているようでも、角度がずいぶんズレている。こっちはノラン・ブッシュネルは優れたサウンドデザイナーだったと思っているけど、そっちではズレた感覚だと思われる。

さらに音楽史という長射程、高々30年ちょっとぐらいかもしれないけど、その目標までの射程が長くなればなるほど、一度の角度が大きな差になってしまう。

気を取り直して、ガンダムゲーム特集を読むと、『ギレンの野望』がガンダムゲームのエポックだったのは自分の中でしかない、ゲーム史なのだろうなあと思った。90年代に大容量化とハード性能の向上で名詞表現が可能になったとするのは、私の個人的ゲーム史観にすぎないのだろうなあ。（これもズレた感覚だ）

『ギレン』は『信長の野望』という先行作の、「信長」の部分に「ギレン」を代入すれば、面白いゲームができることは、ある程度担保されるのだが、それはまた「戦国時代の日ノ本」に「宇宙世紀の地球圏」を代入しなくてはならない。これは容量的に80年代では無理があった。

そう。

80年代に「信長」の名詞を表現しようとした光荣は、かなり無理していた。

見た目でもわかる無理が、ファミコンカセット内に複数のロムを搭載して通常よりも大きいカセットを作って『信長の野望 全国版』を売っていたのにはじまる。信長の名詞を表現するためには、戦国時代をシミュレートせざるをえず、そのために内政や合戦をやるためには、まだファミコンは容量が足りなかった。

シブサワ・コウが趣味で作った「川中島の合戦」だけなら、無理せずなんとかかなったかもしれない。

合戦と言えばPS2の時代でも『決戦』『決戦2』で群集A1という、無理をして作っていた。（群体A1は『ガンパレードマーチ』の孤高独自システムでどこも真似して作れない）

これが無双シリーズの雑魚たちのプログラム処理に繋がるので、無理して造ってよかったのである。

80年代のガンダムゲームは、ガンダムという名詞を表現するつもりがはなっからなかったのか、サジを投げているのか、それともサイを投げたのか「サイコガンダムはサイコロガンダムだ」と子供が喜ぶサービスになってしまったのか、『ホットスクランブル』のような、無理なシューティングを作ってしまう。よく言えば、ヤンチャが出来た。悪く言えば（名詞どころかちゃんと動詞を表現する気もない）原作破壊の時代であった。

話が繋がるが『ゲーム音楽史』を読むと、無理してる。ゲーム音楽の作曲家たちは、みんな無理してる。場合によっては、プログラムを組む人が独自のサウンドプログラムを作ってくれるよ

うな（提供された開発環境では満足できない）、無理をしている。

『ゲーム音楽史』の細かいことを言うと、ZUNさんはタイトーの社員だったから、アマチュアではない。TYPE-MOONの武内さんも元コンパイラだから、どちらも今の言葉で言えば、「プロの犯行」だった。

『マザー』の擬似エコーは「ほぼ日」でも語られているから、有名であえて書かなかった（読み返したらちゃんと触れているんじゃないか？）ののだろうか？ 音楽が占めるメモリ量が多いから、プログラムとグラフィックに少ない配分にしてもらうために、糸井重里自らプログラマーとデザイナーに手紙を書いて「ごめんね」と謝ったエピソードなど、ゲーム音楽史に「これはさすがに必要」だと思うが。

そんな私は「プライム・ミニマル・ミュージック」（こういうのを作るからシェーンベルクが大好き）というDTMがあれば誰でも作曲できる作曲法を編み出したけど、ひろかっちゃんの会社に入社するために見せたのに、入社できなかった。素数的帰納法による作曲方法は、音楽家が社長をしている会社には、まったく評価されるものではなかったのだ。

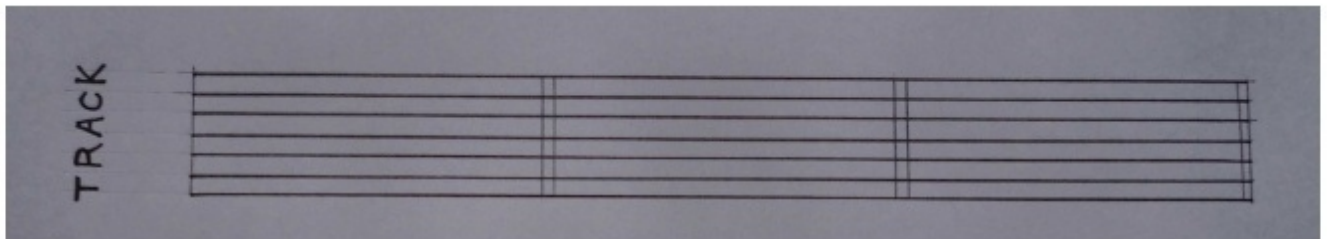
何も無いオープンワールドで、どこに行けばいいかわからないけど、「ヴァルハラ宮殿」と「全ての人の魂の唄」が同時に聞こえる方に向かっていくシーンがある。どうしても会わせたい人がいるから、ずっと会いたかったその人に会わせるために曲をかけている。どちらの曲をかけるか迷ったら、ポリフォニー演出でどっちもかけるといふ、これも評価されない。

作曲家が社長しているところに入社できなかった人材の音響演出が優れているはずがない。単なるひとりよがりだったのである。

バンナムにも入社できなかったから、この評価は裏付けられて、正しいのだろう。

『ホットスクランブル』をちゃんと遊べるように、リファインしたかった。

まるで遠藤雅伸さんのゲームはちゃんと遊べないものがあるかのような話をしているが、たまにある。



**六線譜は中世時代ならけっこうある
それは1オクターブに治まる楽器しか無かったら
鍵盤楽器の発達で4・5オクターブの範囲の音の高さを出せるようになって
五線譜にして大譜表(基本上が右手で下が左手)にしてかなりの
音の高さの範囲を楽譜におさめることを可能にした**

これは第五巻のネタだから、別に触れなくていいと思うけど、システムサコムのゲーム音楽を一時担当された斎藤学（マーサ斎藤）の曲を使用する。もちろん『応援団』方式で、ジャスラックに許諾使用の契約をして使うんだけど、ゲーム音楽のヴァルハラというより、音楽は全て作曲家という「英雄」が奏でるヴァルハラに空間を作用させて変えろとか、個人的考察は出来るけど、たいして意味無いからな。才能が無いから、マキタスポーツの“カノンドーピング”を山ほど打って作曲しているように、プロコムパルムの「青い影」の曲に「花」の歌詞をつけて唄わせる魔編曲もする。永遠に聞けないが。

まるで、本書のシリーズが張った伏線を回収するように、
「佐藤まさあきかよ」

な岡田斗司夫のスマートノートが流出していることが、わかった。
デスブログ・エフェクトである。

私の内面は「それみたことかっ！」と「（竹中直人の笑いながら怒る人みたいに）やめてくれないかな、そういうの」、二つの気持ちが半々ずつだ。本音はネットスラングだから使いたくないけど「ザマァ」だ。

岡田にまったく共感や同情はない。

それから、「脱洗脳塾、開校！」で洗脳力を高める手段を開示することが自分自身の洗脳力を高めることだと、それにかからめとられている社員たちに「目を覚ませ！」と書評のカタチで書いているのに、気づかなかった大馬鹿者にも同情の余地は無い。

こういうことをしても、洗脳が解くことができないダメな人たちには、スキャンダルという馬鹿でもわかる手段でないと、目が覚めなかつただろう。私が「脱洗脳を解くことができない」まったく天才でもない存在たちだとよくわかったよ。『ドラゴン桜』の主人公の弁護士が「バカなヤツほど東大に行け」と言っていたが、「バカなヤツほどFREEexに行け」ということだったのだろうか。そういえば、一時社員だった堀江貴文も東大出身だ。

女子禁制であるし、下世話なたとえをしてもうしわけないが、FREEexとは「フリーセックス」を縮めたものだったのだと。グル岡田のドグマがあってシスターズたちがいる、中身がオウムシステムの表面を偽装されたFREEexに、毎月一万円払って運営させていた人たちを脱洗脳させられなかった自分の才の無さにうちのめさせられるよ。ジャン＝フランソワ・リオタールが近代主義批判で、「大きな物語は死んだ」と批判したように、こちらは反洗脳力としての反オウムシステムの立場を取っていたワケだ。開かれた自由市場が、隠された植民地主義だったりするから、自由洗脳には胡散臭いものをずっと嗅ぎ付けていた。

だいたいそういう組織はシスターズがグルからイニシエーションを受けているだろう。そのシスターズがいるから、脱洗脳できなかつたというなら、救いが無いね。オウムシステムを築いている組織にシスターズがいるから、脱洗脳のための説得が通じないなんて、馬鹿馬鹿しくて肩をすくめるよ。

話は変わるけど、あるアイドルグループも、グルからイニシエーションを受けていると、疑った方がいい。「グルの言っていることは、全て正しい」なんて、カルト教団の信者そのものみたいな発言を自発的にアイドルが言うなんて、おかしいだろう。

くだんの愛人手帳を流出させた人物にくらたまが取材して、『だめんずうお〜か〜II』をマンガに描いてもらった方がいいね。いわゆる多頭飼いのだめんずであったと発覚したのだから、いいネタになる。それにガイナックスを辞めたのも、いしかわじゅん先生が「知らないということにしておく」の内容は、実は不倫問題が引責解任につながったらしいので、つまり常習犯である

内田樹に、なんて顔向けするのだろう。

というか、内田樹はこんなヤツと対談するべきだったのか？

フランスの知識人と同じようなことをするべきじゃなく「人を見て法を説け」とするべきだったのだ。

このように振り替えてみると、岡田は笹井さんの立場にあったのではないかな？ だからSTAP問題の頃はおかしかった。

SFをかじって「と学会」にも一時所属していたのに、科学論文は追試して再現性が得られなければ、紙にインクのしみがついていてモノにすぎないのだけど、オボちゃん擁護とも受け取れることを書いていた。つまり、ナウシカ幻想を持ったニッポンをダメにした人たちの側に属する。

『風立ちぬ』を評価するのも、自分の中のオデュッセウス・コンプレックスに向き合っていない。

「お前はオタキングではない。今日からオデュコン岡田だ」

と、有吉くんのように、アダ名をつける。

まっ、このアダ名は自分の中でも売れ筋から外れる。

あの映画観ても、そういう風には受け取れない。（認知はしない）

今回の件の経緯としては、ニコニコ動画のプロマガ「ニコ生では言えない話」で、「小説家になるには編集者と仲良くなった方がいいのですか？（だいたいの内容）」という相談に、「小説の新人賞に小説を送って賞を取れ」と答えていたはずだ。（他にも「男の子は点数をつける生き物なのです」というマチズモジェンダー丸出しの答えを出して、微苦笑を誘います）

『セカイ系とは何か』の前島クンにも、詳しくは知らないが、似たようなことをしていたらしい。

自分は「編集者を紹介してあげるから、キミもボクの愛人になって小説家にしてあげよう」とプライベートなのか、どこかで言っていたら、「言ってることとやってること、違うじゃん」となる。ああ、これはブーメランだな。岡田が言ったことが自分自身に返ってくるように、私が発言したことは私自身に返ってくる。葦原大介さんがインフルで連載を落として、「インフルで倒れたことを悪く言う」のがブーメランとして返ってくる。（『まんが道』を読めば、どれだけ迷惑をかけることになるか…テラさんに叱ってもらえ！）

それはしょうがない。逆にブーメランとして返ってこない方が、不健全だ。

そのときは炎上に便乗させてもらう。

よく燃える燃料投下用に岡田の著作のいくつかを投げよう。

ボダン大司教ごっこがまたできる。

話を戻すと、私は『パラレルリアリズム』で、似たような出来事を女性の主人公にさせた。それはフィクションだったのだが、実態はまったくリアリティーの無い出来事ではなく「これはフィクションではない。もう一つの現実だ！」ということだったのだろう。もしかしたら、文藝賞の下読みの人間に出版業界の戯画が描かれていると誤読されて、それで落とされたかもしれない。（穿ちすぎ）

そんな誤読よりも、もっと恐ろしいことが書かれているのだが。

どこかで岡田は「時代劇の代打屋」、時代劇のアイデア出しをしていたと言っていたが、もしかしたら『御家人斬九郎』でもやっていたかもしれない。すると『斬』の評価も下がる。岡田がアイデア出しして、それが『斬』が採用していたら、『斬』の評価が半分になってしまう。残念である。杏ちゃんのお父さんが、娘に恨まれちゃうことをするのも、頷ける。（杏ちゃんには幸せになってほしいけど、宮沢リエにも同じことを言ったら、デスブログ・エフェクトで大変なことになってしまった）

だから、その点はもう、公表しないように。

『御家人斬九郎』のスタッフは、事実ありのままを口外しないように、気をつけてほしい。「私がそのアイデアを出しました」と、経営者が同業他社にマネされないように欺瞞工作発言するように、心がけてほしい。社長権限でないとできないことだと、他社の社員に思い込みを植え付けるだけで、発言の意味がある。

あとは、ゴーストライティングの問題だ。

「ま、金ならあるし」「未来日記」で、リバウンドしたために自分の書いた本である『いつまでもデブと思うなよ』を読み返して、「この人言っていること無茶苦茶だ」という感想を連載に載せてしまった。面白いことに、指を刺して「こ・こ・がっ」面白いことに、と学会でとりあげたときに「トンデモ物件」として扱った点と、ほとんど同じ部分を「無茶苦茶」だと岡田は書いていた。

これは百田尚樹が、たかじん本を手伝ったはずなのに、たかじんの歌を作詞した作詞家の存在を知らなかったとボロを出したようなものだ。

“この人”というのは、自分ではない。おそらく出版プロデューサーである人物だ。この人物が岡田の話しを起こして本を書いたのだろう。そのため、「アイデアには著作権がある」と、本当は『いつまでもデブと思うなよ』を実質的に書いたのは自分であると、本音を語りたかったのだろう。

岡田は慌てて、続きを書くのをやめている。

「書いたことをキレイさっぱり忘れてました」という、言い逃れも可能だったと思う。それをしなかったのは、やればやるほどドツポにはまると判断したと思われる。

まあ、いろいろ事情はわからないが、推察は女性問題だと思うが、週アスの連載も終了してしまった。（完全電子化で金が足りなくなってる可能性があるから皆週アスを毎週買おう）

さて、自分の尻ぬぐいもしておこう。

アニメのプロデューサーとして、岡田を起用すると言ったのは、

「妄想だから」

と、便利に使ってみる。“妄想”とはマジックワードなのだ。

妄想と言っても、立場があって責任が発生すると言えない。

私が歌手を選べるような音楽プロデューサーの立場にもしあったら、無責任な妄想発言はできない。「『 』（空欄のままにしておかないと、角が立つ。all time the best songのことじゃないよ）は花澤香菜より茅原実里だよな」と、うっかり本音を言っていたら、それは怒られる。何かの拍子で会うことはないのだし、この件については「立場上責任が無い」。

お医者さんは診断のために異性患者の裸を見てもいいが、診断している以上誤診が無いようにしないとイケない。そうした責任が発生しているのだから、性的な悪戯は論外だし、カルテにイタズラ書きもしてはいけない。その患者をバカにしたようなことが書かれているカルテが発覚したということだ。

つまり、後で花澤を起用すると書いていたのは「誤診でした」とバツゲームを受けなくちゃならないかもしれない。

「パン屋の話」までしていいかな？

トモ☆ちゃん（トモ☆ヒロさんのことだが、勝手に年長者にこんな愛称をつけていいのか？いいのである。ここは女子禁制で本人は読めない。読んでいたら「それはルール破りだ」と佐藤優ごっこができる）も読んでいる「かながたり」を鑑みると、パン屋を始めるのがいい。お母さんを売り子にして、調理師のお父さんが創作調理パンを作って店で売る。かなでいあ〜んファミリーのカタチに象った形パンを売ったり、カリフォルニアロールパンを作って、売ったりするパン屋を構えるのである。なんだか椎名林檎の妄想する飲み屋（自分がオーナーママ兼歌手）みたいだが、杉浦茂のマンガにあったように「商売の元手をやろう」と、バツゲームに回転資金を払わなくちゃならない。

私には、責任のないことだから、こんなくだらないことを書けるが、責任が発生する立場や場所ではいけない。

そもそもアニメプロデューサーは本物のスポンサーに顔が効くプロデューサーでないとダメだ。それでも、スポンサーがアニメ造りに出資して回収できると判断することは無いだろう。アニメーションとして観られれば、それはいいけど、これもまた「ありえない未来の思い出」なのだ。

実現することは無い。

たしかに、おカネを払ってくれるスポンサーさえつけば、アニメ化は実現するけど、「そんなうまい話あるワケねえだろ」と。実現しないとわかっているからできる「遊び」である。「実現不可」というルールが設定されているから、戯れか。

そもそもクオリティーに関してとやかく言うプロデューサーが必要ではなく、おカネを払ってくれるステークホルダー（利害関係者）としての真っ当なプロデューサーが必要なのだ。

岡田をプロデューサーにしたなら、制作進行の子まで手を出して、領かなかつたら『ときメモ』じゃないが変な噂を流すのだろう？

困るよ、それは。

それじゃ、現場が駄目（『プル天』）になるから、事情を知っている業界人たちはプロデューサーの仕事を振らないようにしていた、というのが不文律、暗黙の了解であったろう。

早く教えろよ、そういうことは！

いくらでも、変な噂流してもいいことになってしまう。

これからはちゃんと岡田をアニメ作りに参加させると、女性スタッフに手を出して製作が滞って駄目ということ、業界内だけでなく、業界外でもわかるように噂を流さないといけない。変な噂を流すのなら、変な噂を流されてもかまわないということだろう。それとも、佐藤優のよう

に勝手にルールを作るのか？

最後にどうしても、書いておかなければならないことがある。

「（声色を変えて）多根清史、次はお前だ！ それからスクウェア・エニックス、もうカンニングすんなよ」

どうして私があやしいと思った人は、こうなるのだろう。

「やったあ。いしかわじゅん先生よりも、先を越したあ」

と、まるで「詩織を倒した」と喜ぶ子供のようにしゃぐ私はいいのだろうか？ 大城さとしの『おばあタイムス』をマンガ評連載で取り上げたのだが、私の方が先にとりあげていた（「日記 大城と言えば」を読み返そう）。これで紙の単行本にならないと、週刊誌のマンガ評に載らないというのは、ホントだとわかっただろう。

掲載誌おきなわタイムスが報道する米軍基地移設先問題は気になるが、『おばあタイムス』を読めば、気にしても仕方ないと、うちなーな気持ちになる。

そして、いしかわじゅん先生自身も新聞4コマ漫画を、毎日新聞で連載するようなのだ。

めでたい。

いや？ めでたいか？

いしいひさいちの悪口を言っていたような気も、記憶もあるような、ないような。

ブーメランでかえってきそうで、ちょっと心配でもある。

別な話をしよう。

いしかわさんのマンガ評第四弾が出る。

めでたい。

これはめでたい。

『漫画の時間』『本棚』『ノート』はどれも好きだけど、ここである新聞四コママンガを悪く描いていると、ブーメランで…違う、違う。

これじゃない。

そんな話じゃない。

今月の「かながたり」で真壁刀義とからんだ話をしていない。観るつもり無かったのに、チャンネル回ししたら、観えちゃったんだよ。「出演するらしいよ」と噂で聞いて、ともかくこの記述があるおかげで、日付が無くてもいつ頃書いたかわかる。

どうでもいいじゃないか、そんなこと。

S Dガンダムがリアルモードになるのは、反射神経的にタイトルは出なかったのだけど『超力ロボ ガラット』だ。子供の頃、好きなアニメだったよ。再放送が一回あったか…そのぐらいの人気だから、後は推して知るべし。

『ガンダムビルドファイターズトライ』は80年代ロボットアニメが参照されていて、それは『G-レコ』も、何故かそうなのである。80年代期の富野アニメ、『サブングル』『ダンバイン』『エルガイム』から、デザインが抽出されているからだけど、謎の偶然の一致である。（2014年の前半に80年代ロボットアニメのムック本が出て、それが影響しているらしい）

日記のタイトルを読み返したら「新聞4コママンガ」とある。

まあ、それはいいじゃないか。

ネタ クソ少女マンガ夢子のネタ

ゆめ子の3-7-12

『夢子』は原作者と作画者に分かれており
現在、著作者がどちらかであるか、
裁判で争われている

松苗あけみの瞳の描き方みたいに
点描だがシャープペンを
振動連打して描いただけ

『夢子』の第一話、第一頁は
裸の美少年二人がベッドで
抱き合っているシーンからはじまる

『夢子』のマンガが他のマンガからの構図を
トレースしていた問題でホームページに
寄せられたメッセージは、実は原作者が
ハンドルネームmisakiと名を変えて
自己弁護したことが発覚する

全部、だいたい実話です。

キャンディ・キャンディ
風と樹の唄
ユキちゃんのバスケマンガ

男性向けに胸を増量

(本当にクソ少女マンガみたいなネタをしてどうする！
女子禁制という名目作りだから良いのだ)

↓少女マンガ誌だとこういうスペースに広告をとる

広告

火曜JUNK 爆笑問題の深夜カウボーイ

ポットキャストでダイジェスト版が聴けるぞ！

TBSラジオ 954

「JUNK」で検索だあああ！

伊集院のラジオは卒業しちゃったけど、爆問はいくつになっても面白いね
(ペプシみたいな比較広告)

ネガティブなことを書くのは避けてきた

『ガンダムビルトファイターズトライ』のトライオン3は、タカラのリソース（資源）をちょっと奪っていいのか、そこのところは「どうなんだろう？」と疑問に思わないではないが、でも、脚本は黒田洋介先生である。

「許す、許す」

「なんでも許しちゃう」

「許しちゃう。全部許しちゃう」

これをクズカゴがやったら、ボロクソに言う。

許す、許さないの話なら『ゆめりあ』はどうなんだ？ という話になってしまう。みずしなセンセ（最近髪を伸ばして元の髪型に戻した）がマンガで「どうやって企画説明したんだ？」という内容のゲームをアニメにしたのが元永監督と黒田洋介先生であ。

答えは「めくら判を押した」と思うが、勝手な想像をしてはいけない。

よく考えると、『ZZ』が終わったから、あの放送枠に勇者シリーズが入っているから、ロボットアニメ史としては正しい。つまりZZがスーパーロボット系統の勇者シリーズのロボの原型であり、「元に戻った」と言える。

だからトライオン3にたいして、何か言うのは、ある職業に従事している女性から商品を買った後、タバコを吸いながら「こんな仕事続けちゃダメだ」と説教する人と同じ。

さて、アニメ放映期間中は、ネガティブなことを書いたり、言ったりしない方がいいと思う。

だが、『冴えない彼女の育て方』は「マイフェア・レディ」の言語学者の傲慢が主人公に重なって、観ていられない。ロリータ・コンプレックスやナウシカ・コンプレックスなどの性的嗜好の内、受け手のピグマリオン・コンプレックスを慰撫するのが、この作品だ。（『デート・ア・ライブ』は面白いから、時間が無いのについ読みふけっちゃうのは、仕方ないと思うけど）

これは、「終わった後に言おうよ」という話になるので、話を急に変えると、

リメイクした『Sa.Ga3』のシナリオは『シュタインズ・ゲート』みたいなことをして、見事に失敗しているだろ？ あんまりネット用語で使いたくないなあ、と思うけど「ザマア」である。（大手がニッチ所を収奪しようとするからこうなる）

『Sa.Ga2』のリメイクの方も、『ガンパレードマーチ』からなのか、連携とキャラクターの関係性を連動させて、ボス戦以外では連携させないプレイになってしまう。私の心の闇が「邪魔ジャン！」と、悪口言っている。

これも言っているのかな？ と疑問文になるのが『インベスターZ』で、堀江貴文に投資してもらうために、中川くんが北海道札幌までヒッチハイクするエピソードで、本当は財布を落としたわけじゃないのに、交番からお金を借りるシーンがある。

これ、弁護士さんとかに聞くと、八代さんあたりが「マズイです」と言われることをしていないか？ ニューヨークの通りでホットドッグ食いながら。できる国際弁護士のVTRを録りたいがための「やら…あくまでも演出である。

最近、マツコさんが「マツコ有吉の怒り新党」で話していたけど、今は簡単に貸してくれない

。知り合いに手当たり次第に連絡して、つかまった人に迎えにきてもらったらしいのだが、とすると、京大所属で東大生たちにツテがある中川くんは、彼らに連絡がついた時点で、この章はヒッチハイクの旅をしないで終了である。投資するよりも、株式分割でカネを儲ける手段をサッサと教える方が早いと思うのだが…その元手が必要か。

別にいいと思う。

マンガだからいいのでなく、フィクションだから、別にいい。

「大変なんだなあ」と思う。『月刊少女野崎くん』では、なにか犯罪くさいことをすると、投書で叱られる。そのため、少女マンガから不良キャラは駆逐された。

だから、中川くんがお金を国家からだましと…ウオッホン！ 気管支にSTAP細胞が急に入ってしまった。ゴホッ、ゴホ。助けてムーミントロール。弱酸で変化した細胞とES細胞と取り替えるみたいに。

最後に愚痴を言わせてもらいたい。

ラノベ原作の学園ハーレム系のアニメが同じ時期にいくつも放映されると、ワケがわからなくなる。『情熱と文字数』でも似た話題をしている（「オレ時間を無駄にしてる」と酷いこと言ってる）。

防波亭手寅を演じた山本希望ちゃん（「ラノベのヒロインかよ」てぐらい大飯食らい）が声をあてているキャラクターは、ドラゴンの生まれ変わりで前世はファフナー乗りで活動限界に達して敵に転生したと、複数のラノベ原作アニメの内容がごちゃまぜになってしまう。（話を盛っているよ）

うめさん（小沢さんの方）と鈴木みそ先生の対談本で話していたけど、「野球マンガが流行ったら、とりあえず誰にでも野球マンガを大量に作らせて、その中からヒット作が出ればいい」ように、大量にハーレムラノベを作らせてしまったせいで、こういうことが起きる。セントサイモンの悲劇が引き起こされてもおかしくないくらい、ジャンルの過当競争が起きている。

フランスから駄馬を輸入して、なんとかインブリードを回避した競走馬の歴史から見ると、そんなことより『〈インフィニテット・ストラトス〉2 ワールド・パーズ編』を観たら、質の問題だとわかった。バツサリ斬るけど、キャラクターの魅力とか、絶対値が足りない。『IS』がズバ抜けている。

これは弓弦イズルさんが、優れている。

それがそのまま出ていないか？

何か、『IS』だけ、違う。それはわからないけど、急に空から電波が降ってきてShadowという言葉が脳裏に浮かんだ。鈴は華龍だったのか。身に着けるISも甲龍だから、「そろそろ毒が効いてきたか」と、したり顔で、言い間違ってしまった。

菊池さんと弓弦さんが出会ったことで、質の高いアニメが出来て、同ジャンルの作品と頭が一つも二つも抜きん出たモノができてしまった。

そうではないと、内容が埋没してしまうという話だ。

「許す」と「褒める」のサンドウィッチにすれば、口当たりがいいと思うので、やってみたが、「皆さん、どう思いますか？」。それから、ウブカタさんに対して、悪口を言っているわけではないから。

いらないね。

「ドラクエ研究指針」はもう、いらないね。

今月号のゲームラボを見ると、「ドラクエ研究指針」はいらない。

ドラクエ特集、面白かった。

「アメトーク」でドラクエ芸人をやった以後に、ドラクエ特集記事を書くのは勇気がいる。そこは将棋特集をやった後、将棋好き芸人をやった「同盟」にあたるような関係性が番組と雑誌にあるから、OKだ。

清き多根をもつ史さん（第19巻紙ブログ）が「オトナげないアニメ」の連載を終わらせて、三ヶ月に一片ぐらいの特集記事を組ませているのは、正しい。多根本（下の小さい字を恐る恐る読もう）だ。

冗談で感想ハガキにいつも「面白くない記事」にしていたカイがあったというものだ。今回の感想ハガキにも、「面白くない記事」にドラクエ特集を挙げよう。

ただ、褒めるとキケンなんだよね。

危険がアブないんだよ。

デスブログだから、何があっても知らない。

基本的に多根さんの書いた記事、褒めないもの。

それを褒めるということは、デスブログエフェクトが出てほしいという期待が込められている。一応言っておくが、原田勝彦さんの事に触れたら交通事故に遭って死んだということは無い。

その話とは、関係ないが表現としては多根さんを「褒め殺し」である。昔、ハミ通の町内会、お習字のコーナーで皆殺しの剣を「褒め殺しの剣」と投稿されたのを思い出す。

オーキド博士はある劇団に所属していたから、英語はキングスイングリッシュの発音では？

急に趣旨とは違うことを書かれているが、それが「日記」というもの。

ものあわれ、である。

用法を間違った語句の使い方をしても、誰も指摘しないとわかっているので出来る。（用例採集されてしまわないか心配）

くだんの記事は、基本路線は堀井雄二を掘り下げた特集記事で、後はその周辺で『ダイの大冒険』の扉絵。

ゲーラボだからこうなって、右翼雑誌「WILL」の増刊の場合、すぎやまこういちことすぎ様を掘り下げると、ああなる。あのムックでもかなりドラクエのことがわかり、ドラクエを作る前は社員旅行で海外に行かないといけないとか、わかる。ただ、すぎ様がフジテレビを辞めざるをえない事情は、衛星放送の番組「HIT SONG MAKERS」で本人の語るところによると、会社に隠れて作曲家の仕事をしていたのがバレて、「社員に著作権料なんて払えるか」とフジテレビがケチリゴネて、それをJASRACが「いや払え」とケンカになり、その仲裁ではないが問題を起こした自責の念がすぎ様にはあるので、フジテレビをお辞めになったそう。

辞めて、ホント、よかったよ。

これからのドラクエの問題は「研究指針発表」でも触れた、堀井雄二の代わりは私でもできる（だから誰でもできる）が、すぎ様の代わりはいない。GSのようなポップミュージックとク

ラシックの調性音楽も両方できる人は、かなり限られていて、その中からすぎ様並のことができる人が、世の中にいるかね。商業音楽を手がけられる人はいくらでもいる。新垣さんみたいに調性音楽をできる人もいる。ただ両方、スポーツならクリケットとベースボールをどっちもできるような人は、まずいない。

すぎ様はどちらもできるから、素晴らしいというのを、話が変わるけど皆知っているのか？
なおかつゲーム好きで、代えがたい人物であることを、皆知らないだろう。

ちょっと、プロデューサーが飛ばされた話（と推測）は、ジャンプかなにかで、書かれた記事で『DQVII』のシナリオを一部バラして、堀井さんが怒って、盟友さくまあきらがハドソンに文句をつけるみたいにボイコットを宣言し、広報がやったことなのに、プロデューサーが飛んで、龍ちゃんがところてん式に入ってきた…憶測記事だから、本当のところはわからない。こんな玉突き人事があったかは、本人たちに聞いても教えてくれないだろう。

そこを調べぬくと言うのが、餓狼であるマスコミというもの。

ウィキペでもわかるが、堀井雄二が『ゴルゴ13』のシナリオを書いた回がわかり、解説もあるので充実している。しかし、さすがに小池一夫にシナリオ料をピンハネされた恨みが、ドラクエの“魔王”たちを生み出したとか、私たちが読みたい憶測記事が無いのは、残念である。

そこを調べぬくと言うのが、餓狼であるマスコミというもの。

広告

文章読本

五島千尋

アマゾンで売っているよ

定価税抜き600円

正月やめでたい時は半額もある

三島文読も読んでね

ネタばらしになると、いけないだろう。『アルスラーン戦記』は歴史好きだと、だいたい元ネタがわかる。『ファイブスター物語』の多根本は…種本はコナン・ドイルの白騎士団の小説を読めば、だいたいわかってしまうだろう。原題「THE WHITE CAMPANY」は、ファンは読んだ方がいいのか？ ジェラルド將軍は誰にあたるのか、各自調べてみよう。

今までの復習は、ボダン大司教はサヴォナローラであるのは、間違いない。

私の自意識はボダン大司教である。

「ルリタニアテーマもの」と本人が口にしている以上、『ゼンダ城の虜』の創作された国ルリタニアが、古代ローマ期のルシタニアをもじったもので、そこから引いていると思われる。（『ゼンダ城の虜』は『まんが道』でマンガ化されたのが載っているからそれを見たらよろしい）

蛇王ザッハークはイヴをたぶらかして知恵の実をかじらせる蛇を起源とし、キリスト教に改宗して「脳をすすられた」ようになるのを、表しているだろう。

だいたい、ここまでが今まで書いてきたことのおさらいである。

アンドラゴラス王の兄がルドルフII世をモデルとして、オカルト狂いで、そんな王様がいると、大変というのが表現されているが、意外にも日本国内で当時、占いで物事を決める政治家がいる（つまり政治判断を占いに託す）とか、噂が80年代にあった気がする。手元に資料をかき集めて、いろいろやりたいが、そこは各自で調べられたし、『創竜伝』にはあった…ないか。昔は「隠田の行者」とかいたらしいが、かなり昔である。

ルシタニアの王が…無能王ではないか。地理的にはイベリア半島の王だから、ポルトガル地域の古代ルシタニアの位置的に近い。

ヒルメスはリチャードIII世かもしれない。自分の兄を虜囚にする点しか、接点はないか。アニメ版しか見ない人には、種を明かしているかもしれないが、こんな小さい字を

読んでる方が悪い。「多根を明かしている」と書いた方がよかったか。ネタ元を明かす多根明一たねあきら一というペンネームがあると面白いね。

イアルダポート教も、イアルが名前で、ポートが救世主という意味か？ 救世主のイアルとか、そんな意味では。仏語的にダが後ろの言葉とくっついて発声される。キリスト教、救世主教をモデルとしているのだから、古代ペルシャ→現代のイラクの敵対グループである。

さらにキリスト教をモンスター化した蛇王ザッハークが出て、現実と想像、二重の意味でペルシャ・アラブ地域がキリスト教によって脅かされているというのを、結果的に表現してしまっている。

「王書」と書いて「シャーナーメ」と読む本が種本と思われる。

ナルサスは本人の口から、中国の歴史書にあるミンリヤンがモデルであると、されている。ナルサス本人じゃなくて田中本人からである。付け焼刃だから、付け焼刃だから誤字脱字する。

こういうことは、小さい文字でこそこそやるのが楽しい。

「こそこそ作戦」である。

荒川弘のマンガ版は原作の担当編集者が角川から音羽グループの光文社に移籍していたのか、そこの光文社のレーベルから刊行されるようになって、同じ音羽グループの講談社の雑誌でマンガ連載してもいい土壌が出来ていた。古くは『銀英伝』の頃から原作者とは繋がりがあがる。

だが原作は、ぜんぜん話が進まない。少しずつノベルズで刊行されているけど、もう完結してもいいスパンは経っている。（田中芳樹のpasteーシユはできるから、円城塔が計画さんの…止めておこう。「永遠に落馬した」と「口先の黄色い雛鳥め」を二回使うとか）

前にも書いたけど、第一部の頃は半年に一冊程度の刊行スピードが湾岸戦争勃発ぐらいで、滞り始める。エクバターナのモデルのバクダットが空爆されるのだから、事実の小説化みたいなことが起きてしまう。

それもアメリカ公聴会で偽証言するヤツが現れて、プロパガンダで油まみれの海鳥とか出して、フセイン政権を悪として見えるということをしまくって、戦端を開いたわけで、作者の責任は重い。

イラクで苦しんでいる人たちがいるとすれば、それは田中芳樹が悪い。

…こんなこと書いているけど、ブーメランとして返ってこないか、心配になってきた。

話は戻るが、「妖雲群行」が前巻から七年経って出て、そこから15年ぐらいでノベルズブック（新書版）で四冊である。こんな刊行ペースあるか？ 夢枕獏なら、『餓狼伝』が三十冊ぐらい出ているよ。他の小説のシリーズ、『陰陽師』とか『神々の頂ぎ』や『シナン』とか書きながら。

伝奇系統の作家にしては、相対的に遅筆だ。ただゴーストライターしていないという証拠でもあるから、そこは褒めよう。

自分も同じ遅筆だから。

私の筆の遅れは、全ての田中の影響の所為と言え、全て田中の責任にできるので、気が楽だなあ。作者の責任は重い。

『あり思』の続きがなかなかアップされないのは、それは田中芳樹が悪い。

そんな田中芳樹は左翼だから、ルシタニア王を戦前の昭和天皇に擬えさせているかもしれない。弟に兵立占はどうするんだと聞かれて、「神がマナを降らせてくれる」と、南方に兵立占を考えずに派兵した旧日本軍に、誤読できるようにしている気がする。

そこは誤読であると、フォローしなくてはいけない。

こころへん、本人はなかなか尻尾をつかませようとしませんが、私にはわかる。

作者が病を患い始めて、早く連城さんのお近くに住まわれてほしい。一読者の意見としては、こういうのが口に出る。

人間ワープロの話も、花森安治の方がすごい。

『ちょい盛りました』で田中がすごいと評価するのは、花森安治という天才を知らないからだ。彼がラジオ出演したときに「今のニュースを100文字にまとめていただけますか」と頼まれたら、本当に口でしゃべって句読点まで含めて100文字でまとめられる作文能力がある。

原稿用紙に空白をあけて、後から文字数どおりに書くというのは、花森に比べたいしたことは無いのである。これは田中の書籍全般にいえることでもある。身代わりの話なら「ゼンダ城の虜」の方が面白いし、仮面の王権簞奪者が現れるなら『三銃士』の方が面白い。

オリジナルの種本、多根本を読んだ方がいいという結論になる。

結論は、フィクションのリソースとして引かれるオリジナルの歴史や古典（模範とすべきモノの意）の方が、優れているのであ〜る。

ドラクエ特集がいいと、多根清史を珍しくほめていたら、田中芳樹への悪口の隠れミノになっているという、ナルサスの捕虜解放欺瞞工作からヒントを得て作った、日記。

恥ずかしながらalgoを手に入れた

S Dガンダムが三体合体してドラゴンになるガンプラを買うための基金を切り崩して、algoを手に入れた。

前、近所の本屋のお買い得品コーナーにあったのだが、持ち合わせが無く、そのまま放置していたら、ある日、コーナーごと無くなってしまった。

それで、アマゾンなどの中古市場で手に入れようとする、これが高い。

ボードゲームの「アベ・カエサル」もほしいのだが、中古市場で出回る品は高いので、断念した。第一巻の時は紙の箱に油性ペンで書いただけの写真を撮り掲載している。（あぶく銭が出来たら購入して写真を差し替えたい）

脱線してしまったが、まず、話しておかなければいけなかったのは、algoの存在を知る前に「ななつとみつつとひとつ」を考案し、その後algoの存在を知ったということだ。

第二巻で書くと思うが、「ななつとみつつとひとつ」のルールラーニングストーリーを書いている頃は、本当に存在を知らなかった。

ことの経緯はもう、十年ほど前になるか。

「コトタベ」の次は、算数および数学の模擬としてのゲーム企画、それに柘田さんの発言に答えるために、「ななつとみつつとひとつ」を考案した。

狙って作ったのである。

『ゲームの大学』も読んでいたし、それなりのモノが出来たと、自分でも自負できていた。それは単なる自己評価に過ぎないものだった。

もし、製品化されるのなら、お豆腐が大好きなピーター・フランクルに監修を頼もうと思っていた。「平成教育委員会」で問題として出された図形を見て、「三分の一です。見ればわかります」と、即答していたのを思い出される。

すると、彼の周辺のことに関心するように「注耳」していると、どうやらカードゲームを作っているという情報を、どこかで聞きかじった。

それがalgoだった。

アルゴリズムから取られたalgoは、一対一の対戦ではなく、一人から四人が出来る数学論理ゲームである。

algoのゲーム内容については、実際に手に入れてプレイしてもらおうとして、パッケージには算数オリンピック教会や東大数学科の人たちなどの複数の人間がalgoに関わっているが、私はたった一人で「731」を作った。

種本と絵本『数の悪魔』だけで作った。そのためかルールラーニングストーリー執筆中に『数の悪魔』が手元に置いておかなかったので、フィボナッチ数が2の階乗なのは、そういう理由である。資料的裏づけをしていないから、エピソードも省略している。

商業ベースで『あり思』第二巻が出版される場合、ピーター・フランクルさんに解説を書いてもらわないと、本としての質がしまらない。本物の数学者にしてみたら、「731」はalgoのコピー品やデッドコピーではないが、下位に位置する数学系ゲームと思われるだろう。

「731」とは、そういうカードゲームに過ぎない。

数学の啓蒙のためのエデュテイメントソフトとして、誰も評価しないと、知らなかったのだ。

一応その頃、「MAG-RL」（当時の題は「オタク文化作品公論」）をだいたい完成させられたし、政治家ではないが「政治評論家」の時期は過ぎたと思ったので、「ゲーム評論家」からの脱皮をそろそろする頃と思うようになっていた。

『俯瞰の男』は箸にも棒にも引っかからないし、金欠で資料が買えず、ライティングは行き詰っていた頃で、そろそろ真面目にゲームを作る方向に行こうと、一念発起してゲーム会社に入社することにした。

ちょうど、ポケモンカードのゲームルールを作っていたクリーチャーズが人材募集していたので、「コトタベ」と「731」の企画を送って、返答を待った。

自分としては、利益確保のためのポケモンカードに、もう片方にブランディングのために「731」のような、ルールよりもマナーを重んじるカードゲームがあった方がいいと思っていたからだ。

ところが、クリーチャーズに「731」を見せても、雇ってくれなかった。

正直にショックだった。

監督にはいたらなかったように、ゲームプランナーとしていたらなかったのだ。野球でたとえて申し訳ないが、自分では140キロの速球をコントロール良くアウトローに決めていると思っていたが、プロの眼から見たらそうではなかったのだ。

子供にカードゲームを通じて素数を教えることを評価しない。それはゲームを憎む人にエサをくれることになっても、ゲーム業界がそれを望んでやったのだから、私には責任が無い。（谷山さんたちにはすごく申し訳ないが）

これ以上のモノを出せと言われても、手も足も、逆立ちしても出ない。

これ以上のモノ出すには、algoが多くの人間の手で作られているように組織だったところに籍をおいて、作るしかない。ところがその組織だったところは雇ってくれない。

「731」を考案できることは、実際のゲームを作る現場では通用しないのだ。ゲームを作ったことがある人は、「731」を評価しない。評価をするというなら、紙芝居のようなポルノゲームしか作ったことがない人では？（これは開発者に失礼だ。たとえ紙芝居でもビジネスが成立がしているならそれは職業として正しい）

下の世代には、これの二の轍を踏ませるのは可愛そうだから、それを伝えるのが自分の役割だ。「731」を作る作れないかが前提ではなく、「731」以上のモノを作れないと、評価されない。それが当たり前の世界だ。少なくとも個人でalgoと同等の品を生み出せないと、就職すらままならない。

これから繰り返すと思うが、なかなか自分の実力の無さを認めるのは、難しかった。だが、今ではちゃんと「自分には才能が無い」という事実は、この事実だけは信じられる。

才能があったら、ちゃんとゲーム会社に入社できているよ。

そこは間違わないでほしい。

私は評価されてこなかったし、これからも評価されないだろう。

そうしたレベルの低い人間の作ったモノは越えてほしい。

そうでないと、ゲーム会社の人に「なんでこんな、カンタンなハードルを越えてこなかったんだ」と言われてしまう。

少なくとも、クリーチャーズとレベルファイブと、サイバーコネクトツはそう評価するけどね。



クリーチャーズのデベロップメント能力は、たいしたことない。
タッチジェネレーションのソフトラインナップで開発したモノが無いだろう。したがって、クリーチャーズで開発しても「コトタベ」は『スクリブルノーツ』を絶対に越えられない。
ただ、ソフトは完成可能だろう。
どこでも、開発可能な企画だからだ。
トレジャーやイムズでないと、開発できないソフトなんて無茶がありすぎる。
このぐらいのことは、書いても大丈夫だろう。事実なだけに。

ネタ帳にたまったゲーム関連のネタを一気に吐き出すために、その場としての電子書籍を本年から作る予定である。

アマゾンのKindleの方にも、配信する予定である。そのバージョンには、「任天堂自社株問題」とか「海の向こうが遊環構造を裏付けた」とか「遊戯理科学・幽環派」を付属させるつもりだ。

連載と言うわけではないが、気が向いたら、まだ書き上げてない記事が掲載・変更される。あとから校正や固有名詞を資料と突き詰め合わせて書き直すので、記事としては体裁が悪い。

そんなあまりよくないモノを閲覧者に読ませてどうなのかという疑問が自分にはある。

共通キャプション

ゲームについての周辺を書いた、雑記である。

本来、ゲームレビューは学術論文に近いものしか書きたくないが、それだとあまりにも生産量が少なく、不本意も含めてコンプレックスという題をつけて、いろいろ記事を書いてみることにした。

VOL.1の記事ラインナップは、

- ・大足派の避難場所
- ・鬼切り鶴子の因縁語り
- ・テレビジョンの仮想敵
- ・トマス・デイとその仲間たち（Kindle版のみ）
- ・任天堂自社株買い問題（Kindle版のみ）
- ・映「劃」のラマヌジャン

VOL.2の記事ラインナップは、

- ・クリボーは優れたデザイン
- ・シャア・アズナブルになれなかった男
- ・天才のマインドパレス
- ・ゲームばかりしていると、こうなる。（Kindle版のみ）
- ・書評海の向こうが遊環構造を裏付けた（Kindle版のみ）
- ・「いつかのオーリーを見せておくれよ」

GAME REVIEW COMPLEX

下手なことをしてホームグラウンドを汚したくない気持ちは誰にでもあるだろうか。

これは私個人の話だが、多くの人間にもわかってもらえるはずだ。

マンガやアニメに関しては、いい加減で資料を集めずに「テキトー」で無責任なことをついつい書いてしまうが、ゲームレビューではそんなことはしたくない。

「これは仕上がりが悪いな。完成しても出来が悪いはず」

と、なんとなく判断したものは、途中で「やめた」していたのだ。

しかし、そのためにゲームについて書くことが少ない気がしてならない。そこで周辺雑記的なモノを一冊一万字ほどの文量にまとめた、複合体を意味するコンプレックスをタイトルにして電子書籍を書いてみることにした。

コンプレックスとは、劣等感と訳されるが誤訳らしく、複合的なものを差す。単純に親には育ててもらった恩があるが、しかし自分に対して酷いこともした点があり、複雑な感情を抱くことを心理学・精神医学でコンプレックスと言われるが、実はその感情もこめられている。

その点については読んでもらえばわかるが、ゲームレビューは生産性が著しく悪い。現在（2015年春）、『世界樹の迷宮』のゲームレビューを書いているが、ともかくなかなか完成しない。資料もだいたいある。核心となるところを突ける手応えもある。だが、なかなか完成しない。

アニメやマンガなら、「超テキトーな感想だけっ」というモノもあるのに、ゲームレビューではそれができない。そのコンプレックスもあるということ。

それは置いて、今まで棚上げしてきたモノも、積極的に書いていこうという方向性を持って本書の執筆に入ると、いろいろと書きたかったことがあるのに気づく。引き出しにメモをいっぱい貯めていたことも思い出す。そのため、本来は一冊におさめる内容を、複数に分割し、本項を共通の冒頭とした、シリーズにする。

一応、この電子書籍は販促のためにある。できれば電子書籍を買って、活動費の足しになるようにしてもらいたい。そのコンプレックスをよく、理解してもらいたい。

その内容のだいたいは、悪口である。

「九井諒子が心配」のフリして

『ダイミダラー』のマンガレビューで付録につけたものにも書いたが、桜玉吉の射程範囲がコミックビームシステムの作家の寿命だ。九井諒子も例に漏れないだろう。

今、『ダンジョン飯』で『しあわせのかたち』のメドーサボールを調理して食べているところで、この先の作家寿命も逆算できてしまう。コミックビームシステムは、元からそういうところだと、わかっていなかった本人に責任がある。一応、私も玉さんの支配地域に存在していて、高須クリニックの広告イラストから男くのいち、漢子宮を考えた。別にコミックビーム編集部には、笑えないギャグだけだね。（ピョコタンも調布ではなく西日暮里で近いことやっているけど、それはわざわざ書くことじゃない）

そういえば、この間マンガで、玉さんのマンガの影響で行ってみたマンガ喫茶でたまたま『健全ロボ』のマンガが置いてあるのを発見して、読んだけどアニメは最高なのに、マンガは最低だね。

不健全図書になってしまえ！（『新妹魔王』とともに）

こんなマンガがある所為で、良識派からマンガが攻撃されてしまうのだ。

アニメは最高だけだね。

「新ペンギン計画とは、新ペンギン計画のことだっ！」

と、キレのある謎の同語反復ギャグは、原作マンガではやっていない。

「オレは今、何をやっているのだろうか？」は、原作では笑えないけど、アニメになったら大笑いだろうね。

アニメの『ダイミダラー』以外はどうでもいい、くだらない話より、ゲームラボの話をしよう。

中古販売のことを触れると、密接交際が疑われるので動画特集、ゲーム音楽史の続きになるけど、ゲーム音楽を聴いたらちゃんと古代さんにお金が入る仕組みを作らないと、マズいマズいと皆思っているはずだけど、仕組みが作れないようになっている。

せめてiTunes storeに繋がるようにしてほしいが、iTunesの売り上げが動画サイトによって侵食されていないか。

ファミコンをやっていた世代には、まだ罪悪感があるが、デジタルネイティブだと、もう罪悪感は無。今更、著作権教育とか、製作者側の権利を教育しても、無理だろう。啓蒙活動としてエンケンがどんなに言い聞かせても、ダメだろう。

ただ、JASRACだとか、いろいろミデイ狩りとかしていた。始まりは反社会勢力からの音楽家を守るために発足し、不当に搾取されている人をなんとかしていた。ヤクザから奏者等を守るためにあった。

時代が下ると、「音の暴力団」のような（この表現・・・大丈夫か？）ことになっている。音楽著作権の利益の最大化を図ることが、圧力団体化と同義になっていく。

JASRACにはJASRACの言い分がある。ただ、ジャズ喫茶のスワンの店長が「ヤクザの方が物腰柔らかか」というだけあって、強権的である。一度も裁判で負けたことが無いとも言われる。そ

れも構造的なことではないか。定年退職した裁判官は、JASRACで召抱えてないか。著作権管理委託は弁護士資格を持っている人で無いと、いけない。幾つかの裁判では、JASRACに有利すぎる判決が出ているような気がするの、そこに不公平性が発生していないのか、誰かが調べないといけない。

話がこんがらがってしまう。

ひとつだけ言わせてもらおうと、ジャズ音楽を広める役割をしていたスワンは裁判に負けて、JASRACに音楽使用料を払うことになった。デュークも草葉の陰で泣いているよ。

だから、ゲーラボを応援する。

「ゲームラボ」や「ラジオライフ」の場合、割引で手に入れるや、本当は有料なのにFREEで手に入れるという「ゲーム」を推奨している。マジコンの記事も、コピーソフトをマジコンユーザー間で流通させることよりも、プログラミングコードを読んで、スタッフが下品なテキストをメモにあたる場所に書いてあるとか、そういう「楽しい遊び」のために、やっている。

話を戻すと前に、井上明人さんが「#denkimeter」で節電ゲームをやっていたけど、ゲーラボ・ラジオライフの場合、FREEで出来ることを増やしていく「FREEゲームの攻略記事」を書いている。これはデフレ期の雑誌として、正しい。裏のゲーミフィケーションだ。

とくにゲームラボの場合、節約生活の模擬である「FREEゲーム」をやっていくのが、ゲーム雑誌だから正しい。

だけど、さすがにやりすぎはよくないけどね。

鈴木みそ先生は『大人のしくみ』で、コピーソフトで遊ぶユーザーは寄生虫だと、語っていた。しかし、法律でマジコンを市場から締め出ししてゲームユーザーがマジコンで遊ばなくなったのに、業績は回復したかね？ ソーシャルゲームの景気の良さは終わったのに、コンシューマ・ハードに、特に据え置き機にユーザーが戻ってきたか？

売り上げが悪くなると、必ず業界外に犯人を求める。和的シソウバカイである。

実は業界内の構造的問題が、生み出している不況原因を、外に求める傾向がどの業界でもある。ゲーム業界だろうが、テレビとか新聞とか、それは変わらない。

出版業界では本を書店に頼んだら、二週間で届くというのは、当時は画期的だった。それは明治後期や大正時代の話で、21世紀で朝の早めに頼んだら翌日に届くネット通販に合うワケが無い。こんなことに既得権益があるとは、とても思えない。変えたくなかったから、変えたくないだけである。業界外の責任にしていれば、自分たちが保たれる自己保身でやっているに過ぎない。

全部無料にしると言う暴言を吐くつもりもないし、もうちょっとマシなことができないかなと思う。そこでJASRACは製作者のマネタイズのために、積極的に活動してもいいと思う。

『ゲーム音楽史』のこの続きになってしまうが、古代（コシロ）さんの「フィルムア」ってどんな曲か、YOUTUBEで調べて、聞いてみた。この動画に広告があるなら、古代さん本人に著作権使用料が支払われるシステムになっていればいいが、包括著作権契約だと、別にそういうことをしなくてもいいらしい。（分配はされるらしいが…）

テレビとラジオではそういうことで、ネット動画サイトが第三の放送になってしまった。だけど、包括著作権契約のやり方だけでなく、誰が著作権者かわかるなら、直接ダイレクトに広告

料の一部が支払われるでいいはずだ。

そして、そういうところで上げた動画は高音質・高画質で無いようにしてほしい。

押井守が『攻殻機動隊』のビデオが売れた自己分析がある。

全米で6本ぐらいしかフィルムが無くて、それがグラインドハウスでずっと回っているものだから、画質が劣化していった、高密度に情報を入れているアニメなものだから、画面がチラついてないビデオを求めるファン層が結果的に増えて、ビデオソフトが売れたと本人は考えている。

(『ブレードランナー』の売れ方に似ている?)

低質のフィルムを小屋にかけたことによって、結果的にビデオソフトの販売促進になった。

これは大人買い論理で売れたともいえる。だからフリーで手に入れられるモノは、オリジナルよりも劣化していないといけないのでは? だから、古代さんの曲がiTunes storeに売っているのなら、そちらにリンクが張られているなどの「導線」をきっちりしてほしい。

それから、フリーミアムを皆、一斉にやるとダメになる。

フリーミアムの過当競争になったら、よくない。

安売り競争と同じになっている。

話が飛んでいるように聞こえるけど、「皆、グレイトフルデッドをしなくていい」ということ。皆グレイトフルデッドなビジネスモデルでやらなくていい。ところがデッドヘッズがiTunesを作ってしまった。

「皆、グレイトフルデッドになってしまえ!」とデッドヘッズでもあるジョブズが言ったわけではないが、結果としてライブや物販で稼ぐグレイトフルデッドにミュージシャンはなってしまった。日本だとゆずが路上ライブをはじめて売れたら、皆路上ライブをはじめようになってしまうような、横並びマーケティングというか……

そういえば、はじめに「九井諒子が心配」の話をしていたよね。

「心配なんかしてねえよ。才能が枯渇したら、プランが無かった編集のせいじゃない。玉さんのせいでもない。本人のせいだよ。外の責任にするな!」

早く「コミックリュウ」や「ITAN」あたりに鞍替えした方がいいよね。

本人のためにも。(逆に九井さんがダメになったら全部コミックビーム編集部が悪いからな)

お詫びと訂正

本記事では『幸腹グラフィティ』と記すべきところを『新妹魔王』となっていました。

『新妹魔王の契約者』の関係者各位にお詫びします。

ネタ 予防戦争の論理だから、攻める！

去年のカニング疑惑事件以来、私はスタンスを変えた。

「予防戦争の論理」

である。

第二次世界大戦の戦勝国の橋頭堡として、イスラエルは築かれたのだろう。

西側としては中東への入り口として、ナチスドイツの被害者であるユダヤ人たちに建国させ、そこから侵略していく魂胆だったのだろう。勝手に土地にフェンスを立て、聖書の時代のペリシテ人ことパレスチナ人の土地を侵食していく。

それを批判すれば、第二次世界大戦後の聖書『アンナの日記』を依拠した批難を浴びるのである。戦略としてこれほどのプロパガンダに比肩するのは、なかなか見つからない。

イスラエルを脅かそうものなら、予防戦争の論理で強攻策を西側の戦勝国は取るのだ。

そもそもイスラエルを作ったのはイギリスである。

戦前はあの辺り一帯はイギリス領の管轄地で、善意としてはユダヤ人の民族国家を作らせてあげたい、悪意としてはこれ以上ユダヤ人がイギリス本国に流入させるわけにはいかず、厄介払いをした。そうしないと、英国内でユダヤ人排斥運動が起こる懸念があった。難民流入で国内が混乱するのを事前に予防したのである。

蛇足が過ぎた。

予防戦争の論理として、サイバーコネクトツーツを攻める。

ファシズムやナチズムでユダヤ人差別をする悪のように、加害者のそしりを受けてもかまわない。普通、ここまでのことは言わない。

宣言しておけば、ジョジョのゲームを作るときにポーカーをして魂のコインをかけるゲームを作らせないためだ。それはカプコンが作ればいい。

これは、

「もう五社関係にカニングされたら、かなわん」

という、明解な動機だ。

いや、スタンスを変えたから新明解である。山田先生の「恋愛」の用例“合体したい”なのである。そして、ケンボー先生と山田先生を分断する作戦でもある。

この場合、原作者である荒木飛呂彦がケンボー先生で、サイバネツーツが山田先生である。私は金田一春彦にならねばならない。老人力である。

カニングをした、しないの真偽よりも、そもそも入社させなかった人材のアイデアと被ったら、ダメだろう。

相手側にも利益がある。現実問題としてアイデアが被ってしまった『エクスプローラーズ』は、再販がかからず半値で投売りされている。利敵行為にして、理的行為だ。

剰余価値の搾取ならまだ話しはわかる。

労働力の詐取、支払われる労働債権があるからだ。

仕方ないから、すこし出すけど、

「アレでしょ？」

アレって、『岸和田暗殺』からきているだろ？」

と、おおっぴらにしていると、自意識過剰と思われる。（宣伝）

その件については（それ以外にも）気づいているから、基本的に

本当は何も言っちゃいけない。

クズカゴで牽制していたが、足りなかった。

今、あいつの渾名はバキュームカーだぜ？

おさらいついでに書くが大河内一樓をクズカゴと言って牽制していたのだが、最近Pixivで「糞みたい」と言われたから、アイツはバキュームカーだよ。上位種に止揚したのである。

それについては皆、目をつぶってあげてほしい。

だが、五社はダメだと。

五社だけは許さん。

そこで予防戦争の論理で、やられる前にやる。

ターゲットは松山だ。

これは映画『ソーシャル・ネットワーク・サービス』の兄弟のようなものではない。共同創業者として事業をはじめたのに、規模拡大とともに切られる側になってしまった方だろう。カンニングされてしまったら、ハーバード・コネクションのパクリだとかで怒るぐらいではすまない。

ともかく、いまだに「少年ジャンプ」を読んでいるというのを臆面も無くアピールできることに、少しこちらの気が引ける。

普通、ジャンプイズムを否定して少年は大人になる。

これは大人になれない少年を高く評価するか、それともアメリカに「12歳の少年」としてホモレイプされるリトルボーイとして評価するか、二分される。

予防戦争の論理の文脈から、後者であることは必至であろう。

まず、サイバーコネクトツーは人材募集をしているけど、私を越える人材でないと、採用しないよ。

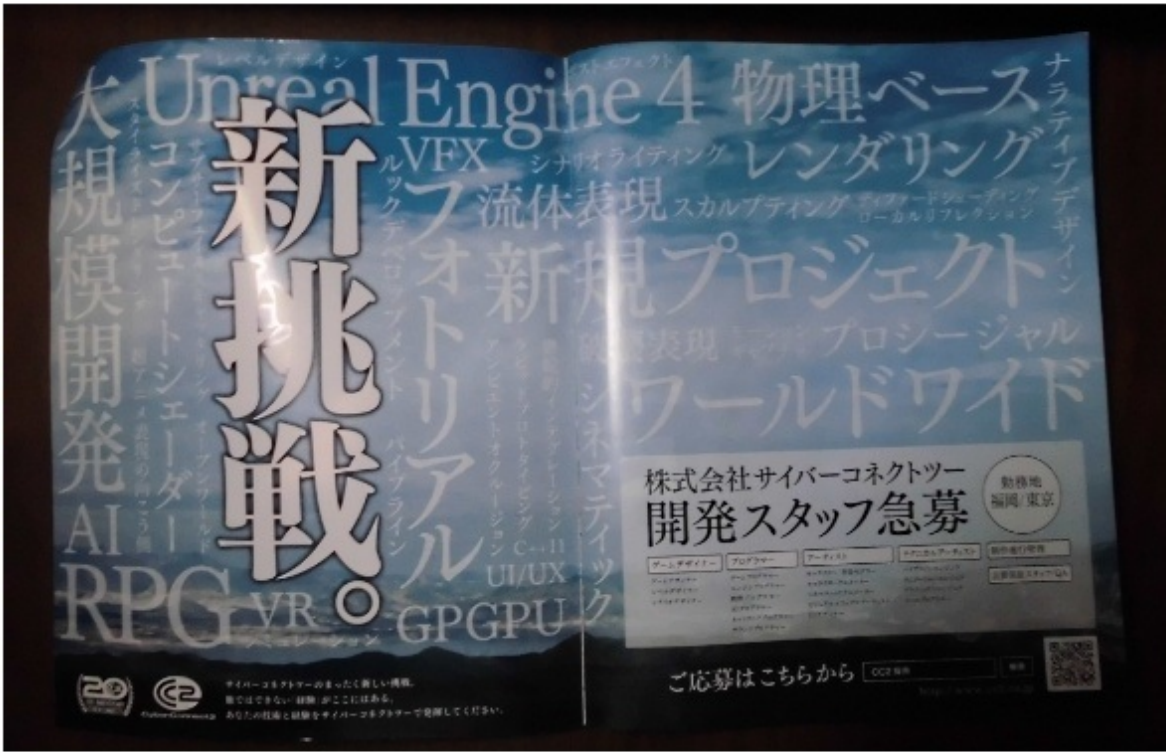
その求められる人材とは、空中に浮いたなら死ぬまでパンチを連打して無限に殴り続けられることができるようにする人だろう。それはオラオラを再現しているので、原作賛歌だ。

「グッドっ！」

冗談は別として、「ななつとみつつとひとつ」を見せたんだから、あれ以上のモノを思いつける人でないと、ダメなのだ。

ハミ通の2面3面に募集広告をしている

このように広告で口を塞ぐことが出来るから「ゲーム批評」が必要だった



フォトリアルより本城モードみたいな
カメラスタイルを作る方が正しいだろ

空理空論ばかりで
酷いじゃっく

レベルデザインって自分で作らず
どこかから泥棒して作るんでしょ？

ワールドワイドなら「シェイクスピアロマン」
は越えていただかないとダメ

どうしても書かないといけないことがあるだろう。

まず、プライムミニマルミュージックはゲーム業界では評価されない。

クリーチャーズとレベルファイブとサイバーコネクトツはそれを証明した。特筆すべきは神父が落ち着くために数える孤独な数字を奏するための手段である作曲法を、サイバーコネクトツが否定したことだ。

この場合、原作賛歌は口先だけだということだ。

プライムナンバーを否定することでプッチ神父を否定されているが、ミニマルミュージックを否定するのは、久石もマイケル・ナイマンも否定することだ。

現実的に考えて、ゲーム業界はクインシー・ジョーンズをもじった芸名・久石譲の知名度しかほしくないのであろう。それは佐村河内のプロフィールを必要とし、音楽的実質は必要なかったカプコンと同じではないか？ 「ノヴェンバー・ステップス」のような和楽器をオーケストラに組み込むことに、さして意味を感じてはいないのだろう。新垣さんが中間にいたら、「この人をゴーストライターとして雇ってないか？」と疑うだろう。咳払いだけで佐村河内先生の意図がわかるなんてヘンだろう。

カプコンに同意して、私も意味を感じないと表明した方が良いだろうか？

答えは否である。

プライムミニマルミュージックは、作曲法を提示しているわけではなく、アルゴリズムを教えている。ゲームプランナーとして、かなりわかりやすい素数探知アルゴリズムを見せている。小学生にもわかりやすいものを作っている。

それを大人で理解できないなら、ダメだろう。

自分のスキルや実力を理解できないボスの下にはつけない。

もちろん、フィボナッチ数列も否定しているということは、黄金螺旋も真に唾棄すべきもの
と
思っているだろう。

でも、責任を感じるよ。

著作権を押さえろ

『風の谷のナウシカ』か川内広範先生が原作の特撮。

どうか、どちらかの著作権を押さえられないかな。「ルナイズマイン」は任天堂のカネ（内部留保）で作って、ジョイメカがどうのこうのだけど、その資源だけでは少ないから、特撮を換装したり、いろいろしようと『ゴトチヒの横本』の「ロボットモノのや〜つ〜」で描いているけど、最終的に資本家ピョコタンが泣きベソをかくという、宮本茂の言う「ケツ」が決まっている。

通称「クメン編」のクライマックスで、サイクロップス・ダイヤ（サイロップス・ダイヤとなっているのはただの脱字）に乗ったヤツが「これで汝の正体見たりだ！」と、言わせるには、チャンと広範先生の著作継承者、つまり弁護士の息子さんに許諾を得て、ジョイメカとアミーボの販促に手を貸してもらわないといけない。その場合ターバンを被ると思う。

もう片方、ナウシカを押さえれば、そちらに寄って裏設定でサイクロップス・ダイヤは工業用巨大人工ダイヤを顔に埋めているけど、キャノピーみたいなカブトを被ってわからないようにする。セリフもちょっと変える。イズモちゃんのカップがHに変化、イメージボードも息子に描かせる。

どちらの著作権もおさえられなかったら、同人活動の範囲でしか、やれない。

話は変わるが、スキンコーティングマシン系統は、特撮変身ヒーローとロボットアニメの中間に位置することによって、どちらのやり方もできるようにするために、ある。（あとづけ設定）

両ジャンルのドラマやテーマ、見せ場となるバトルも、いいところ取りできる。『新世紀エヴァンゲリオン』は、そういうことをしようとして、巨大メカだけドスーツヒーローの方法論を被せることができるようにするために、あのデザイン・設定にしたらろう。

それで許諾問題に戻ると、映画の『風立ちぬ』はもしかしたら、海外で上演できないかもしれない。

21世紀に入って、ちょっとしたら堀辰雄の著作権は失効した（ブレヒトも同じ）。だから、雑誌での連載はそれ以後だから、はじめてよかった。だが、それは国内ならいいという問題だ。ミッキーマウス法案で、海外では死後70年まで著作権があるので、堀辰雄の著作権継承者に海外での上演の許諾を得ないと、まずいことになる。もう十年は切っているが、まだ権利は生きている。それから中田のアっちゃんの販促用若句は、あまり意味が無い。もし今すぐTPPに加盟したら、国内での上演やビデオソフトの販売もストップする。非関税障壁として、著作権も変化する。マスコミは知っていただろう。現政権を批判できないから、「優先順位が低い」という魔法の言葉で有権者に伝えなかったのだから。

ジブリとしては、ゴロウ的な詩のヒョウセツがあったから、二回目だろう。

内容は反戦なのに、著作権の紛争を起こすという皮肉な結末に「ありがとう ありがとう」。

最近、トキワ荘世代やその周辺人々を書いた書籍を得た知識があって、それでアニメの方である『俺物語!!』の第一話、そのアヴァンタイトルを観たときに、「あっ」と思った。

まず作中内の出来事で『泣いた赤鬼』を園児の頃に学芸会で催した回想イメージから入る。

『泣いた赤鬼』の作者浜田さん？ は、実は赤塚不二夫や長谷さんのいたマンガグループの一員だった。東日本漫画研究会、その肉筆会報「墨汁一滴」の同人だったかな？ 非新漫画党の人で、後に石森赤塚が新漫画党に合流するときには、マンガ家を断念していたかな？

長谷さんの『マンガに愛を叫んだ男たち』に拠れば、『泣いた赤鬼』にはマンガ版がある。それは日の目を見ていない。学童社が倒産して、行き先を失うとか、そんな事情だ。良心的な児童マンガは学童社が潰れて終わった。森安なおやも『まんが道』でがっかりしているシーンがある。

後に絵本で『赤鬼』を描いて、それが一般に普及している。

覚えてほしいのは、学童漫画の血脈はマンガでは絶たれて、児童文学に出戻りしているという点だ。それによって『赤鬼』は日の目を見て、21世紀の現在、不朽の名作という評価を得ているのは、ひとまず幸福なことだった。

脱線するが、砂川くんが青鬼であるなら『月刊少女野崎くん』の作中内ゲームの友田くんも青鬼ではないか？ その意味で浜田さんも長谷さんも青鬼である。一人は児童漫画の世界から離れ、一人は赤塚の下を離れる。

それから、砂川くんといっても、砂川啓介さんのことではない。

そんなくだらない話題を赤塚ギャグマンガなら広げていただろうが、残念ながら違う話題となる。ギャグが描きたい赤塚と、原作者の河原和音と作画者アルコらの立場は反転しているだけで、状況は同じでは？ 原作者と作画者は90年代やゼロ年代の少女マンガの表現に疑問、たとえとして現在の少女マンガを描くことは無理して高校デビューしなくてはいけないことだったのではないだろうか？

赤塚はトキワ荘に行く前後から少女マンガを描いていた。上京して科学工場に勤めるという集団就職の青年と同じシチュエーションでありながら、少女のためのマンガを描いていたのである。赤本劇画の読者層と同じ境遇なのに少女マンガを描くものだから、筆は進まず鬱屈を溜めていた。（複数の資料を読んだせいか記憶が混同・錯綜していたが、トキワ荘に来てから郷里の母を招き寄せたらしい）

ちょっと端折るが、長谷さんの目からだとフジオプロダクションを作った辺りで、赤塚人気は出てきた。ギャグマンガの量産で人気安定化して、また認知度も高まっただろう。前後しているが、週刊誌の連載をこなすためにプロダクションシステムが必要であり、少年サンデーの『おそ松くん』から人気を得た。

その延長線から『天才バカボン』などの名作が生まれ、ギャグマンガそのもののファンを増やした功績は、間違いなく大きい。（石森の『ボンボン』もある）

続くみなもと太郎先生、山上たつひこが出てくる下地を作り、田村信と鴨川つばめと江口寿史

の三羽鳥までは少年マンガ誌でギャグがやれたのは、赤塚とフジオプロダクションの人々、『漫画に愛を』を読んでしまった以上長谷さんの尽力が大きい。

この頃はまだよくて、後にストーリーギャグマンガは細っていくのである。雑誌に一つぐらいしか残らなくなる。

話は変わるが、ギャグマンガ家は絵を描かない方が、長持ちする気がする。

赤塚の場合、担当編集者を巻き込んで、周辺のマンガ家にもアイデアを出させて、彼らとのドタバタを自動書記的にフジオプロの面々が描いていたという伝説が残っている。検証が必要だが、それが赤塚のギャグ作家の寿命を延ばしたと思われる。

江口寿史あたりから、絵にこだわってしまうギャグマンガ家が増えて、ギャグ作家としての寿命を減らしている気がする。古谷実のように『稲中』から最新作まで約二十年だが、手塚のデビュー作から晩年の作品くらい、画風が違う。そこに素直に笑えてしまうギャグを描いた古谷はもういなくなっている。

ギャグマンガが好きな人間にとっては、江口も古谷もギャグ作家の寿命を終えている感があり、少しさびしい。

時代を本に戻すが、いろいろな事情により赤塚は『ひみつのアッコちゃん』を描くこと（時期的には『おそ松くん』と同じ）になる。本人ではないから真相はわからないが、苦痛ではないにしろ窮屈だったろう。しかし、『アッコちゃん』は赤塚の代表作のひとつとして、何度もアニメ版がリメイクされるあたり、筒井康隆御代が中編「時をかける少女」を孝行娘と呼ぶような、赤塚さんの孝行娘になっている。

ここでやっと『俺物語!!』に話が戻るが、男性作家が少女向けの作品を描いていた頃まで遡った少女マンガである。比べてしまうとアレな『稲中』のように素直に笑えてしまうギャグもある。島本和彦の『燃えろペン』の方が近いかな？

ゼロ年代から「何を語るか」ではなく「どう語るか」で、それで古き良き少女マンガの古典復古が、たまたま『泣いた赤鬼』を引いたために、学童漫画の水源まで遡っている。

それが広義としての学童漫画、女性作家が長谷川町子や上田トシ子ぐらいで人材不足により男性作家が描かなくてはいけなかった時期の少女向け漫画『アッコちゃん』や横山光輝の『魔法使いサリー』まで含むものを復権していると考ええる。

それは少女マンガの方からの性移項である。

マンガシーンではゼロ年代から性移項を表現しはじめる。

少年マンガ・ヤング誌ではけっこうある。その先鞭が『BAMBOO BLADE』で、その後ガンガン系で女性作家たちが、続いていると考えられる。

月刊誌「少年ガンガン」で『紅心王子』（コマ割が女性ジェンダー）、『魔女の下僕と魔王のツノ』（魔法によるTS）、隔週誌「ヤングガンガン」で金田一連十郎のトランスジェンダーものがある。昔は、けっこうやっていたことだけど、現在の少女マンガではもう表現しにくくなっていると思われる。

この状況が性反転されて、学童漫画を結果的に表現したのが、『俺物語!!』である。少年マンガ

のドラマをもう一度語りなおすために、少女たちを主役にした性移項マンガという「どう語るか」を、少女マンガのドラマをもう一度語りなおすために、少年たちを主役にしたのが『俺物語!!』であり、少年マンガの起源まで遡って学童漫画すら射程に入っていると。

性移項の少女マンガ版が『俺物語!!』、こう考えるべきだ。『BAMBOO BLADE』で『六三四の剣』を少女を主役にして語りなおしたように、語りたいものが今までの少女マンガの伝統であって、それを「どう語るか」の手段として、猛男くんを主人公にしている。（ちょっと苦しいが、経営学的に見れば破壊的イノベーションなり持続的イノベーションで陳腐化したはずのものを、再活性化イノベーションで語りなおしたといえる）

その剛田猛男はジャイアンなわけで、砂川くんは見ための良いのび太かもしれない（あるいはスネ夫の性格と見た目が反転されている）。お母さんから生まれてくるのはジャイ子であり、オバQの唇の遺伝してほしい。（あのキャラクターがのび太くんでは？ するとアレを性移項して…ここまでだ）

藤子マンガのモチーフをこうして使うということは、必然的に学童マンガの血を引く、流れが入ってくると言うべきか。それが結果的に藤子不二雄や赤塚（や浜田さんも含む）が、再び少女マンガに出戻ったと。

大和凜子ちゃんは男性作家が少女マンガを描いていた頃の女性ヒロインとして見ると、その漫画的な虚構性は仕方ないのではないかと思う。それは男性向けのラブコメの主人公が、虚構に満ちていることの裏焼きになっていると言えなくもない。現代社会では無垢であり続けられないように、苦言めいているが、無垢であり続けたいという少女マンガの一テーマも、廃れてしまったのかもしれない。（これは同時期に少年マンガで無垢が一番強いからトラウマの大きさが強さの量になるの変化と説明できる）

まったく批判的なことを書かないのも、ちょうちん記事みたいでよくないと思って、一応触れたが、マンガ読みや男性読者は、ほぼ死滅した旧学童マンガとして、『俺物語!!』を読むのが正しいのではないか。猛男は学童マンガに出てくる正統の少年なのだ。

でも『漫画に愛を叫んだ男たち』読み返したら、覚えマチガイしてたりね。

浜田廣介さん（「ひろすけ」と読む）じゃなかったりして。

詳しくは『漫画に愛を叫んだ男たち』にあたってほしい。

私は『俺物語!!』の剛田猛男は奔放な赤塚不二夫であり、砂川くんが長谷さんに見える。そういう作品だと思う。そして、もし存在しているとすれば、存在が許されるのなら、浜田廣介さんが大和凜子なのだろう。

森安なおやが亡くなってトキワ荘に帰っていったように、浜田さんもまた、学童マンガに帰ってきたのだ。

注記しなくてはいけないのが、これらのことは伊藤剛さんの「ゲームラボ」でやっていたマンガ評の連載記事が、今も続いていたら、このことに触れたと思う。マンガ史のオーソリティーだったら、普通は気づくだろう。

知識があれば、誰でも気づくと思う。その話を記事にまとめたモノは、原稿料がもらえるかは別の問題である。

日記なんだから、私個人の話もせねばならない。

マンガ版『赤鬼』が存在していたが、それは日の目を見ず、絵本として広く普及したように、ゲーム版「コトバを食べる、ケモノ。」があるように、児童文学としての「コトタベ」は存在していたかもしれない。

それすら、ダメだった。

出版のためには、会社組織内にある資本を使わなくてはならない。

評価するということは、その資本を動かすということだ。逆に言えば、資本が動かなかつたのだから、評価されなかつたと断定される。プロ志向的すぎる考えかもしれないが、プロでやろうとした人間なのだから、まず「お金を出す」「出さない」、そしてお金の「額」が評価である。その厳しい世界に身を置こうとして、身を置けなかつた。

それからもう、出版社に資本力が無い。

取次口座があることで、かえって特殊な金融システムを生み、本が取次に一時金を振り込ませるための金融資産になってしまう危険性があることを指摘しておく。出版社だってやりたくないだろうが、経営としてこの一時金調達をやらざるをえない。知識があれば誰でも書けることは書けるが、それに原稿料が払われなくなっている。彼らの苦しい立場、経済的に難しい状況にあるのも知っているから、攻めたくはない。それは青鬼を攻めるようなものだ。

だが、これだけは言える。

学童漫画の血脈は、その起源である児童文学に出戻りできたが、国文法の啓蒙を目的とした児童書のような学童ゲームは、残念ながら児童文学に帰ることはできなかつたのだ。

野田秀樹さんの戯曲「赤鬼」から着想したピンクの「ケモノ」は『泣いた赤鬼』になれなかつた。

「食え、そして生きろ」

という戯曲内のセリフがある。それはこれからのゲームクリエイターへのメッセージとして、ケモノも同様の発言をしていると思ってほしい。人間と友達になれなかつた「赤鬼」側のコトバナのだ。

そして、もう、その赤鬼は、ピンクデーモンはいない。

トトロは「こういう変なのはまだ日本にはいます」だったが、ケモノの場合は「こういう変なのはもう日本にはいない」のだ。それは児童文学に帰ることすら断絶させられたことで、起こっているのである。やがて絶滅が待ち受けているなら、海外に逃がしてあげるべきだと、最近思う。「えんどおぶねいちゃさいえんす」の科学者ウィリー（一応ビギンボーザム博士）と同じ考えに至った。

学童漫画の赤鬼の批難場所が少女マンガではあったが、彼ら（ピンクデーモン）の逃亡先は絶対に少女マンガではないと思う。

ネタ Super Smash Lost Bros. ver1.01



政岡憲三のウシワカとべんけい観とりてよか、た

ペンを入れはじめた段階のページをネタで
他のページのもの実は任天堂の著作権に触れる可能性があるため
自分のキャラクターと女性キャラクター
だけのページは掲載可能

ナンジャモンジャ劇場

知、か
歌謡伎に仕
人形ふりか
キョシ

牛若丸が
下入マツ
攻撃された

リチャード三世

骨

4人か=連砲5人を
格闘として
かぶゾロに
かてした
「あれは生物か?
ロボットか?
よく考えた」

かしの
生首

なによりもデスブログエフェクトか
蜷川幸雄死にそうだということ

「オレが全部、貴様の演出かできよか、心おきなく死ぬ」 主役は加藤 しゃんすく

利
フキ
おと
おと
おと

舟着の場合
安全地帯

田中達也の犬

魚が
おと
おと
おと
おと

牛若丸

おと
おと
おと

蜷川ハルヲリ-スリ-
おと死にそうだがね
ニナカワさん

魚やバスタブの
エレベーター
風船が飛ん
どは場
かた

そのおと
乗った
照明
おと

おと

ゲームラボのロボット特集、「スパロボシリーズ」と「名作ロボアニ」の記事はどちらも面白かった。

他にも、ネタが無いわけじゃなくて、ピョコタンはカトリック系の任天堂信者と、勝手にくくっていたけど、実はプロテスタント系カルヴァン派かもしれないと思っている。マックス・ウェーバーの『プロテスタンティズムと資本主義』で、カルヴァン派信者は勤勉に労働して、得られた賃金を浪費せずに貯蓄に回して、きちんと資産運用するとある。成功している有産階級にはカルヴァン派が多いので、そういう経済分析をしたのだが、ピョコタンも結果的に資産を株式に運用しているため、見た目上カルヴァン派に似ている行動をしている。（報酬を浪費せず蓄えて株式を買うならカルヴァン派と同じことをしているということだ）

玉さんのマンガの真似で、ネタのためだろうけど。

『プロテスタンティズムと資本主義』は、カルヴァン派以外の宗派については、レトリックで批判してないように、なんとか情報を読者に伝えているだろう。批判するとその宗派の教会から、「攻撃」されることがあって、場合によっては出版できないとか、そういうことが起きるから、難解な表現がされていることになっている。

データ収集して、そのデータの評価をそのまま出すと、信徒は悪口を言われたと思う（今でもピケティ批判者はそう）。具体的にはカトリック系統は給料を浪費しても、懺悔室で神父様に「ギャンブルで全部つかってしまいました—— 嫁と子供を路頭に迷わせました すいませんでした—— う`あ`——」と驚津みたいに懺悔すれば、神父様が許してくれる。再び、賭博に勤しむのである。カソリック信徒は悪口言われたと思うから、「そんなじゃねえよ。出版禁止にしてやる。ついでに誅もくれてやる」と、出版禁止だけでなく出版社にテロをすることも。ヨーロッパではイスラム教徒によるテロよりも、キリスト教徒によるテロの方が身近なものではないか。

それで表現の自由というカンネンが必要になってくる。

宗教教義上に反する科学的な発見があっても、この表現の自由というカンネンが無いと、論文として発表できない時期が、ヨーロッパでは長年続いた。コペルニクスやガリレオの例を出すまでも無く、教義に反することを書いてしまうと、弾圧される。サヴォナローラの神権政治である。（国内でカルヴァン派と同じことをしている可能性があるのは大乘仏教の浄土真宗で、もしかしたらピョコタンは真宗の檀家の家に生まれたとか、考えられるけど、どうでもいいや）

ロボットアニメの特集だから、ロボットアニメの話に戻るけど『Gのレコンギスタ』を通してみると、レコンギスタは、頓挫している。トワサンガの勢力も、GIT団も地球に領地をもてなかった。

スペースノイドの再征服運動が成就しなかったということは、子供の世代にガンダムを返すというのも同じくできないだろうと、富野監督は思っているはず。そんなに甘くはないだろうと。

ただ、クレセントシップに宇宙の人たちと地球の人たちが混成するということは、ガンダムの消費者もオールドタイプとニュータイプに混成するはずという期待はこもっている。その船で地球を巡るというのも、象徴的だ。

「ベルリ・ゼナム君！」が最終的にガンダム・ガンプラの製造地（静岡）に近い、富士山に立

つというの、象徴的だ。大陸に向かうということも、ガンプラの市場が中国にあるとほのめかしているように解釈される。

監督が声をあてた人物が、富士山のガイドを話しているのもかなり示唆的だ。

日本の最高峰を登り海外を目指せ、という若者向けのメッセージがある。（私のように「日本なんて早く見限ってさっさと海外で活躍しろ」という思想ではない）

もうひとつ、ガンプラが頂きに経ってしまったことを象徴している。

ロボットアニメの商品としてのプラモデルはガンダムしか残らなかった。バンダイ、タカラ、トミーの玩具業界三国志が、バンダイ一人勝ちになってしまった。タカラトミーの呉蜀連合でも、魏であるバンダイに対抗するのは難しい。

『ビルドファイターズ』のトライの方で、本来はタカラトミーにあるべき商品ラインナップが収録されている。『ジャイロゼッター』がもうちょっと、結果がふんばればよかったと思う。そうでないと、ロボット玩具は年齢層に分かれているといえ、戦隊ロボかガンプラしか選択肢が無い状態になる。玩具会社が統廃合で、ライバル商品が出てこなくなって、富士山の頂上に上がってしまったのだ。

その頂きから大陸に向かうのは、消費地が中国だと。すでに香港にガンプラユーザーがいるとかいないとか、そういう情報も海外事情としてあるだろう。テレビの「アジア立志伝」では、日本の特撮ヒーローやガンプラが好きな経営者とか、実際に存在することを放映している。

そして、3Dプリンターによって、今までは宗教上の理由で浸透しなかったイスラーム圏にも、「薔薇の設計図」のように三次元モデルデータを販売すれば、主力商品であるガンプラを売れるのではないかと、考えている。

人形の頭と胴体を分けて売るように、3Dプリンターと三次元モデルデータを分けて売る。食品であるハラルの玩具版、ハラルのガンプラをこれで売れるだろうと。もう世俗派の国（主に石油の産地）では、フィギュアを買っているということは、潜在的な消費者もいるだろう。

ビジネスモデルは一台一億円の3Dプリンターを100人の富豪に売って、3Dモデルデータと原材料で儲ける仕組みがいい。

日本は少子化なのだから。子供向け玩具がどうしても頭打ちになるのは仕方ない。

さて、ロボットモノは、今のラノベ業界の俺TUEEEEE系を先取りしていたのでは？ という話に移る。

『マジンガーZ』では、おじいちゃんからマジンガーを授けられた際に「（マジンガーに乗れば）お前は神にでも悪魔にもなれる」と言われ、万能性を与えられた兜甲児に感情移入した読者に、万能感を擬似的に味あわせる。

これがファンタジーを舞台とした俺TUEEEEE系に繋がる。

ロボットで俺TUEEEEEに批判的だったのが『サンボット3』『ガンダム』である。サンボット3は地域住民にとっては敵を呼び寄せる悪魔であり、ガンダムはジオン軍（枢軸国の我々）にとっては白い悪魔（なマスタング）だった。おじいちゃんの言うとおりに、悪魔の部分を表現してしまった。

一言で言えば、ラライヤさんの言うとおりにイノベーションしてしまった。それも破壊的イノベ

ーション、本当の邦訳である「秩序を乱す新結合」である。ロボットプロレスといわれた作品群を過去のモノにする。ドラッカーの言うように陳腐化されてしまう。

ロボットプロレスだから俺TUEEEEが出来たが、リアルロボット路線ではどんなに強くても軍規を乱してはいけないという、近代法的論理が働き、その最終的な終着点が『パトII』の柘植さんが軍規すら存在せず交戦できなくて部下たちを見殺しにするしかなかった…あそこでリアルロボットも見殺しにされたろう。軍隊として認められた軍規が存在しないということは、柘植の命令で反撃した場合に敵を射殺したら、当事国の普通刑法で裁かれるかもしれない。（アメリカなら銃をあらかじめ装備していても正統防衛になったりする）

以降、ロボットアニメ氷河期が到来した。そこでふんばっていたのがタカラとトミーがスポンサーのロボットアニメだったのは、今の時点から見たら、なんとも皮肉だ。

時間が経って、ロボットプロレスの「お前は神にでも悪魔にもなれる」魅力をもう一度再現したのがラノベ方面だったのは、必然だったかもしれない。ゲームがうまくできたり、魔法の力であったり、ミリタリー技術を叩き込まれた「特殊な背景」で俺TUEEEEを見せてくれるのは、長らくそういう作品が多ジャンルで出せなかった環境が起因する。（という考察を試みる）

ラノベの方面で俺TUEEEE系に批判的な作品が出始め、スクールカーストものなどのリアル系統が柘植の部下たちみたいに殺された後、どこか違うところで新世代のための俺TUEEEEが現れる。その歴史の、永劫回帰があるだけではないか？

ロボットアニメの成熟が、かつて自分が来た道を見せてくれるのである。

宇野さんの言うとおり、少年がロボットという自分のジェンダーを強化する装置に乗ることが、ロボットアニメの欲望、ひいては消費喚起であった。そこから脱皮しないと、新しいロボットアニメは生み出せないと思っているこちらとしては「ルナイズマイン」を出しているのである。これは『ジョイメカファイト』の否定でもある。

ファミコンソフトが新しいメディアだったから、ロボットプロレスの語り直しに過ぎないモノを、搭乗兵器としてのリアルロボットに作り直す。それだけの単純なお話では、「皆さんもうご満足いただけないでしょう」と。

主人公の妹が「あなたのために戦ったのよ」と言うのは、エデュケーションソフトによって、刷り込まれていただけだった。主人公のことを本当に好きだったのかすら、怪しくなる。（なんか記述的におかしな具合、辻褃のあわないことを書いていると思ったら、辻褃あわせに失敗したと思ってほしい。いや思え）

「もう戦わなくていいんだ」

というのは、実は戦うことを刷り込まれている少女に言っているのではなく、戦うことをメディアなどのあらゆるコミュニケーションによって刷り込まれた少年たちに言っているのである。「お前は本当に彼女を愛しているのか？ 映画やテレビドラマを観て刷り込まれただけじゃないか？」と少年たちを叩きのめすそんなアニメを任天堂のカネを使って、テレビ放映したい。ジョイメカの新作とamiiboの販促だからという、「お父さんやお母さんにお金を出してもらうためにガキが考えた口実（田尻さんは参考書を買うとウソをついた）」みたいな妄想アニメである。妄想総選挙では、田嶋陽子ちゃんに一票入れた。

ストーリーはあってないようなモノで最終的にはセプテンバー・イレブン（ルナイズマイン）とマーチ・イレブン（アースサーキュレーション）の対決で、又吉君が好きな小説『ジョン・レ

ノン対火星人』の名前の付け方みたいにする。「タシノキ博士とは、バイボットの天才だったのだなあ」とか。

妄想ドリームスタッフを考え、「ゲームラボ」で連載を持っていた人にあらかた声をかけて作って、ピョコタンだけが、

「ボクには声をかけてもらっていない。砂さんや見ル野栄司にまで声をかけて、ボクに声をかけてもらっていないいいい」

と、自分だけ仲間外れにされたことで泣きべそをかく。

そして、任天堂の内部留保が半分に目減りして「あのアニメ作った所為で、ボクの任天堂がああ、ボクの任天堂があああ」と、泣きっ面にハチみたいになって、面白い。

こんなアニメ観て、ジョイメカの新作ゲームやamiiboが売れるわけねえだろうが。

文藝春秋

1984年のUWF

柳澤健



『1984年のUWF』に影響を受けすぎて
タイガー・ブラウン警視総監が出てこない場でも
出して尚且つ虎のマスクをしている

付録の「1981年のタイガーマスク」も読もう

思いつきの演出

昭和ノスタルジーの魔法少女

最近、関川夏央さんの文章を引くために、『昭和三十年代演習』を読んだ。

これは『ALWAYS三丁目の夕日』への批判である。『ゼロ年代の想像力』でもあった『オトナ帝国』にはあった三十年代への痛みや汚れ“臭い”を「安全な痛み」にデオドラント化して抜いている。いわゆる歴史修正主義である。『昭和三十年代演習』では昭和三十年代を体験・体感しているはずの世代が、意外にも『ALWAYS』を事実との違いを指摘しないことを関川さんは不思議がる。（要するにフェイクヒストリーができる過程にいる）

なので昭和三十年代を舞台とした魔法少女ものをできないかなと、唐突に思った。

大枠は魔法少女モノ、小分類は昭和ノスタルジー。

最後の魔女っ娘とはじまりの魔法少女の世代が、唯一交差する年代とか、ちょっと思った。これは歴史修正主義で、1980年代でないと、魔法少女は現れない。

それなら歴史修正主義なことだし、タイムスリップしてやってくるので、いいのでは？ 解釈論だが魔法少女を歴史修正主義の象徴としてとらえて、その風刺戯画化として彼女らは登場する。

最後の魔女っ娘は、周りの皆は希望を持っているけど、これから自分たち魔女の側は廃れていくとわかっている。グロテスクでダーティな魔法は流行らないと。そこで明るい題材を挿入するために、この魔女っ娘はサイトウのおばちゃんの少女時代ということにしたい。「昭和四十年代に少女時代を送った」ではないと、年齢があわないかもしれないけど、そこは魔女の、ウィッチクラフトワークスで若作りである。

自分でも見事な辻褄あわせに舌を巻く。

魔法少女は朝ドラのヒロインみたいに後継者不足のウィザードの跡継ぎとして（もちろん騙されて）少女たちはなる。このウィザード側の首魁が安岡正篤と「隠田の行者」を合わせた人物……ムリヤリ『昭和三十年代演習』からネタを拾ってきた。本当に跡継ぎなんかになれないのにね。

魔法少女対魔女っ娘。

女性学で言うところ「姫と魔女」である。

女性を二つの世代に分けて対立させて男権を維持する中世からやってることが、近代でも続いている。女性の活用とは、こういうことをさす。そして過去に置き去りにされる魔法少女（王位継承権を与えられない者）のことをさす。

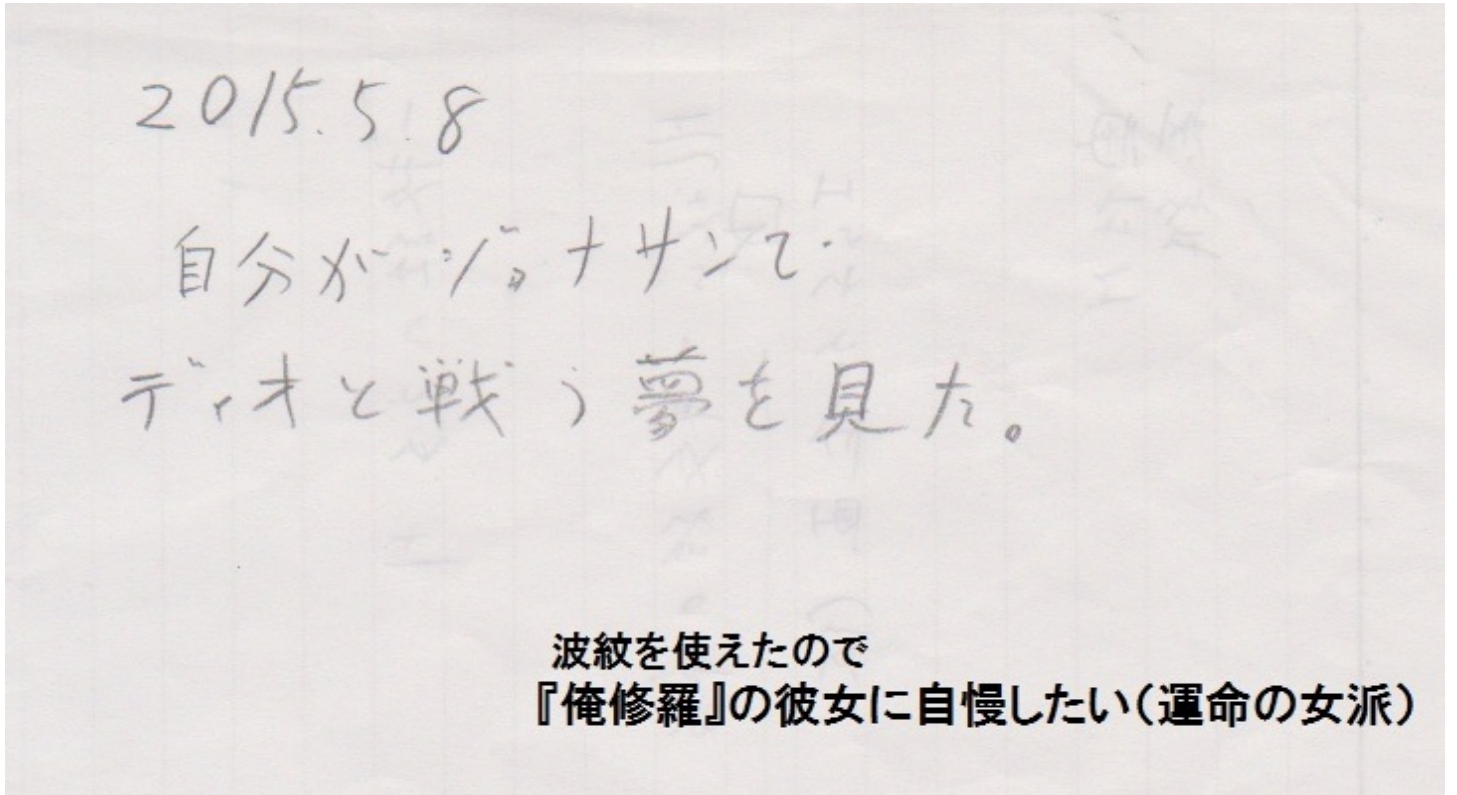
「もう、対立しなくていいよ」

という予定調和があり、ちゃぶ台返しとして、バブル期には金を儲けた社長の愛人にサイトウのおばちゃんになっていた。その手切れ金で「魔女のサイトウ」というお店を開けることができましたとさ。

めでたし、めでたし。

女の子向けパブパブでは収録できない内容。

汚泥と聖糞の魔女サイトウがかつて戦い、そして未来に帰れなかった魔法少女が転生した生まれ変わりに、小学生向けの「ウィッチ・メソッド」という本を渡す「楽しい児童漫画」の中の一挿話でいいのでは？



SIMPLE2000 ザ・入来祐作

昔、伊集院のラジオで「SIMPLE2000」シリーズのネタ募集をするコーナーがあったね。その入来祐作版。ゲームを初めて一分もしない内に開始される、アマチュア時代の対全日本代表練習試合が最難関。後のプロ野球を支えるタレントたちが揃っているため、すぐホームランを打たれる。

ケガをする前の松中。メジャーリーグに行く前の井口。

アウトカウントを間違えて外野フライのボールを観客席に投げ入れる前の谷。

阪神入団後シーズン前半で体重がみるみる落ちてその年のプロ野球選手名鑑の写真とオフでは人相が変わってしまう前の今岡。

このメンバーを擁する日本代表相手に一安打完封しないとドラフトにかからず、次に進めない（二安打でもダメ）。ゲームがうまい人に代りにやってもらうか改造で何とかしよう。

巨人時代は予算の関係で黒バックに「他球団に放出されてしまった」のナレーションだけで終了。メジャー挑戦も「飛行機が離陸する～着陸する」のリアルムービーシーンを見せた後「挑戦失敗」のナレーションで終了。現役引退シーンもマウンドを降りて花束をもらう現実にはない捏造ムービー（本人出演）で終了。

用具係りになって『バイトヘル2000』みたいなミニゲームを遊べるようになるのが本パートである。エンディングは缶コーヒーのCMのテーマ曲が流れて終わる。

「宿題おわった？」

「私のようなゲーム極右の方はイメージエポックの破産手続きに悲しみを覚えます」

『時と永遠～トキトワ～』と『闘神都市』を作った開発費がかさんで、それを埋めるのが『セブンスドラゴン』だけでは、慣用句通り「荷が重かった」のだろう。

新納さんが『世界樹』チームから離れたために、キャラクターストーリーのある『新・世界樹』になってしまったのだが、このせいで『世界樹の迷宮』の批評を私は完成させなくていいし、完成しなくていい。（伊集院のせいじゃなかったのか）

どうして新納さんが関わった会社は経営的にマズくなるのか、『ウィザードリィ外伝』のゲームスタジオの頃からなのか、それはよく調べてないので、この記事を読まれる方が、独自で調べるか想像に任せる他ない。想像に任せると、遠藤雅伸さんが「これからはモバイルに進出するから、お前らWizチームはいらないよ」と、再構築の名の下に人員整理されたかもしれない。（話を面白おかしくするために資料を読み込んで裏づけをあえてとらない）

そこからクビになってアトラスに入ったのかどうかも知らないし、『BUSHIN』『世界樹』を作った上層部と何が合ったかも知らないし、イメージエポックの方に行った理由もわからないのだが、想像力って便利だね。

アトラスが作る『ファイアーエムブレム』の新作が出るというし、早く「イムズとアリスの夢冒険」を完成させなくてはいけないと、深く思った。『世界樹の迷宮』のゲームレビューは完成しなくていいし、完成させなくていい。（一ヶ月くらい、記事を修正したり書き足してないな…ベーシックをマーシャルアーツに早く修正しないと）

…『ファイアーエムブレム』のX指定追加DLCを、イメージエポックの開発部に頼めばいいのではないかな？ これで万事解決ではないかな？ パッケージは子供の手に届くところに置ければ分割商法、アイマスを越えたと言われる批判も、なりを潜めるだろう。

横井軍平の光線銃とかミラートリックの部分ではないところを継承しているイムズ氏だから、正しいと思う。（具体的にドウとかはさすがに言えない）

宿題…だ。



実はこのイラストの元ネタだけどね



トキトワで画像検索すると出るCGをマネたラクガキ

前半部と後半部の内容、ぜんぜん関連しないけどね。繋がりがまったくない。

砂川啓介さんの告発…でもない、自白…でもない、公表によってドラえもんの音声回路が故

障していることが発覚した。

これでまた、のび太くんの音声回路と仲が悪いことを「おかわりっ！」できる。

何杯でもいける。

何杯でも、メシが食える。（『孤独のグルメ』より井之頭五郎のモノローグ）

レコーディングスタジオの待合室で顔を突き合せたくないから、スタジオ近くのゲームセンターで「ブレイクアウト」をして時間をつぶしていたドラえもんの音声回路。例のあの教授がゲーム脳だからボケたと珍説を唱えてほしい。

『脳トレ』の川島教授の方は、ボケてもゲームの腕前が落ちないのか、脳科学研究所で調べてほしい。ついでにお手玉やらせても、ぜんぜんボケ防止にならないと、実証してほしい。

皆さんも常識以前、母乳を飲む前から知っているように「ブレイクアウト」はアタリの社員がゲームプランニングをして、ウォズが回路をコンパクト化して量産・低コスト化を図ったらしい。この基盤を早く作ったタイムボーナスは、ほぼ何もしていないジョブがピンハネ。近代資本主義の搾取の構造である。海軍に入るぐらいなら海賊になれ、はこういうことだったのか。

こんなヤツを尊敬する人間の気が知れないが、資本家になりたいのだろうね。

そういえば90年代はビル・ゲイツをみんなパロディにしていたけど21世紀になると、ジョブズがパロディされる機会が多くなる。IT界限だとジョブの奇行を皆知っていたけど、それがのび太くんの音声回路と仲が悪いという話と同じく一般に認知されるようになった。

パロディと言えば、大山さんがボケ発症したのはぷりぷりトラえもんが出てきたデスブログエフェクトのせいではない。

それから、ぷりトラの声を砂川さんにあててもら…やめよう。それだけはやめよう。

それはちょっと悪意がありすぎる。私だって人の子だから、砂川さんに「このキャラクターの声をあてて下さい。さもなくば蛭子さんが声をあてるであろう」とは言えない。蛭子さんも軽度の認知症があるらしい。

もしかしたら、iPS細胞の認知症治療が発展して、大山さんが認知症を克服することも、未来ありえる。

そのとき、大山さんは砂川さんにこういうかもしれない。

「宿題、終わった？」

『ドラえもん』最終巻の復刊が待ち望まれる。（藤子F不二雄の著作権失効まで待たないと駄目だと思うけど、理研の人からは「どうしてSTAP細胞で治療しないんですか？ 私たちの研究を無視するのは科学的に良くないと思います」とダメ出しされる）

FFっぽいのが好き

「飛翔」のテーマを使うとか、ネタがバレてしまう。『スヌーピーたちのアメリカ』を読まれると、ネタがバレてしまうみたいに「メビウスがパッケージイラスト描いたソフトのアレをする気だな」と、「クイズ世界はSHOW by ショーバイ!!」で「この青年の職業は何でしょう？」というVTRに海外ドラマ「ベン・ケーシー」のテーマ曲をかけたために、山瀬まみに「もしかして弁護士？」と答えをあてられてしまうようなものだ。

『エネミーゼロ』のナイマンのやつをかけるのも、「敵はいない」ことがバレてしまう。「ゲーム音楽ヒストリア」を読むのをやめたくなる。（といいつつ、来月になったらまた読むのだけど）

ゲームラボの「ファイナルファンタジー特集」は、まず高く評価できるが、

「どうしてファイナルファンタジーの思い出はドラクエと比べるとこんなに色あせるのだろうか？」

という、「声優を大好き抱っこ」なタカピロのテレビコマーシャルナレーションを思い出されるように、FFが落ちてきている。もう国内版は制作費と海外ローカライズ費用をペイできればいいと、わりきった作り方をしていると思う。

ただ、ファイナルファンタジーがナンバリングタイトルを作れなくなるとか、そういうことが起きたら、もう日本のゲームビジネスモデルが成り立たなくなったという証拠になる。（最近、コナミもゲーム事業部を撤退するらしい）

「ゲーム作りたかったら、海外に行け」という出稼ぎ時代が始まろうとしていると思う。三田さんあたりが「好きなことしたければ、海外に行け」と「モーニング」で連載始める。

「ドラクエ研究指針」でも書いてある通り、「アメトーーク」でFF芸人はできないだろう。ご存知の通り、ドラクエ芸人はやることができた。

しかし、FF芸人は無理だろう。同じ会社だけど、許諾は得られない。まずそこが問題だし、タカピロのテレビコマーシャルナレーションのように、

「どうしてファイナルファンタジーの思い出はドラクエと比べるとこんなに色あせるのだろうか？」

と、視聴者も難色を示す。（まさか二回やるとは思わなかっただろう）

だから、日記だけどネタとして紙上でFF芸人をやってみようと思う。

「テレビ朝日の方、五社じゃないのでカンニングどころか、丸パクリしてもかまいません」

加持プロデューサーへの一方的なラブコール。

片思いである。

彼らはフィリップ・K・ディック記念賞特別賞をもらえたが、私はもらえない。と、うっかり「映『割』のラマヌジャン」の宣伝をしてしまった。

“FFっぽいのが好き”って、黒木かおるのデビュー作じゃないんだから。

どこかで、FFのキャラクターが「ナイスですね」と言っていたっけ？ 言ってないかもしれ

ないけど、言っていることにしよう。そちらの方が面白いから。

ところが、こういう「盛り」をすると、スクウェア・エニックスの側が猛烈に怒るわけだろ？あの番組のトークテーマで選ばれたら、これ以上の盛りは避けられないんだけど、それを理解していないからね。

「アメトーーク」のスタッフは気をつけてほしい。できれば、イヤな思いををすると思うから、辞めた方がいい。

得体の知れないモノを持った川島君が宮迫さんに「お前、何もってん？」と聞かれ、

「水中呼吸のマテリアです」

と答える一幕がオープニング。

岩につぶされる人のコスプレをする次長課長の井上。

川島君が「FFあるあるですけど、学校のそうじ中にホウキを持って手首だけ振って、FFごっこして叱られるというね」と自嘲気味に言う。

会場は無いも反応しない。

「RGが何か言った以来の静けさ」

「私もヒットポイントを上げるために、****書道家の母に筆で叩いてもらって、ヒットポイントが文字化けするぐらい上げてもらいましたからね」と、ケンコバが助け舟を出しても、誰も笑わない。（一応説明すると、FFIIではHPが一万以上を越えると文字化けする）

ケンコバのウソ「この間競歩の世界記録を作った鈴木選手は、ファイファンIIで勝利したときに端から端まで走るのをマネして、競歩をはじめたということで有名ですからね」と、ゼツタイに誰でもわかる大ホラをついてくれる。

VTRで直接鈴木選手に話を聞き行き、ケンコバの発言を見せて真相を確かめると「あの…ファイナルファンタジーって何ですか？」と言われて、VTR終了。

野球をするとボンヘッドでアウトになったやつに「お前はミンウか！」とつつこんでも、だれもわからない。（ミンウはファンの間では「無駄死に」の代名詞として語られている）

「光速の異名を持ち重力を資材に操り名を口にただけで呪われる女性騎士」の名をうっかり口にしてしまったがために、川島くんは眞鍋と別れることになったという、根も葉も無いいわくがあるというキャラクター。

「これのせいで、アンガ田中と眞鍋は有吉の番組でロケをするようになった有難迷惑」

このキャラクターのゲームをコラムに書いてしまったがために、エレベーターに閉じ込められてしまった人もいる。（このテキストをアップする寸前にネットニュースで眞鍋妊娠結婚の報道があり、「田中の実家に行っておいて、それは無いだろう」と思ったが、デスブログエフェクト

ではない)

ミニコーナー「天野喜孝の絵を真似してみよう」

このコーナーでは、私自ら講師として、FF初心者の視聴者のために、「この世に生きさせてはいけない」とゲームをする人に思わせるようなモンスターを描く天野喜孝みたいな絵を描けるようになる、ハウツーコーナーである。(この間やったお笑いアカデミーだと思ってほしい)

- ・ 入門編 丸にAのサインマークを真似る
- ・ 初級編 走り書きのサインを真似る
- ・ 中級編 著作権侵害で旧スクウェア側から訴えられる
- ・ 上級編 ファイファンのイメージイラストの仕事をもらう
- ・ 最終目標 24時間テレビのTシャツをデザインする

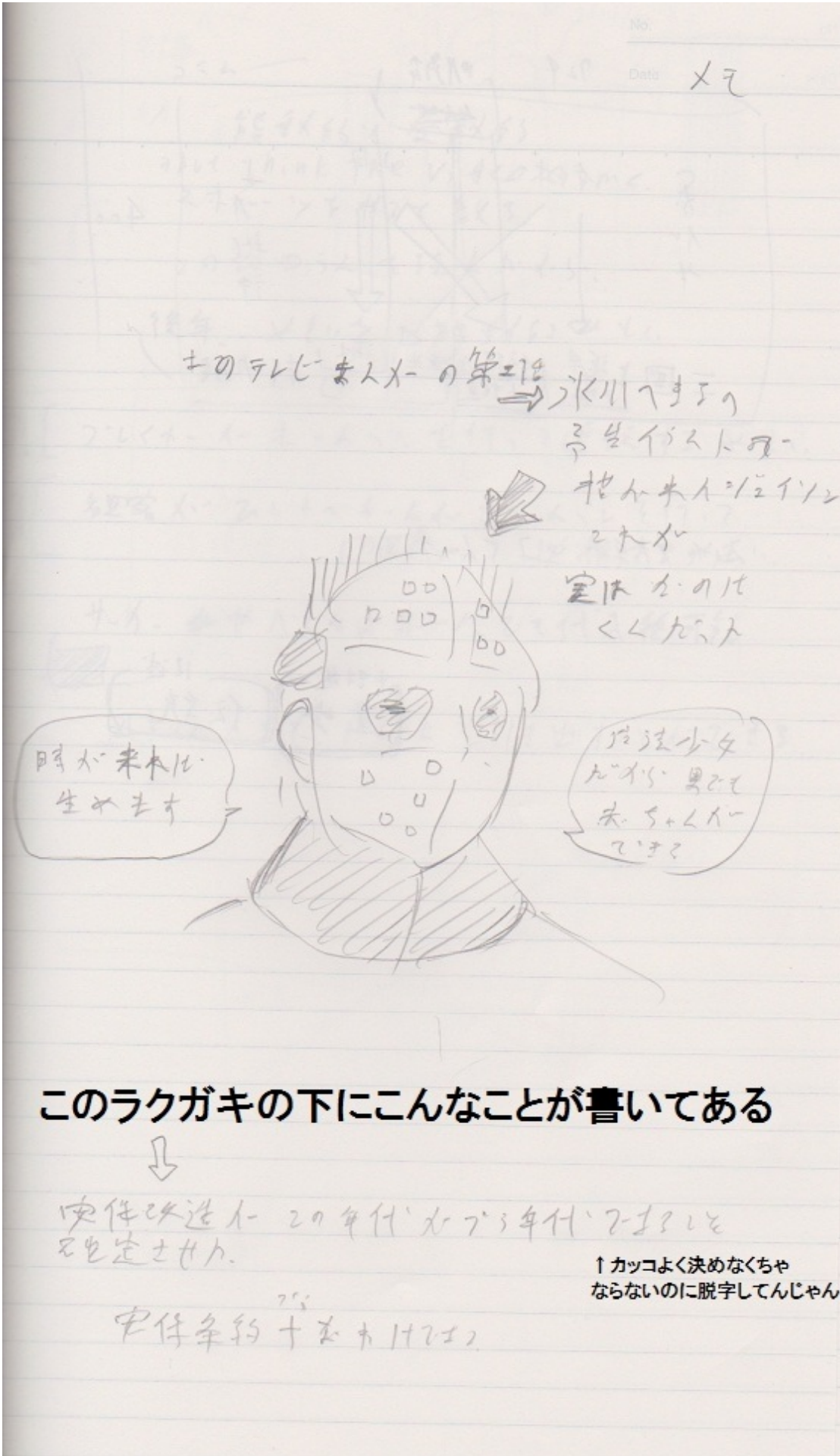
入門編だから、丸にAの『アルスラーン戦記』の挿絵を描いていた頃のサインをなぞるところからはじめる。

「サインの偽造は良くない」

「何を仰る。サインの偽造は贋作作りの基本の基本中ですよ。これが出来てから、画風模写をはじめるのが贋作業の慣わしです」

なによりもこのコーナー、天野喜孝の悪口は、スクウェアエニックスからはノークレームだから、やりたい放題できる。(だけど画面下のテロップで“サインの偽造は「印象偽造罪」「文書偽造罪」の立派な犯罪です。エガちゃんがちょっと猥褻物陳列なことするような芸人のネタだけど、たまに官憲に呼ばれることがあります”という注意書きが出る)

最後は、ホトちゃんの「ファイナルファンタジーって何？」という一言で終わる。一般の人にそんなに知名度が無いからね。



与助は別に魔法少女じゃないから
男に赤ちゃんを作らせることはできない

辻褄あわせをひとつとして
ひとつ辻褄があわなくなる
連載マンガのテンケイ的症例

仲良しことはふつくしきかな

アンとダイアナというのは、少女たちの友情関係の原形として、ずっと語り継がれるのだろうか？ テレビドラマの「花子とアン」でも花子と蓮サマの友情というストーリー全体を貫くテーマがあるが、どう考えても蓮サマとの不均衡・非対称を花子が甘んじて受け入れているように見える（わかりやすい階級差…）。蓮サマは花子に何も埋め合わせようとはしていない。（これは男性からの抑圧は表現できなくても、女性から女性への抑圧は「やってもいいよね」という裏テーマが無いかな？）

マンガ『恋と軍艦』では、アンとダイアナを髣髴させる遠藤と篠原がいる。一人は理想主義というかアンの空想を養分として生きており、片方はアンと比べれば現実主義である。（ダイアナが真正の現実主義かと問われると、疑問が無いわけではないが）

作者は西炯子。絶対に伝助に肩入れした方だと思う。それは彼女たち少女主人公に二回りも年齢の高い、親の世代ほど年齢が離れた人物に執心させるためである。

遠藤はファンタジーな美形町長に思慕を募らせ、篠原はミステリアスで流暢に日本語を話す露系外国人の秘密を探ろうといろいろちょっかいを出す。（すこし苦しいが空想好きだからファンタジーに惹かれ、現実主義だからミステリアスを探りたくなる）

そういえば晶ちゃんがギャルデビューするのも、アレクサンドルのおしおきで成人女性になりすましたのが、先に描かれていることから、後付で前にあったことをふくらませたのだろう。ちなみにアレクサンドルは環境デザイナーの今井アレクサンドルのことではない。入市アレクサンドルという作中の登場人物のことだ。

新潟市のように港がロシアと繋がっているからロシア人が町を歩いている環境ではなく、地方都市なのに何故か露系外国人が住んでいる。

（若い愛人に転ぶお父さんに感情移入してしまう）男性読者向けのサービスとして、ローカルポリティクスやレジョン上がりのマンガ家（実にマンガらしい設定である）などが表現されている。そうしたドラマを少女たちが垣間見るのだが、こういうものは『甥の一生』でも地熱発電をしようとか、時代遅れの旧車を買うとか、いろいろやっている。地面の下に室温では無い熱さが、内包しているというわけだ。

他にも少女性愛者でないと喜べない、少女のスカートがめくれているのが表紙画（扉絵）にあったりする。

そんなに媚びなくていいと思う。

正直、こういう媚びたことはしてほしくない。（姉小路さんが ど い ん と活躍するのは除く）

ただ、掲載紙が「なかよし」でありながら、このようなロリコン読者をあてこんでいるのは、そうしないと少女マンガが回転していかないからだろう。わざわざ書かなくてもいいと思うが、少女マンガの現状は苦しい。長い不況で地盤沈下が著しく、浮上が見込めない。

実はこの状況は地方政治経済とリンクする。

町長は前の阿久根市長をモデルにしているように見えるが、シチュエーションは逆だ。町長と対立する漁師のリーダーの側に寄っているのが結局辞めることになった阿久根市長である。漁師の平均収入と市に勤める公務員の平均所得にギャップがあるから、公務員の給与を下げようとしたら追い出されたのである。（ぜんぜんまったく関係ないが阿久根市には赤瀬川原平さんの地名の由来となる赤瀬川があるとされる）

これは、地方ではよくあることで、地域の首長にたいして、市民は何か不満があるものだ。それよりも、ハーヴェイ・ミルクの方が、作中の町長に近いだろう。

少し、話がズレたが、媚びないとダメなのである。

前阿久根市長は西日本新聞と確執ができたのは、彼らの取材を受けた際に市長然とした態度をとったため、マスコミに媚びないヤツという、まあ有体に言ってレッテルを貼られたわけである。マスコミ各社は西日本新聞に同調し、メディアバッシングの気運を作っていた。

その後に本人も優生学的な発言をして、彼に責任が無いわけではないが、不幸にも前阿久根市長を批難する議員たちの中に誰も、自分の年棒を減らしてもいいから福祉予算を減らさないでくれと言う人物は現れなかった。これでは財政破綻して夕張市のようにするのは、目に見えている。

地方政治ではなく、中央に目を向けると、安倍政権はかなりマスコミに媚びた活動をして、媚びたのに批判的に扱うマスコミに対しては呼びつけして「恫喝」している。

玄洋社の資金面を支えるために設立した新聞社を起源とする西日本新聞は、政治家（市長・議員、総理大臣）にはマスコミに媚びる「頭数の人たち」になってほしかったのだ。変質してしまった。

もちろん、私は媚びたマンガを描いてほしくない。

少女マンガの商業的存続が難しく、なかなかこういうことを書くのは実は気が引けるが、少しでも媚びて購読層を増やしていかななくてはならない。これが少女マンガの現実、軍艦である。

恋と軍艦とは、恋は女のモノで、軍艦などの軍事的な物事が男のモノと、受け取れなくもない。恋とは空想好きのアンの換喩であり、軍艦はかつて軍需工場を誘致したなどの現実面の表象だと、読める。作中では開発を進めようとして町が二分される。

媚びることで「開発」して読者を増やすか、媚びずに少女読者のためのモノを描いてゆっくり減びるのか。このテーマが、実は男性読者の読みに耐えられるものを『恋と軍艦』が持っていることの証だ。

基本路線は恋という空想をしている少女が、軍艦に象徴される現実に出会っていく話、と、まるで作品解説するときのレジュメに書いてあるような記述だが、この基本から外れればそうじゃないだろう。

恋とは航一とサーシャの関係で、二人を結び付けているのも引き離しているのも軍艦（あるいは軍艦に象徴されるミリタリー関係）であると、読めなくもない。

香菜ちゃんと晶ちゃんが『アン』で語られた腹心の友（になる過程を描いている）なら、町長とアレクサンドルも腹心の友である。

雑誌「なかよし」ことはふつくしきかな。

女の子向けに収録する際には、姉小路さんや愛人の話をカットして、ジェントルマンを装う。そして、未読の方にネタがバレないように登場人物が多い工夫をする。種が割れないように、少し混乱するような書き方になってしまったが、マンガを読む前に興ざめにならないためである。

ああ、まるで『アルスラーン戦記』のナルサスになったみたい気分だ。

自分も絵が下手だし。王様のご勘気を損なうことばかりやってる気がするし。

ファイエム好きと言う名の紳士

私は『トラキア776』のやり込みで、全キャラクター無敗記録クリアを目指して、途中で挫折したというより「いったい私は何をやっているのだろうか？」という、自分何やってる感に苛まれ出してやめたクチである。

「な、なんだってー!？」

次からする話とはまったく関係ないが、『ギャグマンガ日和』では“変態と言う名の紳士”という言葉がある。

全年齢、女は見えていないが子供が見ているかもしれないから、ここでは言えないがイムズは相当な紳士である。人様の使用済みの物品を自分や自分の子供に使用するという…騎士の歴史資料を紐解くと、領主の奥さんと恋仲の騎士は、領主夫妻が政略結婚のためにダンナ公認であり、馬上槍試合で奥さんの服を鎧の上に着て挑んで、服が破けるようなケガした後に酒宴でその服を奥さんが着て、騎士をダンナさんが称えるというか、現代人の我々にとっては「なんだそれは？」ということイムズ氏はしている。変態と言う名の紳士はカンケイないか。

軍記物、騎士道物語を読んで感化されたイムズ氏は、ドン・キホーテの如く風車に突っ込み、羽で身体を左半身と右半身に真っ二つになりながら、「これが本当の分割商法だっ!」と血しぶきをあげて「白夜王国」と「暗夜王国」を作っているのである。シナリオを書いたのは、あのキバヤシ。FEとキバヤシズム、そこを分割しないといけないのでは？

ごめん、もう無理だ。

ずっと、ファイアーエムブレムのファンをやってきたけど、もう弁護できない。

学校の渡り廊下の柱の横で前園正清が「まえそのまさきよです。分割商法、カッコ悪い」と、イムズ氏をなじっても、文句が言えない。「第三のシナリオ。後で買えるんでしょ？」と、予約をした人をないがしろにすると思う。キバヤシのシナリオに金を払えと？ ワインを飲みながら考えた変な話をプレイしなくちゃならないのか。格差社会だ。ずっとこの原作者のマンガを避けてきたのに、『金田一少年の事件簿』とかも友人宅で単行本を読んで済ませるだけで、「週刊少年マガジン」30号を読み飛ばせないけど、ジャロが「MMRみたいなマンガに踊らされることはないようにしないとイケない」と啓発してほしい。

そんなキバヤシナリオは、大評判が悪い（評判が大いに悪いという意味）。新作を買うかどうか、躊躇しているところだ。

シーダという魔性に憑かれたとか、三万字ぐらいどうのこうの続くのだが、こんな超くだらない日記をほのぼのと書いていたら、衝撃のネットニュースが飛び込んできた。心の「クソステーション（注・おぎやはぎのメガネびいきのコーナー）」で聞いた。

『FE i f』では、同性婚ができるととととということを知った。（あまりの驚きに「と」が多い）

同性婚を認めると、ドラクエだったらダーマ神殿で、

「おろかもめ おとこのくせに

おとことけっこんしたいと

もうすか？ それだけはならん」

と、大神官に叱られるが、そこはLGBTにやさしい任天堂。

そういえば、今月の雑誌「ゲームラボ」で任天堂特集をしていたね。（これで日付を書かなくても、いつ頃書いたかわかる）

そりゃあ、娯楽産業をしている会社になんらかのゴトを仕掛ける反社会的勢力がいるに決まっているから、会津小鉄会がケツ持ちするって、当然なわけである。新年会に我らが組長が顔出ししていたりしているに決まっている。私が好きな任天堂。戻ってほしいな。（須田さんも番組で「京都にはアンタッチャブルなところがある」と発言）

ネットニュースで知ったこの驚きのゲームシステム（男×男か女×女でマリッジプルーフ）、国内では大方の憲法学者が解釈でダメな同性婚を認めるという、第二次安倍政権の安保法制みたいなことをしている。

見直した。

イムズ氏はゲイ……バイセクシャルだったのだ。

バイだから、天才である。

名前に恥じないインテリジェンスだ。（天才の英単語はジーニアスだけど）

少女の濡れた衣服を全年齢対少年に軍事用語で換装する。『金田一少年』にも似たようなものがあった。（『コナン』にもあったから、フォレオ君の元ネター緒じゃないか）

ちゃんと同性同士でも、子供が生まれるのか？（答え・残念！ 生まれません）

それは天才と言うよりも人類が、芋虫が蝶に変態するようなものでは？

つまり、イムズ氏は変態でもあったのか。

そうか、マイキャッスルはシリング城だったのか（マルキ・ド・サドの読者限定ギャグ……シリング城はマコンドと同じくらいポピュラーな架空の地名・場所だ。こんな限定ギャグとかいらないや）。

マイルームという言葉で思い出したのは『ジュスチーナ』のクライマックスの男男女男おと……この場が全年齢であることも思い出した。彼らは変態と言う名の紳士ではない。昼の顔は善人を装い、夜にはジュスチーナに悪いことをする悪漢どもである。イムズ氏は彼らに近い。

答えが出たようだ。

ジェローム神父とか、化学者アルマニと同じ人物像だったのか。

ジェローム神父の杖でヒットポイント回復か。自分が回復しそうだと思ったら、それであるスキル「恩返し」と「ご奉仕の喜び」（ここで少し間を置いて 改蔵くんのお母さんのように「そうじゃなくて」）があるのか。なるほど。

竜脈で地形を変えるのも、アルマニが地震を起こして250万人殺すようなものだろう。

キャラクターに仮面を被ったヤツが多いのも、そういう意味だったのか。

キバヤシナリオだと白夜が金田一少年の側から、暗夜が犯人サイドから、透魔が地獄の傀儡師の暗躍だと、シナリオの内容をやる前からわかるじゃないか。それならユキムラは地獄のからくり師なのか？

己、キバヤシ。

許すまじ。

(ゲームレビュー「知性組織団とルイス・キャロルのオーダーメイド」を読まないとなんか書いてあるのか、さっぱりわからないが、いいのである。どうせこの更新情報誌は、宣伝のためにやっているのだから、本当は分割商法を悪く言えないのだ。それから、『花の慶次』のくのいち“某からしのほたる”みたいな**からしのカゲロウとか、エリーゼの「ナイショのアクシデント」とか、まだまだネタはあるけど、それはレギュレーション上やめよう)

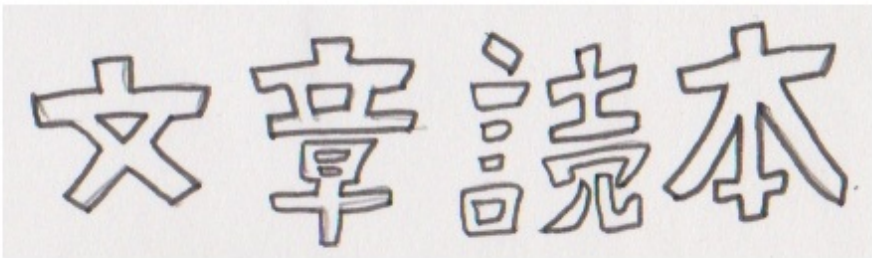
おまけ 標準分布関数

F E 特集では成否判定に関数を使っていると記事に書かれているが、これは標準分布関数だ。サイコロを二つ以上振れば、期待値周辺に乱数が集まる。それを成否判定に使っている。記事を読めば、確率が低ければ低いほど当たらなくなる、高ければ高いほど当たるとあるのは、この標準分布関数を使えば偏りを操作できるからだ。

それでも偏りは生まれると『あそびじゃないの』を読んで知っていたから、『聖戦の系譜』で標準分布関数を使っていると、ハタチ過ぎぐらいで気づいていた(ずいぶん遅咲きである)。

自分でも気づいたり感じたりしたから普通、知識としてインプットさえすれば、誰でも感じる

。



文 章 読 本

広告

五島千尋

アマゾンで売っているよ

定価税抜き600円
正月やめでたい時は半額もある

三島文読も読んでね

「731」でもやるかもしれないネタなので、一応書いておいた。

映画の『ノルウェイの森』は駄作だった

原作にあるキュウリを食ってたら
ミドリのお父さんが食べたいという
シーンをカットした

キュウリは村上のアトリビュート
だから絶対カットしちゃダメ
『世界の終わりとハードボイルドワンダーランド』
でも食っているキュウリサンドとか

咽頭結核にかかった
フランツ・カフカに食べさせたかった
キュウリなわけで
カフカ賞をもらえた根拠ともいえるし
この映画ダメだよ

村上春樹の原作を映画化すると
どうやっても読者にこう文句を言われる
キレイな絵を作っている映画だけど
『ノル森』である必要はない

なんで、収録しなかったのか、おわかりだと思う。

結局「ボクが好きな村上春樹じゃない」と映画を否定するファンの戯言と同じに聞こえてしまう。こちらは文芸批評的に問題があると主張しているけど、受け手はそうは思わないだろう。

あの映画はミドリのお父さんに胡瓜食わせないとダメだよ。仕方ないから、腹いせに胡瓜のネタを四コママンガでたくさん作った（あとづけ設定）。

後、イラストや写真を用意するのがメンドウだった。

家庭菜園のキュウリは形が悪いので、使えなかった。

随筆と批評



書評もあるよ

検索ワードに『Gのレコンギスタ』とある以上、何かひとつ無いといけないと考えて、この記事を書いている。まだ、2014年の12月で、話は中盤に入った頃である。新年が明けて番組を見た後、本項がどれほど正確であるのか、それとも目測を見誤っているのか、楽しみといえば楽しみであるが、恐ろしくもある。

とりあえず、1クール13話までの話にしておこう。そうでないとエッセイが完結しない。

少し解説があるだろうことを、まず書く。

Gセルフを鹵獲したのに、なぜ逃がしたのかは、キャピタル・アーミーの勢力拡大のため。

クンパ・ルシータ大佐（アルゼンチンタンゴの曲名から偽名と示される？）の独り言が、なにかストーリー上の示唆があると思われるが、アイーダさんにわざとベルリら連れて逃がして、アーミーの既成事実化を謀るためにやっている。海賊の対策や防備は、キャピタル・ガードが行う。しかし、海賊の討伐はアーミーが行い、運行長官の息子ベルリ奪還を大義名分で戦力増強投下ができる。

シャア・アズナブルの「戦いは二手三手先に打つもの」だから、その後の新モビルスーツ開発投入が迅速なものも、ある程度見越していたのだろう。

アイーダさんだけを逃がしたら、ガードの迎撃だけですんでいる。そのためアーミー不要説が出てくる。ベルリも連れさせて逃すのが、今後の展開として重要だったのだ。ここで悪いあだ名がついているアイーダさんが有能だと、そもそも最初に鹵獲される物語上の都合が合わなくなる。モビルスーツのパイロットとして、無能の役回りをしないと、いけない。（ニュータイプ思想などは予定より二ヶ月早く終了が宣言されて数話短縮になり、オチをつけるための急ごしらえの設定だったという考察に、放送20年後ぐらいに「そうだよ」とゲロってくれたから、20年後にわかるんじゃないか）

Gセルフを使うときも、後で触れる対談で、攻撃する時にだけビームサーベルの刀身は出さないものだけど、威嚇なのか必殺兵器を出してしまう（手の内を明かす）あたり、少し足りない。

このように、お芝居の役回りをするキャラクターはどうしても出てくる。キャラクターのことを続けると、気になるのはライヤが主人公のベルリに言わず、クリムに「キレイな瞳」と言っている。（『ビルドファイターズトライ』だとちゃんと主人公に言っているけど？ 瞳じゃなくてガンプラにだけどね）

これはラァアがアムロに「キレイな瞳」と言っていたことの、自己模倣だと思われる。「瞳が赤い」というのは、アイリスサインやレイハントン・コードのことだろう。酸欠によって、テム・レイが宇宙病にかかってしまうようになっているのも、何かあるような気がする。

そんなクリムはランバ・ラルで、大統領の親父がジンバ・ラルな気がする。

ミックが女王というのは、セイラさんなのか、ハモンさんなのか、後のディアナなのか、「それは、まだわからない」。場合によって、ベルトーチカ・チルドレン、その末裔かもしれない。（これだけ書けば、どれかひとつ当たるだろう）

法王がノレド・ナグを気にかけているのも、何かあるだろう。

聖域としてあるザクト・ポルクがザック・トレーガーかもしれないし、トワサンガが月の裏側にあるということは、サイドスリーで“巨大な敵”のファーストの歌詞通りの物量を見せる。キャラクターの衣装はジオン軍に近く、モビルスーツはザンスカールに近い（後述するようにオーラバトラー的ともいえる）。

そろそろモビルスーツのことを触れねばならない。

宇宙世紀の系統をまずあげる。

レクテンがボールの胴体に足があり、レック・スノーがジムキャノン。カットシーはジム。いわゆる連邦系である。

ジャハナムはザクで、アーマーザガンはクイン・マンサとザクIIを足して割ったようなモビルアーマー。ヘカテーはドム・ドライセン系に見える。カラーリングは違っても、グリモアは旧ザクでジオン開発のモビルスーツの範囲と思われる。

雑誌などでプラモデルの原形が先に出ていたジャイオンは別の系統、クロスボーンやザンスカールではないか？

バックパックがGアーマーのユニット接続を富野監督が納得できる形にしたものではないか。モビルスーツにブースターをつけるのも、はじめは玩具会社（クローバー）の「合体メカが売れるから」という要請であったGアーマーの登場、それに折り合いをつけるとあの形になる。

GファイターやGブースターを再考証して、機体変化やモビルスーツ戦の役割でサブフライト機（エフラグやスカイスコップ）やフロントライン（この場合「戦場の前線」）へ行くための強化推進装置として使うのが、適切と判断している。戦車だけでなく、軍用車輛も戦場では必要、というミリタリー知識の裏づけだろう。

ここまでなら、たしかに宇宙世紀のモビルスーツの進歩の系統に入る。

だが、どうも他の富野作品からも、メカデザインが引かれているようなのだ。

アルケインがエルガイムマーク2、パワーランチャーが対艦砲になっている。ダバ・マイロードが本来王族であり、アイダさんも「姫」扱いされているから、王族の機体としての扱いではないか。

エルフ・ブルックが合体しないイデオン、かもしれないし変形することからZガンダムに似ているのか、似ていないのか、少し判断に迷うけど、セリフから察するに試作機エルフ・ブルがあり、その量産機でエルフ・ブルックがあるらしい。メタスとZガンダムの関係かもしれない。付け加えればエルフ・ブルが宇宙空間で全身にあるいくつものビーム兵器を使用するのは、マクロスではなくイデオンに近いと思うのは、私個人の印象にすぎないだろうか。（ザンガ・ルブとかはとりあえず置いておく。ルブ系の話はするな）

球体人形的マックナイフはこのエルフの後継機体（その逆のγガンダム）であったのかもしれない。（機械人形の前々身でターンXの先祖かも）

ザブングルに光が出たら、ウーシアである。モビルスーツではない二足歩行の補助移動装置は、ザブングルに出ていたメカだろう。（ウーシアがマウンテンゴリラならモンテローロはサイで、グリモアはサル。エルフ・ブルックがキリンでマックナイフはリスザルか？ 後半戦に入ってから出てくる宇宙産の機体は虫をモデルにしているよう…ということはオーラバトラーか？

)

ムービリティの小型ウォーカーマシンも『ザブングル』から、引かれている。

ピンクのトリッキーパックはオーラバトラーの甲殻を髣髴させ、「オーラカ」が飛び出して機体に不具合を起こさせる。

これらのモビルスーツ等や艦船を作れる「ヘルメスの薔薇の設計図」とは、三次元モデルデータだろう。地上に3Dプリンターがあるから兵器が作れる。海賊のアジトに繋がっているカリブ海洋研究所（大河原ファクトリーではない）には、たぶんあるはず。今風の言い方であれば、こう表現されるが、富野作品で参照できるものは、実はある。それが『ブレンパワード』だ。オーガニックディスクが再生されると、ブレンパワードになるように、「薔薇」情報を3Dプリンターにかけるとモビルスーツや軍艦ができる。（近年の3Dプリンターによる銃製造が予測通り社会問題化しているのをロボット兵器版として表現されている）

永野護が遠藤雅伸に「なんでディスクを再生すると、ロボットになるの？」と聞かれ、「それは監督に聞いてくれ！」の、監督からの答えではないか？ 有機体の材料状態のディスクになっていて、再生するとロボットに構成される『ブレン』の設定が、『G-レコ』になると、3Dプリンターに意識されている。

これらのことだけなら、「これはキミが観てきた全ての富野アニメの続編だ！」と、言えるかもしれない。飛行を助けるサブフライト機は、『Z』あたりから出始め、パイロットが乗る点で『Vガン』に似たようなものはあるが、もしかしたらルカー（『トリトン』の白イルカ）に近いかもしれない。

モビルスーツではないが、科学技術を復興させないのは、地球環境保護の名目だが、『ザンボッド3』の科学文明を発展させた地球人を悪とみなすことの換喩になっている。『ダイターン3』のネタもあるかもしれないが、未見なのでわからない。

ただ、富野監督のアニメ作品のみでは、説明がつかないものがある。

大きなリソース（資源）となっているのは、MSVことモビルスーツヴァリエーションだろう。

歴史的に見ても、当初はプラモデルのラインナップを増やす企みで、作中に登場しないキャラクターのカスタム機などを「商品」として流通させていた。それが『Z』から『ZZ』にかけて、アニメ本編にもMSVは登場していた。

マックナイフのカスタム機のフェイスはレッドウォーリアことシャア専用ガンダムに似ている。（『ガンダムビルドファイターズトライ』によるとパーフェクトガンダム・タイプ3らしい）

レック・スノーはジムのカスタム機のヴァリエーションではなく、フルアーマーガンダムの方ではないのか。

クリーム専用ジャハナムはゲームなどに出てくるランバ・ラル専用ザクと見立てれば、モンテローは実はグフだったということか？

アサルト・バックパックは、ひとつはパーフェクトガンダムがモチーフ源になっていると思われる、もうひとつ『SEED』などで似たような機体がある。『ファイブスター物語』のヤクト・ミラージュの支援機ルージュ・ミラージュが起源と思われるが、そこは確定できていない。（こ

こまでくるとエプシィ・ガンダムも持ち出したくなる)

他の作品の話題にも触れた以上、富野ガンダムやMSV以外からのリソース、さらにその外にも触れなくてはいけない。

高トルク・パックは立体機動装置、あの回の絵コンテ・演出を手がけた荒木哲郎が監督した『進撃の巨人』のテイストがある(個人的に『学園黙示録』からモビルスーツが狙撃を避けるようなモノもほしかった)。最近調達してきた情報によると、富野監督はアニメの『進撃』は観ていないらしい。ついでに高トルクは『ガイア・ギア』にその概念がある機体がある。

オープニングでは映像があるはずの、リフレクター・パックをして試作機エルフ・ブルを追いかけて、盾で上体と下体を分ける数カットは、京田知己さんの絵コンテから察するに、『エウレカセヴン』で後二三話足りないモノと同じ。しかし、年明けの「Newtype」で大事なアニメーターを投じて作った大切なカットなのだが、そのカットを富野監督が「切った」という発言をプロデューサーがしている。あなどれない。

さすがにビデオソフト版では、ちゃんと繋がったシークエンスになっていると予想していたが、どうやら、そこでもカットされたままなのだろう。ビデオソフトを購入してくれた人用に、そこはシークエンスを繋げた特典映像があるとか、サービスしてほしい。(多分、アンダーグラウンドなサイトではマッド映像が…)

さらに言えば、大気圏用バックパックはドラグナーに似ている。その前にバイファムのスリングバニアーがあり、D-1には火力と電子戦強化を高める強化ユニット(キャバリアー0←アルファベットのオー)がある。なつかしいなあ。

少し角度を変えて、「ガンダムエース」の読者は、富野監督がいろんな人と対談して、いろんな悪知恵を吸収していたのは、知っている。コーナー名は「教えてください。富野です」である。この対談の構成を手がけたのが、『そこあに』の蒔田陽平さんなのだが、横で見えていたはずなのに、何故かポッドキャストではそれを触れない。(これマキタ違いの可能性もあるので、『そこあに』のサポートをしてあげなさい)

これは『そこあに』が「そこそこアニメを語る」番組だから、語らなくて正解。私のように『もののけ姫』を深く語るために、網野善彦の『日本論の視座』を読んでそこそこじゃないことを語る場ではないからだ。「G-レコ」の話を深化させるには、この対談はどうしても触れないといけない重要資料だ。

具体的に関係あるだろうと思うのが、寺の住職(スコード教?)とか、眼科の医者たち(マスクの仮面の視覚補助)とか、青木義男(宇宙エレベーター)とか、なんらかの影響はあっただろう。もしかしたら、親子で神輿を作っている人たちの話の影響で、カシーバ・ミコシが出てきたのかもしれない。(バララのヘッドホンは聴覚補助なのか?)

藤森照信ことテルボとも対談しているが、あまり影響を感じる建築物は出ていない…思い出した! 四谷階段がある。2話Aパートの終了付近で、ベルリが駆け上がってカベにぶつかった学会の二大発見物のひとつ。

路上観察学の学識ある分類によると、純粹階段というのが四谷階段の大枠の分類名だ。

路上観察学会の座談会で、路上観察は舞台セットに応用はできると、語っていた。妹尾河童は

考現学的に街を歩いて、そうして見つけたトマソン物件を別役実の不条理劇のセットに使っていたらしい。たしかに不条理とトマソン物件は、親和性がある。では、『Gのレコンギスタ』は不条理劇なのかと言うと、そんなことはない。（ついつい断言してしまったが、よく考えたら自分の恋人を弟に撃ち殺される…関心を寄せた子をスパイと間違っ撃ち殺す『イデオン』を思い出した）

話を戻そう。

タカタのエアバックを作っている人と対談したから、衝撃時に透明エアバックが出るのではないかと思って調べてみたら、カーボンナノチューブの飯島さんとも対談していない。期待外れである。

だが、それでも「教えてください。富野です」は「Gレコ」のアンチョコだ。

もうひとつのアンチョコは、コバケンもテレビ番組で読んでいた監督の著した『映像の原則』である。で、この映像の構成の技術的高さは、ある種の中毒性に近いめまいを生み出す。さきほどの蒔田さんが何度も見返すのは、そのため。富野監督自ら切ったモノは、他のコンテを切った人とは一段も二段も質が高い。（絵コンテやネームは業界用語で「切る」という動詞で表現する）

男性だから語尾に「だぜ」とか言うべきじゃないとか書いてあって、そのためケモちゃんがあんなしゃべり方に…うっかり口を滑らせた。怒鳴るときには、お姉言葉になるとか、わかりやすく説明すればフックをつけるための台詞回しであるし、男性である私自身も怒鳴るときに語気を和らげるために語尾を「しなさいよ」とか言う日常のリアリズムである。（この方向の日常のリアリズムは『ガンダム』辺りからアニメで表現するのが顕著になってきた）

基本的な文法は守るけれど、ヌーベルヴァーク的な変化球のようなカット割も否定しないと、書いてある。くだんの切ってしまったカットも、その理由がある。

話を戻しているようで、戻していないのだが、対談集から外れて岡田斗司夫との対談も重要である。

『オタク学入門』の新潮文庫版の対談で、ビームサーベルの使い方と地球で人類は生き残れるか？ という問題提起をしている。

よく、ガンダムのビームサーベルは『スターウォーズ』のライトセーバーの方が早いと言われるが、企画段階では『SW』が公開される前にビームサーベルを思いつき、アニメのように太くなく細く描いてほしかったのに、演出が太く描いてしまったとたしか語っていた。また、必殺兵器だから常に出しておかず、エネルギーも消耗するから、使う時にしかビームサーベルを出さない。

今回は、Gセルフのビームサーベルは細長く、威嚇行為として出したアイーダさん以外はビームサーベルを出しっぱなしにはしない。エアブラシによる粒子が飛ぶ表現も、やりたかったのだろう。

人類は二千年後まで生きれるのか？ という話題もある。

大量消費によるゴミ問題を抱えている地球が二千年後も存続するのは、難しい。東京ですら、第二次東京五輪以後はゴミ処理問題が深刻化するだろう。たった一両日ゴミ処理場を封鎖するだ

けで、東京の都市機能に打撃を与えることは可能と思われる（これがホントの「東京おわい騒動」だ…と思ったなら数週間かかる）。第二次東京五輪ではぜひテロリストに狙われてほしい。それも化石燃料が存在している段階であり、その後に待ち受ける深刻なエネルギー不足を配給によって解消しようとする、スコード教のような宗教戒律で統治する手段が取られる。フォトン・バッテリーの配給によるエネルギーを抑えて、バイオマスで循環可能なところまで生活水準を落とすには、中世時代のような宗教による支配をするしかないという結論に至ったのが、『G-レコ』である。

対して岡田は批判的に『Gレコ』を評価しているらしい。「マンガ夜話」の視聴者であれば、批判があっても驚くことはない。驚くことじゃないけど、やはり反発もある。例の夏目さんの言葉を引けば、自分の好きな作品をけなされると、自分がけなされた気分になる。自分の個人史とマンガ史では、作品の評価は違うように、自分の個人史とアニメ史は評価は違うだろう。

岡田の場合、炎上を誘発しようとした意図は無かったのか？ という問題もあるので、深く突っ込むべきではないな。

そんな岡田との対談、「教えて下さい。富野です」を含めても、一番重要なのは、永野護との対談だ。

これが間違いなく、大きい。

2001年2月20日に行われたこの対談で、永野は「子供たちを集めて、次の作品を作ればいいんだ」と言う発言をしている。富野監督は文面を読む限りでは乗り気では無かったらしい。だが、結果的にトミノコ族ではないと思うが、ガンダムの影響を受けてきた「子供たち」で『Gレコ』は作られている。

富野アニメの視聴者であった安田朗のメカデザインからはじまり、コヤマシゲトさんなど、ガンダムで育ったと見られる人たちが多数デザインに参加している。

そして、自分たちが関わった環境から、持ち寄ってきている。

Gセルフの色が変わるのも、ゲームから来ている。富野監督が嫉妬に来るってサービス・ゲームに火つけテロをしようと思ったと話している『バーチャロン』のテムジンの肩のシルエットに、Gセルフは似ている。

バックパックでカラーリングが変わるのも、コンパチキャラから2P色違いのヴァリエーションを増やしたような、ゲームからの「文脈」を引いてきたようだ。（パーフェクト・バックパックの登場で、「これはロックマンです」と言えるが、それは後だしジャンケンなので、月光蝶）

日付から考えると、『ファイブスター物語』で振ったネタが回収されるまで十数年かかるのと同じで、永野の発言を回収するまで、13年六ヶ月ぐらいかかっている。

そこは、子供たちの言うとおりにしなくていいだろう。

最後に、西洋絵画との類似に触れ、その背景となる宗教問題を語って終わろう。

カラヴァッジョの「マタイ召命」を模したのがソシエがロラン君を呼んだシーンであるし、映画の『ターンAガンダム』のキービジュアルでターンAが手を広げるポーズはフェルディナント・ホドラーが繰り返して表現する「祈り」である。これをクラウンでベルリがGセルフを初めて動かしたときにも、同じポーズをさせている。

一応、書いておけば『V』の第二話で、ソシエが自分が所属する地域コミュニティにロランを引き入れることを認めたから「ロラン」と呼んだ「ロラン召命」をしたから、最終話でロランと別れるとき、ソシエは泣く。自分がロランを選んだのに、ロランは自分を選んでくれなかったのだ。

ということは、「祈り」のポーズをしていることに、意味を受け取るなら一神教・契約宗教の問題となろう。突き詰めればアイドルとアイコンというキーワードが出る。

偶像と聖像。偶像がアイドルであり、聖像がアイコンである。

仏教では偶像を認めて大仏を作ることが出来る。しかしキリスト教は、神の似姿を崇めてはいけけない。だがキリストや聖母マリアの聖像は崇めてもいい。サンパウロにあるキリスト像は、「偶像じゃないのか？」と小難しい問題がある。だが、イスラーム圏では、世俗派でも偶像を持つてはいけけないが、サウジアラビアの富裕層は日本のゲームやアニメの人形、具体的にはサムス・アランのフィギュアを持っていたりする。

本来ならイスラーム教は聖像すら認めないから、人形も認めない。そのため、頭の部分と胴体を分けて売られて、家庭内で組み立てて女の子に渡すような、「迂回路」を通す。

この人形の扱いとリキルド・センチュリーのモビルスーツの扱いは似ている。したがって、スコード教はイスラーム教に近い。

頭と胴体を分けるように薔薇の設計図に分解して、組織内の製造機器（作中では見せていないが確実に3Dプリンター）で部品を建造させて組み立てる「迂回路」を通して、いわゆるタブー破りをする。

つまりリキルド・センチュリーはガンダムが聖像となった時代の物語だ。

イスラーム教圏からイベリア半島南部を取り戻すように、スペースノイドがスコード教圏から地球を取り戻す。それは聖像であるガンダムで再征服運動を、やり遂げるつもりだ。（実は13話内の範囲を超えているが、仕方ない）

ジオン公国がかつて地球を一部制圧していた頃にまで、スペースノイドの圏域を広げるレコンギスタとは、クリム君の言いまつがいはなく、モビルスーツという聖像＝ガンダムからなるスペースノイドの再征服運動なのだ。

現在で言えば、イスラミック・ステートがイベリア半島の半分からオーストリアのウィーン直前までイスラーム圏だったのだから、それを取り戻そうとする動き（この考え方は中国共産党の妄想に近い）に似ている。

そして、富野監督の言うとおりの「大人（オールドタイプ）からガンダムを取り戻す」レコンギスタでもある。つまり「子供（ニュータイプ）にガンダムを返す」という主題と一致するのである。だからこそ、気が進まなかったはずなのに「子供たちを集めて」作ったのだ。奇しくも、ジオン・ズム・ダイクンの思想に到達している。

それが成功するかは、今後にかかっているが、監督の祈りとしてこちらは受け止める。

「祈らなくても、祈れ！」

遊戯理科学・幽環派は、二一世紀最後の魔術である。

ルドロジーとして異端であり、けして後衛が控えた前衛でありえない。

呪術から宗教へ、宗教から科学へという新結合性は無い。

呪術が宗教になり、宗教が科学になり、科学が呪術と変わりなくなる循環があるだけだ。

遊環構造がそこにあるだけだ。

ゲームニクスとは、技術遊理学としておく。

幽環派は応用遊理学である。純粋遊理学の時代は二十世紀に終わった。まだ終わっていないなら、私が止めを刺す。王権を篡奪し、帝政を敷く。

なぜなら、遊理学の帝国主義という立場を取る。

あらゆる学問を貪欲に併呑し、植民地とし、搾取し、富を集積する。

これが我々の本源的蓄積である。我らの君主の中の君主、ゲームの神と三位一体であらせられるお方への供物。

形而上学は遊理学に屈するために生まれたのだ。

もっとも危険な娯楽学、これが人文科学の果て（end of culture science）である。

幽環派は最新の幻説学にして、おわりの幻説学だ。

私は月光仮面に滅ぼされた幽霊党の生き残りであると考えてもらいたい。

ジャパン・ルドロジーの主流になれない宿命を負った幽環派が如何ほどのものか、まず設問をたてよう。

設問画像挿入

幽環派はルドロジーの設問をたてることができる。それは遅れたこととみなされている。

すでにカイヨワを土台とし、仙田満先生を基礎とした我々はこの設問に答えることができる。カイヨワが四つに区画整地した上に、仙田先生によって遊環構造のアーキテクチャーは建てられている。その遊戯の神殿の秘奥に吊るされた十字架が秘蹟を見せてくれる。

「ベンゼンのウロボロス、それを腑分けせん。」

炭素はプレストラクチャーに置換される。

水素はあそび空間に置換できる。

原子価が二対で接続されている部分は道スペースとして機能する。

七つのプレストラクチャーで足りないものがある。

それが乗り物プレストラクチャーである。

塔を模し、廊を模し、乗り物を模す。

原始人の積み上げたドルメンの如く小さな物を、宇宙樹のような屋根を、

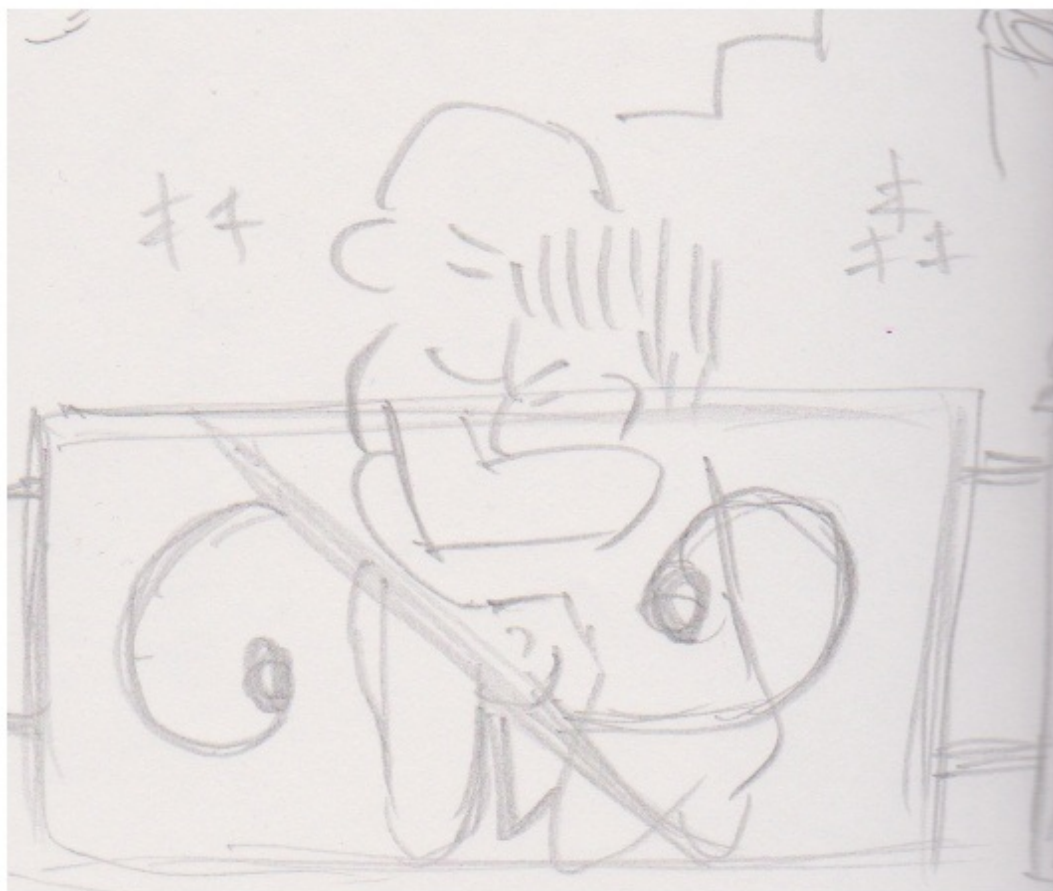
八つのプレストラクチャーが幽環派のオクテット則である。

網状は脳内ニューロンの模擬である。

つまり、ベンゼンを脳化すると遊環構造となる。これが聖別である。

環状が単調、メジャーであり、網状がマイナーの変調である。これを直交させるバイロジカルを組み込む。

ディ...リスペクトとは
「」



執筆中

魔法少女リリカルなのは
の名場面を再現

たまにこういうの書くね

そろそろたかじんの番組のことを語る頃合になってきたと思う。

「たかじんNOマネー」と「たかじんのそこまで言って委員会」の話題だ。

保守系バラエティー番組とひとくくりにできる。

下世話な金の話の「NOマネー」はおいといて、「そこまで言って委員会」に偏った内容になる

。

まあ、ありきたりな番組紹介をすると、中国韓国北朝鮮の悪口を出演者が「そこまで言ってイイんかい？」と視聴者である側がつつい思ってしまうようなことを発言するのだが、やしきたかじんは在日二世らしい。

南北どちらに籍を置いているのか、生前帰化済みなのか、どういうことになっているのか、よくわからないのだが、ともかく保守系統の討論番組の司会をするというのは、いったいどういう心情であったのか、そこがよくわからない。ついでにさくらさんのことも。（後日、北朝鮮籍を持った在日の方と日本人のハーフであると判明…しても心情はよくわからない）

ひとつ考えられるのが、視聴率第一主義だ。

視聴率が高ければ、好き勝手なそれこそ「そこまで言ってイイんかい？」なことも発言できる。さすがにヤバすぎる発言は、機関銃掃射の音響を被せて加工はしているが。

視聴率の源泉となったのは、もう高齢にさしかかった団塊世代で、サイレントマジョリティーだった保守層に寄った番組作りをしている。各層に右寄り左寄りのグループがいるのだが、団塊世代が「数字」を持っており、彼らにとって口当たりのいいことを言う。番組を振り返ってみると、「ン？」と思う発言がいろいろとあるのだ。

彼らボリュームを持っているとされる視聴者層が番組を支えていた。普通、上品ぶった討論番組なら、左翼思想が優勢で番組を持っていく優等生的編集製作をするものだけど、彼ら視聴者のニーズにあったことをしているのが「言って委員会」方式だ。

そうした、今までの番組作りの反発もあったろう。

左翼思想的なことが幅をきかせすぎて、みんな倦んでいた。そこに風が変わったのは、北朝鮮の拉致事件が事実として発覚したあたりからだろう。

小林よしのりの言うとおりに、新左翼にたいしての反発があって右翼バブルが起きてから、保守の二極分解が起きた。（こうしたことはSFファンの間でも似たようなことが起きてSFの読者の絶対数が減っていった）

増えた保守層がネット右翼・バカ右翼といわれる大衆右翼と、知識人としての右派知識人に分解して、同じ系統に属していると言えないくらい溝が深まった。右派知識人が増えた大衆右翼に喜ぶようなことを書いてしまい…いや、右翼も実は左翼と同じく、不正をするとバレてしまったのだ。

有名な「ルーズヴェルトは真珠湾攻撃を事前に知っていた説は捏造」が発覚したあたりから、保守系論者が吉田清治証言と同様のデマゴギーをやっていることに、小林の中で失望があったろう。

「なんだ、お前ら右翼も、サヨクと同じようにデマするんじゃないか！」

と、怒り狂っていたかもしれない。

サヨク・左翼のデマゴギーを批判しておいて、それはないだろうと私も思う。

右傾した論客家たちの発言は、デマゴギーがけっこうある。

それを今更、根掘り葉掘り穿り返したりしないが、たかじんの番組がどのような役割を果たしていたか、朝ドラのヒロインが老人介護師であるように、検証が必要だ。

どうも、話が脱線する。

まず、右翼や保守、左翼やリベラルというのはどういうものなのか、二つをあわせてリベラル保守などをちょっと説明する。リベラル保守というのは、語義矛盾しているような感覚があるようで、正しい部分もある。だが、リベラルはどのリベラルなのかで、意味あいが違う。

母語・国語としての意味が「自由」であるなら、共和党の自警のために銃を持つ自由もリベラルだし、ジョン・ロールズの平等を担保しないと自由ではないリベラリズムもリベラルだし、革新自由主義もリベラルだ。さらに絶対自由主義者のリバタリアンもリベラルなのだ。発話されたリベラルは、革新系統のことを言う。（リベルタンやリベルティーナは違う意味である）

「言って委員会」を支持しているのは、基本的には保守系統の自由であり、それもリベラルはリベラルなのだが、中身は新・自由主義者だろう（あるいは誤解して絶対自由を求めているかも）。革新的・先進的な考えとして発話されるリベラルとは違う。共産主義や社会主義はもはやリベラルではないのが、20世紀で我々はすでに経験している。

新自由主義を支持する保守から相対的に左寄り、つまりリベラル左派は、ケインズ的な経済思想、さらに左に進めば社会主義や計画経済だろう。問題は自民党はケインズの財政出動をやりすぎて、日本を借金まみれにした。

（これはちょっとノーランチャートの話になってくるから別項だ）

本筋から離れそうなので、リベラル保守は各自自分で調べることにしてもらおうとして、たかじんの番組、それも「言って委員会」にしぼろう。

種明かしの話をすると「言って委員会」の出演者たちはFOXニュースに出てくる人たちとそっくりなのだ。「サイレントマジョリティーだった保守層に寄った番組作りをしている」と前述しているが、実はFOXテレビと同じことをしている。アメリカ保守層に寄った番組作りをしているFOXテレビは、共和党支持のおじちゃんおばちゃんが喜ぶことを朝から晩までニュースにして放送する。

FOXテレビの説明をすると、民主党の大統領ビル・クリントンがモニカ・ルインスキーの件で不適切な関係があったというのを、朝から晩までFOXニュースで流して、それに煽られて日本のテレビ局も大統領のことを報道するようになっていく。これほど簡単にプロパガンダに引っかかるところを見ると、FOXニュースの視聴者と同様な人間が大多数、テレビ局の中にいたということだ。

それは当然、視聴者の絶対数として無視できないのである。それがサイレントマジョリティーの保守層であったのは、すでに語った。

彼らのアイドルもどきがたれあろう。故三宅久行先生であった。

三宅先生もちゃんと批判しておかないと、彼を裸の老人にしてしまう。

故人となられたから、こんなことを書いても、本人が怒り狂ってこない安心があるので書くが、ビル・オライリーが「イラクとテロは関係ない」と発言した人に「シャラップ」と言ったことと同じことをしている。

だいたい田嶋陽子先生あたりが何かを言うと、「お黙りなさい」と叱責する。陽子先生も矛盾が無い発言をしていないワケじゃないので、一見三宅先生が正しいように見えるだけである。いつもアメリカの悪口を言うのに、国旗国歌問題ではアメリカのケースを引くのは、都合良すぎないか？ ならわかるが、「お黙りなさい」と、発言を封殺するのは違うと思う。（余計な知識として近代国家なら当然ある国旗に対して損壊した場合の刑法がアメリカには無い。国家主義<自由主義）

これは三宅先生よりも、陽子先生が変である。アメリカのなすことやらないことを全部文句言うのに国旗国歌問題だけは、アメリカの事例を肯定的に援用しようとするのは、平和勢力らしくない。（鎌とハンマーが日本国旗であれば平気で認めるだろうか？）

国旗国歌を承認しないのは、近代国家を否定したアナーキズムである。このケースを出したのは、中立性を少し保つだけである。

気を取り直して、番組では同性婚の問題も出る。すると三宅先生は、

「同性愛なんて、いけません！」

と、叱り声を出すのは、一瞬胸がすく思いがする。

でも共演者に同性愛者が混じっていることを考えると、とても失礼な気がする。しかし、視聴者であるその他大勢の老人は「三宅はいいこと言った」と好き勝手に思うのである。お前らが同性愛者を排斥してきたのだな。

共演者に同性愛者がいるのに、平気で「同性愛はいけない」と断じるのは、配慮が無い。情けなんて無い。

無責任な保守の放談・・・「そこまで言っていていいんかい」だからいいのか？

つまり三宅先生の中身は、排外主義者である。彼の場合、「私は排外主義じゃない」と反論すれば、自分は排外主義ではなくなると、こういうお年寄りになってしまう。しかし、同性愛がいけないというのはホモフォビアで、それは排外主義に繋がる。

そして国家主義で人口が増えていくことを是とする考え方で、同性愛者が増えるとそれにしたがって人口が増えないというなら、次の発言がおかしい。

消費税増税の論議で、ゼロ歳児から後期高齢者まで税をとるのは正しいと主張する、社会福祉理論の論述を語る三宅先生は、こども手当には否定的な発言していた。

「お金があれば、子供を産むのか？」

と、カネさえあれば少子化を食い止めることができると妄信しちゃいけないことに、共感してしまうだろう。だが、島国大和さんのブログの情報で悪いが、紙おむつ代だけで月2万5000円はふつとぶ。これでは非正規社員（派遣・非正社員）の夫婦は子供を産めない。

三宅先生が子育てをしていた記者時代は、ミドルアッパークラスの生活ができていたのだろう。毎日新聞の政治記者は、奥さんを専業主婦にできる給料があっただろう。少なくともミドルク

ラスの給与があった逃げ切り世代の先頭を走っていた。

現在では、恵まれた存在なのだが、当時では裕福ではなくけっこう当たり前の生活水準であり、戦後のベビーブーマーが新聞の大きな消費者だったから可能だった。自分は仕事にかかりきって、奥さんに子育てを任せられる。何度も書くがそれは現在、恵まれた家庭だ。

先生は現在の子育ての実態もわからない、裸の老人だった。

かわいそうに、そんなこともわからずに死んでいくのだから、同情するべきだ。逃げ切り世代のトップランナーとして幸福な時代を過ごして、派遣村で過ごしていた人たちを、見て見ぬフリしていたのだろう。

普通であれば、このような反論が出るのだが、多くは保守のサイレント・マジョリティーが視聴者であるから、批判されてこなかった。

官房機密費を本人は「もらってない」と否定しているが、札束で口を塞がれていないことには、それだけでは足りない。たとえ本人が否定しても、事実は違うかもしれない。

三宅先生はキリスト教倫理に近いのだが、アメリカの共和党を支持するバイブルベルトの福音派と近似している。

日本人の多くはキリスト教徒ではない。

石破さんみたいにカトリック教徒ではない。

つまり、三宅久行はアメリカナイズされている。この人たちは親米保守で共和主義的感覚・感性と言ったらいいだろうか。戦前生まれなのに、何故かそういう思想になっているのだ。

番組には泣き虫野郎のグレン・ベックもいる。

例の「21世紀枠に負けるなんて末代までの恥」みたいなことを言った、野球部の監督だ。エゴサーチされるといけないので、名前を出すのは控えよう。エゴサーチをして自分の評判を調べるなんて「末代までの恥」だろう。たぶん彼は、選考大会である春の選抜に21世紀枠があるのを理解していない。21世紀枠の概念をわかっちゃいない。

歴史を積み重ねた高校野球の春の全国選抜大会は、県予選を勝ち抜いた学校が集う秋の地区大会の成績で決まる。地区大会で強豪がつぶしあって、なかなか選抜されない実力ある学校に、救済措置として長らく甲子園から遠ざかっているなどの条件を満たした野球部に、敗者復活の特別枠として設けられたのが21世紀枠だ。これがいけないのなら、柔道の敗者復活戦もいけなくなる。

それはたまたま、21世紀になって枠を増やしたので、21世紀枠という名称になった経緯はあるが、いくらなんでも勝者を貶めるのは、士道に反するだろうし、教育者として未熟なところを見せてしまったと、私は評価する。（この私の評価の仕方自体も古い）

そんな彼が「委員会」にゲスト出演するのである。

授業中、特攻隊の人たちの話題をして涙を流すのも、泣き虫デマゴキのグレン・ベックみたいにしか思えない。グレン・ベックがもしかしたらカウボーイのデッドコピーなら、監督の方はサムライのデッドコピーだろう。高校野球の監督には得てしてこういう人がいる。もちろん全て

含まれるわけではないが、横柄だったり、尊大だったり、そういう人格的には問題視される人物がやっていたりする。県警と仲さえ良ければ部員を練習中に死なせても事故として処理してくれるようになる、さすがに誰しも間違えるようになるのだろう。

憲法学者という竹田恒泰が現れてから、いよいよこの番組も、終わりに近づいている。私はほぼ見なくなった。今までは予定があって見れなかったという消極的な理由であったが、積極的には見なくなったと言っている。

たしかに彼は保守層が喜ぶようなことを言ってくれる。

だが、彼が皇族復帰のための地盤固めに番組が利用されているのは、いただけない。皇族復帰を画策しているのは、いくらなんでも穿ちすぎたろうという見方もあるが、現在の竹田氏には、いぶかしいところがある。（もしかしたら新左翼的な思想が流行っていたら彼はそういう発言をして大衆の支持を得ようとしたかもしれない）

父親の竹田恒和がよくない噂が流れていて、奥さんを嫁にもらって、その実家の財産をしゃぶりつくして金が無くなると嫁を捨てて、新しい嫁さんを迎えたと実しやかに囁かれている。見習わ…ブレるのでやめよう。

なんか、金に汚くて日本オリンピック協会の会長職は名誉職で、給与が協会から出なかったとされるのを、年二千万ぐらいの金を恒和氏の代になって、出させるようにしたらしい。

それ、選手強化費に使えよ。

給与が支払われるようになって、五輪招致が失敗したら、大変だったろう。

番組の良心、所功さんまでオルグされてしまい、女性宮家ではなく竹田家の皇族復活に「否定はしない」方向に傾いてしまった。（「子供が多い明治天皇からの末裔の皇族復帰を否定しない」というが女性宮家で十分）

だがあんな奴、皇族にしちゃ、ダメだろ。

仮に宮内庁が内親王・女王の結婚相手に竹田が指名されたら、身辺調査で「やめろ！ それだけはやめろ！」となるだろう。竹田はヒゲの殿下が自分に娘をくれると吹聴しているが、事実なら宮内庁職員の阻止諫言があったろう。これが私の想像ではなく実際にあったとしたら、その職員は臣の中の臣である。

しかし、こんな記事を書いている最中に、状況が変わってしまっていることに気づいた。

ご存知のように、どこのテレビ番組も保守政権である自民党の悪口を言わなくなった。第二次安倍政権発足後、メディアコントロールにかなり力を入れている。実はその「試金石」となっていたのが、やしきたかじんと交流である。視聴者であれば民主党政権下の頃にたかじんと温泉に行き、番組が安倍寄りになっていくのを見ていただろう。懐柔策がうまくいったことに味をしめたのだろう、その後に官邸でマスコミ関係のトップを招いて食事会を開いて、たかじんのようにしてもらおうのを“宰相A”ははじめてしまった。

全てのテレビ番組が共和党寄りのFOXテレビのように、自民党寄りのテレビ番組になろうとし

ている。その抵抗をすると、圧力が加えられる。

どう考えても、上西議員よりも下村大臣の資金調達スキームの方が重要で悪質だ。教育の首長として、被教育を受ける人間に脱法的に集金する術を学ばせているのである。現在の大手メディアではこんな皮肉さえ言えない。

このような状況になった以上、「そこまで言って委員会」は役目を終えた。

私個人が弔辞を読まなくても、視聴率表が弔事となろう。

佐藤優はゴーストライティングしているんだろうなあ。

本人が『「ズルさ」のススメ』という、インテリジェンスのかけらもない題の本を上梓したから、その「ズル」の中にはゴーストが入っているだろう。自分がだいたいのあらましをライターに言って、ある程度ライターが書いた下書きに、最後に手直しを入れる、いわゆる工房制的に記事を書いているだろう。

書籍にもしているが月刊や週刊の連載、いわゆるレギュラーの仕事の締め切りを20本近くをこなすのは、難しい。ほぼ毎日締め切りがあって、取材して読書して、場合によっては講演もしていると、どんなに時間を切り詰めても、個人ができる限界量を越える仕事をしている。

テレビの「情熱大陸」のような長期密着取材番組で、佐藤を追わないと真偽が不明のままだが、できないだろう。この取材には佐藤は応じられない。

番組を観ていればわかるが、「情熱大陸」で密着取材された作家たちは量産していない。人間の体はひとつしかないことを考えれば、現実的な労働力として、大量に作品を作ることは無理である。

その無理を有理に変える手段が、ゴーストライターだ。

つまり、ズルなのだ。

ズルを薦める人間が、ゴーストライターというズルをしていなかったら、本の名倒れである。

そうした疑いのある人物に、百田尚樹がいる。彼はボロを出してしまった。

たかじんの妻さくらさん（悪いところでは「プロ後妻業者」と呼ばれている）から話を聞き、それを元に自分が手記を起こしたという本は、百田自身が手がけたというのは、可能性として薄い。さくらさんにあてた、たかじんメモすら偽造の疑惑がある。

それは、たかじんの曲を作詞した作詞家の名前を知らなかったことで、限りなく黒に近い。やしきたかじんのことを書くなら、事前に踏まえていて当然のことを、知らなかったのとなると、やしきたかじんのことをそもそも事前に知っている者に書かせたのだろうと、推察できる。

あれだけ短期間で幅広いジャンルをこなしているのも、疑いの眼差しを向けざるをえない。

さすがに何十年もの長いキャリアを持つベテラン作家なら、いくつものジャンルを手がけると言うのは例示しなくても枚挙にいとまがないのだが、ゼロ戦から石油、虫と「週刊文春」連載の『幻庵』まで、ちょっと「？」がつく多様なジャンルの作品群である。ほぼ同じジャンルを書いていない。

反対に考えてみると、彼の場合、同じジャンルを続けて書けないのではないかと？ ある作品を書き上げたライターは、捨てられるのではないかと？ 作品の海賊行為をしているかもしれない。後に海賊と呼ばれるのは、お前のことじゃないのか？

長らく構成作家をしていたテレビマンだから「やらせ」問題について触れていいが、最近でも高齢者のブラック労働を潜入ルポした人に、つまみ食いをしようとしていたり、いろいろテレビはある。大阪方面ではちょっと情報を知っている人を出家ブローカーに仕立てる。

それは、テレビの演出としてどこまでやっていいのかの話になるので、それは主旨から離れる

から触れないが、河童を川に仕込んではいけない。

立花隆のように事務所でデータマンを幾人も雇っていると公開している工房性を敷いているのが、目に見える形なら、読者も許せるだろう。つまり透明性である。

データを揃えて、最終的に記事を書くのは、データを見通した立花であるという工房性は認めるが、ゴーストライターを雇って書き上げられた作品を自分の氏名にしてしまう「工房性」は違うのではないかとと思う。

こういうことを言ってしまうと、本来叱られるけど、業界から離れているのであえて言わせてもらうが、たぶん人気ラノベ作家になっていたら、私もゴーストライターを使うだろうなあ、と思う。野球でたえて申し訳ないが、米リトルリーグでは禁止されて優勝が剥奪される、越境選手を私立校が入学させるような話だろうか。

事務所の規模などいろいろあるが、私はビジネスとして成立させるために、そういうことはしたなと思う。私はゲームプランナーが目標であったから、その職業しかできない人間だけど、一応シナリオクオリティーの高さを担保するための、あくまでも「甲子園に優勝するために県大会優勝で切符を手に入れる」過程目標あるいは段階目標としてラノベ作家だから、魂を売るような真似とは思っていない。（人生のシナリオディレクションはできなかったんだよ）

佐藤もどちらかということ、そうなんではないか？

自分は外務官僚か神学者であって、作家はテイよく使っている「肩書き」に過ぎないと本人自身が思っているのではないだろうか。肩書きだから、ゴーストライティングさせていい。それを神はお許しになるのか？ ローマ・カソリックが免罪符を刷ってるようなものか。ロシア正教でも似たようなことをしている。

私の場合は、ゲーム開発会社の初動の運転資金を稼ぐ手段としてのラノベ作家だから、目的ではなかった。開発会社を作るのが目的で、これが「甲子園優勝」という目標だ。それが生活の糧を稼ぐ程度もできなかった点で、過程目標の「甲子園に出場」もできなくて心苦しいが、ゴーストライターを起用するのは「やっちゃった」だろうなあ、胸が痛くなる。（ライトノベルが略称されたラノベを書きたいワケじゃないから）

ただ、ゲーム開発ができるようになってしまう（目標の甲子園優勝達成）と、ゴーストライターたちをお払い箱にするから、そこで問題が起きる。彼らをプロデビューさせるか、会社の下部組織にライトノベルレーベルを設立してみる（パブリッシャークラスにならないと無理だろ）とか、やらないといけなくなる。

こうした世話をかけなかったら、大問題になる。

それができなかったのが、岡田斗司夫だ。

FREEexは集合知を集める組織として、『バクマン。』の登場人物がやっていたようなことをしている。それは一応、クラウドシティ内では透明性があることにされている。だが、所属していた彼ら社員は、岡田に労働を搾取されていたのだろう。

仮想通貨をやりとりしていたらしいが、『資本論』的な考え方だと、それが搾取の構造を隠蔽するショートサーキットを起こす。通貨のやりとりで原初的抑圧がかかり、剰余価値を詐取されていることを忘却するのだ。まあね、これは『資本論』を読んで、反論してほしい。

ちゃんとゴーストライティングに関わる話をする、『いつまでもデブと思うなよ』は出版プロデューサーの方がメインに書いていて、岡田の語ったハナシを『なりあがり』方式で聴いて書いたのだろう。この場合矢沢永吉のポジションが岡田で、糸井重里のポジションが出版プロデューサー。

「アイデアには著作権がある」と著作権上では認められないことを発言してしまったのは、自分の保身ではなく、岡田の「著作権」を守ろうとして、墓穴を掘ってしまった可能性もある。（アイデアを守る法律は特許権）

正確には岡田のダイエット体験記で、それを語っているのに「岡田はアイデア出し」しかしていないという、尊大な認識をもっていた可能性もある。

他にもいくつか可能性はある。こうした可能性の問題は、いくら出しても足りない。その可能性ではないが、ゴーストライターのはずを学んだのは、唐沢俊一との関わりじゃないのか？

唐沢俊一が満棚通信さんの著作権を侵害したのも、ゴーストライターが関わっているの、事実関係を口外しない内容の和解案を出して「ふざけんな！」と怒らせたらしい（あくまで噂）。

なぜ、ゴーストライターの疑いを唐沢にかけるかということ、一時期月刊唐沢俊一というぐらい、毎月本を出していた。ライター諸君ならわかると思うが、毎月本は出せないだろう。

一ヶ月に一冊出すのは、シリーズモノの小説や、時代小説やミステリのように量産がきくジャンルなら、なんとか可能だ。一週間でプロットを固めて、三週間で書き上げるスタイルを一年間続けられれば、できる。ただ、身体を壊しても、私は知らない。

話を戻してFREEexは、業界のことや執筆のことをレクチャーする唐沢の出版サバイバルからきているのでは？ このレクチャーに参加した者にめぼしい人材を物色して、ゴーストライターをさせていたのを、FREEexではアレンジを加えて社員が社長に給与を払う、塾制度を応用したと思われる。

二年間で出版業界で働くノウハウを学んで卒業してもらおうというのも、出版業界が不況なのに、本当に社員たちの働き口があるのか、疑問だ。不況と言う環境で校正費用も出せなくなった出版社に見切りをつけて、FREEexでテキストクオリティー（文章の校正や情報制度の質の高さ）を底上げしようという戦略だったかもしれない。

これは、深刻だという意味だ。文章校正に予算が出ないというのは、車の安全基準で言えば、かなり危ない。スズキのリコールが多いのは、部品の検品で「これは不良品」とすべきものも、良品の中に混ぜて納品してしまう…そうして起きてしまったのが満棚通信さんの記事の剽窃ではないのか？

満棚さんの著作権侵害の事案は、ゴーストライターが記事を剽窃してしまい、ダメージコントロールとして、事実関係を明かさないとすれば和解案に応じると言う、被害者感情に塩塗ることをやっていたのか、真相は定かではないが、満棚さんの怒り具合から、事情は似たり寄ったりだろう。

再発防止のために事情は公開しないとダメだけど、それを公開しないなら和解に応じてやると居直ったら、それはスクウェア・エニックスに著作権侵害をされて刑事告発したプレイモアでなくても、怒るだろう。

工房制をとっていると、はじめから公開しておけばよかったのだ。だが、なかなかそうはいかない。

見た目上、「歩く密接交際者」の須田慎一郎さん（我らのオジキ）は関西の番組「たかじんN Oマナー」で、自分は小泉純一郎のゴーストライターをしたと、珍しく自己申告をしている。本当に珍しい。

これは『成り上がり』方式だと思うが、それなら聞き取り・構成須田慎一郎と公開・記名すればいいと思う。しかし、あまりそういう風にはならない。明記した方がいいという風潮にもならない。

明記させないのは政治家のみみっちいさを感じてしまう。見栄なのか、なんなのか、太宰治も原稿をしゃべって編集者に書かせた、つまり口述筆記させたのだから、それを公開することがなぜ悪いのか、セールスに響くのか、外からはよくわからない事情がある。

本当に「語り・政治家 構成・ライター」の表記だと、取次ぎが部数をおさえるなどの業界事情があるのか、本当によくわからない。

さてと、もう一度、佐藤勝に戻ろう。

佐藤には、どうもゴーストライターをさせる動機があるような気がしてならない。『誰がタブーを作るのか』では、作家タブーが存在するとある。『さよなら絶望先生』でも、羅列ネタで“作家いじりはダメ”とある。

原稿を書いてくれる作家は出版社にとって利害関係者であり、そのためスキャンダルなどは、「サイゾー」などの系列とは離れている意味で、インディペイメントなところしか、記事を書けない。

この作家タブーを悪用することで、自分への疑惑の防波堤を築くことを狙ってやっているのではないか。複数の出版社と仕事ができれば、防波堤のテトラポットの数を稼ぐことが出来る。

そのために、ゴーストライターで連載を回していないか。

だが、これは後ろめたいことがなければ、やる意味が無い。ルポライターに取材されて、暴かれたらマズいことでも無いと。

講演や対談では代役を立てられないので仕方なく本人が出ているが、記事はいくらでも代役を立てられる。

なんだかよくわからない罪状で有罪になって、本人はそれを否認しているが、後ろめたいことが無ければ、多くの雑誌で連載を抱えようとするだろうか？

くだんの小林との論争になったとき、「同じ雑誌に連載を持っている者同士は論争をしないルール」と言ったのは、あれはルールではなく、願望だ。作家タブーが拡大解釈されて、それを主張しているのだろうか？

そして、決定的なのは左系の雑誌と右寄り雑誌では二枚舌のように記事を書いているが、それぞれに合わせたライターがいる可能性がある。左右にライターが分かれていると考えられる。

ある場面で小林の質問に答えなかったときがあるらしい。

それは複数のケースと「沈黙が金」の場合があるが、私の推察は左向けのライターと、右向け

のライターどちらの書いていることにも矛盾の無い発言をすることができなかった、と考えられる。それが「決定的」の論拠である。

小林よしのりは坂本弁護士失踪事件を取材したら、どうも教団の関与が疑われると受け取れるマンガを描き、後年実際に教団が殺害事件を起こしていたとわかるが、教団は小林を殺害するリストに入れ、いわゆるポアしようと計画した。

そのことを鑑みると、佐藤の反応は教団の行ったことに近似する。大っぴらに論争すればいいのに、雑誌で主張を語る「場」を設けても、佐藤は逃げた。なんだかよくわからない罪状で有罪になった男は、なんだかよくわからない理由で論争を避けたのである。もう、なにがなんだかわからない。

しかし、そのなんだかよくわからない理由は表向きの事情で、連載や書籍を出している出版社の編集部ではないところに、いろいろ折衝すると、ゴーストライティングしていることがバレてしまうから、という可能性は無いか？

ズルができないと、記事が書けない。

自分は国家公務員になれたエリートだから、いくらでもズルをしてもいいという、選民主義を取っているのではないか。しかし、もう彼はエリートではない。それはエリート趣味にしかない。拡大解釈するのは、エリート趣味がこうじてということになる。

官僚という自分たちがルールを作れる側だから、勝手にルールを作っていいという考え・スタンスである。だが、もう佐藤はどんなにがんばっても官僚、エリートではない。ルールを作る側ではない。その自覚が無い。

私の観察では、佐藤はクロだろうと思う。

彼が佐村河内問題に言及すると、それは全てブーメランとして返ってくるのだろう。

ゴーストライティングさせている人は、この問題には消極的である。

「早くみんなの話題から、無くならないかな」

と、思っている。

畢竟、消極的だった人間を探すと、そこからゴーストが浮かび上がるだろう。

本当は、去年に書き上げておかなくてはいけない記事だったが、今年目標は長年の懸案だった『文章読本』を書くということで、ゴーストライターの件はちょっと触れておかないと、いけなかった。いしかわじゅん先生も「ユーモアがある」と評した佐藤の文章は、本当に佐藤が書いたモノなのか？ その疑念が『文章読本』を完成させる手応えとなった。

それはそれとして『文章読本』上梓の目標が達成されるであろうか。

その可能性が一番危ぶまれているが、まあ、いいのである。残念ながら予算が無いので、ゴーストライターを雇えないから大丈夫。そもそもゴーストライターが雇えるなら、私の電子書籍にこんなに誤字脱字が多いはずが無い。校正する手伝いさえ、させられない。

湯水のように電書が売れてくれると、いいんだけどな。

「開発会社を作れたらゴーストライターたちをゲームプランナーとして雇わないのか？」と問われたら、「ボックは有名人の悪口を言うヒト☆ 人格経営するタイプじゃないから、皆リストラだよ」と、「南座へ参る」の作者とは思えないことを言う。「あれ、ファンタジーだから、『花とゆめ』のユメの部分だから」。

最近、『まんが道』を読んだり、前に買った『愛...知りそめし頃...』を読み返し、いろいろなことを思う。考える。感想もいろいろと、書きたいことがある。

一応『二人で少年漫画ばかり描いてきた』の書評の体裁はとるが、雑記として読まれるのがよし。他にも『漫画に愛を叫んだ男たち』『「トキワ荘」無頼派』からも話を引こうと思う。

とりあえず、児童のために書いた楽しい漫画ならぬ「楽しい読み物」と捉えてほしい。楽しい児童漫画。

「BSマンガ夜話」で、『まんが道』か、あるいは『BECK』かもしれないが、どちらかのマンガを取り上げたとき、出演陣の挨拶で夏目さんが「少年は何かに出会う。だが、それはたったひとつでいい」と仰っていた。

そのたった一つが少年漫画というものに出会った人たちの物語が、トキワ荘周辺に集ったマンガ家たちを主役にした『まんが道』である。

NHKでドラマにもなったこの物語、現在のマンガにも影響を与え、変り種としては浦沢直樹の『BILLY BAT』も似た構成をしている。

この美しい物語を盛大に白濁で汚しているのが『電脳なをさん』で時々掲載される「Mac道」だ。手塚先生の下書き原稿があまりにも素晴らしく、作業が進まないシーンをパロディにしたモノを先に見てから、オリジナルを見て笑ってしまった。

これでいいのだろうか。

「週刊アスキー」完全電子化の余波で連載も終了するが、どこかで「Mac道」だけの連載を続けてほしい。とはいえ、cakesで『電脳なをさん』の続きが描かれる。Mac道雄の受難はまだ続くのだ。

それをまとめた単行本が、書店の『まんが道』の隣に置かれる。

あるキャラクターは（急に話を変える）、漫賀道雄が関心を寄せていた娘と付き合っているとわざわざ言いに来て、あまつさえ金を借りると、「どの面下げて来るんだ」「なんて面の皮の厚いやつだ」と、フィクションとはわかっていても驚く。学生時代の高岡での出来事を思い出すと、ありえない。

これも「Mac道」で、酷いことをマック道雄はされてしまう。

私も武藤君にならねば。

武藤君になろう。

武藤君で「予防戦争の論理」である。

武藤君は仕返しされていないし、魔太郎によって報いを受けることもない。恨み念法で仕返しされない。ベストオブ悪。ヴィランのチャンピオン、ジョーカーを越えた。

「マンガ夜話」の話に戻すと、公開収録の際に観客から質問にあった「才野茂がトキワ荘に来て、咳き込んでるのは、どうして？」という問いに、「伏線を回収し忘れた」という回答があったが、これは連載時の引きに過ぎない。

単行本で読んでみると、どんどん読み進めてわからないが、安孫子さん特有の最終コマを黒枠

に太くするのを見る限り、次回の引きとして、やっていたに過ぎない。

それから藤本さんは、体が弱かっただろう。実際は知らないが、予定していた東京行き時に熱を出して行けなくなったのは、事実近いことがあったと考えるのが、適切だ。それに『二人で少年漫画ばかり描いてきた』を読むと、トイレを我慢しすぎて、ついには膀胱炎になってしまったとある。

吉田豪は「遊んで息を抜いている遊び派の方が長生き」という、持論を持っていたが、個体差だろう。藤本さんは体が弱い方だろうし、石ノ森さんの場合は手塚治虫よりも生涯原稿枚数が多いと言われるハードワークもありえるが、基本体の丈夫さがそのまま長生きに直結していないか？

ところが、最近『PARマンの情熱的日々』で安孫子さんは体を鍛えていたというのがわかった。単行本発刊後は調べてほしい。私はこの話で散歩に駆り出された犬が置物である陶器の犬の前にしゃがんで動かなくなる話が好きだ。犬のガラティアである。

犬のガラティアで目先をかわしたが、個体差ではなく日頃の節制の方が寿命を延ばすという予防学として当然の結果を眼前に示されて、私の面目が潰れた。赤瀬川原平さん流に言えばウニドロだ。

もう一度、武藤君の話をしてしょうか。

武藤君、いいなあ。

牙沢君にけっこう、こっぴどくやられたと思うが、それで心を入れかえたりして懲りないことが素晴らしい。（人間の本质を描いていた）

安孫子さんが体を鍛えていて、ほどよく遊んでいた側なら、森安なおやは、真の遊び派である。遊んでばかりいて「これじゃあ大成するわけねえだろ」と、傍から見ても危ぶまれる遊び派である。

実際『「トキワ荘」無頼派』では締め切りを守らなかつたり、いろいろとテラさんに説教されることをしたことが書かれている。そこで反省せずに青春を謳歌しようとするいろいろするのが、森安らしい。

案の定、学童社の倒産に付き合うカタチで、マンガ業が滞って、出版業界とは違うところで働き始める。『愛しり』で仮名に変化したのも、安孫子さんはそのところを描くことにコンプレックスがあったのだろう。劣等感ではなく、複雑な思い、ためらいやせつない、そうしたものが混合して風森になったのだ。

そして森安の死と前後して、作中の風森やすじは森安なおやに戻る。

彼は死後の世界に行ったのではなく、トキワ荘に帰っていったのだ。

もしかしたら、赤塚不二夫も青塚文也的な存在になっていたかもしれない。

『まんが道』でもチラッと顔見せした長谷邦夫（苗字はハセではなくナガタニ）の『漫画に愛を叫んだ男たち』には、赤塚がマンガを描かない描写がある。それは少女マンガを描いていた時期で、商売のためとはいえ、自分の好きなギャグマンガを描けない鬱屈が溜まっていた時期である。赤塚のうだつのあがらぬ時期を長谷さんはともに過ごしている。

結局はプロダクションを作って、ギャグを主に考えて、マンガの作画は長谷さんを筆頭とする

長谷班に任せるようになっている。他にも、アシスタント後に独立した北見けんいち、古谷三敏、高井研一郎などがチーフとなる斑もあったようだ。

それで『レッツラゴン』や『もーれつア太郎』などが割り振られていたらしい。作品ごとの分業は少なく、締め切りが近い作品スタッフがあたっていたらう。（とは言えるが、詳しい資料がもうひとつある）

ふと、ギャグマンガ家は絵を描かない方が長寿になるのでは？ と思った。

作家生命の寿命が延びる気がする。

自分自身、手慰みに「恋愛サーキュレーション」などの噴飯モノ（注・本来の意味）を清書せずに書き散らした方が、気が楽である。これを週間で毎週20ページ以上30ページ近く書くと、それは擦り切れるに決まっている。

作画はプロダクションシステムで他の人に書いてもらうというのは、歴史を知っている側から見たら、赤塚の作家生命を伸ばした（これに関して本宮ひろ志も似たことに言っている）。しかし、作画を担当した長谷さんなどは、フジオプロに出て行かなくてはいけないことになる。

けして、タモリとの美談だけではない物語が新宿にはあったのだ。

そういえば、新漫画党を途中で抜ける坂本サブローさんは『漫画に愛を』に拠れば、後にアニメ『宇宙戦艦ヤマト』でヤマトの作画をしたとかしないとか、書かれている。『ヤマト』の資料は充実しているので、後日裏づけ調査をする楽しみが出来た。

『ゼロの肖像』を読むと、東映から虫プロにいた坂本雄作さんやスタジオ・ゼロに所属していた坂本（下の名を控え忘れた）など、当時のアニメ業界はなぜか坂本が多い。長谷さんのことから、坂本違いと言うことは無いと思うが。

ところで、出前でラーメンを持ってくる松葉の話がある。

松葉のしのぶちゃん（ドラマでは鈴木保奈美？）、『愛...知りそめし頃...』では「あうっ？」ということが描かれている。遠回りなたとえで悪いが、子供の頃観ていた番組に出演していた女性タレントが、何年も経ってから雑誌の通常ページよりも質のいい紙に写真がのっているような気分を味わい、モモちゃんですれをやってみようと、試している。

いや、正直に言おう。

『マンガとかを「天体観測」』の表紙の人がどこかで「本当の卒業式」をしていたり、マミさんを数で越えた別のシチュエーションの「清ちゃん先生の早い夏休み」とか、駄菓子をを使って遊ぶ「たとえばアイスの実のキウイをそんなことに使うのは教育上ゼツタイに許されない」などをやってみたくなる。（横から見たら「まるでスカンジナビア半島のような」は無いのか？）

それはたいしたことのない、どうでもいいことだ。

ともかく、松葉のカルディナーレには、そういう伏線があったのだ。中華料理屋松葉は『「トキワ荘」無頼派』に拠れば、まだ店を開けているらしい。トキワ荘のゆかりの人物たちのサインが店内に飾られている。

松葉の話が出たので、少し元ネタ当ての楽しさがあることを書こう。

「もしもボックス」は当時の公衆電話である。トキワ荘の近くに電話局があり、その電話局が公衆電話を設置していたのだ。そこでひみつの道具の想像力を育てたのだろう。

「ここだよ、ここ」みたいな「これ（元ネタ）だよ、これ」と、堀井雄二が作中マンガ「バラとゆびわ」を高屋敷さんに見せて、ローラ姫のギミックを拝借したんじゃないか？ “まほうのよろい”が出てくるし。「Mac道」では「バラとくびわ」となり、美しい友情が描かれる。

美しいか？

でも、『電脳なをさん』の最終回は終始ニヤニヤしながら、読んでいた。『モジャ公』の最終回をネタにしている。（「ここだよ、ここ」がわからなかったら、『ポートピア』をやってみよう。親切）

小野寺章太郎時代の見た目が力也くんじゃないのかと、思う。

起源を遡れば、牙沢くんは小野寺少年に寄せて描いたのではないかと、思える。「早熟の天才」が、早熟のワルになり、それが中学生でチェ・ゲバラの刺青のしている力也くんになる。そんな想像をしてしまうが、これは正しいのか？

特に前に書いた記事を読んでない人は、武藤くんと牙沢くんが『BECK』で兵藤と力也くんになっていると、知らないだろう。不親切である。

逆に藤子不二雄のドラえもんフォーマットのルーツは、『夏目房之介の漫画学』を読むと、益子かつみ『快球Xあらわる!!』とあるが、私は未読なので漫画研究家に任せる。（そういえばシーンの擬音は私の知っている限りでは1959年の手塚マンガにあり、1960年に発表された『竜神沼』より早い）

どんなジャンルでもそうだが、普通にマンガを描こうとするとマンガ研究に向かっていくように、普通にゲームを作ろうとするとゲーム研究に向かっていく。

それは田尻智らのグループがファミコンソフトを作るために同じ6502の基盤を搭載したマッキントッシュを解析しはじめると同じだが、大なり小なり、深くか浅くかの違いはあっても、誰でもそうだろう。

その頃に築いた蓄積は『あり思』に描いており、これから描く。

ただ、普通のゲームユーザーとのギャップが出てくる。

それは必然的に孤独になる。

たとえば『ドラゴンクエストモンスターズ ジョーカー』をプレイしている年下の男の子に、「ドラゴンクエストのテキストは昭和饒舌体や糸井さんらコピーライターたち、マンザイブームの芸人たちの言葉の隣にあったものだ」と言っても、「何言ってんの、この人？」と思われるだけである。（宮沢章夫さんが講師として似たようなことを学生にできるって幸せだね）←イヤミじゃないよ

そして、それは実際のゲーム開発の現場では、まったく役に立たず、お荷物なのだと後年わかる。ドラクエテキストの起源を知っているから、そのトレースも可能な人材は、スクウェア・エニックスにとって必要でない人材だった。

それは、自分の能力が無かった、わかりやすく才能が無かったのだ。

自分は墓碑に名を刻むこともされない無名戦士の側の人間だった。

信じたくは無いが、現実にならぬのだから、仕方無い。それはとても哀しい。

長谷が赤塚へのいろんなものを抱えていたが、事務所から飛び出さざるえないことになったように、私もゲーム業界に行きたかったのに、離れざるをえなくなったのだ。悪文だが、「そこに辿りつく前に飛び出さざるえなかった」のだ。

浜田廣介さんのように、漫画の『泣いた赤鬼』が後に不朽の児童文学『泣いた赤鬼』になるようなこともなかった。「コトバを食べる、ケモノ。」は、文芸社では企画出版にいたらないと評価された。

それが社会や世の中の評価である。

それはもちろん、とても哀しい。

テラさんのような気持ちとは、こういうものだろうか？

郷里に近い、寺田ヒロオさんについて、そろそろ書こう。

少年マンガのトキワ荘作家たちを支えながら、自分はやがて少年マンガから追われ、心を閉ざしてしまうテラさんは、北欧神話の如く巨人の遺骸から世界が出来たというなら、テラさんの聖骸から今の少年マンガが出来ているのだ。

1972年に短編「劇画 オバQ」では、正ちゃんたちとオバQが宴会してさわぐシーンがある。そして翌日、事情を知りオバQは去っていく。これと同じくテラさんはトキワ荘作家たちを集めて宴会をして、それから人との交流を絶つ。安孫子氏はそれを「緩慢な自殺」と評した。

テラさんの妹さんは、地元では有名な酒造メーカーの社長の奥さんになっており、市民を対象にしたささやかな講演で、テラさんの話は聞いた。学校から帰ってきて、すぐに遊びに出掛けず、弁当箱を洗って水をきっちり切る、几帳面な人であったと、マンガに描かれたそのままの話聞いた。具体的には、『『愛...知りそめし頃...』の第三巻末に公開されたテラさんの手紙通りに几帳面である。

それで安孫子氏が新発田まで来てくださり、講演するときのエピソードは『PARマンの情熱的日々』「漫画家人生愉快に行こう編」の巻に描かれているが、用があつていけなかった。安孫子氏から直接テラさんの話を聞ける機会を逃す...ちと私は取材者として機を逃す難がある。そういうことに恵まれた人間ではない。

これは本物のプロライターに任せよう。

川本三郎の『時には漫画の話を』にも、テラさんのことが触れられている。それは著作にあたってもらうとして、森安なおやについてのノンフィクションはなぜかあるが、テラさんを本格的に取材したノンフィクションはまだ無い。できれば、深層に辿りつくような取材をノンフィクションライターがして、珠玉の一冊を出版してほしい。

その登場は、ちょっと期待できない。期待を裏切られてしまい、残念でならない。

書評 グリモアを作る『辞書になった男』

2014年のベストブックはこの本だ。

有無は言わせない。

間違いなく佐々木建一『辞書になった男』である。

それを書評としてとりあげるのだから、今は亡き「週刊ブックデビュー」があれば、合評の一冊にとりあげるモノである。そもそもNHKの番組だから、媚NHKかもしれないが媚安倍報道する会長と同じだから受信料を払う人もお許し願える。（普通なら下村大臣の政治資金問題で第一期政権晩期と同じ支持率になるよ）

これをしないと、「偏向報道だっ！」と官邸から文書が届く。

圧力をかけたのに定例会見で菅官房長官が「圧力は無かった」と事実とは異なる見解を示す。

やらせ番組（『世界樹の迷宮』のゲームレビュー記事）を作ったのか、確かめられるために自民党本部に呼びつけもされるだろう。

なんでNHKの話題が出たかと言うと、番組発の書籍だからだ。

成立経緯は、畳んだホームページの「本のセールスマン」でも触れた『新明解国語辞典』の変な記述を書いた著者（辞書編纂者）にスポットをあてたテレビ番組が放送されたことがキッカケで書籍化された。

そのテレビ番組のディレクターが書いたのが、『辞書になった男』である。

装丁も作者がてがけている。

これを作者が章を
黒地に白抜きすること
再現している



国語辞書などでおなじみの
母音あ列の行のしるし

誰も褒めないだろうから、私が褒める

これは単なるサルマネではない辞書好きのアピールとして好意的に受け取ろう。

そんな本の内容をどうしても、触れないといけない。

それは読めばいいのだけど、「読め」と高圧的な命令形で、訴えたいがそこは書評。「圧力は無かった」と事実とは異なる主張をしよう。

二人の辞書編纂者が、源流を一つにする辞書を元に、二つの辞書をつくる。それは支流・伏流ではなく、どちらも主流の流れとなる。

そこに二人のカクシツがある。

そのイキサツについては、書かない。そこは「書籍を読め」とすればいいが、書評としてテイサイも必要だろう。キーワードとして“レクシコグラファーは弁明せず”とか“畏友”とか、ともかく阿部和重が日付にこだわるように「一月九日」が決定的な日となる。なんで阿部和重は日付にこ

だわるのだろう。

それはともかく、これは赤瀬川原平の形見でもある。

今は亡き原平翁が『新解さんの謎』で“私小説のようだ”と、と率直な感想を書いたために「天啓」を作者に与えた。

見坊豪紀（けんぼうたけのり）と山田忠雄、二人のレクシコグラファーが畏友であるのが、一月九日の時点から具合が悪くなってしまうのだ。それは使う者と使われる者のちょっとした意識の違いや、ズレ、長年積もりに積もっていたもの、十年以上の月日がそれを堆積させる。

それが新明解を作り、起源が同じ『明解国語辞典』の改訂である『三省堂国語辞典』も作られる。その二つの流れの間に堆積されて出来た巨大な洲を掘り下げたのが「ケンボー先生と山田先生～辞書に人生を捧げた二人の男～」である。

よけいなことしなければいいのに。

番組放送後に関係者からお手紙が作者であるディレクターのところに届く。

金田一春彦が、『ちびまる子ちゃん』で友蔵とももこがお姉ちゃんの交換日記を盗み読み、夕飯時にその内容をお姉ちゃんに聞いてしまうような、ボケ老人みたいなことをしていたと、「日本語セミナー」の視聴者・読者は感涙せずにはいられないエピソードがある。（友蔵心の俳句を読みたくなった）

カクシツのカクシンについては、別にカクシしているわけではないが、書籍にあたってほしい。たとえ学者でコトバの範となる辞書を編む人であっても、そうしたことはあるということだ。レクシコグラファーは人の鑑ではないとカクシンする。

面白いのは新明解のパーソナリティを広めた『新解さんの謎』を書いた赤瀬川さんと、山田先生に接点や共通点があるかということ、それはない。路上観察学会と接続されるのは、ケンボー先生の方である。赤瀬川さんの美術講義の受講生だった南伸坊に『ハリガミ考現学』という著作があるが、ケンボー先生は用例採集のために考現学的に街中の張り紙を異常な量、普段は生真面目に仕事をするカメラマンですら笑ってしまうぐらいの量を写真に残している。

ケンボー先生の場合、路上観察学会のハシリではなく、起源となる今和次郎の考現学に近い。だから辞書は“かがみ（鏡と鑑、二つの意味）”というスタンスもうなづける。

たいして、山田先生は「辞書は文明批評」という考えである。なんとか赤瀬川さんと繋がるのは、偽札を作ることが美術批評になり、それは広い意味で文明批評というわずかな接点だろう。（書いている自分でも「苦しいな」と思う）

『辞書になった男』ではピアースの『悪魔の辞書』を参考文献にあげているが、辞書編纂はグリモアに近いモノを生み出すことになってしまうだろう。

グリモアとは、書かれている通りに術を施せば、悪魔を召喚することができる本のことである。実際は中世の時代には本を作るのは労力と資金がいるため、悪魔学（魔女狩りをするための疑似科学）が作り出した妄想であると、考えられる。

辞書とグリモアは違うけど、山田先生の新明解はケンボー先生を召喚し、ケンボー先生の三国は山田先生を召喚する。

新明解は小辞書では革新的で進歩主義である。

三国は明解の枠から出ないように伝統主義であるのだ。

つまり、辞書としては新明解は進歩主義のケンボー先生で、三国は山田先生の伝統主義を踏襲

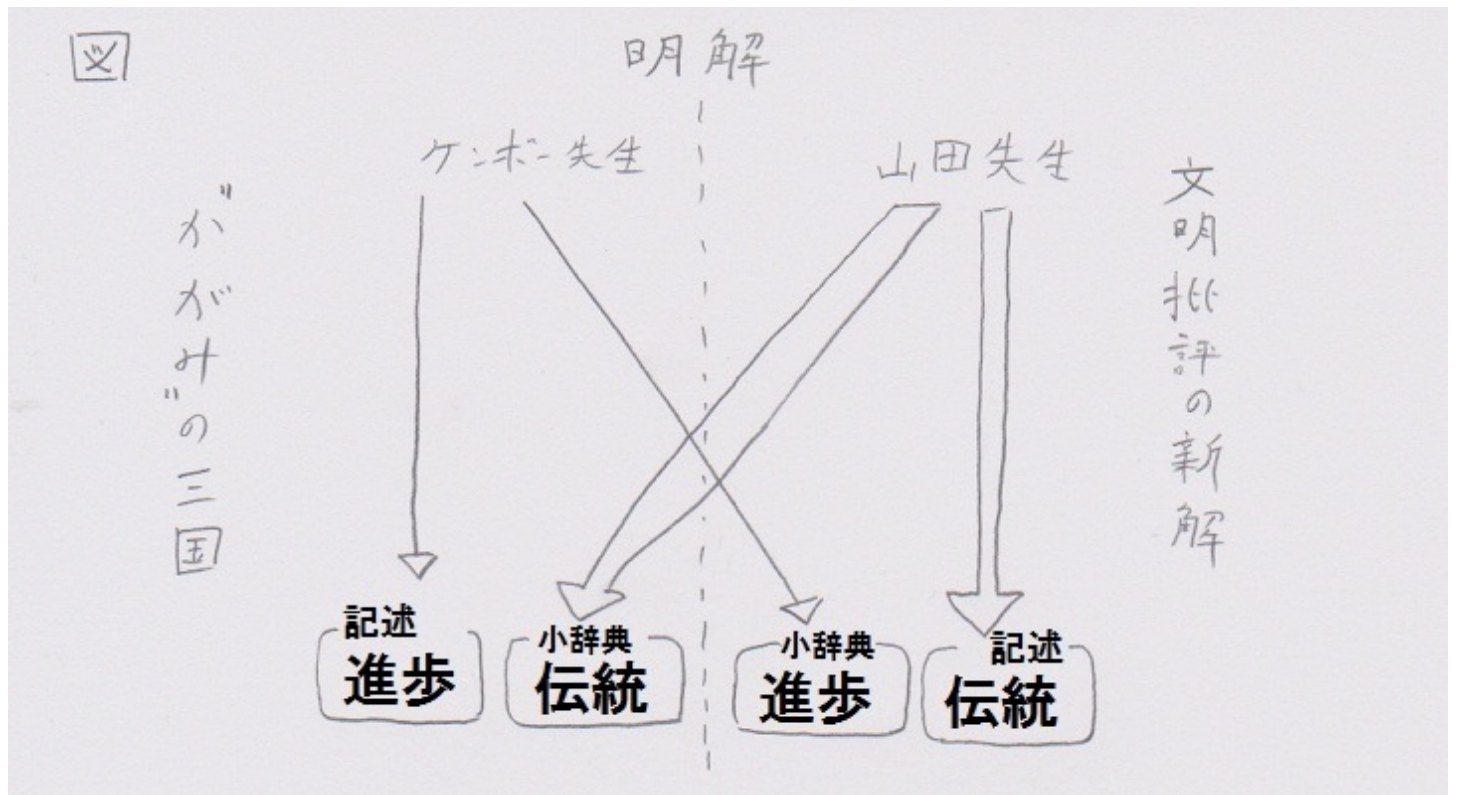
している、かのように受け取れる。

ところが、書かれている記述に関しては、新明解は伝統主義者の山田先生の考えが色濃く、女性に厳しいとかいろいろ言われている。伝統という鑑を結果的に表現している。番組の進行役の薬師丸ひろ子が三国愛用者というのも頷ける。

ケンボー先生は進歩主義者だから、“ウルトラマン”という固有名詞も三国に入れてしまう。ここで意地悪な符丁として、ウルトラマンの語句が三国から外されたとき、円谷プロも創業者一族が追われ、同時にウルトラマン人気も終焉を迎えた時期と重なるなら、まさに“かがみ”である。

科学の進歩を信じれた、愚かしい象徴…ちょっと筆がすべった。ともかく、文明批評を図らずもしているだろう。本人とグリモアによって召喚される人物像は別なのだ。それは三国さんという小悪魔である。

器が進歩的で中身が伝統主義の新明解。器が伝統的で中身が進歩主義の三国。進歩と伝統が合体している。ゲームの『女神転生』なら悪魔合体である。三省堂が邪教の館で、そこで二つの悪魔が実は「恋愛」していて合体である。



たとえの範囲かもしれないが、二人はお互いを辞書に封じこめている。小辞典はレクシコグラファーを召喚する秘術が書かれた魔書なのだ。「辞書になった男」とは、そのことを指している。

それは畏友でなければ、できないことではないだろうか。

書評を書いている内に、『新明解国語辞典』と『三省堂国語辞典』から、二つ三つ自作の文章読本に引用しようと、思うようになった。

文章読本もまた、グリモア的一种であり、レクシコグラファーという言葉の悪魔を召喚する手引きになるだろう。

最後に辞書におさめられるコトバを仲良く二つ並べて、終点（ピリオド）の代わりとする。

んんん。

んとす。

結論は「文章読本を作らないといけないので、レビューできない」ということである。

マンガレビューであり、アニメレビューである「兵立占なSENJYOU」は書く前から、忙しいから止めようということになった。（一応説明しておく、漢字変換機能が貧弱なソフトなので「立ちに占い」の字が出ない）

タイトルからわかるとおり、『SIROBAKO』のアニメレビューだ。岡崎京子のコトバである「平坦な戦場」を音はそのまま、当て字にして書き換えている。

武蔵野アニメーションの製作現場は、とくにおいちゃんの周辺は、兵立占が語られた場所である。それで兵立占の話をする場合、『大砲とスタンプ』を読むのが一番予備知識を得るのが早い。そのため、二つの作品をひとまとめにした、表紙はアニメレビューの表紙画のフォーマットで、マンガレビューのフォーマットで裏表紙を作成する…ところまでアイデアを出して、「文章読本の完成を急ぐから、やめよう」ということになっていた。

だから、結論だけ言うと、武蔵アニの製作部は兵立占部隊でやっている仕事と変わらない。おいちゃんがマルチナにあたるとか書けるけど、時間が無いからできないや。とりあえず、『大砲とスタンプ』を通読してもらえば、話がわかるだろう。妖怪の部類に入るスタンプと『アナザー』の頃からある妄想・イメージが頭の外からはみ出てくる演出は似たようなもの。

そこから外れる話題だけをすると、絵麻ちゃんが作画に悩むのは、当たり前。

『銭』である登場人物が「悪しき促成栽培の犠牲者」と評された若手アニメーターと同じ状況にある。動画三万枚を描かないと、身につかないものを出さなくちゃならない原画をしている。

普通に考えたら、アクションゲージの指示をできない。動画三万枚を描いて、やっとアクションゲージの指示通りに描ける。そこで指示される側から指示する側である原画になれる。

業界外だけど桜井政博さんがフィギュアをカメラ撮影して動作を指示するのは、アクションゲージを描けないからだけど、描ける必要は無い。なぜなら、デザイナーたちがアクションゲージを読めないから。アニメーターは徒弟制だから、師事するアニメーターのアクションゲージを読めないといけないから、徒弟に読ませることができる。ただ、読んだとおりに絵を描くためには、訓練として三万枚におよぶ動画作画の修行を積まなくてははいけない。

もう、それができなくなっている問題は作中語られない。

アニメ製作の国内問題しか語れない。国外問題を語ると、キャラクターが三倍になって話が散漫になる。24話から26話の半年じゃなくて、一年間やらないといけない。それは一話一話の作画クオリティーを減らせば、つまり制作費を減らせばできるかもしれないが、やらないだろう。

国外問題は進んでいて、ほんの十年前まで、動画をアジアに外注していたのを、今は原画をアジアに頼んでいる。（スタッフクレジットをよく見てほしい。『牙狼<GARO>炎の刻印』だと18話と19話に国内原画マンが描いているので、クオリティー差が出ている）

物価の話になるとラジオ情報によると、現在でも高級そうな散髪屋で300円ぐらいの散髪料しかとられない。老後はアジアで暮らすと言うのは、サバイバルとして間違いがないかもしれない。年金の十数万円で贅沢に暮らしていけるのだから、現地の人には動画だけをやって食べていける。

都心では物価高で原画マンしか生き残れないけど、地方のアニメデベロッパーがなんとかやれているのは物価安に支えられているのでは？ ところが、原画まで海外に頼むようになると、製造業でたとえられる金型作っている職人まで、海外で発注することだろ？ それも、3000円といわれる原画単価をその値段で買うならいいが、1500円ぐらいでやらせるとなると、少し違う気がする。円安で制作費の逼迫が、原画を国外にもさせることに繋がっているだろう。

こういう問題に危機意識があるから「アニメミライ」の企画がある。

原画マンを育てるということで「口の中にキューを突っ込んで、唇の縁の中から覗く外の画を描く（実写だと口の中にカメラを仕込めない）」ような難しい作画をさせるそんな話より高橋良輔監督のもによもよのヒミツがわかった！

谷口悟朗監督の話によると、高橋監督が犬の散歩に出て帰ってくるとラッシュフィルムに、高橋監督のテイストがついていると話して、「たとえると北斗神拳の夢想転生です」と、意味のわからないことを言う。

初めてインタビュー記事でこれを読んだとき、「何をいってるのかね、チミは一？」だった。なんだそのきゃりーぱみゅぱみゅみたいな、“もによもによ”って、と思った。『ベールゼンファイル』にもそんなこと語られていないぞ。

一旦、この話は忘れてほしい。

まず、外堀を埋める作業をしよう。

『北斗の拳』の主人公ケンシロウの使う北斗神拳の夢想転生とは、戦った相手の技を使えるようになるワザである。我々視聴者を翻弄されるように原作ではラオウを翻弄するのだが、では戦う相手とは誰か？

高橋監督の場合、原作のことだろう。

『サイボーグ009』と『ボトムズ』。

『沈黙の艦隊』と『ガサラギ』。

改造人間とパーフェクトソルジャー。政治シミュレーションとベギルスタン派兵。

『サイボーグ009』の監督で改造人間のテーマをやって、『ボトムズ』でパーフェクトソルジャーという改造人間が登場する。これが正しければ、フィオナは黒髪のフランソワーズでイプシロンがジェットだと思う。他の登場人物も「シャッコがジェロニモじゃないか？」とか、サイボーグたちに近い人物がいる。（最新作だと赤ちゃんのサイボーグ・イワンと同じモチーフが出ていないか？）

『沈黙の艦隊』テレビスペシャルとOVAを監督したことで、国際政治情勢のシミュレーションが、『ガサラギ』だと第二次湾岸戦争（クウェートがからんでないから湾岸とは言えない）と言えるイラク戦争で起こった自衛隊の事実上の派兵まで繋がるのは、ベギルスタン紛争で特自を派兵するのと同じ。『沈黙』の「保守分裂」が本当の政治の場で起こることのシミュレーションと同じだろう。

原作のアニメ化の製作作業を通じて、その何かを抽出する。後に抽出したものを使えるようになる。格闘技なら対戦した相手のワザを使えるようになることと、似ている。ちょうど『喧嘩稼業』で工藤優作が相手が使った裏辻を使うような、夢想転生をたとえとして出したのは間違い

ではない。

これも、もによもによと言っていいと思う。

だがしかし、である。

それだけだろうか？ という疑問がある。他のアニメ監督も、似たようなところはある。オリジナル作品を手がける前に、原作付きのアニメを監督し、そこから応用や転用できる部分は、使うというのは、どの監督もやっている。それが最終演出奥義なのかと言うと、疑問がある。

思いなおしてみると、高橋監督の場合、絵を描く人にフレームをはめていないか？

平井久司さんのキャリア上、『沈黙の艦隊』のキャラクターデザインだけヘン。『リヴァイアス』や奥さんをなぐって書いた脚本の『ファフナー』のカッコいい男の子女の子が（というよりも女性すら）いない。

塩山さんも『ボトムズ』だけ毛色が違う。『トルーパー』のような男色の臭いがしない。

金田伊功さんのオープニングも、『サイボーグ009』だけ違う。『ブライガー』の変さが無いという点でヘン。

マエストロがタクトを振るうといい音が出るみたいに、作画スタッフをレッドショルダ一部隊にする。このようなタクトマジックがあるようだ。

彼らの中からピックアップするのは、金田さんだろう。

『ブライガー』のオープニングと『サイボーグ009』のオープニングは、同じ金田さんだけど毛色が違う。後者はキュビリズムで遠近法を無視してゴウカイなカメラの回り込みではなく、サイボーグたちの個性を表現している。モノクロ時代からかなりリファインされているが、この辺りの評価はマンガ『アオイホノオ』第二巻に詳しい。

フレームをはめると能力を弱めるように思われるが、スタッフを異能集団にしているのが、もによもによではないか。逆境の局地戦でも生存率が高い、異能生存体に鍛えていないか。

そういえば、『ヤング ブラック・ジャック』でシリーズ構成を高橋監督はしていて、解釈上は「間黒男が異能生存体となり、そして異能生存体である百鬼丸に会う」オープニング映像になってはいる。

ちょうどドクターキリコも出てくるようだから、「君もキリコと一緒に地獄を見よう」ということだろうか。それをスタッフに強いていたかは、わからない。

吾郎監督の…今までバカにしていたのは、宮崎五郎監督であって、谷口悟朗監督ではない。それから音が同じ別の人物が監督した『ローニャ』を見たけど、「（感情のこもってない声で）アレ、面白かったね」と、フォロー。

監督の場合、脚本家をブーストさせることにある。

『ガンバルガー』の頃（演出担当時）に金巻兼一さんが、『ガン×ソード』の頃が倉田先生。

奇術師ペンクラブの内、二人が参加した『コードギアス』とすると、わかりやすいはず。

『純潔のマリア』の場合、原作の枠を枷として機能させ、倉田先生お得意の惑星規模・宇宙規模にインフレさせないようにしている。（これは気がするではない。私ならわかる）

二人がコンビを組んだ前作『ガン×ソード』に出てきたカギ爪の男の革新的すぎる考え（という

よりもついていけない妄執)は、神父ベルナールにパッケージされている。カギ爪の男自体が、カギ爪を取れば神父風である。このカギ爪が『コードギアス』では紅蓮に装備され、『マリア』ではガルファの義手となる。蛇足ならぬ蛇爪だが。

中世・百年戦争期ではどう考えても異端な、神学をつきつめてナザレのイエスやルターのようなことをやりはじめる。(とはいってもルターは聖書回帰であるが)

ベルナールはアニメオリジナルのキャラクターである。彼が『ガン×ソード』の主人公のようなガルファと結託して魔女退治をはじめるというのも、含蓄ある。

谷口悟朗監督は倉田先生に原作のフレームをはめてはいる。それが高橋監督との微妙な違いを感じる。この微妙さはまだうまく詳述できない。

私の感想では『マリア』はうまくいっている。

差があることはたしかだが、その決定的な差を語ることはできない。そこは手応えが無い。異能生存体なのか、ギアスの拘束をかけられていたのか、全力を出して見逃すのか、

基本は原作をアニメ化したときに、原作のある因子(ファクター)を抽出してオリジナル作品を作るときに埋め込む。そのときテイストも一緒に埋め込む。さらにスタッフにフレームをはめて逆境を与えるのが、高橋監督のやり方で、もによもによの肝心な部分ではないか。

とりあえず、これがもによもによの正体、ヒミツだと思われる。

原稿完成間近で資料を読み返したら、演出最終奥義の名前はもによもによではなく、によりよであると判明した。そこはうにやむにやにしてほしい。

「自分はルドロジストだから」という困った自意識・自己認識の下、カイヨワの著作にあたらなないといけないなと思って、『遊びと人間』の他にもある、いろいろな著作を読んでいる。（エスキモーの拳玉とかは、「色彩少女」に出したいな）

それで読んだのが、『反対称』である。

右と左はなぜ違うのか、カイヨワの考察が語られている。

右と左にとらわれた人は、『非対称の起源』のクリス・マクナマスやマーティン・ガードナーなど他にもいる。そういう白人はたまにいる。

文化なり社会なりの冠が付く人類学の知識がありながら、こちらの方に寄っていったのは、やはり百科全書派の血を受け継ぐ、仏哲学の正統後継者がカイヨワであったのだ。皆さんもご存知の通り、クロード・レヴィ＝ストロースとカイヨワは対立していた論敵である。

もし、そんなことも知らないなら、取金教授に「そーなんことも、わからんのか」と、舞台演劇「教育」のように生徒を刺殺されてしまいかねない。

面白いのは、カイヨワの経歴を見ると、レヴィ＝ストロースが第二次世界大戦の戦火を逃れるために南米に避難したように、彼も大戦がはじまる前に美人編集のヴィクトリア・オカンポに誘われるカタチで、アルゼンチンに過ごしたということである。それも最初の妻であるイヴェットをフランスに置いて、何年か南米で過ごしている。さらに戦後にフランスに戻ると、太って誰かわからなかったとある。そして後年、前妻と別れ後妻のアレーナと結婚する。

他にもジャック・ラカンの家でバタイユと交流があったとか、トリスタン・ツァラといろいろあったらしいが、それは省く！（『あり思』第一巻でバタイユが娯楽がどうのこうの言っているのを引いたのは、まったく意味が無いわけではない）

詳しくは、『遊びと人間』の巻末で岡本太郎とパーティーで顔見知りらしいぞというのがわかるので著作を読まれるのが一番の近道だ。こんな不勉強な人間が書いたモノに頼ってはいけない。

『遊びと人間』を読めばカイヨワの知識量は戦前の教養課程を経ただけある。

だから、対称性人類学などの方向と同様な思想の持ち主と思いたくなるが、前述の通りレヴィ＝ストロースとは論敵であるから、知識を得ながら方向が違う。

レヴィ＝ストロースは前述の理由で南米に赴いた時、そこで言語学の構造主義の影響を受けて構造人類学を建立するが、カイヨワは人類学的な知識は持っていないながら、ヨーロッパ中心主義、というよりも、

「フランス一番♪ イギリス二番♪」

のフランス中心主義を捨てられなかった。

戦前にボルヘスなどのラテンアメリカの文学者と交流してもなお、「フランス一番」なのである。やがて、世界文学がラテンアメリカを発見していく、いや発見したからこそ、彼はかたくなになっていくようである。

それはオリエンタリズムの肯定だ。

右と左にとられるのも、オリエンタリズムが作用している。

世界地図から見て、右のオリエンタリズムがアジアなら、左のオリエンタリズムがラテンアメリカだ。

マルケスやボルヘスの南米文学が国際的に認められるのは、彼の功績があったのかもしれない。そこは資料不足なので、後日判明するかもしれない。

我々アジア人を下に見ている。これは被害妄想ではない。それでは、キーンさんにロビー活動で、何故三島に賞を与えなかったのか。それだけではなく、例の謎の行動は何なのか。

カイヨワが行ったパイディアである。ルドゥスであるなら、敗者側に期待を持たせない。

反対称性人類学や対角線人類学、それがカイヨワの目指している方向だ。

白人優位のアジア蔑視なりを残念ながら、どうも持っている。

経済学の帝国主義という言葉があるように、人類学の帝国主義を目指していたのではないか？

それも、自分たちが正しいとされる方向に誘導するために。

私自身、現在の社会問題の起源を狩猟採集生活に求める傾向が自分にあるので、こういう摂理を自己批判として持っている。

『人間と聖なるもの』の裏表紙にある カイヨワの写真だが南米に 行く前か、痩せている。



フランス中心主義とは、オリエンタリズムだ。

カイヨワは間違いなくオリエンタリストだろう。

反対称とは、ヨーロッパ人に富や権力が集積するのが、正しいという理屈だ。

パリを制圧されてナチスドイツに取り入れるために、すすんでユダヤ人の情報を提供していたフランス人の話が仏文学になっているなど、フランスのトラウマとは無縁であったために、建前としての謙虚さがあっても、本当に謙虚ではない。

だから、一応理屈をつけるなら、キーンさんに「私たちは三島に賞をとらせる気である」と耳

打ちしたのに、期待を膨らませておいてサイドにフェルメントール国際賞をとらせるのである。このサイドが受賞したのは、象徴的だ。彼が『オリエンタリズム』を書いて今日のヨーロッパ中心主義を

このカイヨワの謎行動を、

「私たちは第三世界の人間の書いたモノを言語芸術とは認めない」

というアイロニーな「反対称」の表明であったと考えるのが、理屈は通る。理屈は通るが、これは「旧世界人の意地」「シオマネキの威嚇」である。

オリエンタリストの居直りともとれる。

彼がどんなに人類学的な知識を持っていようと、それは自分たち欧州が、仏国がマネキのように偏っているから高次であるという、傍証がほしくてやっていたようである。

ただ、それは疑似科学とも受けとれる部分がある。

カイヨワは百科全書派の裏の思想を受け継いでいる。

構造人類学に対抗、拮抗するためのオリエンタリズムの人類学だ。それはもう、人類学ではない。

三島に賞を与えと言いつつ、与えなかったのは、

マララ・ユズフザイさんにノーベル平和賞を与えるのも、実は白人が求めるイスラム女性のモデルケースに当てはめようとするオリエンタリズムの表現ではないかと、疑ってみると

南米はスペイン語やポルトガル語を話しているので、まだ認められる部分があるが、アジアはまだ、認めたがい何か、それは単純にわかりやすくすると白人が持っている黄色人種への謎の優越感からくる差別意識、こういうものでないと、説明できない。

もし、関わった翻訳家はカイヨワの名誉のために、オリエンタリストを裏付ける言動があったら、墓まで持って行ってほしい。

ジャック・ラカンと交流があるから、ボロメオの結び目の影響か、ホイジンガが「聖」「俗」「遊」を序列にしたのに対し、カイヨワは「聖一俗一遊」という三位一体モデルなことを考えている。

ラカンとの関わりで、どのくらいカイヨワに影響を与えたのか、ラカン派の学者に調べてもらいたい。そのラカン派の学者に一人心当たりがある。たまちゃん先生こと斎藤環先生だ。

ゲーム雑誌に連載していたよしみで、ラカンからカイヨワの思想の変化を連載評論にしてもらいたいが、どうだろう。私がゲーム雑誌の編集者なら、読者がつかなくても、こういうゲームの発展のためにある記事があってもいいと思うが、なかなか難しい。

私以外に誰もそんな記事を読みたいと思う人間がいないからね。

象徴界などが

旧世界 → 新世界 → 第三世界
聖 → 俗 → 遊

バタイユは「娯楽はメキシコ的だ」というのも、メキシコは新世界だが第三世界と接続される過程で、俗が遊びや娯楽に変換されていく

執筆中



これはメモなので、あまり口外しても意味が無いと思うが、もしかしたら、『ありえない未来の思い出たち』に使うかもしれないので、備忘録の一種と受け取って、誌面のバラエティー性を広げるつもりで公開して、結局、執筆中のまま、投げっ放しになるかもしれない。

ゲーム性という言葉は、ルドロジーのテクニカルタームなら、答えは出ている。

「ゲーム批評」を全巻通読した井上明人さんを否定するワケではなく、桜井政博さんがゲームカンファレンスでゲーム性について説明した内容を否定するわけではない。

ゲーム性、その結論は人それぞれ違うということになる。

繰り返せば、ゲーム学の専門用語として決着がついていないといけない。

『ホモ・ルーデンス』のちゃんとした邦訳は「遊ぶ人」ではなく、「闘技する人」ではないのか。

仮に「闘技する人」なら、これでゲーム性についての答えが出る。

ゲーム性の対義語が、プレイ性であろう。

ホイジンガの『ホモ・ルーデンス』はルドゥスについてである。後年のカイヨワ『遊びと人間』によれば、ルール側と意志の側をルドゥスとしている。

ルドゥスはルールの語源かもしれない。

カイヨワはこれに脱ルールと脱意志の部分まで「遊び」の領域を広げている。

それがパイディア、子供そのものを語源とする言葉だ。

カイヨワの『遊びと人間』は邦名を英訳タイトルの「Man Play and Games」から訳しなおした方がいい。

直訳的な「遊ぶ人 と ゲームする人」の邦訳をしなくてはいけない。

我々幽環派はこれの答えを知っている。

『梁塵秘抄』の今様にある「遊戯をして生まれけぬ」で分割することができる。

遊びをせんとや ⇒ パイディア Play

戯れをせんとや ⇒ ルドゥス Game

ルドゥスの「競技」は1 Gameである。

パイディアの「遊び」は1 Playと言う。

バッティングセンターで一回やるのが、1 Game。

ゲームセンターの一回は1 Play。

安心してほしいのは、幽環派には未来が無い。

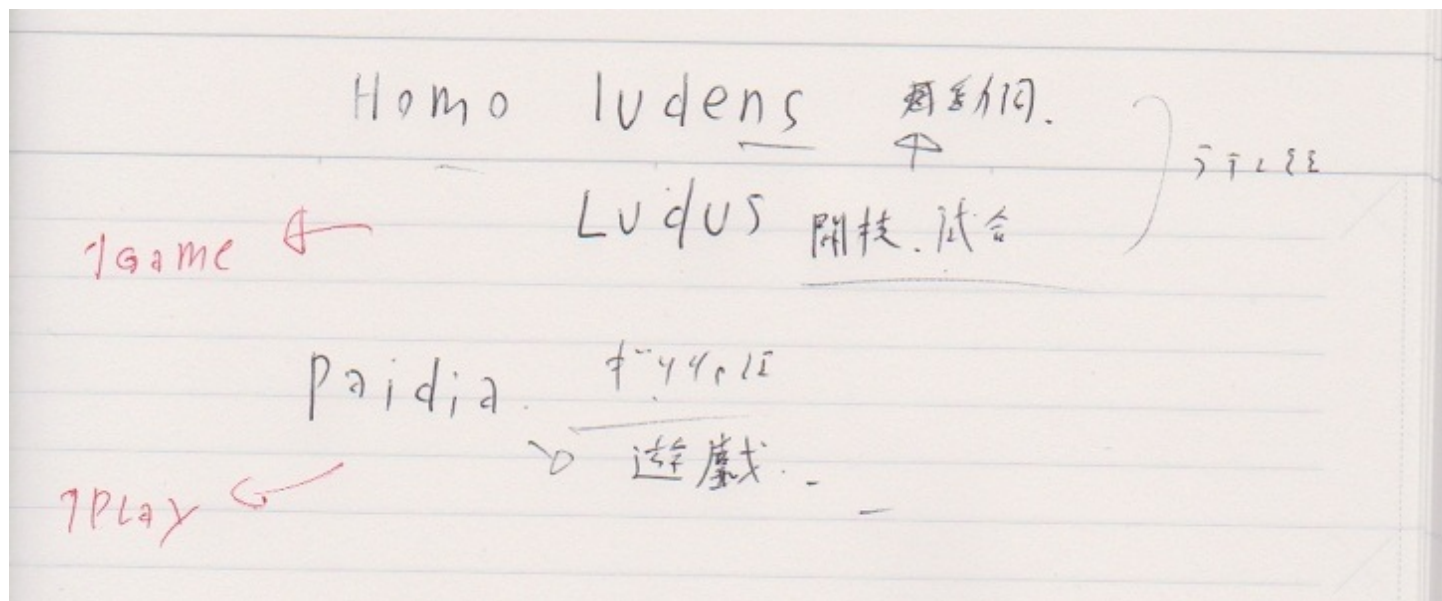
「ゲームをする、ルドゥス。戯れる」

というのは、普及しない。

未来、評価されることは無い。

自分の作ったものがメンデルの法則やドルトンの原子論のはずがない。

そう思うのは、誇大妄想の持ち主である。「お前バカか」と。



野球のルールでは、十人の頃があり、キャッチャーの後ろにスカウトがいた。現在のプロ選手のリクルートをする役職をスカウトと呼ばれるのは、これが起源とされる。

ルールが発展していくと、

野球を観ると、実演する。

このメモには事実誤認がある。

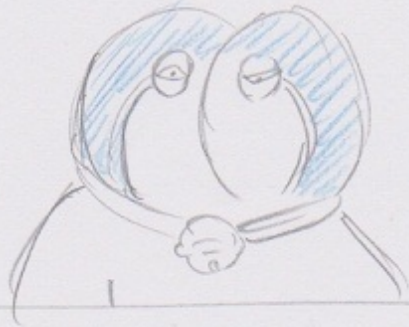
『遊びと人間』を読み返したら、ちょっと違った。

その誤りは各自の書籍にあたって調べる宿題とする。

登場人物の紹介

ぶりぶりトラえもん

四コマの主人公を僭称する
著作権しんがい野郎



連載の乗っ取りを企む
正義の化身

ゲリピー

背中にマシクペンで
直接登録名を書いている



本名のファーストネームは
ジエームズと判明
(あとづけ設定)

山田のともだち

アリエッティの仲間？
あるいは高野文子の
「東京コロボックル」

けつこら登場し
男へのマタニティ
ハラスメント
では活躍した



その他の 女性キャラクター

この四コマがゲイマンガではない
アリバイ作りに呼ばれている
飲食店勤務な“女くのいち”たち
全員ステータス欄の
項目に「好きな戦車」の項がある



せんびき



髪に色を塗らないと同一性を保てない

四コマはじまるよ〜

五百年後



佐倉さん
路端くまの橋をたづねられ
うたひしして



人しん
破壁の
アリス
226261人

27-2
3-25.05.11

ソコ(ヒ)流星の流れて

最近 絵人 アリスの内容を忘れた
から 備忘録的な

「今から
おん全人-1」
あせりお返ししたい

近江利高様へ

人しん

カ
士
の
方

おまじない
うた
しん
226261人

27-2
3-25.05.11
おまじない
うた



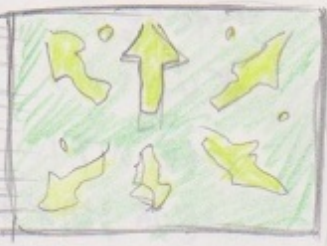
小学生が

描いた絵日記がて
鬼、21211

おん全人-1のくまをかき
出すには、おん全人-1
主人会の絵日記をか
き出す。おん全人-1のくま
をかき出す。

1/4
3/4

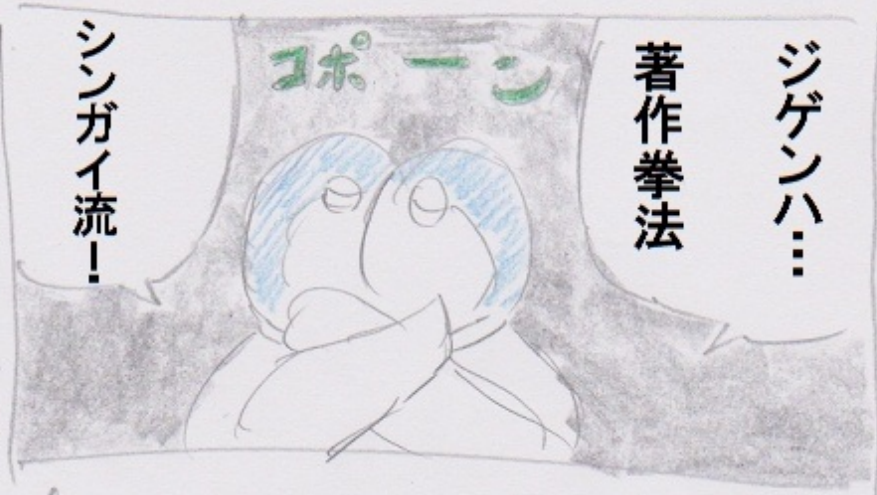
ス
パ
ニ



Magic
box

だいたい合っている。
もし間違っているとしたら、
それは作品がそのものが悪い。

大将 ぷりぷりトラえもん
VS 中堅 数合わせの人



クレバーペロソ
「しほじゃい
から 著作権
ジレガイ
じゃあり
モーン」



メガネは江川達也のマンガの「見エ、チン」がオリジナル



あのアニメを作ってる人へ
「私はレベルファイブに入社できなかった
からバクリは無しな」

似てないよ

フォルスタッフの顔…

チバラギ県知事に似てない？

原作者本人はパチモノグッズでも好きで

キャラクターのまがいもののパッケージが描いてある**ホも持ってるの

スマートフォンの略称ね… そうでないとして
全年齢対象でできないから

TYPE-MOONのアニメに出た俳優は

沙翁浪漫に出れない

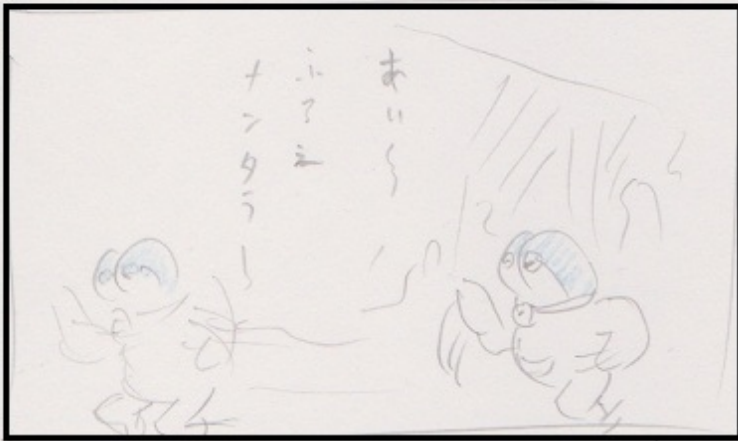
そんなことないよ
十郎氏が死んだらリザーブで
反戦平和主義者
付替符：道化役に
大塚さんをオファーする
かもしれない
中原麻衣さんが
起用できるようになったから
嬉しいなあ

遠山雪ちゃんの不適切なお発言
みんな斟酌しよう



←困ったらこの絵を出しておけば読者の公約数は満足

ポリポリマン
 五世が
 死ぬのがこ



まひ
 ンタ
 ナン
 ナン

→ 著作権しんがりを

本当にしたい

イケなりので歌詞は変



オトコは
 小ナシの
 オトコ
 かんた

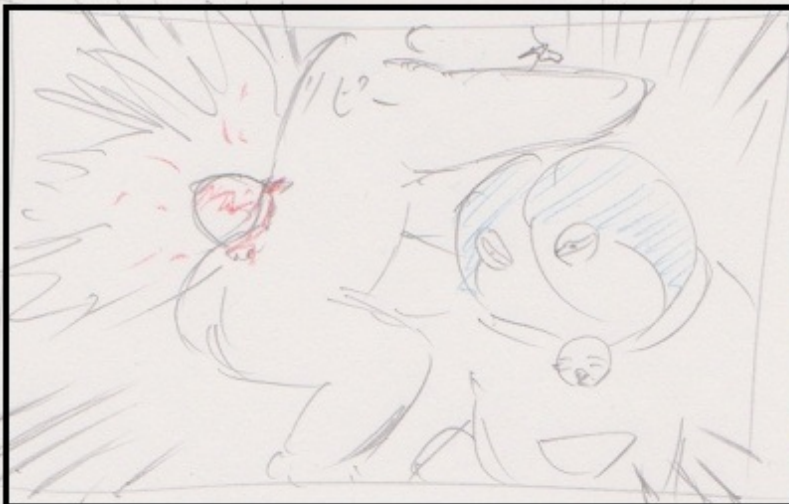
パン

ポリポリ
 トラジもん

カハヒマン

！戦士

故郷に漢を残してきた男の歌



TVシリーズではたしかに
 赤ズゴックが二回
 ジャブローの洞窟を
 右から左へ横切る
 バンクがあつたが、
 でも、ジム(ジエムズ)と
 ゲリピーのファーストネーム
 を縮めたヤツの腹を
 二回貫いぢやない

自分はまだり道

ごめんなさい
佐藤さん

画面は開発中です
というか手抜きです

開発中って
永遠にソフトは
市場にリリースされないよ

自分の作った
ゲームで
吉田戦車の
『はまり道』
みたいなマンガを
描いてみる

アイテム
コンプリート
のために
どうしても

水晶を
物置小屋に
置いてきて
しまいます

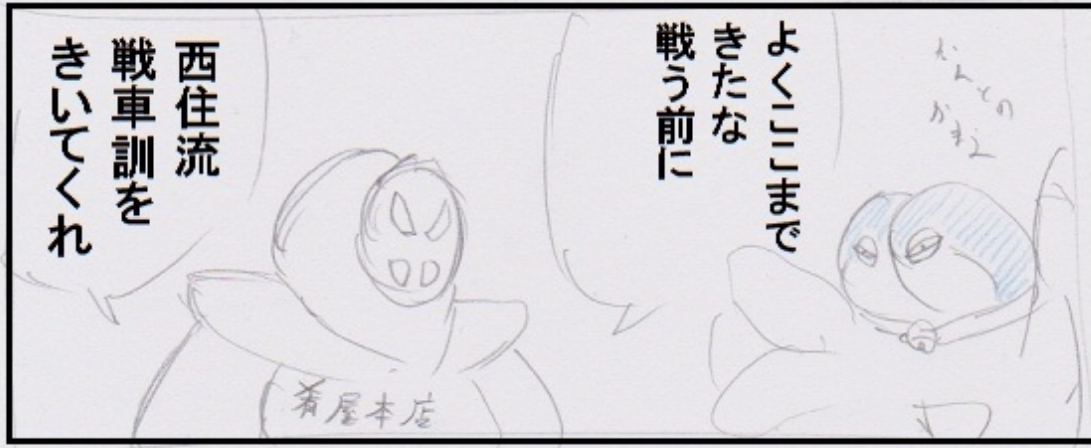
すいません
でしたー

途中から
『ハゲタカ』のパロディになってる

うぎーっ!

それにしても
このハゲタカのギャグ
何度見ても面白いよね
大友啓史監督だと
思うけど
ギャグセンスあるね

大将。ふり。ふり。トラえもん
 対 副将ビッグ・ザ・戦車道



よく「」まで
 きたな
 戦う前に

西住流
 戦車訓を
 きいてくれ



撃てば必中
 守りは固く

進む姿は
 乱れなし

鉄の掟
 鋼の心

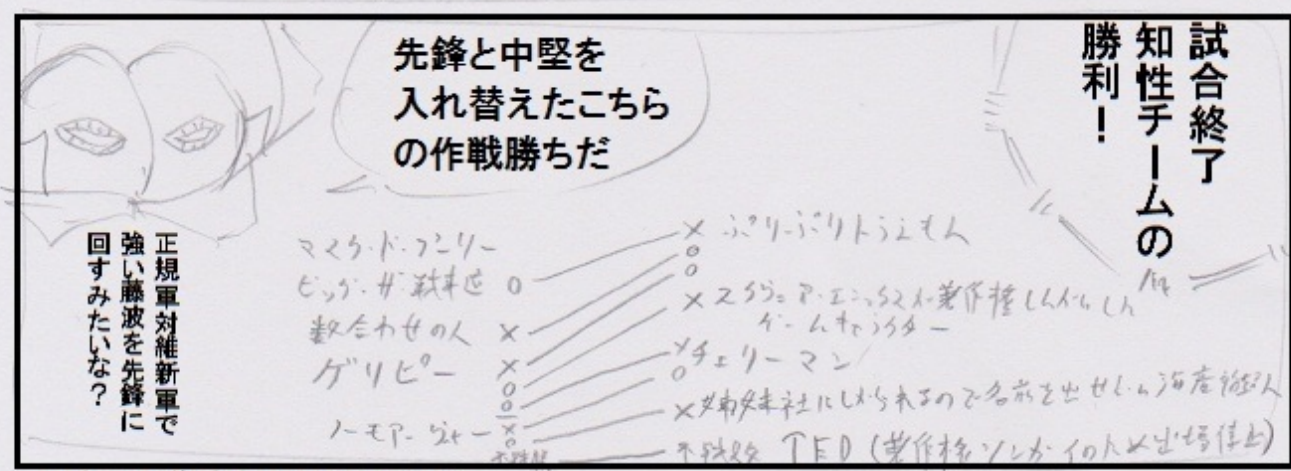
…装甲板は
 クルップ製
 だといいな



負けたよ
 ビッグ・
 ザ・戦車道

とくに
 クルップ製
 はいいよね

パンターの
 装甲板に
 もってこいだ



試合終了
 知性チームの
 勝利!

先鋒と中堅を
 入れ替えたこちら
 の作戦勝ちだ

正規軍対維新軍で
 強い藤波を先鋒に
 回すみたいなの？

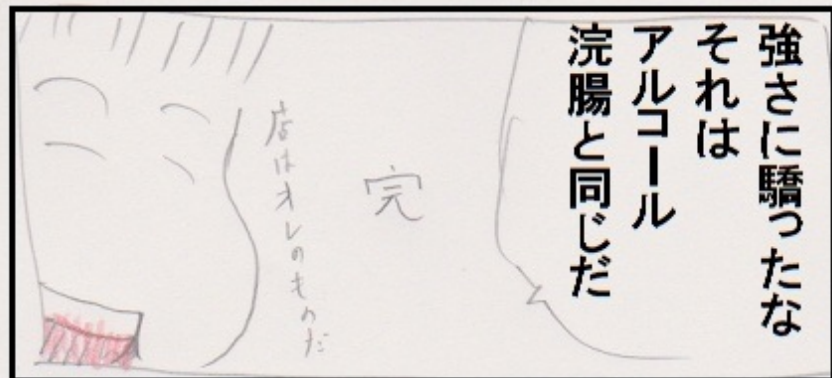
マクド・フーリー × ぶりぶりトラえもん
 ビッグ・ザ・戦車道 0 × 2550 P. E. S. 2. 著作権しんがしん
 数合わせの人 × かんたうたー
 ゲリピー × ヴァレリーマン
 ノーマン・ザ × 2444 株式会社しんがしんの名前をせしめろ産物人
 不詳 TED (著作権しんがしんの人と出場停止)

というか お前 何もしてねえじゃねえか

エンディングの
スタントNG集の
ような擬似うんこ
メイキングシーン

日本酔拳 ドラックモンキー

映画未認可



教訓「力に溺れてはいけない」

アメリカよ、これが日本映画だ！

さあ
全てのことをやめ



尻だけをときめかせながら
肛門のことを見つめて

この四コママンガは『峰不二子という女』のオープニング映像「新・嵐が丘」のパロディです↓

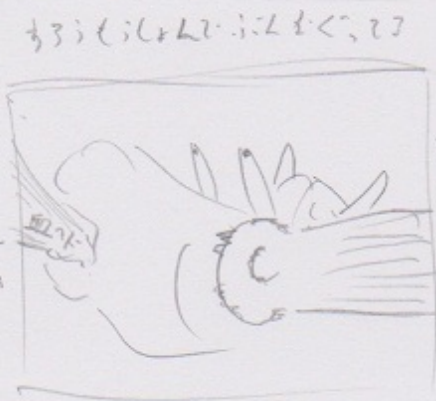
著作権侵害すること
それは援助交際でも
密接交際でもない
最高の美德



ベルヌ条約と
コピーライトと
知的財産権に
エラン・ヴィタール
(意味不明)

けして著作権侵害を推奨するものではなく仮に著作権侵害をした人が↓

東京あたりの
スクウェア・エニックスのように
著作権侵害は会社生命をかけて
やりとげる特別なコト



実刑判決が出て
社長が投獄されるといいな
と思うのが最高に
官能な牢獄

「この四コマを見たから著作権侵害をしたんだ！ 僕はスクウェア・エニックスだ」↓

精神医学的根拠は



不明

誰が著作権者なのか



誰がパチモノなのか

誰がやおきんやねん



誰がBL同人で荒稼ぎ?

今回は親切に元ネタがわかるキャプションがついて読者獲得に一役かう

神は手塚治虫だけど
田中圭一は
捕まった方がいい



それから
ライオンキング
の話は止めて

裁判で
争わないで



ドラえもんルームは
ボクのこと
見逃して(これが本音)

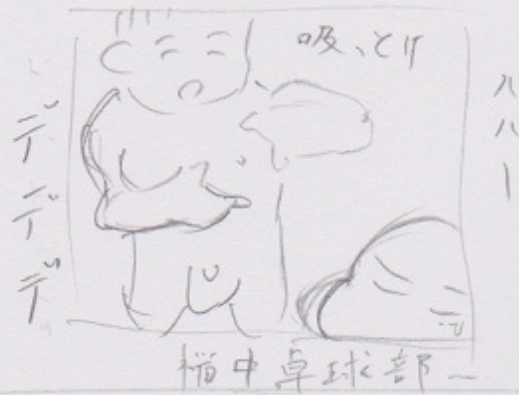
だけど
おシヤマな
お嬢ちゃん



キミはとっくに
著作権侵害する
モノが無いけど

というか、半分は西に著作権がある。

爆乳だから
イイね！



テキトーに
もぬけの殻
(さては夜逃げしたな)

ヘステア神みたいに？

この
男同士と
同じように

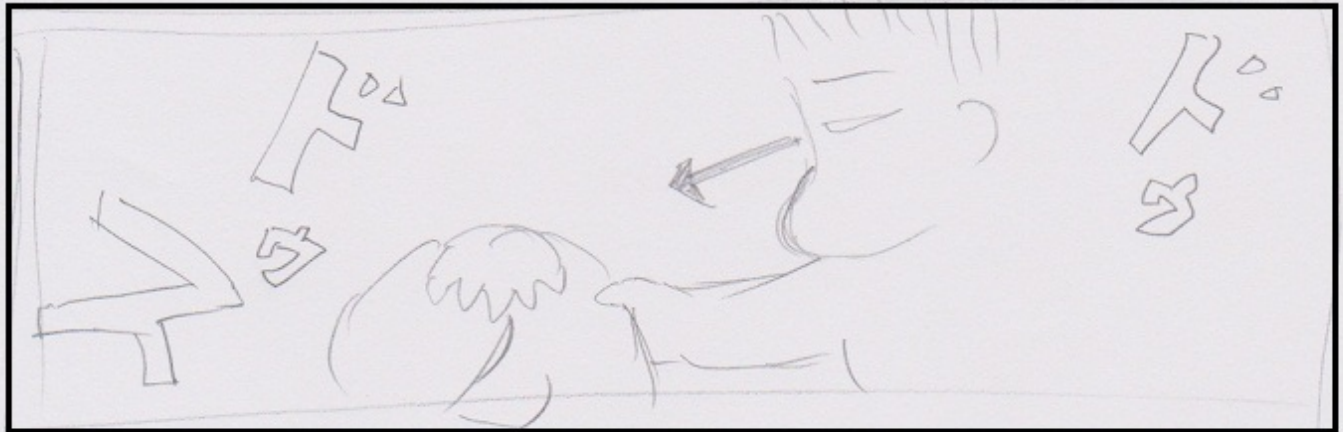
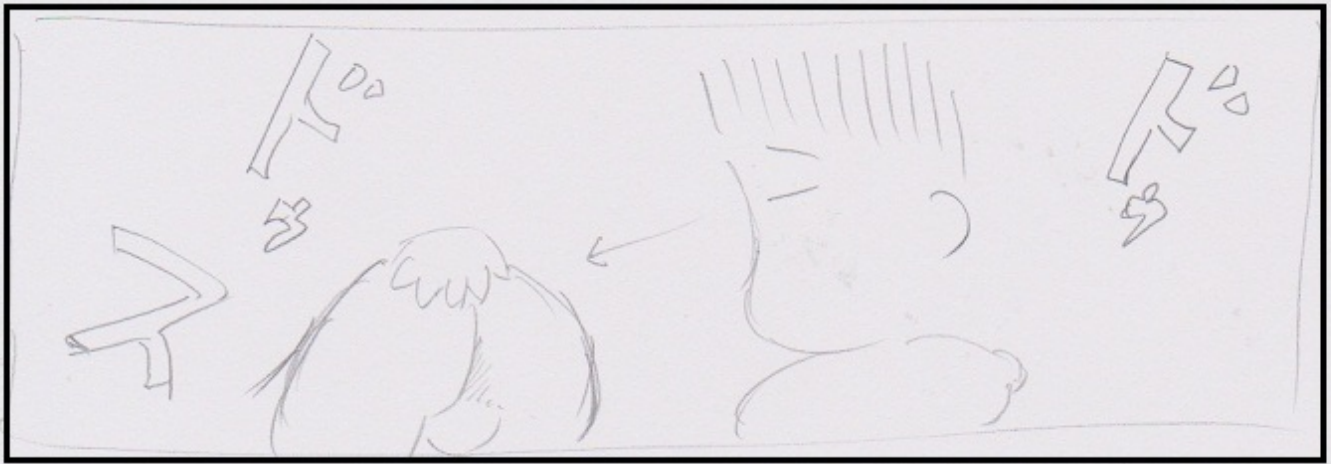


慰めるために
自分の乳を
吸わせて

友情を深めたいなら
……
肛門を
見つめたいなら



全てのことをやめ
括約筋だけを動か
しなさい



半田溶助かよ



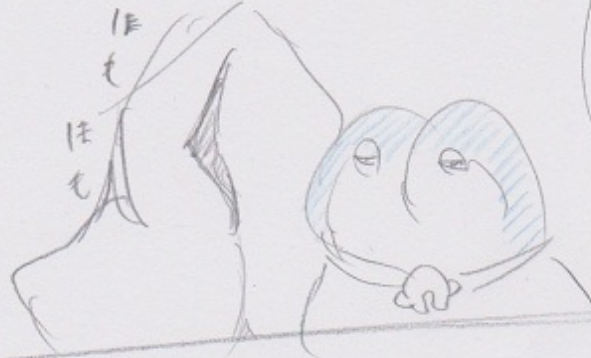
ちんち…人差し指をピンピンさせるのは「イイコトしようよ」のサインらしい

制裁戦でタッグバトルをすることになりぶりぶりトラえもんのパートナーは誰？
と言う話の展開らしい(ギャグにストーリーなんていない)

なにいい？

ミステリアス
パートナーの中身が
スーパージョーカー
だとおお

フフン
その通り

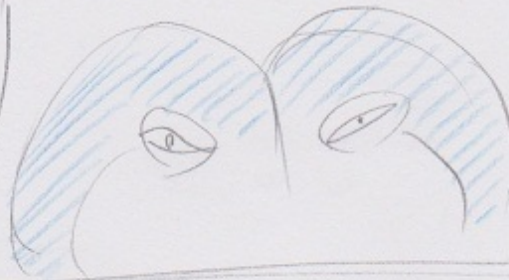


ほも
ほも

男には
スーパーマンがいる

コトチヒの横本表表紙
と同じP452

女にも
スーパージョーカーがいる



ならば 当然

べくとりジョーカー

スーパージョーカー
もいるのだああ

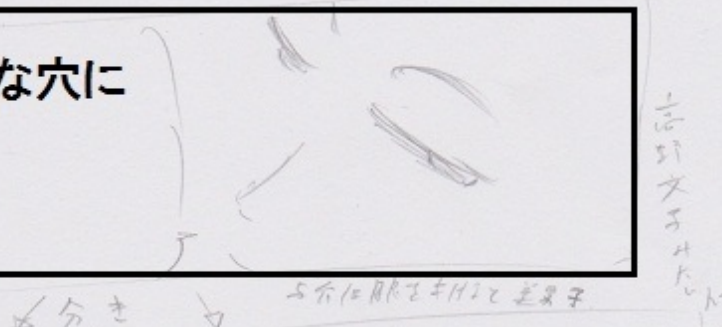
オソグサハより面白い

私はお尻が好きだ
つまり キミたちの
ぷりぷりバスターによる
ぷりぷりドッキングも
封じられたも同然



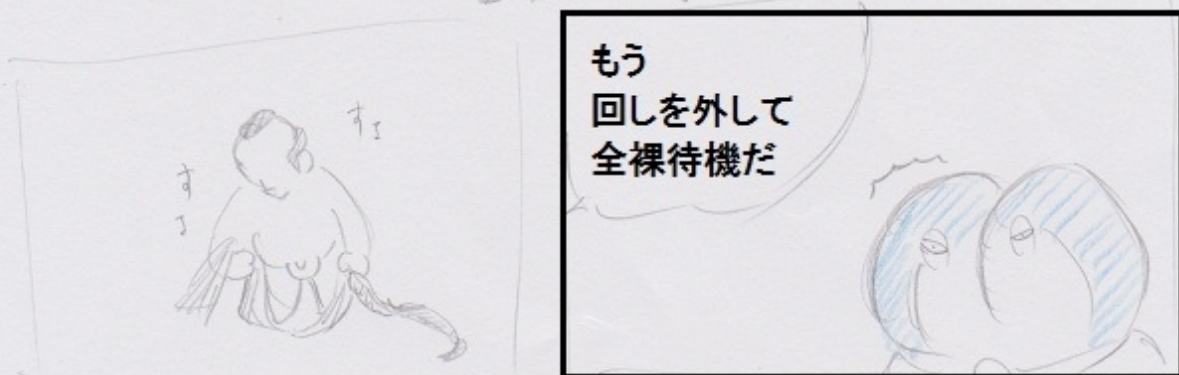
みんもの予測通り

早く 私の女性が好きな穴に
トラえもん君の頭を
入れてほしい



志望女子サトル

もう
回しを外して
全裸待機だ



えもーん
トラ

ボク

フキダシ内のセリフとフキダシ外の吹きが反対だよ

一万発のどろみ

金剛!



巻左



アベックパンチを
(タッグ名)で

又又皇量!!

大塚の王様の
一旗しか
使えないワ
カヤを後



お前 そればかりだな

おしん をかして もいいた

よく 優れた構成力だ
つの丸に見せてやりたい

「ダブルアーツはアベックパンチを著作権シンガイしている
(タッグ名)」が活躍しているシーンを特別にピックアップ!

この後ヒップグラズのとつプラトン・ぷりぷりドッキング天で
大逆転負けする。

ぷりⅡ世が
ホモ野郎に
ぷりぷりバスター
をかけた…

しかし
足をホールド
していない!?

注足をホールドしないと

超人強度が同じくらいで

返し技を決められてしまう

さらにお尻の王様の一族で

ないと使えない双皇拳を

拳

とつてむ
ほおる…

ああーっ?!

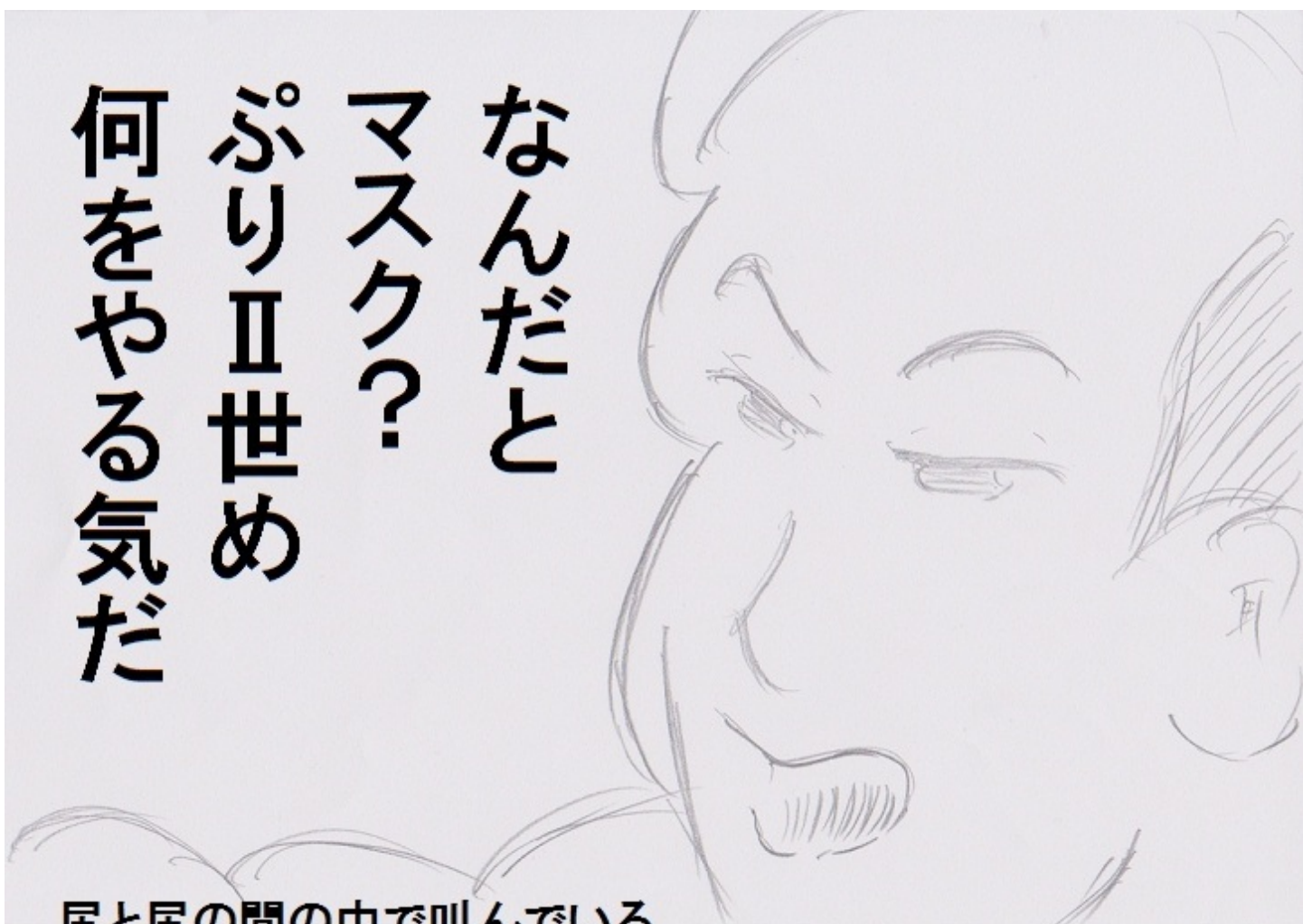
やはりぷ
りベンジバスター
を返された
自由落下運動の
ダメージが
全て反転する

ウェイトレス
エンゼル
ありす

バカめ

それが狙い目よ

なんだと
マスク？
ぷりⅡ世め
何をやる気だ



尻と尻の間の中で叫んでいる

何をやる気って 一頁に四コマを
割れなかったから
次のページに四コマ目だよ

プロマンガ家ってすごいよね
いつも一頁に二本四コマ描くって
普通できねえよ

『ガンダム Gのレコンギスタ』で
デレンセンが倒される時の
繋がらないカットみたいな
コマとコマが繋がらないマンガが次ページにある
そこは脳内補完とか先人の知恵でなんとか

やるのは
オレよ

マスク
トップロープ
から飛んだ!

ああ ホモ野郎に
フライングヘッド
パッドを当てた

ホモがひるんだ
スキに ぷりぷり
ハプニング

これはまさか
ツープラット〜??

落下地点の
リングの上には
グロッキー状態の
ぷりトラが

渡辺明夫さん

グリザイア
のアニメも
観てます

「本当の卒業式」の際には、本当にお世話になりました。感謝。

日曜の昼に
マットの上でごろごろ
ごろごろ

ああ ベイマックスの役
僕に代ってられないかな



ぷりぷり
トライトル

死せ

ぷりトラは死亡したけど
次のページをめくると
生きているかもしれないよ

ぷりぷりトライトル (41分12秒)

ぷりニせ 〇 — Xぷりぷりイトル

マタト.7-4-

スーパー同性愛者

トラえもん の時間だよ

トラえもん

田舎から
越してきたから
都会の子と
話が合わないよ



うっせえな



テレビの電波が届かない
ところに暮らしてたから
妖怪ウォッチとか
わからないんだ だから
皆と仲良くなれるように
なんか 出してよ



鬱陶しい



ギャグマンガには
ルールを破るといっ
ルールがあるので
フェイトくんが重力の
法則から解き放たれた



まずい
このままじゃ
フェイトくんは
空に向かって
落ちていく

あつでも
これって？



このコマ フキダシの線を描き忘れていた

サカサマの パテナ



からの
恋愛サーキュ
レーションー！

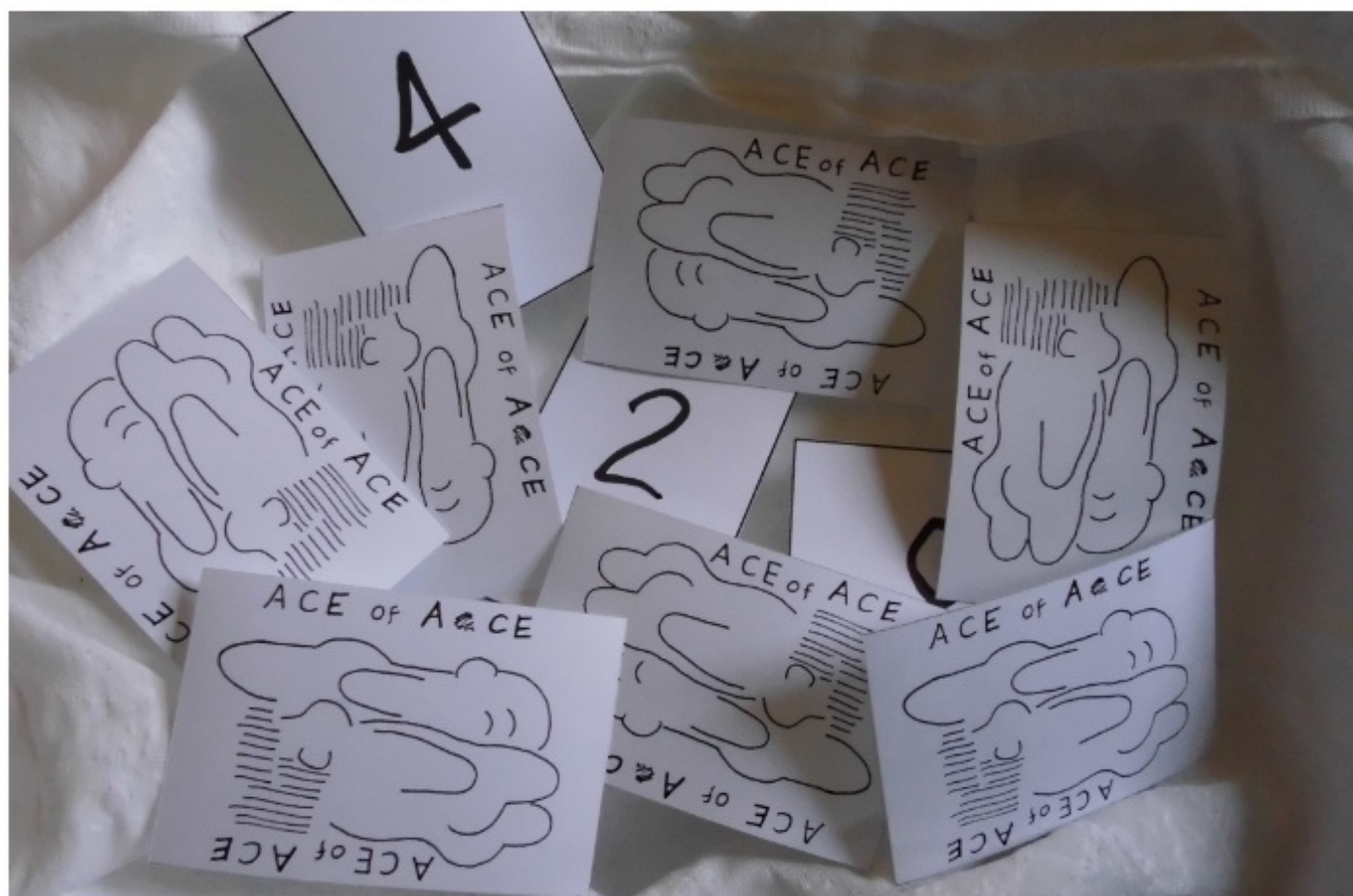
2 HIT COMBO



吉浦 私は
こんなだから
お前が音頭を取って
互助会を作ってくれ



恋愛サーキュレーションの柄で カードを作ってみた



もしかしたら

『ストーリー「ななつとみつつひとつ」』

で撮影に使用されたカードの裏には

恋愛サーキュレーション

(魔力を供給しつつ魔力を供給する)

の柄があるかもしれないね

それについで、
経費として100円以上かかっているはず
回収してもらいたい。



「はい、こちらポンポコ商事です」
が正しいらしい

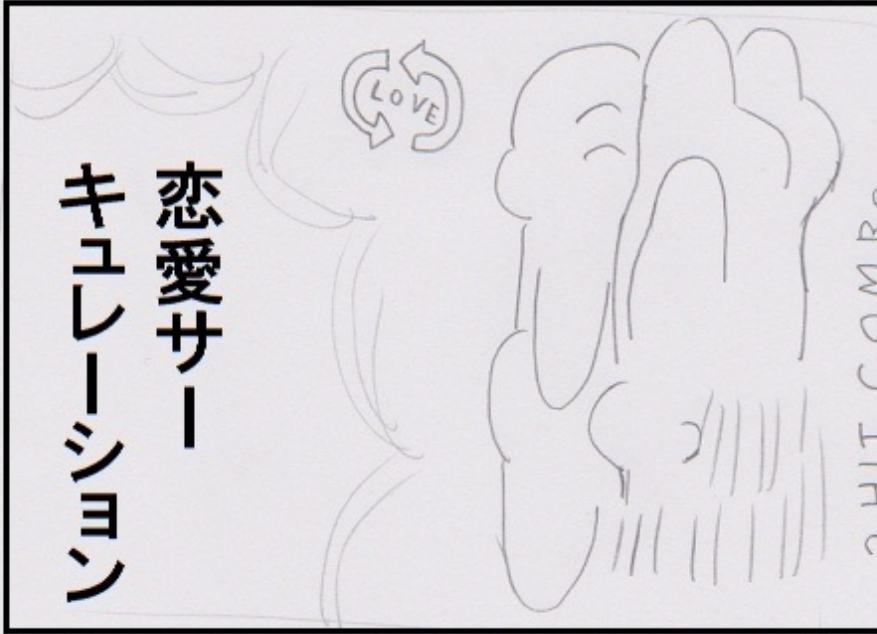


どうしてもコラージュ画像が収まらなかったので
画像を横に寝かせたためジャンプしているように見えない

吉浦 私は

こんだから

お前が音頭を取って
互助会を作ってくれ

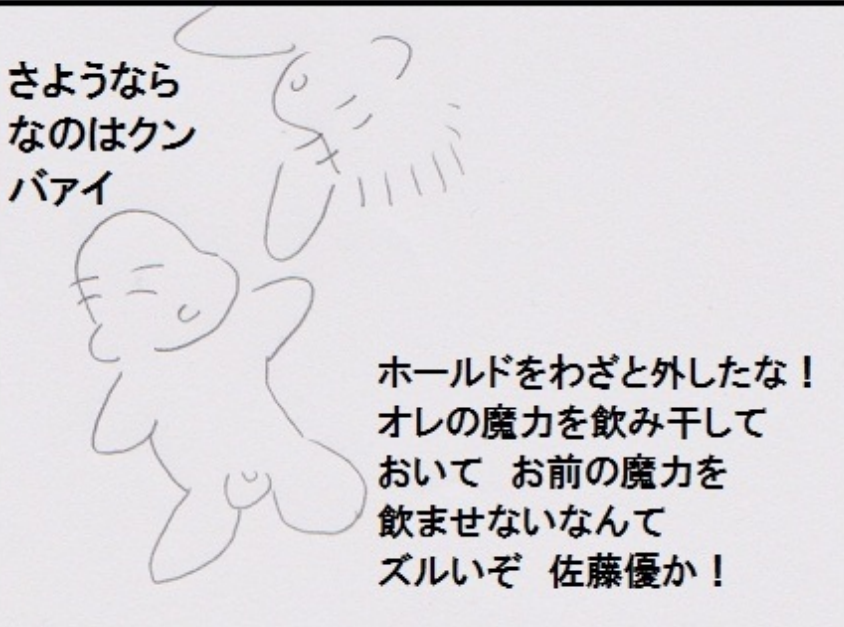


恋愛サー
キュレーション

読者は
知恵を得たサルかなんかが
くだらないことを
していると思うだろう

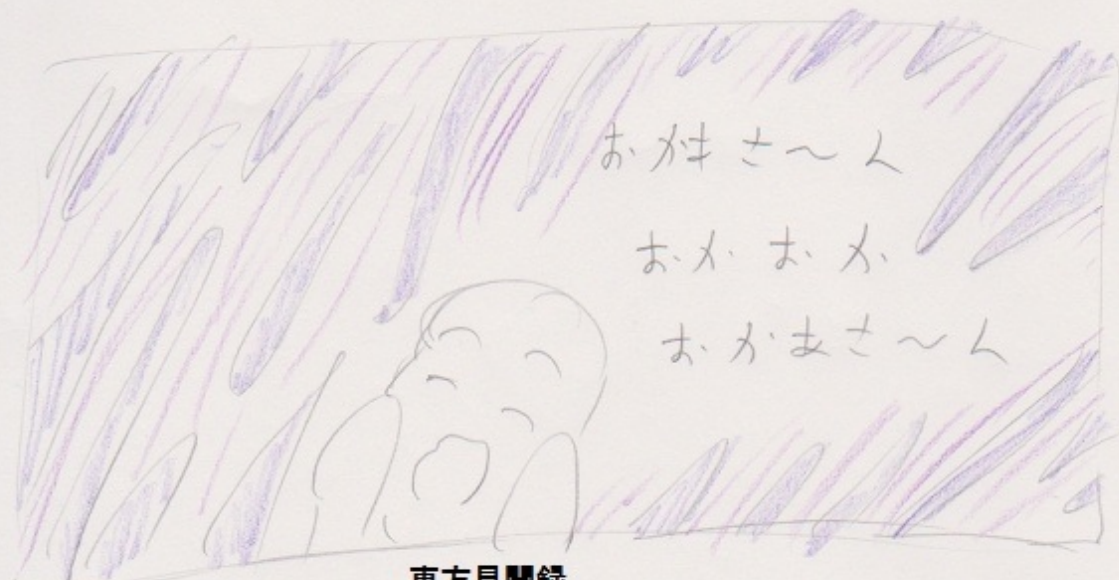


からの
サカサマ
のパテナ

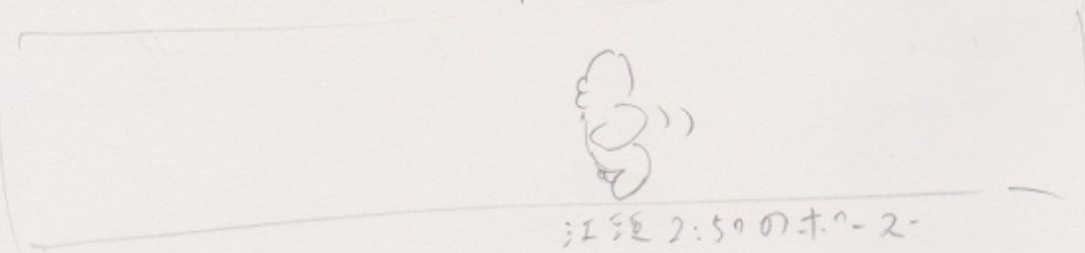


ホールドをわざと外したな!
オレの魔力を飲み干して
おいて お前の魔力を
飲ませないなんて
ズルいぞ 佐藤優か!

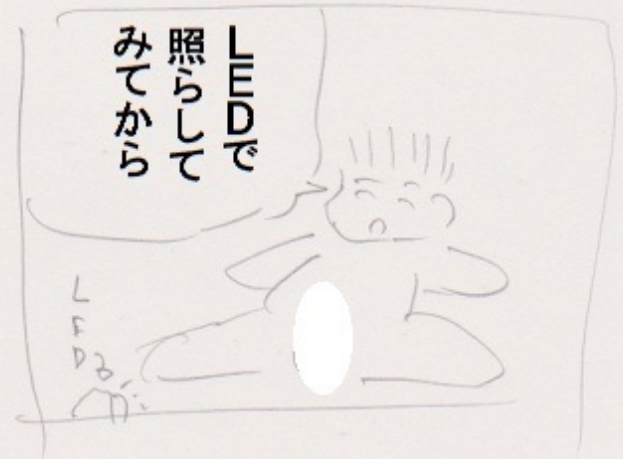
小島功さんが亡くなられたのを追悼するつもりなの四コマ
尻見玉を抜かれてしまっ赤ちゃんが出来るようになったフェイト



東方見聞録



『桜田です！』を見てたら
『アトミック街』のキャラクターが
出てきたので驚いた
どうして驚いたのか
紙幅の関係で書けない。



今までの電子書籍の正誤表

佐藤秀峰さんの『漫画貧乏』では、マンガ単行本の経費からを引いた売り上げを出版社が全部持っていきと書いてあるけど、あれはさすがにマチガイだろう。

鈴木みそ先生の『銭』によれば、全体の六割が出版社、後の四割が流通（出版の場合取次）と小売店等になる。作家の印税は出版社が本を作る経費の中に含まれている。それは全体でいえば10%分だ。今回、電卓で出来る簡単な計算なので、図に出してみた。

| 版元とディストリビューターの分前 | | 小売り価格515円 (5万部のケース) |
|------------------------|---------------------------|------------------------|
| 6 | 4 | |
| 版元 | 取次・書店 | |
| 一冊売りあげ 309 | 一冊売りあげ 206 | |
| 引く一冊単価 150 | [資料不足により このあたりの経費不明] | |
| さし引き後 159 | | |
| $159 \times 5万 = 795万$ | $206 \times 5万 = 1030万$ | |
| 版元の実際の利益は 795万 | ディストリビューターの経費引前は 1030万 | |

五万部なら、流通小売店側の利益が多いと思われるが、諸経費としていくら使われているのか、わからないので取り分が多いと感じるのは筋違いだ。取次は送料や人件費がかかり、書店はテナント料や人件費に光熱費、さらに万引き防止のための管理費が確実にかかっている。

こうした業界構造を「環境」として考えると、本屋さんがベストセラー本しか置かない金太郎飴書店になるのも、無理は無い。「環境」に適応した結果なのである。

ともかくも、佐藤さんはこういう脇の甘さがあって、それで編集者たちにいいようにされてしまったかもしれないから、注意してほしい。

さて、こうした事実誤認を読者が指摘してくれるのは、実はありがたい。

私の場合、そうしたアクティブに発言する読者はいない（プロの場合でも少なく、よしりんの「スラム国とイスラム教」の脱字はさすがに酷いから、皆コメントするかと思ったが、ぜんぜんしないので、仕方なく「茶魔がしでかしたことを全て身代わりになる」助っ人のように、「私がやりました」と脱字を指摘し憎まれ役をかう）ので、たとえ記事内容に「誤字脱字」「事実誤認」があっても暫時的に電子書籍にあげてきた。誤字脱字事実誤認は見つけたら修正するというスタイルで、ずっとやってきたが、個人の能力の限界を感じる。

人海戦術が一番いいのだが、それはコストがかかる。

単行本必要経費簡略内訳

漫画貧乏から抽出

一冊

515円 × 5万291部

金銭 第一巻から抽出

一冊

620円 × 約一万5000部

172万 + 85万

258万

?



一部支払われている

98万 / 1万・2万・108万・20万 人件費・間接費

約150円

749万

印刷費

印税

装丁

人件費・間接費

一冊経費単価

総経費

150万 (紙代込み)

90万強

10万

80万

約220円

330万

ちょっと前あたりから、出版業ではお金が無くて、校正を入れなくて出版しているところもあり、テレビの方に校正の人材が流れているらしい。特にニュース字幕には間違いが無いようになっている、はず。

それでもハインリッヒの法則ではないが間違いはある。プロフェッショナルの世界にもちょっとしたマチガイや失策はある。

『コンプレックス・エイジ』（だいたいこういうのは「モーニング」だな）で静電式のタッチパネルのスマートフォンのはずなのに、手袋をして操作しているのを、見ちゃった。感圧式のタッチパネルでないと、操作できない。もし感圧式ならポケットに入れただけで勝手に電話をかける誤操作をしてしまう。あの手袋に銀糸が仕込まれているとか、あるのだろうか？

そういえば、ジョブズは静電式のタッチパネルがそんなに普及していないのに、iPhoneのタッチパネルには静電式を採用した。理由はすでに工業的には普及している感圧式の場合、耳に当たると髪が触れて感圧を感知して勝手に電話を切るとか、そういうトラブルがあるから静電式を選んだ。iPhoneやiPadを作る前にカラオケの曲選択用端末で似たようなモノがあっても、日本の経営者には、静電式を選ぶ決断はできない。

ちなみに、『グラゼニ東京ドーム編』の一巻では、連載では夏ノ介が右手で嫁の似顔絵を描いていたのが、左手に修正されている。

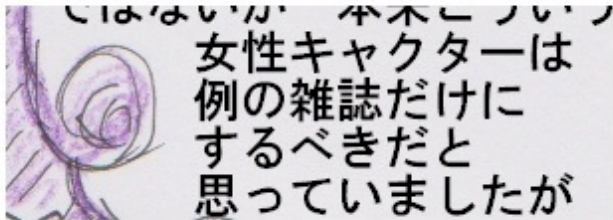
直すなよ。

作者は歴史修正主義者だ。なるほど、それで『チェイサー』の原作を書いているのか。刀擬人化ゲームの敵として出てくるのだろうか？

そんな正誤の話である。

今までの電子書籍から誤りを抽出して、正誤表のようなモノを作ってみる。

↓ ここから、正誤表 ↓



フルーティーの絵のテキスト

- 女性キャラクター
- × 女性キャラクタ

「面白いので以後、女性キャラクターのことを女性キャラクタとしている」

資源的蓄積ではなく、始原的蓄積

原文は翻訳者や年代によって、訳文がずいぶん変わる英語だとさらに米西海岸と東海岸や英国の名門など翻訳者の学生時代の留学先で違うような...

訳者によっては資源的蓄積と訳される

本源的蓄積



↑ 離婚協議中

ゲリピーのひげ、描き忘れてる。

巨人入りが濃厚になっていたのに、離婚協議問題が起きてお流れになった。

もうちょっと『猫ピッチャー』をバカにしたことを書かないと。読売新聞は敵対勢力だから。

アニメの原画の価格は2000円ではなく、
『銭』を読み返すと取材時のレートは3000円
『ガンダム』作っていた頃は2000円ぐらいだろ(←負け惜しみ)

- 国立BD・イメージ・センター
- × 国立BD・センター

「『BD 第九の芸術』を読み返して調べてきた」

UWFは第一期・第二期ともに80年代らしい
90年代はリングス・パンクラスの時代
ただ『消えた魔球』の年代とは
時代性がある

これが90年代なら、UWFの対する人間以外、ショーアップさる長州力との抗争の方が面白い。武蔵討ちの方が面白い。
それが90年代の後半頃には、

最近、アニメになったのを観て、「中近東以西だけではない」と発覚した。別に修正するほどの「」とのない、たいた「」とかな「」や「」よかつた、よかつた。(でも悔しいのでアニメは観ないことにしました)



○ 『未確認で進行形』
 × 『未確認で進行中』
 「直そう直そう」と思って、なかなか直していない」

STAGE 2

それはさておき、まずはマンガの『未確認で進行中』だ。アニメはビデオソフトにおまけでついたMVが評判で、今まで一迅社を「変態を製造する謎の文化事業を興す」出版社とばかり思っていたが、『未確認で進行中』の存在一つで見直した。

それはさておき、
 「変態を製造する謎の文化事業」とは
 一迅社が発行している雑誌のラインナップ
 「わあい」
 「百合姫」
 「まんがぱれっと」
 を読めば、だいたい把握できるはず。
 もうちょっとまじめなところがあれば、
 「南座へ参る」のジュニアノベルとか
 企画持込できそうなんだけど、
 少女向けの小説の性向を見ると「ムリだっ」と思った。

絶対に叱られるコマ

お笑い芸人なら先輩や演出の人に「ワンシーンにつき、ギャグは一つ」と、絶対に説教される



↑
 股裂きをしているのに笑っていて
 まわしからちんこ出ていて
 竹刀が『パンブレ』方式で竹内
 商業マンガの編集者なら
 「一つにきなさい」と言われる

↑
 この後、笑われながら竹刀で背中をぶった叩かれる
 笑のトリック

それを言われたらこちらは「ガイにしてやる」と、ギャグをもう一つ足す

デドデ

× 著作 ○ 著作名
「いつもの脱字」

キクゼ

ファフニールがブーストして変身すると
笑ってしまうようになる

「右腕を左手に書き間違ったとされているが
実は下書きでは右手に書いているので、わざと」

平日の行詰り宣言の口たたくお米

タマキン！
に誓います



勢いあまって右腕を左手に描き間違ってしまった

誌上では書いていないが、「ブラムー」のことを「ブレイマー」と呼んでいた。
……「ブラムー」がわけがわかるマンガで、「ブレイマー」がわけのわからないマンガのことだ。

『BLAME!』の話からは始めるべきだろう。皆さんもご存知のこと
と思うが、「アフタヌーン」の表紙にデンと「映画化」の告知文字
が躍り出て、噂だが富野監督がスタッフとしてなんらかの形で
関わるとも言われていたが、もちろん現在そんな映画は公開さ
れていないことからわかるように、製作はポシャッてしまった。
この話をいつやるか、どこでやるか、林先生や半沢の言葉を借
りて、「いつやるの？」今こゝで土下座して、倍返し」である。
そんな読者にすら「わけのわからないマンガ」と呼ばれるマン



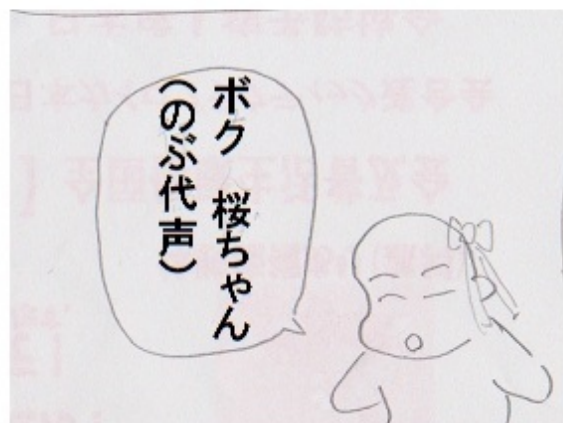
『おもいでぼろぼろ』の山形纏はプレスコで録っ
ているだけで、ロトスコープでは無いようだ。ロト
スコープと見間違ふほど、妙なクオリティーを出し
ているようなのである。

高畑さんが「プロデューサーをやってくれ」と富
崎駿に言われて、ノート一冊プロデューサーにつ
いて書いて、そこまでしといて、結論は「僕はプロ
デューサーに向いてないから、プロデューサーを
できない」と、してしまうあたり、素晴らしい。

んで、あの曲はりゅーとぴあのこけら落としで、宮川彰良さんが作曲した曲を下敷きに行っていることは解説編で触れる。そして、宮川さんとは、不幸な出会いをしてしまったことも、ちゃんと描く(うう、胸が痛い)。

「皆さんもご存知の通り、『シャンプーの森に眠る』の楽曲『明日の朝、神様がいらっしゃるよ』がトシヒコの歌う『コトバを食べる、ケモノ。』の種である。それを解説編で触れるのをすっかり忘れていた。

触れられたくない過去だから、逃避としての忘却をしたと思う」



イワケできない決定的瞬間

「デスブログエフェクトの影響か、大山のぶ代が…」



× ぶつかるあう
○ ぶつかりあう

「意味は、だいたい、同じ」

アニメレビュー アストロノーツからアイドルへ 『アイカツ！』
○ エピソードでもアイカツターの話と似ているものがある。テレパシーができる植物が多くの異星人と交流して、宇宙間SNSのようなところで再会する話が『エモン』にはある。

× 再開

「よくある漢字変換ミス。とくにコメントすることもなし」

エピソードでもアイカツターの話と似ているものがある。テレパシーができる植物が多くの異星人と交流して、宇宙間SNSのようなところで再開する話が『エモン』にはある。

STFは蝶野正洋が海外に行っていたときに、遠征先のレスラーが使用していた技らしい。それを自分も真似して使っている……詳しくはプロレスファンに聞こう。

ケンカスペンシャル起源説は、「戯れ」にやったこと。

エッセイ執筆途中でわかったけど、大幅に原稿を変えなくちゃならなくなったので、無視しているわけではないが、そこは自分の目をぶって書いた。

「ちゃんと無視して書きました！」

そうでないと、エッセイがお蔵入り。

ちゃんとした批評だと、「予断していた」とか書かないといけない。

『スピキオとハンニバル』ではなく

『Rad astra』(アド・アストラ)がタイトルで

『スピキオとハンニバル』は副題



ライブドア事件の間違い

株式売却を着服したのではなく、赤字を隠していたらしい。

この件に関しては「歩く密接交際者」という見た目の須田慎一郎の著作『マネーゲーム崩壊』を読むことを薦める。誰がサッカーシャツにくるんだ刃物を野口氏に渡したのか、などの疑問点などが網羅されている。

本書によると、小渕内閣および小泉内閣時に金融ビックバンと規制緩和で、株式市場から資金調達できるマネーゲームができるようになり、東京地検がそれに歯止めをかけるためにライブドアと村上ファンドをターゲットにした、という筋が読める。

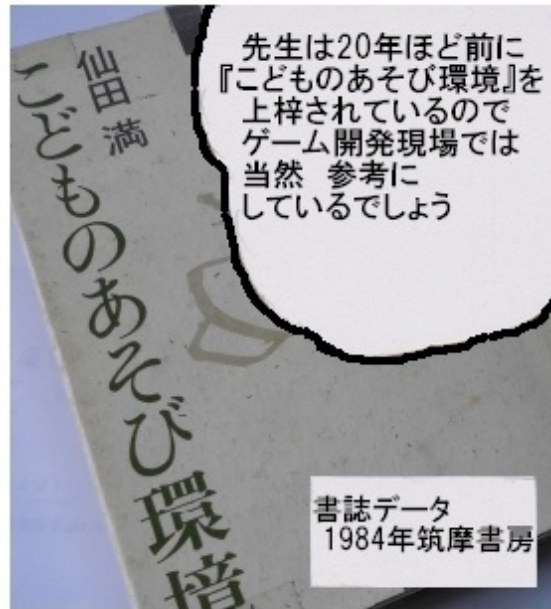
一応、立法側は金融をやりやすくしても、司法側からは「待った」をかけられたということになる。

HA?
Im
not sall!

× Im not sall!
○ Im not sell!

「これも後に修正する。

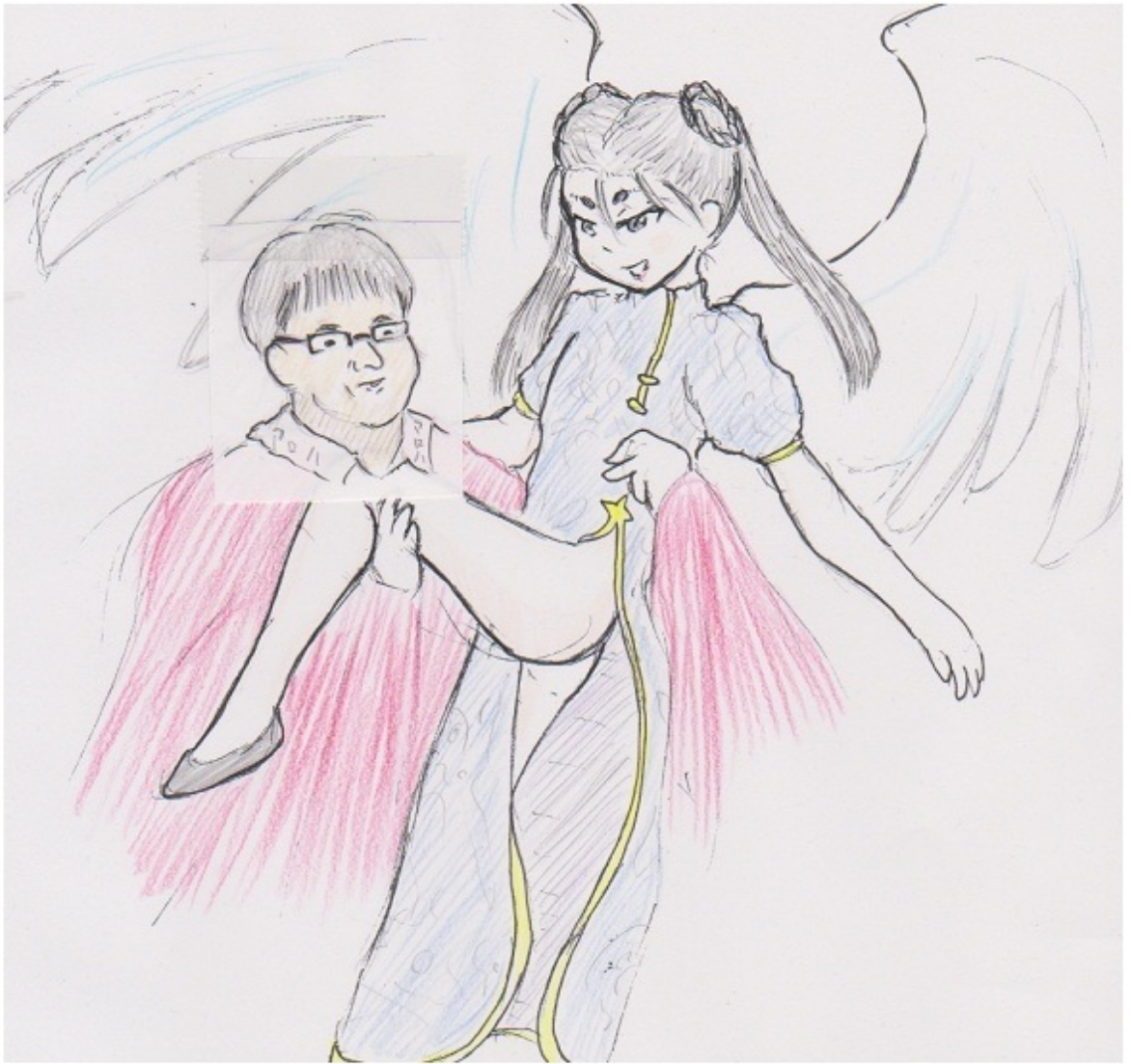
自分のルドロジーは遅れているのだが、10年もサバを読んでいる」
そもそも書誌データとセリフの数字が合っていないだろう



20年前ではなく、30年前に出たもの

勝手に広告

勇者死す。買って下さい



おことわり

梶田省治さんに金銭の受け取りや仕事の
斡旋を要求してはいません

それを行っているのはいしかわじゅん先生
だけです

Puboo×Paboo2015

<http://p.booklog.jp/book/90950>

著者：ゴトチヒ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gotochihi1980/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/90950>

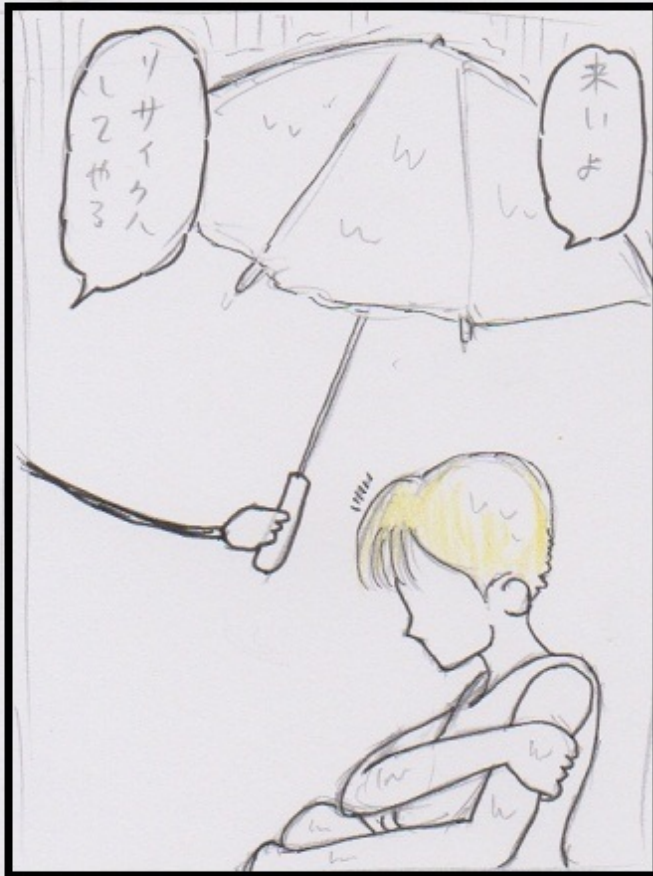
ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/90950>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ





二人の行くすえを
全て見た後
この四コママンガを
もう一度見よう